京都市におけるモビリティ・マネジメント教育

推進業務

報告書

平成３０年３月

京都市都市計画局歩くまち京都推進室

一般社団法人システム科学研究所

目　次

１．業務の概要 1
(1)　業務の概要 1
(2)　業務対象地域 1
(3)　履行期間 1
(4)　委託者及び受注者 1
(5)　業務実施体制 1
(6)　背景と目的 2
(7)　業務内容 3
(8)　業務の全体構成 3

２．「歩くまち・京都」学習検討会の設置 4
(1)　「歩くまち・京都」学習検討会の設置 4
(2)　「歩くまち・京都」学習検討会の開催状況 5
(3)　検討内容 5

３．「歩くまち・京都」学習実践校における取組の支援 7
(1)　「歩くまち・京都」学習実践校によるモデル授業の実施 8

４．教員による研究会との連携方策の検討 125
(1)　過年度の取り組み 125
(2)　平成 29 年度の取り組み 125

５．「歩くまち・京都」学習実践発表会の開催 126
(1)　概要 126
(2)　当日の流れ 127
(3)　当日配布資料 127
(4)　発表 148
(5)　来場者アンケート 203

６．資料作成 207
(1)　第１回検討会 207
(2)　第２回検討会 244
(3)　第３回検討会 277

７．まとめ 353
(1)　成果 353
(2)　課題と今後の展開 354

１．業務の概要

(1)　業務の概要

京都市におけるモビリティ・マネジメント教育推進業務

(2)　業務対象地域

京都市全域

(3)　履行期間

自）平成２９年８月２２日　～　至）平成３０年３月２５日

(4)　委託者及び受注者

ア　委託者

京都市　都市計画局　歩くまち京都推進室

イ　受託者

一般社団法人 システム科学研究所

京都市中京区新町通四条上ル小結棚町 428 番地（新町アイエスビル）

TEL:075-221-3022　FAX:075-231-4404

(6) 背景と目的

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現を目指すため，平成 22 年 1 月に，「歩くまち・京都」総合交通戦略（以下，「戦略」という）を策定するとともに，「歩くまち・京都」憲章を制定した。

戦略では，既存の公共交通を再編強化し，使いやすさを世界トップレベルにする「既存公共交通」の取組，歩く魅力を最大限に味わえるよう歩行者優先のまちをつくる「まちづくり」の取組，歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルに転換する「ライフスタイル」の取組の３つの柱の相乗効果により，「歩くまち・京都」の実現を目指している。

このうち，「ライフスタイル」の取組では，市民の意識と行動に直接働きかけ，過度なクルマ利用を控え，歩くこと，公共交通等を利用することへの転換を促す取組であるコミュニケーション施策（モビリティ・マネジメント）（以下「MM」という。）を，「スローライフ京都」大作戦（プロジェクト）として推進していくこととしており，市民のライフスタイルの中で交通行動の変化を意識づけるため，あらゆる機会を捉え，重層的・複合的に，動機付けとなる情報の提供やコミュニュケーション・アンケート等の MM を実施している。

学校教育におけるMMとしては，平成 24 年度から学識者，教育委員会，教員から構成する検討会を設置し，教育現場のニーズを把握しながら，小学校低学年，中学年，高学年向けの学習指導案を作成するとともに，各学年のモデル授業を実施した成果を取りまとめて，教員がモビリティ・マネジメント教育を実施する際に参考となるＤＶＤを作成して平成 26 年度に京都市内小学校全校（176 校）に配布した。

これにより,市内の小学校に対する MM 教育の周知が行われたが,小学校の教員は多忙であり，各種団体・教育機関からのＤＶＤ等の配布物も多くあることから，ＤＶＤの配布等による MM 教育の普及効果をより深め，且つ，MM 教育を市内で水平的に展開できるようにするためには，継続的にモビリティ・マネジメント教育の実施を支援する体制の構築が不可欠である。

そこで，平成 27 年度は，公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の補助金を活用し，市内での水平展開を図る取組として，「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定（３校）や，モデル授業のバリエーション増加の取組として，ガリバーマップの作成，２教諭におけるモデル授業の実施等，活発な取組を行った。

平成 28 年度は，「歩くまち・京都」学習実践校での取組を中心とした MM を進めるとともに，ガリバーマップを市立小学校全校に配布し，平成 29 年度の「歩くまち・京都」学習実践校を募集したところ，6 校からの応募があった。平成 29 年度の取り組みとしては，「歩くまち・京都」学習実践校を 5 校に増やし，市内での水平展開の拡大を図るとと

もに，「歩くまち・京都」学習の効果検証を行う。また，今後も継続的に市内で水平展開できるよう，「歩くまち・京都」学習実践校の地域住民，保護者，教員等が参加できる「歩くまち・京都」学習実践発表会を開催し，取り組み内容を広く発信する。

(7) 業務内容

ア 「歩くまち・京都」学習検討会の設置

学識者（３名），教育委員会（２名），教員（5 校）から構成する検討会（「歩くまち・京都」学習検討会，年３回開催予定（うち１回は既開催），構成員の人数は予定）を設置して意見を聴取しながら取組む。

イ 「歩くまち・京都」学習実践校における取組の支援

平成２８年度に選定した「歩くまち・京都」学習実践校における取組を支援する。

取組を実施する教員へのアドバイスや，効果検証となるアンケート等を実施する。

また，実践した授業の記録を作成する。

ウ 教員による研究会との連携方策の検討

教員による研究会との連携方策等，今後の継続的な学校における MM の実施体制を検討する。

エ 「歩くまち・京都」学習実践発表会の開催

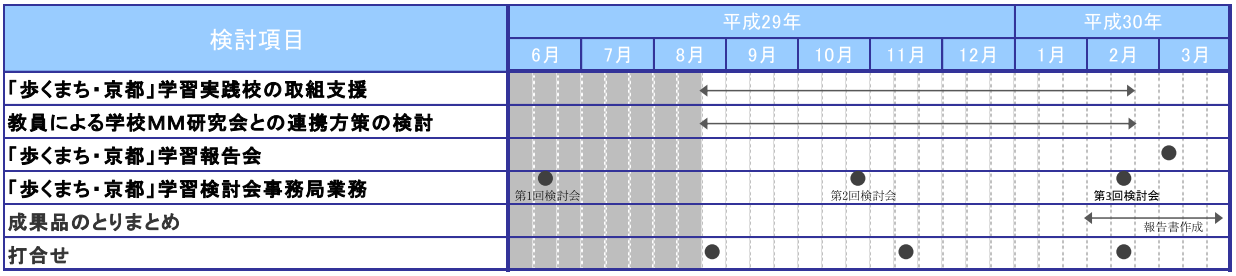
「歩くまち・京都」が吸収実践校の取組報告や講演等による「歩くまち・京都」学習報告会を１回開催する。

オ 資料作成

学校MM検討会を円滑に進めるために，資料や議事録等を作成する。

(8) 業務の全体構成

以下に本業務の実施スケジュールを示す。



2．「歩くまち・京都」学習検討会の設置

教育現場のニーズを把握しながら検討を進めるため，以下の構成メンバーにより，学識，学校，行政の連携体制を確立することにより実効性を担保した。

(1)　「歩くまち・京都」学習検討会の設置

分野	役割	所属		委員
学識経験者	座長	京都教育大学教授		水山　光春
	副座長	京都大学大学院教授		藤井　聡
	アドバイザー	愛媛大学大学院教授		松村　暢彦
京都市教育委員会		京都市教育委員会学校指導課首席指導主事		松下　誠太郎
		京都市教育委員会総合教育センター指導主事		岡　博士
学校関係者		京都教育大学付属 京都小中学校	教諭	深蔵　心理
小学校社会科研究会		京都市立朱雀第七小学校	教諭	清水　一希
		京都市立大宮小学校	教諭	岡田　梓
「歩くまち・京都」学習実践校		京都市立衣笠小学校	校長	中原　美千恵
			教諭	石本　順嗣
		京都市立岩倉北小学校	教頭	牧　紀彦
			教諭	松村　一也
			教諭	河村　圭祐
		京都市立高倉小学校	校長	岸田　蘭子
			教諭	八木　悠介
			教諭	内藤　岳士
			教諭	谷井　勇介
		京都市立小栗栖宮山小学校	教頭	前田　恵美
			教諭	粟野　亜希子
		京都市立醍醐西小学校	教諭	壽見　和高
			教諭	原　昌司
事務局		公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部交通環境企画課		岡本　英晃
		京都市都市計画局歩くまち京都推進室		

(2) 「歩くまち・京都」学習検討会の開催状況

「歩くまち・京都」学習検討会の開催状況は以下のとおりである。

第１回の開催は本業務の工期前であり、本業務では資料の整理等のみ実施した。

	開催日時	議事概要
第1回	平成２９年６月１５日（木）	・「歩くまち･京都」学習実践校の取組内容について ・ガリバーマップについて
第2回	平成２９年１０月２５日（水）	・「歩くまち･京都」学習実践校の内容について ・「歩くまち･京都」学習発表会（仮称）について
第3回	平成３０年２月１９日（月）	・「歩くまち･京都」学習実践発表会について

(3) 検討内容

平成２７年度より，公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の補助金を活用し「歩くまち・京都」学習と題して，様々な取組を実施してきた。平成２８年度からは「歩くまち・京都」学習実践校を募集・選定し、それぞれの地域の特色を活かした授業についての検討も行ってきた。その中で，今年度が補助金を活用できる最終年度ということで，成果として今までの取組内容を広く発信するために，「歩くまち・京都」学習実践発表会を開催することとなった。

そのため，当日のスケジュールや構成，更にどのようにして実践校の地域住民，保護者，教員等に参加してもらうか等を検討した。

その結果各校に割り当てられた２０分のうち，最初の１５分を発表に，残りの５分を実践校の地域に関する簡単なクイズを出してもらい，来場者参加型の発表会とすることを決めた。

また多くの方に参加していただくために，簡単なチラシを作成し，保護者や学校教員にも配布してもらい，周知を図った。



図 2-1 「歩くまち・京都」学習実践発表会チラシ

３．「歩くまち・京都」学習実践校における取組の支援

平成２８年度より，公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の補助金を活用し，市内での水平展開を図る取組として，「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定を行った。

今年度は昨年度選定の際に提出された申請書の予算計画に従って，各校２０万円を上限として，財源的支援を実施するとともに，「歩くまち・京都」に関する情報提供や，各校の公開授業での記録を行った。

「歩くまち・京都」学習実践校（５校）には，地域の特色を活かした様々なバリエーションのモデル授業が実施してもらった。

主なスケジュールは以下の通りである。

実施年月日	「歩くまち・京都」学習実践校名
平成２９年１１月２４日（金）	京都市立衣笠小学校（６年生）
平成２９年１２月５日（火）	京都市立高倉小学校（６年生）
平成３０年２月７日（水）	京都市立小栗栖宮山小学校（５・６年生）
平成３０年２月２３日（金）	京都市立岩倉北小学校（３・５・６年生）
平成３０年２月２７日（火）	京都市立醍醐西小学校（３年生）

(1) 「歩くまち・京都」学習実践校によるモデル授業の実施

ア 京都市立衣笠小学校

【研究テーマ】

衣笠のぬくもり・未来に輝く衣笠の誇り ～「自ら課題解決に向かい，伝え合い学び合う子ども」の育成～

【研究テーマの設定理由】

本校は学校運営協議会，PTA，PTA 賛助会，見まもり隊など，多くの保護者・地域の方々が子どもたちのために様々な支援をして来られた。その人材を活用し，地域の物的財産を生かして地域に思いを寄せ，「衣笠が好き」という子どもを育みたいと言う思いで３年間地域を題材とした総合的な学習の時間の校内研究に取り組んできた。平成２８年度は「自ら課題解決に向かい，伝え合い学び合う子ども」を研究主題として，カリキュラムづくりの見直しと「伝え合う力」の育成を重点に取り組んだ。児童が主体的・能動的に授業に参加し，対話を重視しながら自ら課題を解決していくような授業の構築を目指してきた。

６年生は低学年の生活科，３年生からの総合的な学習で学んだことの集大成のような単元を構成している。地域の歴史的・文化的遺産や，地域に暮らす人との交流を通して衣笠の街のよさを考え未来に伝えていきたい，ということで全校ウォークラリーを企画・実施した。実施にはたてわり活動（特別活動）の時間も使っていた。カリキュラムマネジメントとして２９年度は取組の見直しが必要であるが，「歩いて衣笠の街のよさを伝える」という活動は大切にしていきたいと考えている。休日だけでなく平日も校区を大勢の観光が往来しているが，特に外国人観光客に紹介するなど，今後は英語の学習にも生かしたい。加えて２８年１２月に京都府警より校区東半分がゾーン３０の指定を受けた。歩行者の安全確保のためということであるが，だれもが安心して歩ける街づくりを４年の総合的な学習の時間で扱う環境・福祉「衣笠のぬくもり」で取り組むようにしたい。

① ６年生

ａ授業概要

・ 日時　　平成２９年１１月２４日（金）
・ 学年　　６学年１組（１９名）
・ 教科　　総合学習
・ 単元名　「世界に誇る都市　京都」
・ 本時　　３９時間目／４０時間

市民と観光客が利用できる新しい移動システムをグループで考え，発表しよう

・ 単元の目標：
（１）京都にある多くの世界遺産や名所・名跡の歴史的な背景を調べ，その文化財としての価値に気づくことができる。
（２）市内めぐりの活動を経て，世界遺産や名所・名跡やそこを訪れていた観光客の方についてグループでまとめることができる。
（３）近年の観光客の増加に伴って，渋滞や混雑といった問題点について話し合い，解決策を話し合うことができる。
・ 授業者　伊藤　保人　教諭

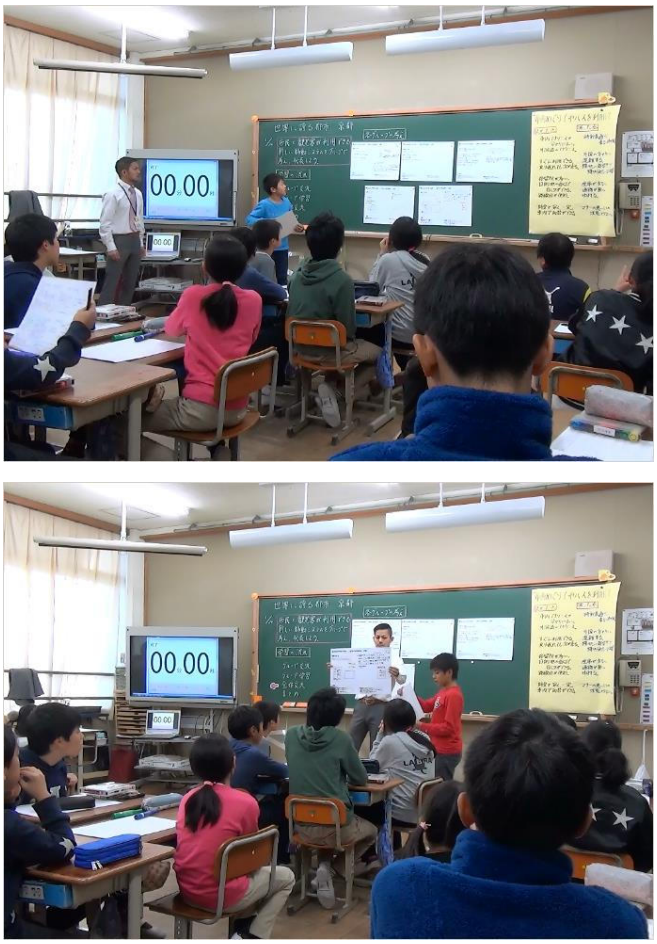


図 3-1 授業風景（６年生･総合学習）

b 学習指導案

総合的学習の時間　指導案

指導者　伊藤　保人

１．日　　時　　平成２９年１１月２４日（金）　　第６校時（１４：３０～１５：１５）

２．場　　所　　６年１組

３．学年・組　　第６学年１組　（男子１２名，女子７名）

４．単 元 名　　「世界に誇る都市　京都」

５．単元の目標

（１）京都にある多くの世界遺産や名所・名跡の歴史的な背景を調べ，その文化財としての価値に気付くことができる。

（２）市内めぐりの活動を経て，世界遺産や名所・名跡やそこを訪れたていた観光客の方についてグループでまとめることができる。

（３）近年の観光客の増加に伴って，渋滞や混雑といった問題点について話し合い，解決策を話し合うことができる。

６．単元について

本校では総合的な学習の時間を通して，地域の人・自然・社会の関わり，自ら課題を設定し，課題解決に向け主体的に活動しようとする力を育むことをねらいとしている。また，協同的な学びを通して，考えを深めたり確かにしたりしながら，自分の思いをまとめ，表現する力を育むようにする。

本単元では近年，京都には多くの観光客の方が国内外から訪れていることを受け，京都は国内だけでなく世界中から注目されている都市であることを認識し，自分たちがそのような都市に住んでいることを誇りに感じてほしい。また，京都が世界に誇る多くの名所・名跡や世界遺産を市内めぐりで訪れることで,その素晴らしさや歩んできた歴史を実際に肌で感じる機会をもつようにしたい。そして，それらの素晴らしさを次の世代である校内の下級生に発信していけたらと考える。

しかし，多くの観光客が訪れるという喜ばしいことの反面，一時的な人口増加に伴って起こるマナー違反や交通渋滞などが深刻な問題になっていることにも目を向けさせなければならない。特に市バスの利用に関しては海外から訪れる観光客が大きなスーツケースを抱えたまま乗車したり，名所・名跡や世界遺産付近のバス停では大勢の方が乗り降りしたりすることによって生じるダイヤの乱れなどが挙げられている。市民の交通手段として大きな役割を果たしてきた市バスに乗車し，観光都市である京都が抱える課題を感じてほしいと考える。

７．児童について

８．指導計画

時	学習内容	学習活動
１	○京都の魅力について考える。	・自分たちが思う京都の魅力について話し合う。
２	○観光客の視線で京都の魅力を考える。	・観光客は京都にどんな魅力をもち訪れているか想像し話し合う。
３	○自分たちと観光客が考える魅力を比較する。	・自分たちが思う京都の魅力と観光客が思う魅力を比べ，同じ部分や違う部分に目を向け話し合う。
４	○観光客が訪れる世界遺産や名跡を考える。	・観光客が訪れていると思う世界遺産や名跡について話し合う。
５	○京都の世界遺産や名跡を調べる。	・京都にはたくさんの世界遺産や名跡があることを資料集などで確認する。
６	○世界遺産や名跡には多くの観光の方が訪れているのか考える。	・前時で確認した世界遺産や名跡には本当に多くの観光客が訪れているのか経験をもとに話し合う。
７	○前時の仮説の調査方法を考える。	・世界遺産や名跡に観光客が訪れていることを調査する方法を考える。
８	○市内めぐりの交通手段や範囲を確認する。	・地図を用いて市内めぐりの交通手段や範囲を確認する。
９～１０	○市内めぐりの計画を立てる。	・市内めぐりで訪れたい名跡を話し合い，計画を立てる。
１１～１７	○訪れる世界遺産や名跡について調査する。	・計画の中の世界遺産や名跡を図書資料やパソコンを使用して調べる。
１８	○校外学習での注意を確認する。	・市内めぐりに出るに当たっての注意事項を確認する。
１９～２４	○市内めぐりを実行する。	・市内めぐりで世界遺産や名跡を訪れ，歴史や文化に触れるとともにそこを訪れる人々に目を向ける。
２５～２６	○市内めぐりをふり返る。	・市内めぐりを行っての感想や感じたことを個人でまとめる。
２７	○グループでまとめる方法を考える。	・市内めぐりで訪れた場所・訪れていた人々・歴史的なこと等をグループでまとめる方法を考える。
２８～３３	○グループでまとめる。	・市内めぐりで訪れた場所・訪れていた人々・歴史的なこと等をまとめる。
３４	○学級で交流会をする。	・グループでまとめたことを発表し交流する。
３５	○学級討論会への意識を高める。	・市バス乗車の経験から「観光するなら市バスがいい」という題材で討論することを知る。

３６	○学級討論会をする。	・題材に対して立場を明らかにして学習討論会を行う。
３７	○「歩く街京都」の取り組みを知る。	・京都が抱える課題について話し合う。
３８	○新たな移動システムを個人で考える。	・討論会での主張や意見を踏まえ，市民と観光客の双方にとって，よりよい移動システムを考える。
３９ （本時）	○新たな移動システムをグループでまとめ発表する。	・個人で考えた移動システムをもとにグループで話し合い発表する。
４０	○単元のふり返りをする。	・学習の振り返りをして，京都の世界が誇る都市であることに気付こう。

１２．板書計画

世界に誇る都市　京都

「市民」と「観光客」が利用しやすい移動システムをグループで考え発表しよう。

学習の流れ
- グループ交流
- グループ学習
- 全体交流
- まとめ

システム　根拠　○班

システム　根拠　○班

システム　根拠　○班

システム　根拠　○班

システム　根拠　○班

テレビ画面　　壁面

司会	記述
発表	ＴＫ

市バスを利用してみて

良い点	困った点
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

９．本時における生徒指導の３機能は非公開

１０．本時の目標

京都市民と観光客が共に市バスを利用しやすい移動システムを考え発表することができる。

１１．本時の展開

学習活動	○支援　・留意点	評価
１．前時までのふり返りをする。	・観光客が増えることで生じる課題と恩恵の両方をもう一度おさえるようにする。	
２．本時のめあて，学習内容を確認する。	・本時の学習の流れを確認し，４５分間の見通しを持てるようにする。	
「市民」と「観光客」が利用しやすい移動システムをグループで考え発表しよう。		
３．前時に個人で考えた市民と観光客双方のための移動システムをグループで交流する。		
４．交流した移動システムをもとにグループで市民と観光客双方のため，よりよい移動システムを考える。	・話し合いは全員に役割があることを伝える。 ・グループの考えはアイディアと根拠を記入するように促す。 ○話し合いが進まないグループに対して個別にアドバイスをする。	
５．全体で交流する。	・交流の時の発表者と聞き手，それぞれの注意点を確認し，交流がスムーズに行われるように声をかけるようにする。	・グループで協力して市バスを中心とした新しい移動システムを考え発表することができる。
６．本時のまとめをする。	・自分たちの考えを周囲に発信していく方針を伝え，単元のまとめに向かう意識を高めるようにする。	

図 3-2 学習指導案（6年生･総合学習）

c 単元構想

単元「世界に誇る都市　京都」（第６学年）　　５月～９月　　全３０時間

【単元の概要】

京都の町は 1200 年以上の歴史があり，多くの観光客が訪れる。情報が発達して近年特に外国人観光客が増え，校区も連日多くの往来がある。歴史学習を始めて，身近にある平安時代から室町時代・安土桃山時代の歴史的建造物・遺構，伝統文化・伝統産業を改めて見直すことで，子供たちは町の文化的価値を知ることになるだろう。京都市内にある多くの文化財を観光客の目線で訪ねたり調べたりすることで，世界中から注目されている京都の歴史・文化の素晴らしさを実感できるようにしたい。そしてそのことを多くの人に伝える活動として英語を生かしたいと考える。また，公共交通機関の利用や歩いて町の魅力を訪ねることのよさを知ることで環境問題にも意識させたい。

【この単元でつけたい力】

課題設定力	追究力	表現力
学習経験や体験から得た思いや情報，集めた資料などから課題を発見し，課題を解決するために適した方法を考え，活動の見通しをもつ。	課題解決を目指して，事象間の因果関係を分析したり，推論したりして考える。	目的や意図に応じて，収集した情報を整理・分析したり関連付けたりしながら考えをまとめ，適切な方法を選んで表現する。
関係力	評価力	実践力
学習を通して自己の変容に気付くとともに，互いのものの見方や考えのよさや違いを認め合い，新たな視点や意見を自分の考えや学習に生かす。	活動して考えたり学んだりしたことを，自分の生活や社会をより良くするために生かす。	互いの思いを尊重しながら，新しい考えを生み出す。 地域社会に働きかけることを通して，自分たちの地域に誇りをもつ。

【単元づくりのポイント】

京都の町にある多くの観光地、神社仏閣の歴史的な背景を調べて，その文化財としての価値に気付くようにする。自分たちで計画して訪ねることで，京都の町の概観を把握できるようにする。観光客の増加に伴って渋滞や混雑といった問題点やそれを解決するための工夫について考えられるようにする。また伝統工芸伝統産業における「本物」についての思いをもち，今一度衣笠の町で伝統をつないでいくためにどうするのかを考えるきっかけとする。

A　発見課題　京都にはどんな時代の「歴史」が残されているのだろう。

時代ごとに，どんな文化財があるか調べてみよう

バスで訪ねることができる文化財には何があるかな。

インターネットで人気のある神社仏閣を調べてみよう

平安時代からの１２００年の歴史の魅力ある文化財を訪ねてみたいな。

B　追究課題　「歴史と伝統の都市　京都」の魅力を探ろう。

外国の人がどのくらい来ているのか，調査をしてみよう。

人気のある神社仏閣を調べてみよう。自分たちも行ってみよう。

バスで移動するコースを作ってみよう。

市内めぐりをして，観光客にインタビューをしてみよう。

華道体験

ジュニア京都検定

多くの観光客が目的をもって訪ねて来ていることが分かったよ。

C　提案課題　「歴史と伝統の都市　京都」の魅力を伝えよう。

時代ごとに地図にまとめよう。

調べたことをプレゼンで発表しよう。

観光客を引きつける魅力について発表しよう。

京都には多くの人が来たいと思う，魅力がたくさんあるね。

D　熟成課題　　多くの観光客に本当の京都の素晴らしさが伝わっているのだろうか

外国の人の来ている着物は，京都で大切にしている「和装」と言えるだろうか。

おみやげで売られている物は本当に京都の名産品であったり京都で作られているものなのだろうか。

観光地周辺の大渋滞や駐車場の混雑は，予定通り楽しい観光ができないのではないだろうか。

もっと本物の京都の魅力を，知ってほしいね。

E　表現課題　　京都のよさについて紹介するパンフレットを外国の人に見てもらおう。

パンフレットを作って歴史的な文化財や伝統工芸品などのことを紹介しよ

徒歩とバス電車で町を歩くよさを伝えよう。

もっと詳しく，衣笠の町にあるものを調べて紹介したいね。

冬休みにパスポートを使って
有名寺院を見学しよう。

単元「未来に輝く衣笠の誇り」（第６学年）　　１０月～３月　　全４０時間

【単元の概要】

地域を素材にした総合的な学習の時間を積み重ねてきた６年生が，卒業を前に衣笠の地域のことを見つめ直し，未来につなげていきたい衣笠の誇りとは何なのだろうと考える。地域の色々な世代の人にインタビューしたりアンケートをとったりして自分たちの考えと比べる。衣笠のよさをまだまだ知らない人たちに伝えていく。そしてさらに未来に向けてより誇れる町にしていくために自分たちの役割を考え，できることを実行していく。

【この単元でつけたい力】

課題設定力	追究力	表現力
学習経験や体験から得た思いや情報，集めた資料などから課題を発見し，課題を解決するために適した方法を考え，活動の見通しをもつ。	課題解決を目指して，事象間の因果関係を分析したり，推論したりして考える。	目的や意図に応じて，収集した情報を整理・分析したり関連付けたりしながら考えをまとめ，適切な方法を選んで表現する。
関係力	評価力	実践力
学習を通して自己の変容に気付くとともに，互いのものの見方や考えのよさや違いを認め合い，新たな視点や意見を自分の考えや学習に生かす。	活動して考えたり学んだりしたことを，自分の生活や社会をより良くするために生かす。	互いの思いを尊重しながら，新しい考えを生み出す。 地域社会に働きかけることを通して，自分たちの地域に誇りをもつ。

【単元づくりのポイント】

児童会たてわり活動「地域ラリー」につなげる。最高学年としてのリーダーの役割を果たしつつ，総合的な学習の時間に学んだ「衣笠の誇り」を下学年に伝える。下学年からの提案も組み込んでいく。

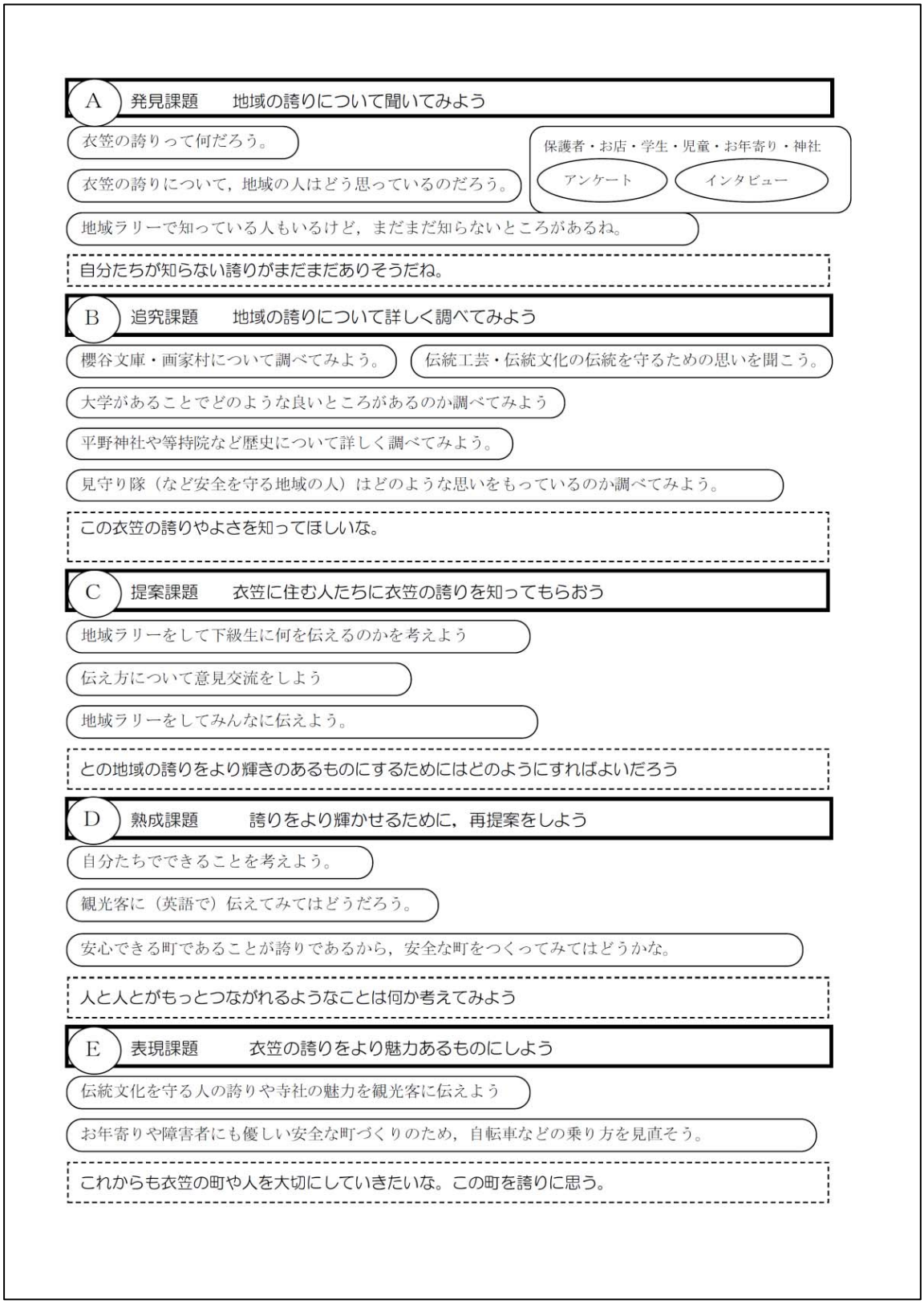


図 3-3 単元構想（6年生･総合学習）

d 授業内容

本時は全４０時間のうちの３９時間目にあたる「まとめ」の時間であった。

前述の単元構想にもあるように，本時に至るまでに「観光都市　京都」について観光客の目線と自分たち住民の目線といった異なる視点から京都について調べた。

また授業の中で調べた世界遺産や名跡に，本当に多くの観光客が訪れているのかどうか仮説を立て，実際に校外学習と結びつけて「市内めぐり」として，自分たちで訪れ，そこに訪れる人々に対して目を向けるといった授業が実施された。

本時では学区内に平野神社，またすぐそばには北野天満宮といった観光地を持ち，更には金閣寺方面へのバスが校区内を通過する地域の特色から，多くの観光客で住民がバスに乗ることができないという問題についての対応策が発表された。

学習の流れとしては，まず①グループで自分の意見を伝え合う，②その後全員が伝え終わったら質問をする，③グループ内の意見の優れた部分を持ち寄って更に良いものを作り上げるという流れであった。

Q　市民と観光客の双方にとって，より良い移動システムは何だろう？

グループＡの発表

- 京都に来訪した観光客に GPS を取り付けてもらい，それにより京都の観光人気ランキングを把握できる。
- GPS を取り付けてくれた観光客には「証明カード」を発行し，それをバスの観光客専用の入口に設置された機械にかざすと自由に乗降でき，スムーズである。
- バス停センサーの設置。バス停に監視カメラがあり，人が多くなるとバスを送り出す所へ連絡が行き，バスの本数を増やして走らせることができる。

※京都市民へのアピールポイント

- バスの中が観光客スペースと市民スペースに分割されているため，ゆとりがあり混雑せず，ゆっくり移動することができる。

※観光客へのアピールポイント

- バスがすぐに来て，分からないことがあっても設置された機械のモニターで詳しい説明が出る。

Q　市民と観光客の双方にとって，より良い移動システムは何だろう？

グループＢの発表

- 「市民バス」と「フリーバス」を作る。
- 市民がフリーバスに乗る時は，入口に設置された画面にタッチして乗る。京都市民は少し料金が安い設定にする。
- 観光客はフリーバスに乗る。そのためフリーバスは観光スポットを中心停まるようし，観光地近くでは停車前にその観光スポットについて教えてくれる。
- フリーバスには外国語を話せる人が車内にいる。
- 外貨の両替機を設置する。

※京都市民へのアピールポイント

- 京都市民専用バスだから，あまり混雑せず乗り降りが楽なため，お子様連れやお年寄りにも便利。

※観光客へのアピールポイント

- 外国語対応できる人が車内にいるため，困ったことがあれば車内で質問できる。
- 外貨しかなくても車内で両替できるので便利。

Q　市民と観光客の双方にとって，より良い移動システムは何だろう？

グループＣの発表

- 混んでいるか分かるカードが置いてある停留所を作る。
- メリットは並ばなくても混んでいるか分かるので，市民も観光客も平等になる。

※京都市民へのアピールポイント

- 通勤通学時に早く行くことができる。

※観光客へのアピールポイント

- 多くの観光地へ行くことができる。

Q　市民と観光客の双方にとって，より良い移動システムは何だろう？

グループＤの発表

・　観光客用のバスを作り，観光客に人気の観光地に多く向かわせる。



※京都市民へのアピールポイント

・　観光客が専用バスに乗ることにより，通勤通学に混雑せず利用しやすくなる。

※観光客へのアピールポイント

・　市民が少なくなり，快適に観光スポットに行ける。

・　もし乗り過ごしでも運行本数が多いので，時間を大切に観光ができる。

学区内に観光地を多く土地であることから，ほとんどのグループで市民が混雑に巻き込まれないように配慮したものが多く，日常的にバスの混雑が問題になっていることが顕著に表れていた。

また，バス車内に外国語で対応できるものや外貨両替機設置など，日頃から外国人観光客も多いことが影響していると感じられるものも多く，地域の特色がよく出た発表であった。

e 板書計画

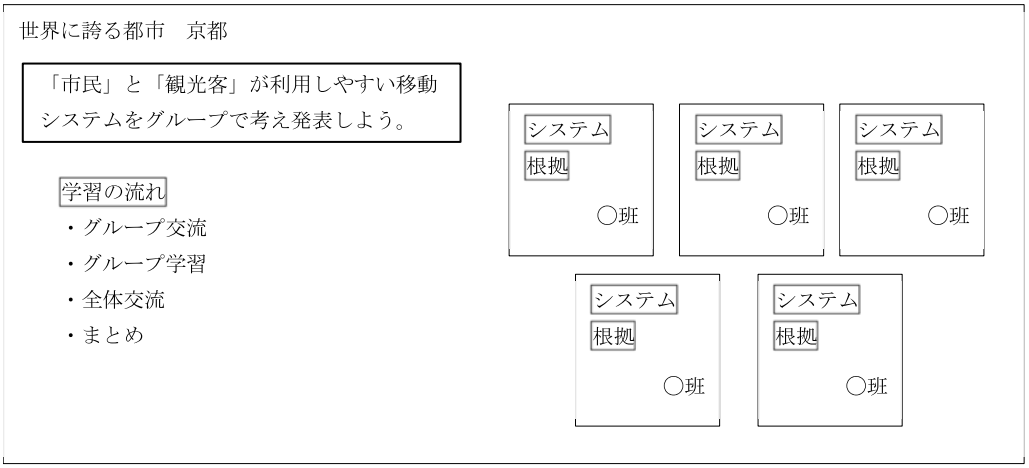


図　3-4　板書計画（６年生･総合学習）

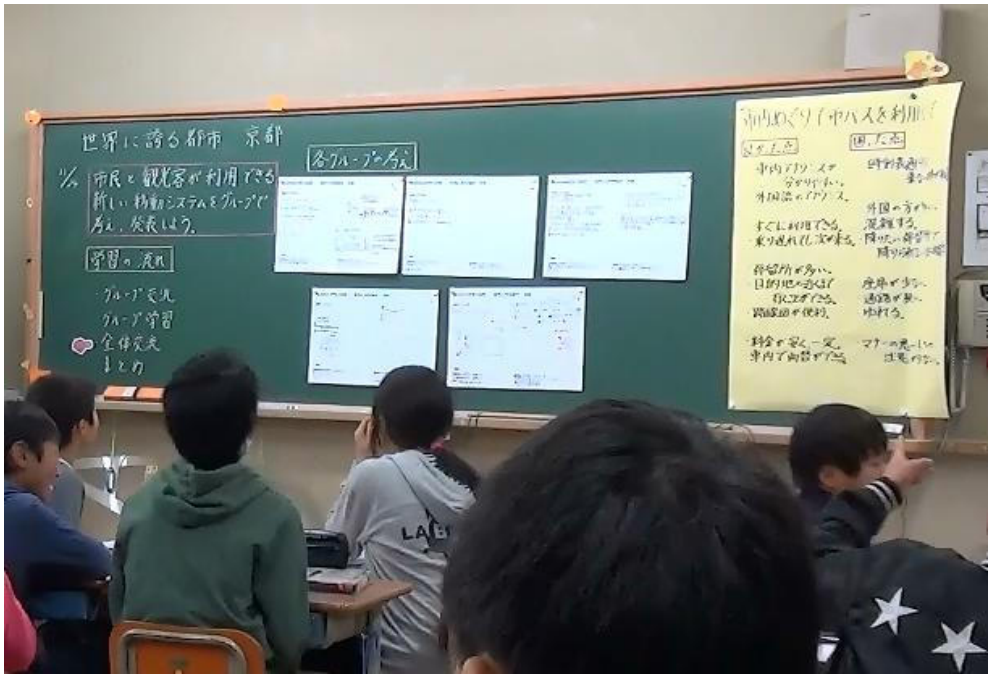


図　3-5　当日の板書（６年生･総合学習）

イ 京都市立高倉小学校

【研究テーマ】

豊かに学び、表現し、高め合う子をめざして
～共にめざす　住みやすいまちにするために～

【研究テーマの設定理由】

校区を東は鴨川・西は堀川通り・北は御池通り・南は四条通りと京都の中心部の市街地がすべて含まれるという立地条件にある。子どもたちは、その地域の中

日常生活を行っている。登下校を含む通学路の安全については、これまでも学校はもとよりＰＴＡや地域や行政が一体となり、安全な安心な通りの復権として取り組んできた経緯がある。

自分たちが積極的にまちづくりに参加していくための具体の活動として、この市街地の現状をよく知り、問題意識を持ち、そこから回りの人々共に考え、伝えていくということを学ぶことにより、人任せにするのではなく、「自分に何ができるのか」「回りの人々と何を協力すればよいのか」を理解し、将来自分が大人になったときにも自ら積極的に、地域をよりよくしよう考える力を身につける。

平成２８年度「歩くまち・京都」実践授業校として、これまでの取組にさらに、公共の精神を意識して取り組むことにより成果が得られた。それは、自らが学習していることが社会に参画する立場として、学びを深める自覚につながるとともに、喜びを味わう子どもの姿である。この意義は、今社会が目指す、持続可能な社会を創る次世代の担い手を育てる資質ともいえる。単に興味や関心で終っていた町歩きから、相手意識をもって「自分たちの街のよさを伝える」「もっとみんなにやさしい街にするために呼びかける」「安心・安全な街づくりを目指す」発達段階に応じた、社会の一員としての自覚と市民感覚を醸成していくために、この成果を活かして、継続的に本校の教育課程の中に位置付けて、引き続き２９年度もこの「歩くまち・京都」の授業実践校として取り組みたい

その中で６年生の「（２） 歩行者優先の安全な道にするための子どもからの提言」として，子ども目線の意見を取り上げたモデル授業が実施された。

① ６年生

ａ 授業概要

・ 日時　　平成２９年１２月５日（火）
・ 学年　　６学年全クラス（１１５名）
・ 教科　　総合学習
・ 単元名　みんなが安心して歩いて楽しい街にするためにどうすればよいか考えよう
・ 単元の目標

　自分たちが登下校したり，この町に住んできたことを振り返り，一市民として「歩くまち」づくりに参画し，自分にできることを考える学習であることを確認する。

・ 授業者　京都大学　山田忠史准教授（講師として講演）







図　3-6　授業風景（６年生・総合学習）

b 学習指導案

高倉小学校：「歩くまち・京都」公開実践授業

日時：　平成 29 年 12 月 5 日　　（１３：３０～１５：００）９０分授業

場所：京都御池中学校アリーナ

対象：京都市立高倉小学校第 6 学年児童　１１５名　（１２グループ）

協力：中京区役所・交通問題プロジェクトメンバー・ＰＴＡ

講師：京都大学　山田忠史　先生　　ファシリテータ（学校４・ＰＴＡ４・行政４）

	学習の流れ	指導上の留意点
1 30 分	挨拶・学習の趣旨（校長より） 進行（6 年担任） みんなが安心して歩いて楽しい街にするためにどうすればよいか考えよう	６年間、自分たちが登下校したり、この町に住んできたことを振り返り、一市民として、「歩くまち」づくりに参画し、自分にできることを考える学習であることを確認する。
	講師紹介（校長より） ① 山田先生の講義 （20 分）	山田先生は、みんなの登下校の安全も含め、地域の人といっしょに交通問題プロジェクトミーティングで中心となってきていただいていることを紹介する。 本日、参加協力していただいている地域の人たちも同様であることも話しておく。
2 20 分	② グループワーク ・自転車のマナーや乗り方について気になること ・どうすればよいか ・みんなに伝える方法	・１グループ子ども１０人と大人が入る。 ・ファシリテータは大人（学校・行政・地域・学ボ） ・世代を意識して困りごとや気をつけてほしいことを意見として導く。 ・付箋をつかって、共通することや違いをまとめていく。校区の地図を拡大してマップに落とし込む。 ・話し合ったことを他に伝えていく方向でまとめる。
3 40 分	③ グループからの発表 （前半）隣のグループと交流する １０分 （後半）自分のグループに戻る １０分 ④ 全体交流 １０分 ⑤ 山田先生から講評 5 分 ⑥ ふりかえり　5 分	・ジグソー方式で、グループの半分はとなりのグループと交流し、自分のグループと似ている点と、違った意見を聞いて自分のグループに持ち帰る。 ・自グループに持ち帰り、他のグループと同じ意見だったことと違った意見をもとに最終の意見をまとめる。 ・いくつかのグループを指名して、まとまった意見や気づきについて話し合う。 本日の学習のふりかえりを書く（児童）

図 3-7 単元構想図（６年生・総合学習）

c 授業内容

本時は総合学習の時間を２時間使い，講師を招いて「まちの交通問題への考え方」についてスライドを交えて講演いただいた後，グループに分かれ大人（学校・行政・地域等）も一緒に自分たちの地域の安全について話し合いを行った。

各グループに大人が入ることによって，世代を意識した困りごとや気付きがあり様々な目線での意見交換となった。

なぜ「歩くまち」なのか？【本時】

- 環境，省エネルギー，交通安全，健康，経済に良いから。
- 歩行者が優先される通りが，安全・安心な暮らしをつくるから。
- 歩行者が優先される通りが，まちの賑わいをつくるから。

「高倉子ども安全マップ」に書込み

校区内の安全確認と解決策を考える

- 町を歩いて困る場所はどこか
- 気をつけてほしい場所（クルマ・自転車）はどこか
- 危険な場所はどこか

意見発表

- 自転車に乗りながらスマホやイヤホンをつけているなど，スピードを出しすぎて歩行者にぶつかりそうになったりする人がいる。
  →それが悪い行為であるということをテレビ・ラジオで放送したり，新聞やポスターで皆に見られるようにして対策する。
  →罰金を取る。
  →標識や看板を増やしたい。
- 片手運転や「ながらスマホ」が多い
  →なくすために，見かけたら注意したり，自分からまずしないことが大切。
  →自分から変わっていけば良い。
- 「ながら運転」や飲酒した人の「フラフラ運転」などが危ない
  →解決策としてポスターを貼るという意見が出たが，根本的には一人一人の意識が大切である。
- スピードを落としてほしい。
  →対策として道路を変える。曲がり角を鋭角にするという意見が出たが，先生からポールなどを立てて曲がりにくくした方が良いのではないかと提案があった。

→スピードを伝える看板の設置。

・ 余所見運転が危ない
→目移りしない風景（目障りな風景）が必要。
→スピード抑制同様，一旦停止や角を曲がりにくくする。

・ 「ながら運転」「片手運転」「音楽」が問題である
→呼びかけ，注意をするような歌が効果的である（歌の披露）

・ 違法駐車やスピードの出しすぎが危ない。特に 40～90 歳代の方が自転車のベルをリンリン鳴らしながら走るのが怖い。

・ ウォークマンをしながら運転しないでほしい。
→ルールを知ってもらう必要がある。新聞等に今までの事故や教訓を記事に掲載する。

児童の発表で多かったのが，道路の安全問題に関しては，意識的なものが多いので，一人ひとりの意識改革が大切であることや，普段から目につく場所（標識やポスターの掲載や，新聞広告やテレビ・ラジオでの周知等）に，違法行為であることを認識してもらうような情報を発信していくことも効果的ではないかという意見が多かった。

授業を通して，一人ひとりの「意識」と「周知」が重要であると児童たちは学んだようだった。

d 関連資料

・ 講演会で使用されたスライドを次頁以降に示す。

交通問題の解決策
～歩いて楽しいまちの実現に向けて～

京都大学　山田忠史

歩いて楽しいまち

歴史的都心地区が，50年後も100年後も，すべての人々を魅了するまちであるよう，「歩行者と公共交通優先」で，「環境にやさしい」，「歩いて楽しいまち」の実現を目指す．

～京都市「歩いて楽しいまちなか戦略」より～

- 環境，省エネルギー，交通安全によい
- 健康によい
- 経済によい

中京区「通りの復権」計画

【「通り」の現状】



【目指す「通り」】



（出典：中京区資料）

✓ 子供や高齢者が安心して歩ける通りに!

✓ 通りはもともとコミュニケーションの場であった!!

3

ヒーローものにおいて



（出典：ウルトラマンオーブHP）

怪獣（＝悪）
あらわる!!

ヒーローはこう言う！



（出典：ウルトラマンオーブHP）

あぶない！
みんな，近寄ってはいけない！！
（＝自分の身は自分で守るんだ！）

クルマは怖い！



真っ直ぐに歩けないし，前方もよく見えない！

クルマは怖い！（続）



トラックを避けよう．．．ギャっ，危ない！

クルマが多すぎる



さらに，バイクと自転車が．．．

クルマはわがまま



自転車の走る場所でも，おかまいなし

ヒーローならこう言う！



悪いクルマを退治してやる．
さぁ，こい！！

（出典：http://rabiru.com/9600）

それはそうだけど，，，
単に，そういうこと！？

自転車だって．．．



違法駐輪

（出典：Cycleroad HP）



危険走行　（出典：警視庁HP）



（出典：守口市HP）

11

自転車だって．．．（続）



「歩」道上でも，
傘を差して片手運転，猛スピード

自転車だって．．．（続）



人が歩く場所でもおかまいなし

13

自転車だって．．．（続）





- お年寄り，車いす，ベビーカー．．．．歩行者は皆，クルマの走る車道へ．一台でも二台でも百台でも，同じ迷惑！
- 自転車利用者は，自転車レーンでのクルマの駐停車について，同じように感じているはずなのに．

さらに，歩行者から見れば，，，

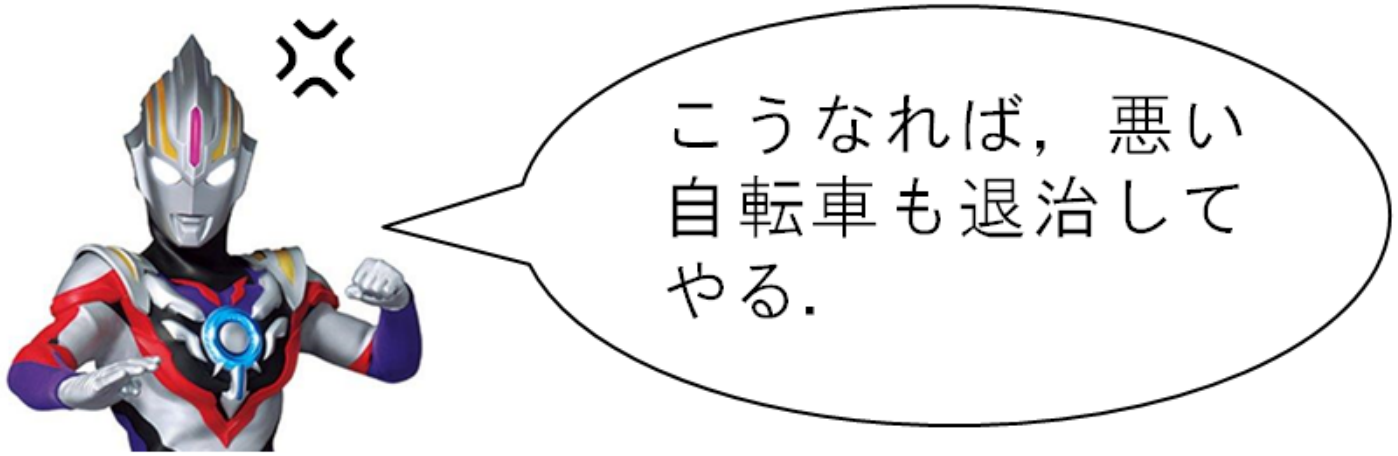


クルマ，バイク，自転車，，，
歩くところなんて無い！

自転車：多くの人が違反している！

- 自転車の法律違反
  - ➢歩道又は路側帯と車道の区分のある道路においては，車道を通行しなければならない.
  - ➢ 歩行者の通行を妨げないような速度と方法で進行しなければならない.
  - ➢ 夜間，前照灯，車幅灯，尾灯その他の灯火をつけなければならない.
  - ➢ハンドル，ブレーキその他の装置を確実に操作して，運転しなければならない（片手で傘をさしながら運転するのは×）.

ヒーローは言うだろう



（出典：http://rabiru.com/9600）

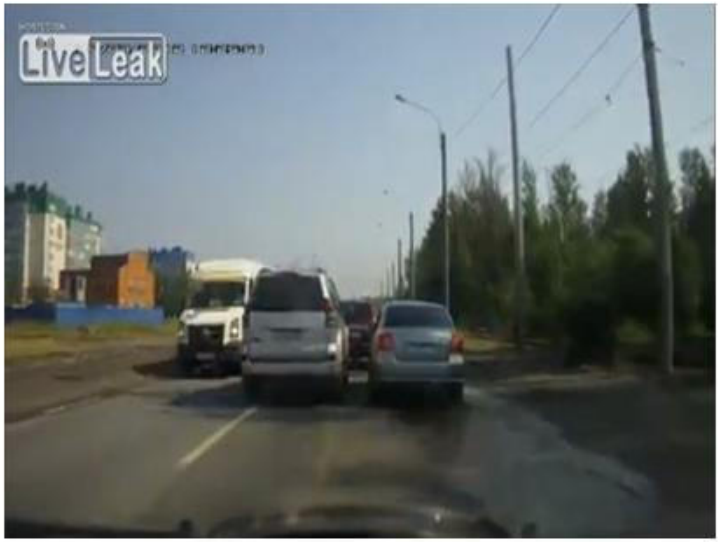
あれ!?
これでは，たくさんの人が退治されてしまう．．．

クルマも自転車も



違法駐停車

（出典：警察庁HP）



危険走行

（出典：Gigazine HP）

クルマから自転車に変わっても，問題の本質は変わっていない!⇒ヒトの意識（ココロ）が変わってないから!!

交通問題の解決向けて

- 市役所，区役所，警察に，なんとかして～！

と言いたくはなる．しかし，

- 一人一人の交通行動者（ヒト）の問題でもある．
- ヒトのココロ（態度，意識）が変わらないと，根本的には解決しない．

❖交通問題の悪は，自転車やクルマに乗る自分や身近な人に宿っている！

交通問題の解決向けて（続）

- 一人一人の交通行動者（ヒト）で解決できることが，たくさんある．
  - 駐車も，駐輪も，危険走行も！
- 歩いて楽しいまちは，ヒトがつくりあげるものでもある．

❖交通問題解決のヒーローもまた，自転車やクルマに乗る自分や身近な人である！

クルマを減らすための方策

- ウソのようで，ホントの話
  - ➢クルマの利用が減れば，問題は解決する

    だが，しかし，，，

  - ➢ クルマ依存症，クルマ中毒社会
    - ✓クルマがやめられないのは，よく言えば習慣，悪く言えば病気である．
      - ⇒「ハンドル握ると，ヒトが変わる」
  - ➢最新の交通問題対策
    - ✓ 心理学的処方箋（お薬）により，意識（ココロ）と行動の変化を促す（モビリティ・マネジメント(MM)）

結局のところ



（出典：http://renote.jp/）

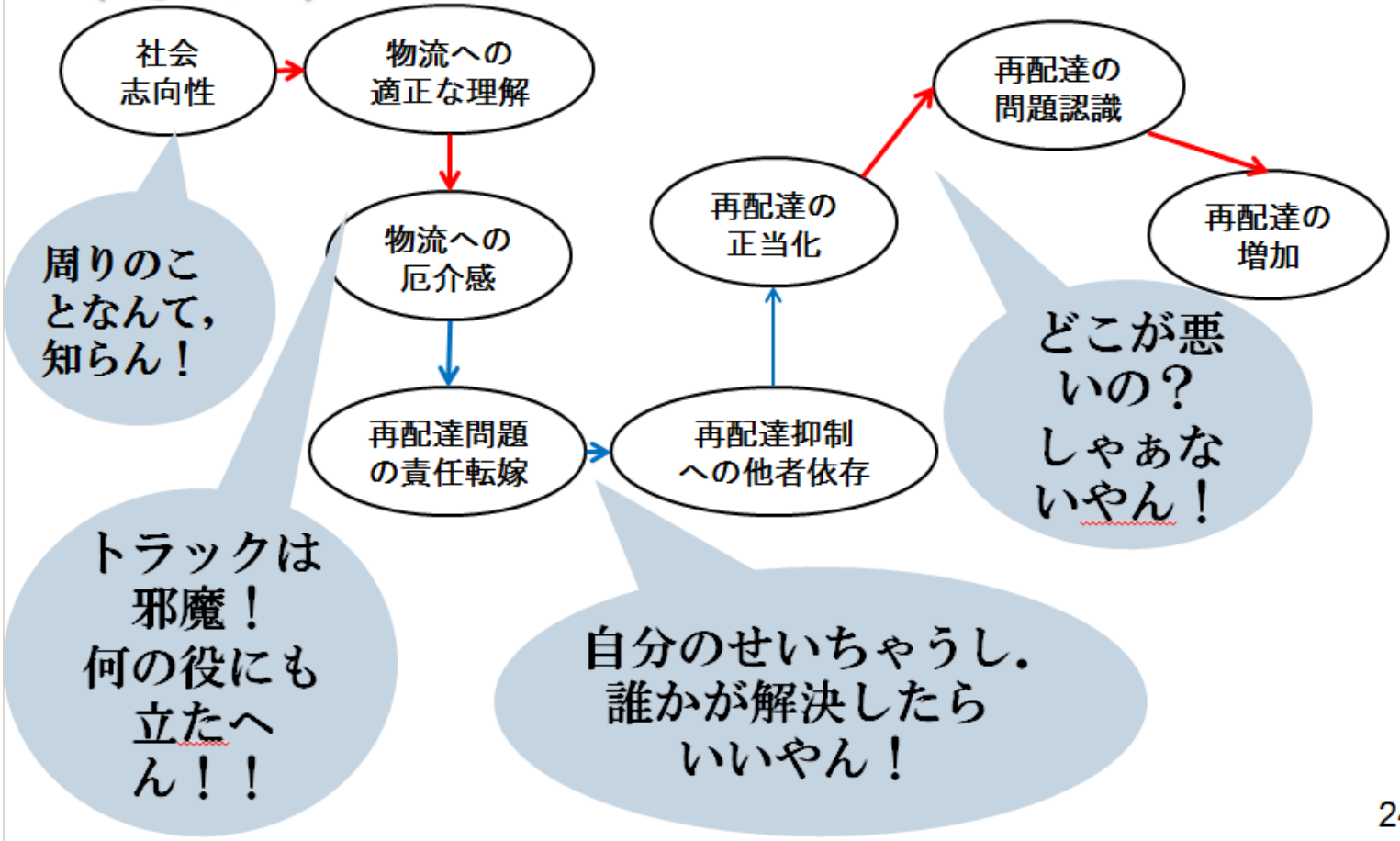
我々が，退治するという問題でもないんだね！

でも，こういうことって，自転車やクルマだけの問題なの？

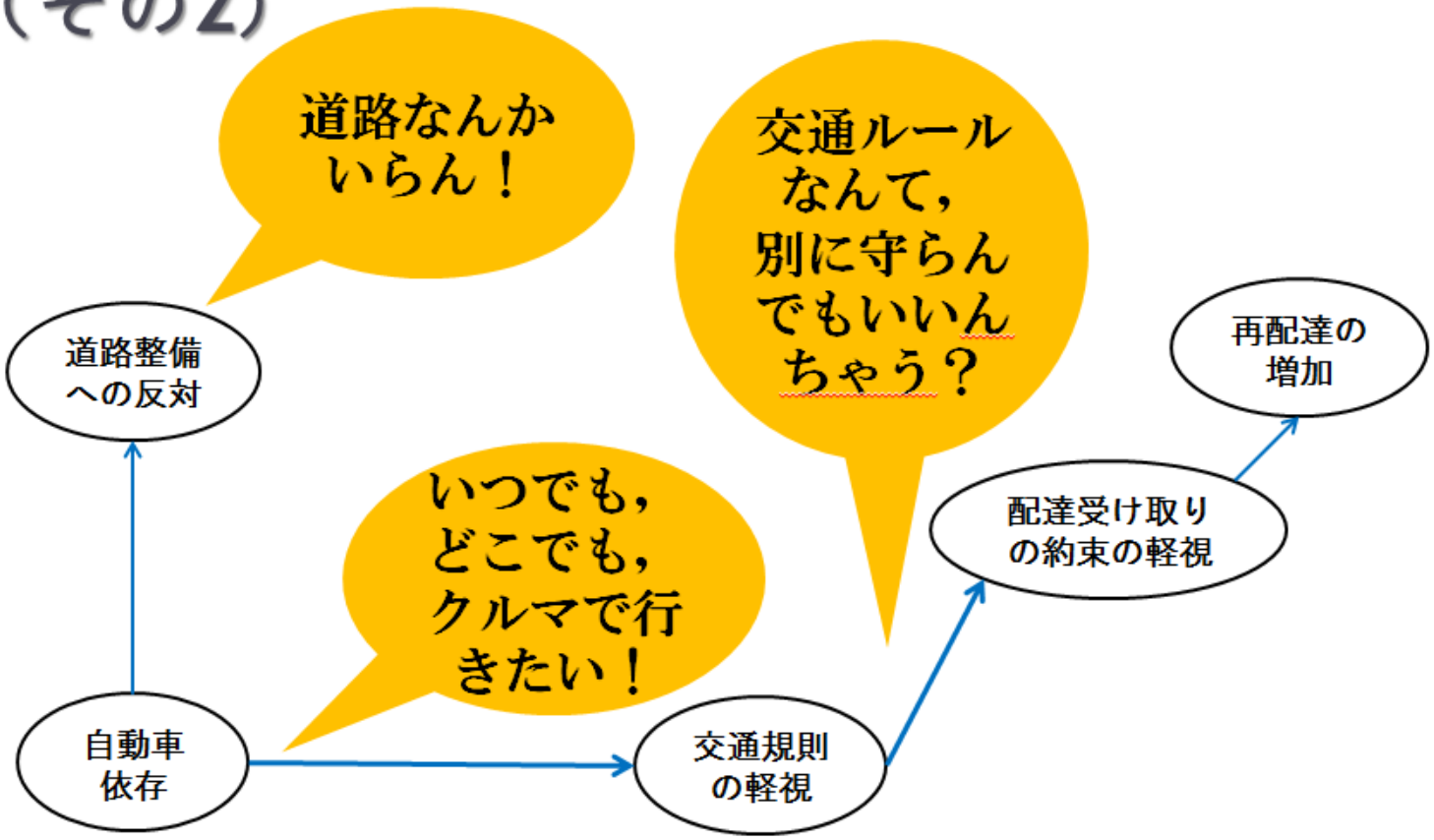
例えば，宅配の再配達

- 宅配便の取扱個数が，5年前（2013年時点）に比べて4億個以上も増加している．
- 宅配全体の2割が再配達になっている．
  - ➢ そのうちの4割：再配達を前提とした不在
- 再配達による余分な走行距離は，地球約1万3000周分である．
  - ➢排出されるCO_2：杉林の吸収量に換算すると，中京区の20倍以上の面積になる．

再配達を増加させるココロのメカニズム（その1）



再配達を増加させるココロのメカニズム（その2）



25

ヒーローが怒り出す！



これでは，
悪が増えるばかり．
もう，絶対に助けない！！

（出典：http://rabiru.com/9600）

地球が滅びる！！
助けてくれよ～（全員　泣）

26

ウ 京都市立小栗栖宮山小学校

【研究テーマ】

「醍醐の　いいところ　みーつけた！」
・自分たちが住んでいる醍醐の町の良さを見つけよう（５年）。
・自分たちの住んでいる地域の歴史的価値を知り，地域に愛着をもつ（６年）。

【研究テーマの設定理由】

小栗栖宮山小学校のあるこの場所には，たくさんの歴史的価値のある場所が多く存在する。しかしながら，子ども達はこの町に住みながらその場所を訪れる機会も少なく何気なく毎日の生活を送っている。自分たちの住む町が昔から地域の人々によって守られ，大切にされてきたことを知り，自分の住む町の良さを知ることで地域に愛着をもつ子どもを育てたいと考える。そして，地域の担い手として地域の活性化に積極的に協力していこうとする意識を一人一人の子どもの中に育てていきたい。

地域の方の努力によって，この地域には醍醐コミュニティバスが走っている。また近くには京都市営地下鉄が南北に走っており，その他多くのバスの経路も通っている。これらの公共交通機関を使えば醍醐の町にある名所を巡ることができる。公共交通機関を使って，自分たちの足で歩くことで今まで気づかなかったさまざまな素晴らしい場所や人々との出会いを多く経験してほしいと考える。

醍醐コミュニティバスはじめとする公共交通手段を総合学習の中で利用することで，普段の生活の中でもこれらを使用するきっかけになるのではないかと考える。

①　３年生

ａ 授業概要

・ 日時　　平成３０年２月７日（水）
・ 学年　　５学年
・ 教科　　総合学習
・ 単元名　自分たちが住んでいる醍醐の町の良さを見つけよう
・ 授業者　栗野亜希子　教諭

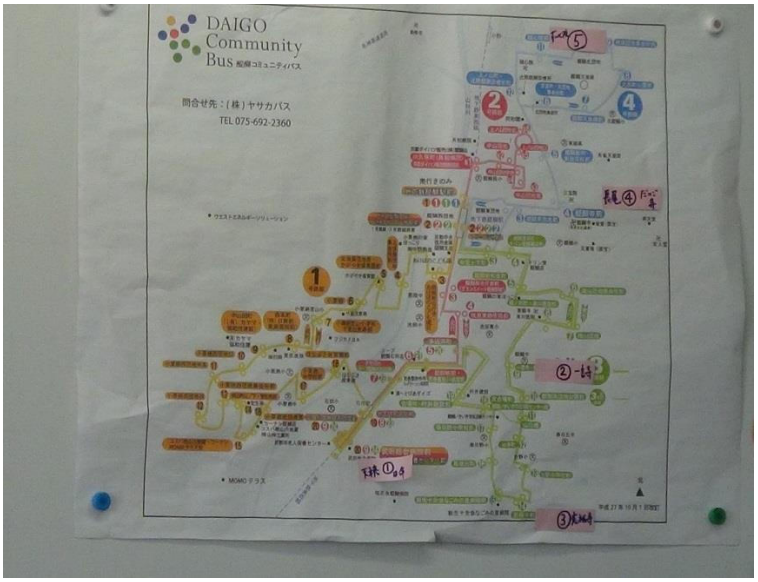






図　3-8　授業風景（６年生･総合学習）

b 授業内容

本時は総合学習の時間を２時間使い，講師を招いて「まちの交通問題への考え方」についてスライドを交えて講演いただいた後，グループに分かれ大人（学校・行政・地域等）も一緒に自分たちの地域の安全について話し合いを行った。

各グループに大人が入ることによって，世代を意識した困りごとや気付きがあり様々な目線での意見交換となった。

醍醐のいいとこみーつけた【本時】

- 醍醐巡りには何を使って行ったか。
- 醍醐コミュニティバス，電車，徒歩で行った。
- なぜクルマで行かなかったのか。

「クルマ」を使わなかった理由を相談

クルマ移動を利用しなかった理由について考える

- ＣＯ2 が出るから。
- クルマで通ると気づかない風景を感じられる。

ガイドブックに載せるものを考える

意見発表

- 私が知っている○○のいいところ

【一言寺】
・木や花など多くの自然に囲まれており，耳をすませば鳥の声が聞こえた。

【恵福寺】
・恵福寺で一番大きな安産の仏様は，左手に願いを叶える宝珠，右手には太く自分の心を表す金笏。
・他人の幸せを願う優しいお寺であると感じた。

前時の「醍醐巡り」で実際に自分たちが行った場所を他人に紹介するという形で授業が進められた。

クラスの中で他の場所を巡った人と意見交換をし，お互いに相手の内容を聞いて良かったところが発表され，一般的なものと異なり，きつい階段を登るなどを体験した人だけが知り得る情報をガイドブックに載せることの重要性を学んだ。

② ６年生

ａ授業概要

・ 日時　　平成３０年２月７日（水）
・ 学年　　６学年１組
・ 教科　　総合学習
・ 単元名　誇り高きまちに生きる
・ 単元の目標

　京都市には醍醐近辺以外にどのような歴史的なものがあるのかを調べて見学するコースを考えることができる。





図 3-9 授業風景（６年生･総合学習）

b 学習指導案

小栗栖宮山小学校：「歩くまち・京都」公開実践事業

日時：平成３０年２月７日　　４校時（１１：３５～１２：２０）

場所：６年１組教室

本時の目標：京都市には醍醐近辺以外にどのような歴史的なものがあるのかを調べ見学するコースを考えることができる。

	学習の流れ	指導上の留意点
5分	１．本時の学習のめあてと活動内容を確かめる。	・本時の目標を伝える。
	・醍醐近辺の歴史的な場所や建造物を振り返る。	・醍醐めぐりや醍醐検定を作ったことをもとに思い出させる。
30分	２．京都市で行ってみたい場所を書出し，その理由を考えグループで交流する。 ３．行ってみたい場所を入れたコースをグループ毎に考える。	・ただ行ってみたいだけではなく，何故行ってみたいのか理由伝えられるように例を示す。 ・京都公共交通マップをもとに地下鉄とバスで行ける班であることを伝える。
10分	４．グループからの発表	・ミエルモンを使って地図をテレビに映し説明できるようにセッティングしておく。

図 3-１０ 学習指導案（６年生･総合学習）

c 授業内容

５学年時に実施した醍醐巡りを思い出しながら，後日実施される京都市内巡りで行ってみたい場所を決め，どの交通手段でどういった順番で巡るのかも考えるという授業であった。

また行き先を考える際には，何故そこへ行きたいのかという理由も明確に伝えられるように他学年の友だちに，西高瀬川の魅力を伝えられるようにする。

京都市にはどのような歴史的なものがあるのか調べ，見学するコースを考える【本時】

- 醍醐にはどのようなところがあったか。
- 京都市で行ってみたい場所はどのような所か。
- 醍醐と京都市内とを比べながら，行ってみたい理由も考える。

「京都ジュニア検定」を見ながら考える

意見発表（コース発表）

- 「石田駅」から地下鉄で「御陵駅」へ行き，そこから徒歩で「清水寺」へ。また「御陵駅」まで戻り地下鉄で「二条城前駅」で下車し，そこから「二条城」へ行く。次に徒歩で「京都御所」へ向かい，そこからバスで「北野天満宮」と「金閣寺」を巡り，徒歩で「竜安寺」まで行ったら，帰りはバスで「二条城前」下車。地下鉄に乗り換えて「石田駅」へ戻る。
- 「石田駅」から地下鉄で「東山駅」下車，徒歩で「青蓮院，知恩院，八坂神社，高台寺，清水寺」を巡り，バスで「伏見稲荷大社」へ向かう。次にバスで「竹田駅」まで行き，そこから地下鉄で「丸太町駅」下車，「京都御所」へ行く。帰りは地下鉄で「石田駅」まで戻る。

醍醐コミュニティバスと地下鉄しかない地域のため，児童たちは地図で見てもあまり距離感が持てず，考えたルートには実際に回るには困難なものも多かった。

例えば清水寺へ行くのに「地下鉄「御陵駅」で下車して徒歩で行く」と発表したグループがあったが，実際には間に山があり，直接行くことは難しいということを教諭から聞き，驚いていた。

このように京都市内の地理感覚を養いつつ，どこにどのような観光地があるのかも学びながらの授業であった。

自分たちの住む地域以外の京都のことも学ぶ良いきっかけであったと考える。

エ 京都市立岩倉北小学校

【研究テーマ】

「わたしたちの京都市のまちづくりを主体的に調べ考える子ども」
～京都市の地理，歴史，政治，伝統文化，人々のくらしの教材化の工夫～

【研究テーマの設定理由】

「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」を研究主題に，国語科・社会科を通して校内研究を８年間進めてきており，教師の授業力や児童の思考・判断・表現力の充実を図ってきている。今年度の校内研究では，これまでの取組を積み重ねていくと共に，社会の中で活用することができる論理的思考力やそれらを表現する力の育成を，国語科・社会科のみならず，教育活動全体で意図的に取り組むことにより，刻々と変化する社会情勢にも通用する力を学校全体で育むことを意図してきた。

また，「歩くまち・京都」の実践では，「公共の精神」を学校教育の中で育んでいくために，社会科や総合的な学習の時間において３年生から６年生までの発達段階に応じた様々な角度から「京都のまち」の姿を深くとらえ，自分たちが暮らす「まち」に愛着をもつことで，これからの「まち」をつくっていく主体者として，より良い京都のまちづくりへの持論を論じることができるような児童の姿を目指し，取組をスタートさせた。今年度は「１年次」として，３年生から６年生までの各学年１本ずつの単元を設定し，実践を行った。校内研究授業を設定することで，校内での「歩くまち・京都」学習の実践についての共通理解も進めることができた。

研究実践の成果を３年生から６年生までの４年間を１つのスパンとして捉えており，来年度を４年間のうちの「２年次」として位置付ける。「２年次」は，実践内容の充実・発展はもちろんのこと，系統的なカリキュラムの開発を図る。社会科の内容を洗い出し，実践可能な単元においてどのような理解や認識を育むことができるのかを熟考するとともに，学年の発達に応じた学習内容の配置を行う。

その中で岩倉北小学校では，３年生と４年生，６年生での３学年で「歩くまち・京都」学習のモデル授業が実施された。

① ３年生

ａ授業概要

・ 日時　　平成３０年２月２３日（金）
・ 学年　　３学年２汲み（２５名）
・ 教科　　社会科
・ 単元名　地いきや生活のうつりかわり「昔を伝えるもの」
・ 本時　　１２時間目／１４時間

岩倉はどのようにして変わっていったのだろう

・ 単元の目標：
　地域の人々の生活について，古くから残る暮らしにかかわる道具，それらを使っていたころの暮らしや様子について見学調査したらり年表にまとめたりして調べ理解し，人々の生活の変化や人々の願いを考え，表現する。
・ 授業者　河村圭祐　教諭



図 3-１１ 授業風景（3 年生･社会科）

b 学習指導案

社会科学習指導案

指導者　　河村　圭祐

1　日　　時　　平成 30 年 2 月 23 日（金）　第５校時（13:50～14:35）

2　学年・組　　第３学年２組（25 名）

3　場　　所　　３年２組教室

4　単 元 名　　地いきや生活のうつりかわり　「昔を伝えるもの」

5　単元の目標

地域の人々の生活について，古くから残る暮らしにかかわる道具，それらを使っていたころの暮らしや様子について見学調査したり年表にまとめたりして調べ理解し，人々の生活の変化や人々の願いを考え，表現する。

6　単元の評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

①古くから残る暮らしにかかわる道具やそれらを使っていたころの暮らしの様子に関心をもち，見学や調査活動を通して地域の人々の暮らしの変化について意欲的に調べている。

②道具・暮らしの変化や人々の知恵や願いと自分たちの生活とのかかわりを考えようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

①地域の人々の暮らしの変化について学習問題や予想，学習計画を考え記述している。

②古い道具を使っていたころと今との暮らしの違いや変化，人々の暮らしの知恵を考え，わかりやすく説明している。

【観察・資料活用の技能】

①古い道具の使い方を体験したり，博物館などで昔の暮らしの様子を聞き取ったりして，地域の人々の暮らしの変化について必要な情報を集めて読み取っている。

②調べたことを年表や作品などにまとめている。

【社会的事象についての知識・理解】

①古くから残る暮らしにかかわる道具，それらを使っていたころの暮らしの様子を理解している。

②地域の人々の暮らしの変化が人々の願いや知恵によるものであることを理解している。

7　単元について

（1）児童について

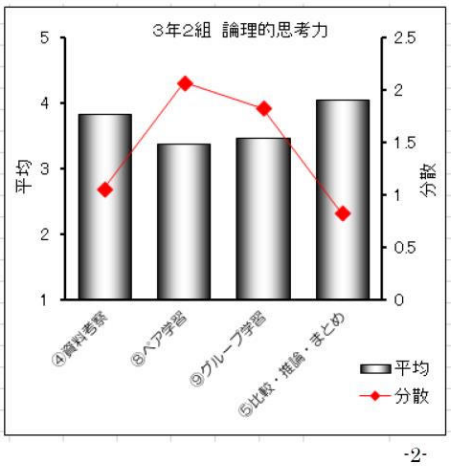
社会科の授業に対し，多くの児童は前向きに取組むことができている。6 月に実施した授業アンケートでは，以下のような結果が数値として表れた。（表の数値は人数を表す）

	楽しくない（思わない）	あまり楽しくない	どちらでもない わからない	やや楽しい	楽しい（思う）
①授業	0	3	12	14	20
②学習問題をつくる	1	5	11	15	17
⑩クラス全体で話し合い，深める	3	7	9	14	16
③将来役に立つ	3	2	4	13	26
④資料について考える	1	5	10	17	15
⑧ペアで相談し合う	3	8	7	13	18
⑨グループで話し合い，深める	5	4	8	15	17
⑤比べたりまとめたりして考える	0	4	13	12	20
⑥自分の考えを説明する	2	10	10	13	13
⑦友達の考えを知る	1	2	12	14	19

このアンケートによると，「社会科の授業は好きか」という質問に対し，学年の児童 49 人の内，楽しい 20 人・やや楽しい 14 人・どちらでもない 12 人・あまり楽しくない 3 人ということから，7 割以上の児童が社会科の授業を好きと答えている。設問 3 の「将来の役に立つと思うか」にあるように，約 8 割の児童が社会科の授業は役に立つと考えている。また，設問 2，4 についてあるように 7 割の児童が学習問題を作ったり，資料について考えたりすることは楽しいと感じている。しかし，設問 6「自分の考えを説明する」の回答を見ると楽しくないと感じている児童の割合が増えている。また，設問 1 0「クラス全体で話し合い，深める」や，設問 8「ペアで相談しあう」でも楽しく感じていない児童の割合も増えている。このことから，授業や学習問題を作ることは楽しいが，友だちと考えを伝えあったり，クラスで問題について話し合って深めていったりすることに課題があると考えられる。

前述の課題を受け，3 年生では，社会科の学習を以下のように進めてきた。

◆児童が安心して話し合うことのできる場作り



上記のグラフは各クラスのアンケート結果である。上記にあるように２組では，ペア学習・グループ学習について苦手意識を持つ児童がいる。そこで，まず基本的な「話す・聞く」ことのルールを徹底するようにしている。話す時には，聞く相手を見て，最後まで話す。聞く時には話す相手を見て，話す人が安心して話せるように聞く。ペア学習やグループ学習では，話すことを明確にして全員が話し合いに参加できるようにしてきた。また，ペア学習では，自由交流をしてクラスの中のたくさんの人と意見交流するようにして，ペア学習に対する抵抗感をなくすようにしてきた。

◆児童が考えてみたくなるような導入

児童にとっては初めての社会科である。社会科の学習を児童が主体的に考えてみたいと思って進められるように，毎回の授業の際には社会的事象との出会いを大切にし，児童が解決したくなる問いをつくってきた。例えば「わたしたちの京都市」で，四条あたりにはどんな特長があるのか調べた時には，まず，岩倉北小学校から四条までどうやって行けるか，何分くらいで行けるかについてのプレゼン資料を見せた。次に，実際の四条の動画を見せると，「ここ知ってる！」「行ったことある！」という反応が得られた。このようにこれから学習することに対して，児童が身近に感じられるようにしてきた。

◆児童が活用したくなる資料の工夫

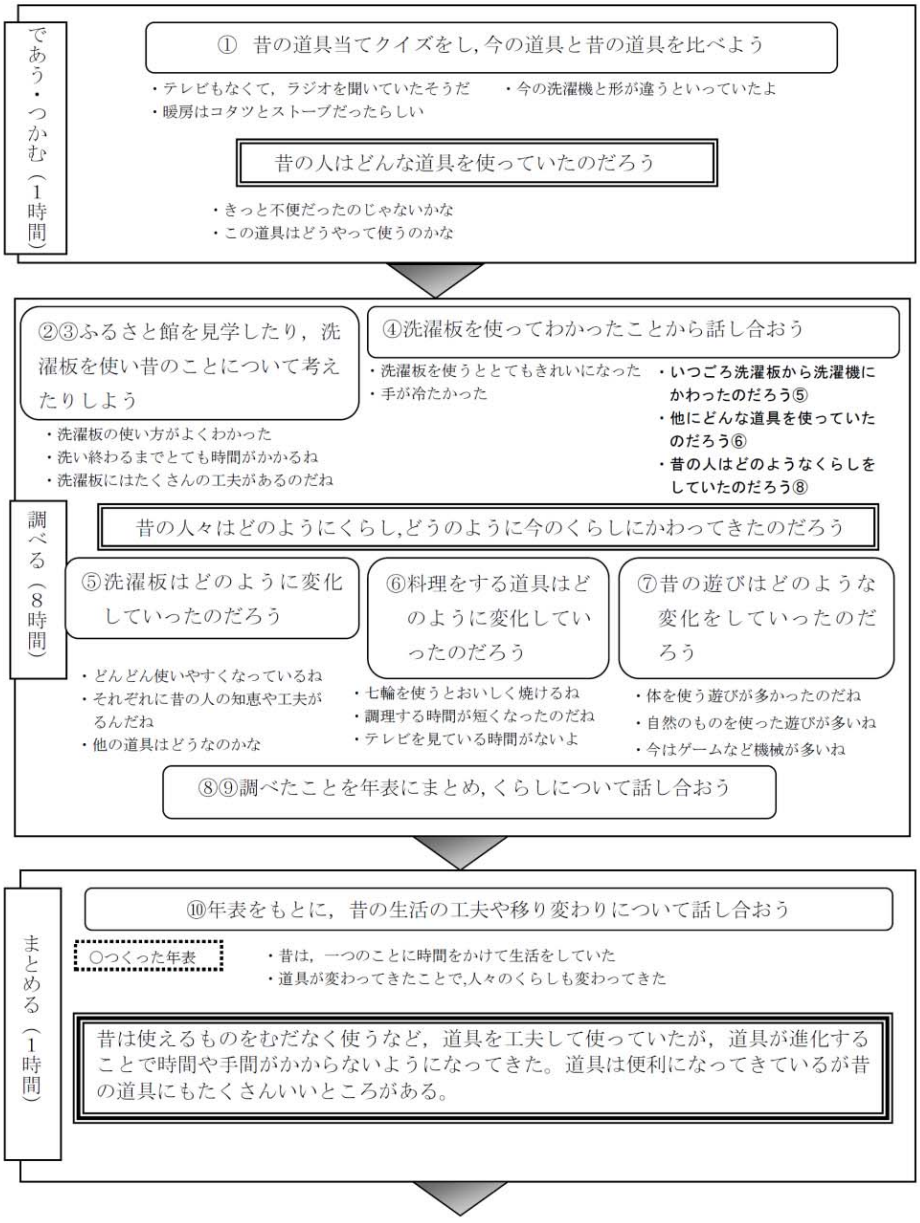
アンケートにもあるように多くの児童が資料から情報を読み取ることに意義を感じている。しかし，資料から考えることが苦手に感じている児童もいるので，できるだけ分かりやすい資料を用意するようにしてきた。また，複数の資料を読み取ることで，少しずつ資料と資料をつなげて読み取れるようになってきた。さらに読み物資料を黒板に掲示することで，分かったことの資料を差し示しながら説明することも少しずつ出来るようになってきた。３年生の発達段階に応じて，児童が主体的に筋道を立てて考えられるような資料を準備していきたい。

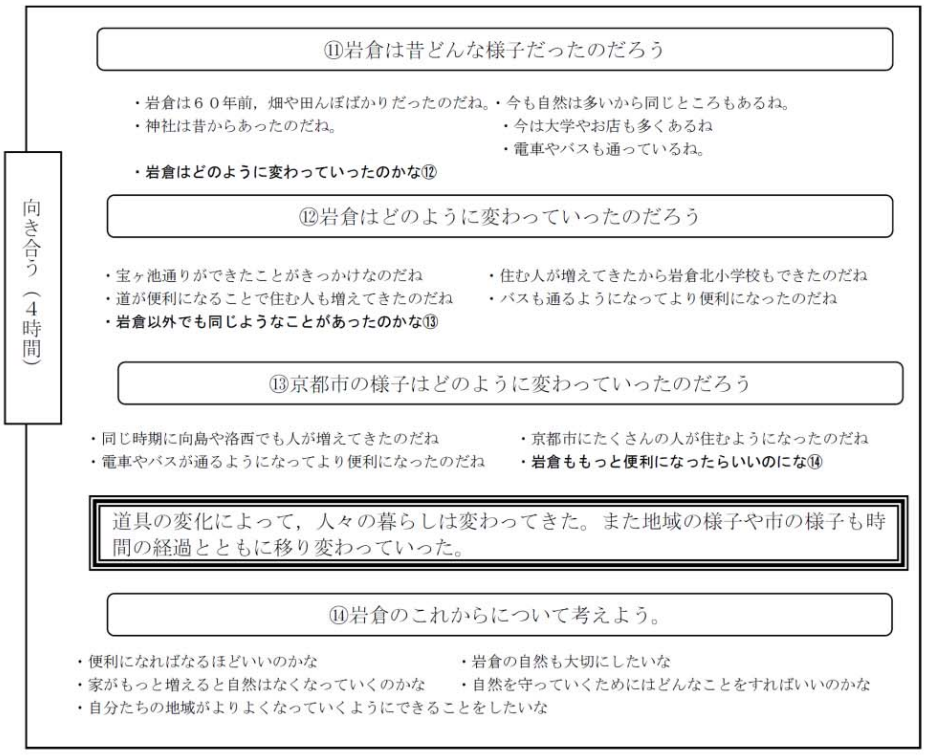
図 3-１２ 学習指導案（3 年生･社会科）

c 単元構想

（2）主体的な学びをつくる単元構想

単元構想図　昔をつたえるもの（全 14 時間）





（３）論理的思考力を働かせる場づくり

①学ぶ意欲を高める工夫

本単元は子どもたちにとって身近ではない内容となる。しかし昔の道具は子どもたちにとってめずらしく学ぶ意欲も高まりやすいと考えられる。「であう・つかむ」の場面では，昔の道具と今の道具を関連付けるクイズをして，道具の系統性に気づくようにする。そうすることで子どもたちの中に，昔の道具は今の道具とつながっているという意識が生まれ自分たちの生活に結びつけて考えることができる。また，昔の道具を見ることも初めてだという児童も多いと考える。そこで実際に昔の道具を使ってみる時間を設定する。そうすることで，児童一人一人が昔のくらしの疑似体験をし，問いを見つけることができ，学ぶ意欲も高まると考える。

②単元で働かせたい論理的思考力とは

本単元では，以下のような「論理的思考力を働かせている姿」，「そのための指導等」を考えている。

◆問題解決に向かって自分の意見を構築する

「つかむ・調べる」の場面では，昔の道具の工夫やくらしについて自分なりの意見をもつことができるようにしたい。そのためには生活経験や体験が必要になる。そこで，昔の道具

の写真を提示したり，一度使ってみることで今まで意識して見なかったところまで視野を広げられるようにしたりする。

◆根拠を示しながら，自分の考えを話す

体験した昔の道具の工夫や道具の移り変わりなどを，資料をもとに根拠を示しながら話し合うことができるようにしたい。そのためにはまずノートにしっかり体験したことや聞いたことをメモする力が必要である。そこで，どの児童にとっても分かりやすい体験カードを用意する。また，説明するための道具の写真や道具の年表，前時までの学習の足跡としての掲示を用意し，子どもたちがそれを使って話し合えるようにしたい。また「深める」の場面では，岩倉の歴史年表や岩倉の人口増加のグラフなど具体的な資料をもとに根拠を示しながら話し合えるようにしたい。

◆調べたことから分かった事実を「つなげて」「比べて」「関連づけて」考えを深める

「調べる」の場面では，昔の道具などから分かったことをグループやクラス全体で出し合った中で，つながるものや関連づけられるものを考えることができるようにしたい。そのために，それぞれの道具のよさをまとめておく必要があると考える。そこで，指導者が子どもたちからでた道具の工夫をまとめて板書することが必要であると考える。またそれぞれの工夫を掲示として残しておきたい。

単元のまとめの部分では，昔の道具のよさや道具の移り変わり，くらしの移り変わりを理解できるようにしたい。そのためには，単元のはじめに今の道具のよさを明らかにしたり，昔の道具の体験を通してよさを見つけたりして，それらを子どもたちに見える形で残しておく必要がある。そこで，「つかむ」の最初の場面で，用意する資料を「洗濯するもの」「調理するもの」など視点を絞って用意する。また，単元を通して一つの年表が完成していくような掲示の仕方をしたい。また，「深める」の場面では岩倉の人口増加のグラフを関連づけて考えることで，岩倉の移り変わりについて考えを深められるようにしたい。

（４）焦点化指導の充実

焦点化指導の充実として，１つ目は教材や追究したいと思える問いが生まれるような，社会的事象との出会いを大切にしていきたい。具体的には児童の一人一人が「なぜ」や「どのように」と思えるような導入の資料を準備して，問題意識を高め学習を進めていきたい。そのために本単元では，昔の道具だけでなく今の道具について考えるようにし，昔のくらしを身近に感じさせるようにしたい。

２つ目は児童一人一人が活躍することのできる学習形態の工夫である。日々の授業の様子を見ると，自分の意見を相手に伝えることに自信をもてていない児童が多い。また，友だちの意見を聞いてそこから考えるということが難しい。しかし，やる気のある児童は多いので，分かりやすい資料を用意したり，ペアやグループなど子たちにとって話しやすい環境を作ったりしていきたい。資料から分かることをつなげて考えるよう話し合う視点を明確にしたり，グループ発表など発表方法に工夫を加えたりすることで，児童が主体的に話し合い，全体での交流や問題解決できることにつなげていきたいと考えている。

8　単元の指導と評価の計画（全 14 時間　本時　12/14）

過程	目標 (○数字…時数)	主な学習活動 (○発問 ◇指示 ・児童の反応) 論理的思考力を働かせる場	教師の指導・評価 □支援 ＿資料 【】評価 論理的思考力の見取り
であう・つかむ	① 昔の道具当てクイズをし，今の道具と昔の道具を比べる。	○今の道具と昔の道具の写真です。目的が同じなのはどれとどれですか。 ・この板は汚れをとるものだと思うので，洗濯機に変わったのだと思います。 ・これは網があって何かを焼くものなのでIHクッキングヒーターと同じだと思います。 ・でも使い方がわからないよ。	□昔の道具の写真だけでなく，今の道具の写真を掲示することで児童が用途を類推できるようにする。 【関心・意欲・態度①】 昔の道具について関心をもち意欲的に話し合っている。 （発言・ノート）
	昔の道具はどのように変化し，くらしはどう変わってきたのだろう。		
調べる	② 洗濯板を使いよさや昔のことについて考える。	◇洗濯板を見て，使い方を話し合おう。 ・いつごろ使ったのかな。 ・線が入っているよ。 ◇洗濯板を使ってみましょう。 ・洗濯板の使い方がわかったよ。 ・洗い終わるまでとても時間がかかるね。 ・洗濯板にはたくさんの工夫があるのだね。	□洗濯している場面の写真を掲示することで，予想の足がかりとする。 【関心・意欲・態度①】 洗濯板の使い方を調べ，実際に洗濯することで昔の道具のよさを感じとっている。 （行動・ノート）
	③ 七輪を使いよさや昔のことについて考える。	◇七輪を使ってみましょう。 ・煙が目にしみるね。 ・七輪を使うと美味しく焼けるね。 ・テレビを見ている時間がないよ。 ・テレビはなかったのじゃないかな。	【関心・意欲・態度①】 七輪の使い方を調べ，実際に洗濯することで昔の道具のよさを感じとっている。 （行動・ノート）

	④ 洗濯板を使って分かったことから,学習問題をつくる。	◇洗濯板と七輪を使った感想をもとに話し合おう。 ・手が冷たかった。 ・洗濯板を使うと,よく汚れが落ちました。 ・時間がかかった。 ・昔の人は大変だったのかもしれない。 ○今はどんなくらしですか。 ・ボタン 1 つで機械が動くから楽だと思います。 ・昔に比べて便利になったと思います。 論 ○年表でわかっていないところはどこですか。 ・昔のくらしがわからないな。 ・道具はどんな風に変わってきたのかな ・道具が変わってきたのだからくらしも変わってきていると思う。	□ 体験したことを整理して話せるようにノートを基に話し合うようにする。 □洗濯板と洗濯機の写真を離して掲示することで変化していったということに気づけるようにする。 論それぞれの道具の変化を考えることで暮らしの変化にまで目を向けることができる。
	昔の人々はどのようにくらし,どのように道具が変わってきて,くらしがかわってきたのだろう。		
		◇予想したことを話し合いましょう。 ・道具がだんだん便利になってきたからくらしも楽になってきたのだと思います。	【思考・判断・表現①】 人々のくらしの変化について学習問題や予想を考え記述している。 (発言・ノート)
	⑤洗濯板はどうのように変化していったのか考える。	◇洗濯板はどのように変化していったのか話し合おう。 ・どんどん使いやすくなっているね。 ・それぞれに昔の人の知恵や工夫があるのだね。 ・他の道具はどうなのかな。	□変化がわかるように,それぞれの洗濯道具についての写真を移り変わった順に掲示する。 【知識・理解①】 洗濯道具やそれを使っていた頃のくらしの様子を理解している。 (発言・ノート)

	⑥調理器具について調べる。	◇調理器具はどのように変化していったのか話し合おう。 ・調理する時間が短くなっていったのだね。	□変化がわかるように，それぞれの調理器具についての写真を移り変わった順に掲示する。 【知識・理解①】 調理器具やそれを使っていた頃のくらしの様子がわかっている。 （発言・ノート）
	⑦昔の遊びについて調べる。	◇遊びがどのように変わってきたのかを調べよう。 ・体を使うものが多かったのだね。 ・今でもする遊びもあるよ。 ・自然のものを使う遊びが多いね ・今はゲーム機が多いね。	□変化がわかるように，それぞれの遊びについての写真を移り変わった順に掲示する。 【知識・理解①】 昔の遊びやそれをしていた頃のくらしの様子がわかっている。 （発言・ノート）
	⑧調べたことを年表にまとめる。	◇調べたことをもとに昔の暮らしについて話し合い年表にまとめよう。	【技能②】 調べたことを年表にまとめている。 （発言・ノート）
	⑨くらしについて話し合う。	◇くらしについて話し合おう。 ・七輪や洗濯板を使っていたころは，一つ一つのことにとても時間がかかっていたのだね。 ・今は機械でほとんどできるよ。 ・昔は不便だと思っていたけど楽しい遊びもいっぱいあったのだな。	【技能①】 古い道具の使い方を体験したり，年表を見たりして，人々の暮らしの変化について必要な情報を集めて読み取っている。 （発言・ノート）
まとめる	⑩年表をもとに，昔の生活の工夫や移り変わりについて話し合う。	○年表をもとにわかったことを話し合おう。 ・道具が変わったことで人々のくらしも変わってきたのだね。 ・機械のものが増えて家事をする時間が減ってきたのだね。 ・便利になったけど，昔の道具にもいいところがたくさんあったね。	□ 学習内容を踏まえた年表を掲示し，道具とくらしのつながりやそれぞれの変化が理解できるようにする。 【知識・理解②】 人々のくらしの変化が人々の願いや知恵によるものであることを理解している。　（発言・ノート）

		・くらしをよりよくしようと願って，道具が変わってきたことがわかるね。	
	昔は使えるものを無駄なく使うなど，道具を工夫して使ってきたが，道具が進化することで時間や手間がかからないようになってきた。道具は便利になってきているが昔の道具にもたくさんいいところがある。		
向き合う	⑪岩倉は昔どんな様子だったのか知る。	○昔の道具を使っていたころの岩倉はどんな様子だったのだろう。 ・今よりもっと自然が多かったのだね。 ・田んぼや畑ばかりだったのだね。 ・住んでいる人は農家ばかりだね。 ・神社は変わらずにあるのだね。	【知識・理解①】 岩倉の昔の様子について理解している。　（発言・ノート）
	⑫岩倉の様子はどのように変わっていったのか考える。 本時	○岩倉の様子はどのように変わってきたのだろう。 ・宝ヶ池通りができて，道が通りやすくなったのだね。 ・国際会議場ができて場所が有名になったのだね。 ・道が便利になって住む人も増えてきたのだね。 ・住む人が増えてきたから岩倉北小学校ができたのだね。	【思考・判断・表現②】 グラフをもとに岩倉の様子の変化について表現している。 （発言・ノート）
	⑬京都市の様子はどのように変わっていったのか調べる。	○京都市の様子はどのように変わっていたのだろう。 ・岩倉に人が増えてきた時期に向島でも人が増えてきたのだね。 ・電車やバスが通るようになってより便利になったのだね。 ・京都市にたくさんの人が住むようになったのだね。	【技能①】 グラフをもとに京都の様子について読み取っている。 （発言・ノート）
	道具の変化によって，人々の暮らしは変わってきた。また地域の様子や市の様子も時間の経過とともに移り変わっていった。		

	⑭岩倉のこれからについて考え，話し合う。	○岩倉はもっと発展していったほうがいいのだろうか。 ・これからもたくさん家が建った方が学校にも人が増えるいいと思う。 ・自然がなくなると生き物が少なくなるから発展しない方がいいと思う。 ・これから大人になっても地域のことを考えてできることをしていきたいな。	【関心・意欲・態度②】 これからの岩倉について自分とのかかわりを考えようとしている。 （発言・ノート）

図 3-１３ 単元構想（3 年生･社会科）

d 授業内容

本時は全１４時間のうちの１２時間目にあたる「深める」の時間であった。

前述の単元構想にもあるように，本時に至るまでに「岩倉がどのように変わっていいたのか」を調べ，年表にまとめた上で，当時の暮らしについて話し合ってきた。

その上で出来事が分かる年表に合わせて，当時の地図を使って更に深く掘り下げていく学習であった。

Q 岩倉はどのようにして変わっていったのだろう？【本時】

【本時までの学習を踏まえて・・・】

- 昔の岩倉は田んぼと山ばかりだった。
- 住宅地がほとんどなく寂しい所だった。
- 道が狭く叡山電鉄がギリギリ入る程度で，地下鉄と国際会館はなかった。

経年で岩倉の地図を提示

A. 児童の予想

- 山や田んぼをなくして住宅を建てていった。
- 昔は団地→家に変わっていった。
- 観光地に近い岩倉に住みたい人が全国からやってきた。

A. 意見発表

- 60 年前は住宅が少なかったが，少しずつ増えていき，現在はほとんどが住宅になっていることが分かった。
- 60 年前は田んぼが多かったのに，11 年前には田んぼがほとんどないことが分かった。
- 1969 年～1977 年にかけて小学校等ができたことにより，人が多くなった。

1958・1969・1977・2007 年の地図を提示して，岩倉がどのようにして現在の姿になったのか，その変遷を考えてい　　であった。

児童の多くは地図の見た目である地形を見ながら，山や田んぼが減って住宅が建ったという発表が多かったが，中には小学校等ができたことによって，人が住める環境が整ったと，人口増加の背景を回答する児童もいた。

e 板書計画

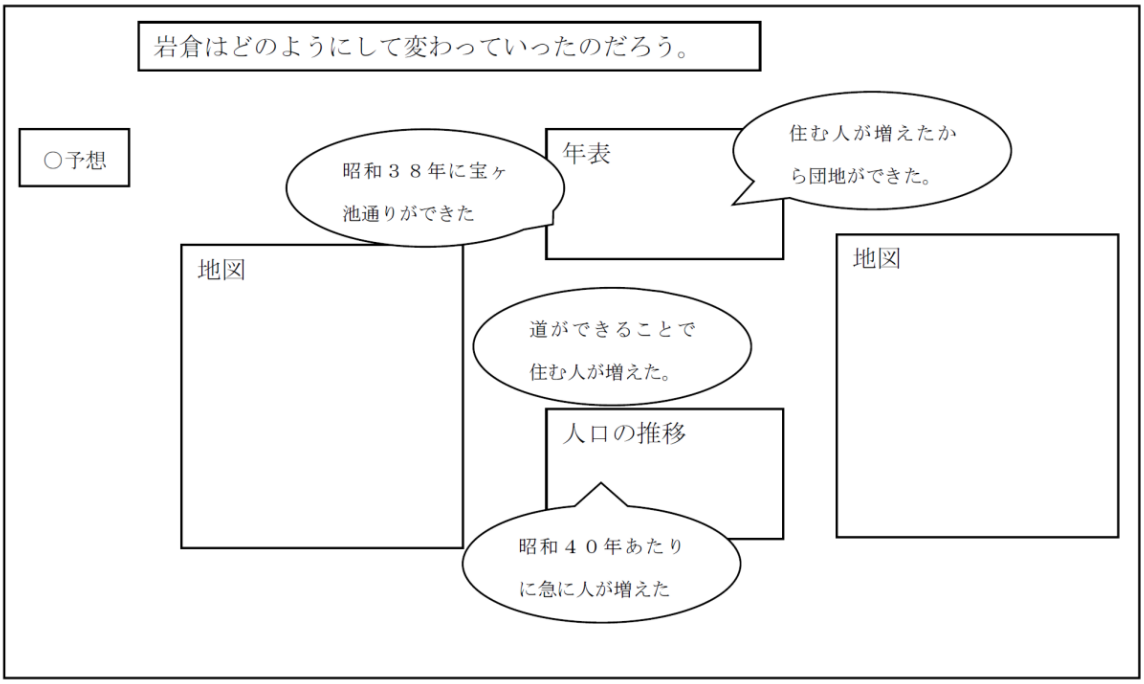


図 3-１４ 板書計画（3 年生･社会科）

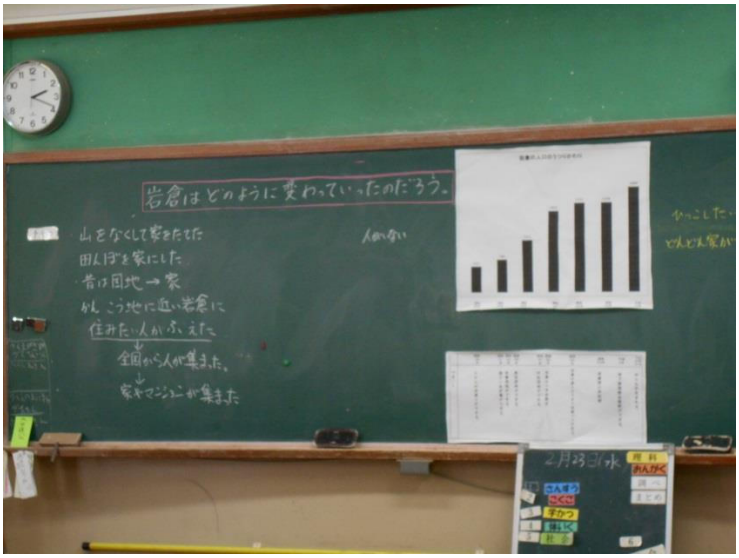


図 3-１５ 当日の板書（３年生･社会科）

② ５年生

ａ 授業概要

・ 日時　　平成３０年２月２３日（金）
・ 学年　　５学年２組（２６名）
・ 教科　　社会科
・ 単元名　わたしたちの生活と環境「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」
・ 本時　　６時間目／８時間

２９億円ものお金を使ってまで，京都市が四条通の歩道拡幅工事を行ったのは，なぜでしょうか。

・ 単元の目標：

産業の発展や都市化の進展にともなって生じた公害や，その公害から国民の健康や生活環境を守るための取組の様子を，地図や統計，写真などの資料を活用して理解し，文章にまとめるとともに，環境汚染から健康や生活環境を守るためには，企業や行政の取組だけでなく，わたしたち一人ひとりの努力や協力が必要なことを，公害とわたしたちの生活や産業とのかかわりを通して，思考・判断したことを適切に表現する。

また，京都で起こっている観光公害による京都市民への影響をとらえ，解決する方策を考えることを通して，これからの京都のまちづくりと自分とのかかわりについて考えようとする。

・ 授業者　高橋みゆき　教諭

b 学習指導案

社会科学習指導案

指導者　　髙橋　みゆき

1　日　　時　　平成 30 年２月 23 日（金）　第５校時（13:50～14:35）

2　学年・組　　第５学年２組（26 名）

3　場　　所　　５年２組教室

4　単 元 名　　わたしたちの生活と環境　「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」

5　単元の目標

産業の発展や都市化の進展にともなって生じた公害や，その公害から国民の健康や生活環境を守るための取組の様子を，地図や統計，写真などの資料を活用して理解し，文章にまとめるとともに，環境汚染から健康や生活環境を守るためには，企業や行政の取組だけでなく，わたしたち一人ひとりの努力や協力が必要なことを，公害とわたしたちの生活や産業とのかかわりを通して，思考・判断したことを適切に表現する。

また，京都で起こっている観光公害による京都市民への影響をとらえ，解決する方策を考えることを通して，これからの京都のまちづくりと自分とのかかわりについて考えようとする。

6　単元の評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

①約50年前に起こっていた公害に関心をもち，鴨川の環境を守る取組を，各種資料や調査活動を通して，意欲的に調べる。

②公害から生活環境や京都のまちを守ることと自分とのかかわりを考えようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

①汚れていた鴨川がきれいになったことについて学習問題を考え，予想し，調べる見通しを立てる。

②自然環境や生活環境を守るためには，様々な人の努力や，1人1人の協力などが重要であるということを考え，適切に表現している。

【観察・資料活用の技能】

①それぞれの立場の人が努力し，市民と行政などが協力することによって，人々の健康や生活環境を守ることができていることを，学習した事実を根拠にしてまとめている。

【社会的事象についての知識・理解】

①環境改善や保全のために行政や人々が協力して取組を行い，それらの取組の重要性や自分たち一人ひとりの協力の大切さを理解している。

②工業や観光業の発展にともなって生じた公害が，人々の健康や生活環境に重大な影響をもたらしたことを理解している。

7　単元について

（1）児童について

社会科の授業に対し，５年生の児童の多くはとても前向きに取り組むことができている。休み時間には，「今日の社会の時間が楽しみだ。」「他の教科では発表できないこともあるけど，社会は頑張れるよ。」といった声をかけてくれるように，３年生時からの社会科の学習の積み重ねによって前向きな姿勢が伺える。６月に実施した授業アンケートでは，以下のような結果となった。

	楽しくない（思わない）	あまり楽しくない	どちらでもない	やや楽しい	楽しい（思う）
①授業	0	3	１２	１２	２５
②学習問題を作る	0	4	9	１５	２４
③将来役に立つ	0	0	5	１８	２９
④資料について考える	1	0	5	２０	２６
⑤比べたりまとめたりして考える	1	3	１０	２１	１７
⑥自分の考えを説明する	3	1	１４	１１	２３
⑦友達の考えを知る	1	2	8	１８	２３
⑧ペアで相談し合う	0	2	１１	１６	２３
⑨グループで話し合い，深める	1	2	8	１７	２４
⑩クラス全体で話し合い，深める	0	3	9	１６	２４

設問１「社会科の授業は楽しいか」という問いに対して，約半数の児童が「思う」「やや思う」と回答している。多くの児童が社会科に対して前向きな気持ちで学習していることがわかる。また，設問３「社会科は将来役に立つか」という問いに対して９割の児童が「思う」「やや思う」と回答しているように，社会科の学習は将来のためになっているという目的意識をもって学習に取り組むことができているようだ。学習活動においてはどの設問においても「楽しい」「やや楽しい」と回答している割合が多い。しかし，「あまり楽しくない」「楽しくない」という回答している部分を見てみると，設問５「比べたりまとめたりして考えることは楽しいか」設問６「自分の考えを説明することは楽しいか」という問いに対して楽しくないと思っている児童の数が目に付く。このことから５年生児童の課題として，自分の考えに自信をもつことができていない児童や，考えを説明した後に，比べたりまとめたりすることに苦手意識があることが考えられる。また，授業での様子を見ていると，資料から気付いたことの発表に留まってしまい，気付いたことから考えたことへの思考の変換ができていない場面が見られる。そうしたことから，資料同士のつながりや，自分の考えと友達の考えのまとまりに気付くことができないこともある。

以上のようなアンケート結果や授業での様子をふまえ，本学年では，次のようなことに気を付けて学習を進めていきたいと考える。

◆児童が安心して話すことのできる場作り

４月当初より学習活動は「学習問題作り→予想→ペアやグループで資料から学習問題について調べる→まとめる」というスタイルを１時間１時間積み重ねている。そのことによって，今なにをすべきなのか，そして次はどんなことをするのかが明確となり，学習問題について考えやすく

なると考えている。また，ペアやグループ活動を意図的に取り入れることにより，一人一人の自分の考えを発信する機会を大切にしていきたい。全体で考えを説明することに苦手意識がある児童には，ペアやグループの児童がサポートすることで，少しずつ慣れていってほしいと考えている。

◆児童が主体的に問題解決できるような事実の精選

前述したように５年生の多くの児童は「社会科の学習は将来役に立つ」と考えている。それは今までの学習で取り扱う事実が自分事となっているということであり，「今日考えていることは自分になんら関係ない」ということではないということである。５年生の社会科では，考える対象が日本全体のことであり，距離的にも自分とは遠いことを学習する場面が多くなってくる上に自分の生活経験からは想像しにくい事実もあるかもしれない。そういった事実を自分事としてより身近に考えられるように，写真資料や映像資料を精選して提示していきたい。その積み重ねにより，児童が主体的に問題解決したくなるような問いをもつことができると考える。

◆資料同士のつながりをもてるような資料

学習問題について調べるときは複数枚の資料を精選し，それをペアやグループで読み取る時間を学習に取り入れていく。１枚の資料の気付きを友達と共有し，他の資料との共通点や関係性を見つけることができるような資料を準備することを心がけていきたい。また，児童の考えを板書に表す際には，資料同士のつながりを線で結ぶことやそこから考えたことを色を変えてキーワードで示すことで，資料同士のつながりを可視化できるようにしていく。

そして，学習が１時間１時間で完結してしまわないように，今までの学習を壁面にまとめておくことや前時までの資料をノートに残しておくことで，授業中に提示した資料以外からも考えられるように声かけをしていきたい。

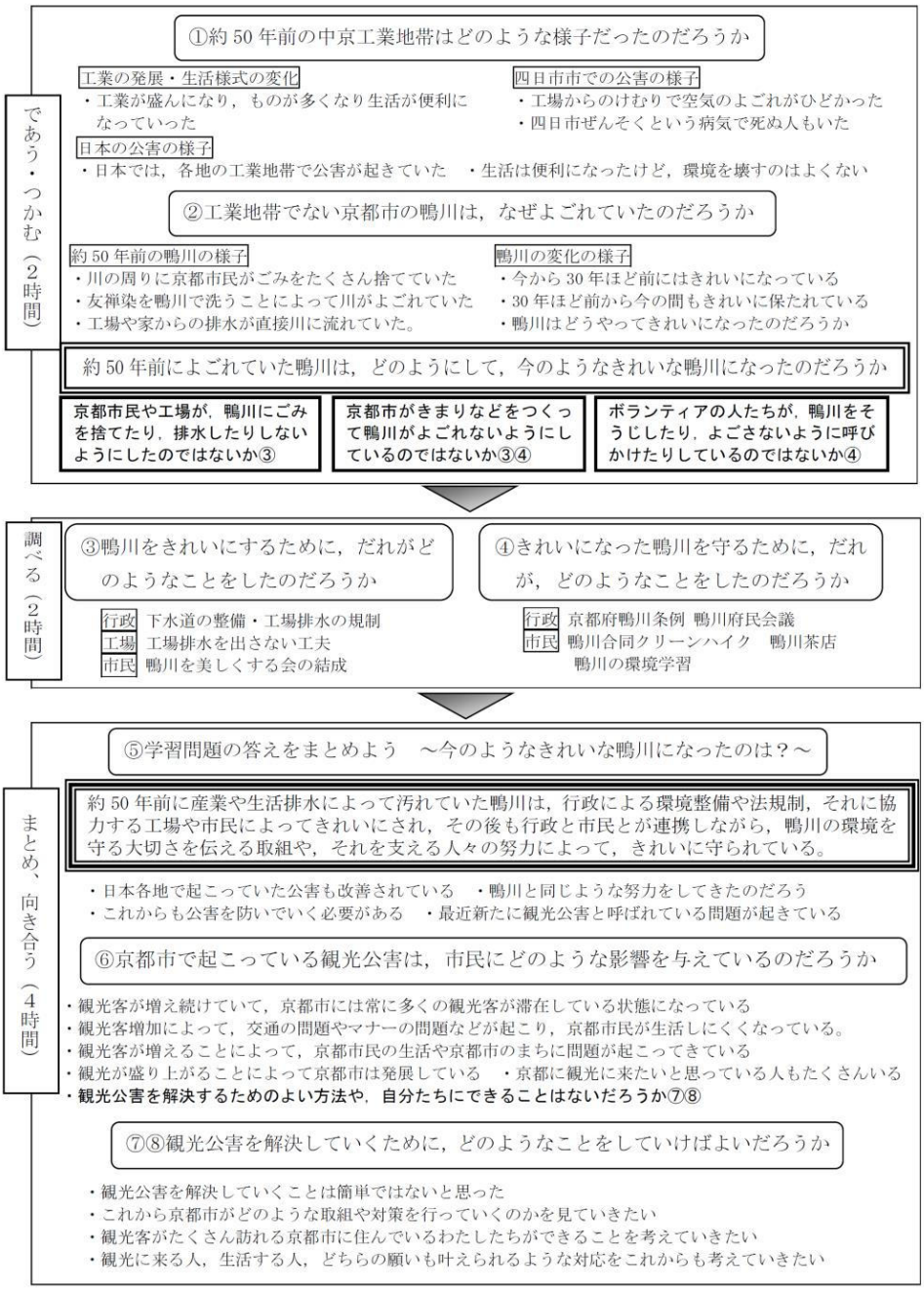
以上のような取組を中心に，自分のおもいを表現し，磨き合えることのできる学習を進めていきたいと考える。

図 3-１６ 学習指導案（５年生･社会科）

c 単元構想

（２）主体的な学びをつくる単元構想

単元構想図　わたしたちの生活と環境「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」（全８時間）



- 17 -

（3）論理的思考力を働かせる場づくり

①学ぶ意欲を高める工夫

本単元の中で，児童の学ぶ意欲が高まっている姿を以下のように考える。

（ア）高度経済成長期に日本で起こっていた公害という問題に関心をもち，その原因や様子について詳しく調べていこうとする姿。 （イ）公害が解決されていく過程や，環境を守るために続けられている取組を調べ，自分の生活とのかかわりについて考えている姿。 （ウ）観光公害という問題を解決する方策を考えることを通して，これからのよりよい京都のまちづくりについて考えていこうとする姿。

（ア）における手立てとして，既習した中京工業地帯の様子から学習を始める。約50年前ごろ，工場からの排気ガスにより，大気汚染が進んでいた三重県四日市市の石油コンビナートの写真を提示する。その写真から，児童は人々の生活への影響に思いをめぐらす。四日市市の様子を調べた後，視野を広げ，日本各地の公害の様子を見ていくことで，児童は公害の問題の大きさを実感し，関心をもつだろう。次に，工業地帯ではなかった京都市の鴨川が，工場からの排水の他に，家庭からの排水やごみの投棄によってよごれていた事実を知る。京都市で起こっていたということと，京都市民がよごしていたという事実から，問題意識が高まり，公害の問題について調べていこうとする意欲が高まっていくと考える。

（イ）における手立てとしては，汚れていた鴨川をきれいにし，きれいになった鴨川の環境を守るための様々な取組を知ったあと，それぞれの取組にどのような意味があるのかを考える場を設定していきたい。そこには，その取組を行う人たちの願いが見えてくる。その願いにふれた児童は，自分にも協力できることはないか，鴨川を守るためにこんなことをしてみたいといったことを考え始める。それは，鴨川の環境を守る取組と自分の生活とのかかわりを考えている姿であり，本単元で学んだことをより自分事としてとらえていくことができると考える。

（ウ）においては，観光公害という問題をとり上げていくことで，鴨川の問題をよりよく解決していこうとしている人の取組や願いを生かしながら，現在進行形で起こっている問題をどのように解決していくことができるのかを意欲的に考えようとする姿が見られると考えている。また実際に方策を考えていく場面においては，観光客，京都市民，京都市の行政という立場をつくってロールプレイを取り入れた話し合いを行うことで，より対話的で深い学びが生まれるようにしていきたい。

②単元で働かせたい論理的思考力とは

本単元では，以下のような「論理的思考を働かせている姿」を目指して学習に取り組む。

◆資料からとらえた複数の事実を比較・関連・総合していきながら問題解決する姿

複数の事実を使って問題解決するためには，事実から見えてくる共通項，社会事象の因果関係などをとらえていく必要があると同時に，児童は必然的に論理的思考を働かせながら問題解決をしていくことになる。

そこでまず大切になってくるのは，児童の問題意識である。いくら良い資料を提示しても，児童の問題意識が低ければ，資料を読み取ろうとはせず，論理的思考を働かす場は生まれない。だからこそ，児童にとって解決したい思う問いが生まれるように，児童の思考をゆさぶる事実

の提示，問題が自分事になるような教材開発，問題が明確になるような学習展開を工夫していきたい。

次に大切にしたいことは，資料から読み取った事実と，複数の事実から見えてきたことを整理できる板書の工夫である。そうすることで，事実を比較・関連・総合しながら問題解決をしていることを可視化することになり，児童が論理的に問題解決をしているということを自覚することにつながる。論理的に問題解決を進めることがより豊かな問題解決の手段であることを，児童が実感していくことで，児童が自覚的に論理的思考力を働かせていくようになるではないかと考える。

◆明確な根拠をもって，問題に対する自分の考えを説明する姿

本単元では，学習問題の答えをまとめる場面や観光公害を防ぐための方策を考える場面において，自分の考えを相手意識をもって説明していくような学習活動を設定している。学習して獲得した知識をもとに，自分の考えをもつことは，深い学びにつながり，児童が社会と自分とのかかわりを考え，社会に向き合っていく素地になると考えている。

ここで大切なのは，自分の考えをもつときに，既習してきたことをいかに活用し，生かしていくことができるのかということである。例えば，「私は○○と△△の事実から，□□というような考えがあります。」「私は□□という方策がよいと思います。なぜなら，○○の事実のように…」というような説明の仕方が挙げられる。

つまり，児童が，自分の考えのもととなる根拠を明確にもち，他者を納得させることができるような考えを発信していくような学習場面を設定することで，論理的思考力を働かせながら，自分の論を構築するとともに，他者に分かりやすく伝えることができるようにしたい。

（4）焦点化指導の充実

焦点化指導の充実としては以下の２点について取組んでいきたい。

一つ目に，板書の工夫である。資料と資料のつながりであったり，考えと事実とのつながりであったりすることをよりわかりやすくするためには可視化がとても重要なこととなってくる。前述したように，線や丸で囲むといったことを通して，後からふり返ってまとめの段階に入ったときに，それをもとにすべての児童が学習問題についてまとめられるように意識して板書を作っていきたいと考える。

二つ目に学習形態や発表の仕方の工夫である。すべての児童に発言する機会を設けられるように意図的にペア学習やグループ学習を取り入れることで一人一人が考えて発言する時間を補償できるようにしていく。また，発表しやすくなるように，グループ毎にメモ用紙をわたしたり，指し棒を準備したりしていきたい。

以上のようなことを意識して行うことにより，すべての児童が考え，関係性を意識することができるようにしていきたいと考える。

図 3-１７ 単元構想（3 年生･社会科）

③　６年生

ａ授業概要

・ 日時　　平成３０年２月２３日（金）
・ 学年　　６学年２組（２７名）
・ 教科　　社会科
・ 単元名　わたしたちの生活と政治「わたしたちの願いを実現する政治」
・ 本時　　２１時間目／２８時間

２９億円ものお金を使ってまで，京都市が四条通の歩道拡幅工事を行ったのは，なぜでしょうか。

・ 単元の目標：
　国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること，政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることが分かるとともに，政治の働きと国民生活とのかかわりを考えようとする。
・ 授業者　後藤文博　教諭



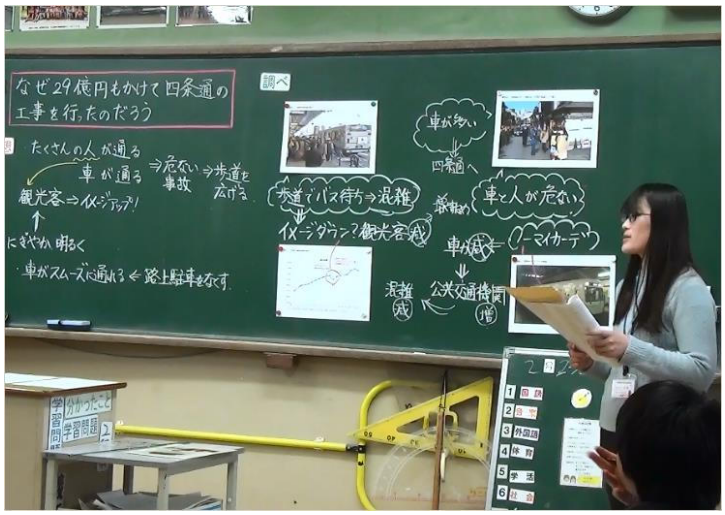


図　3-１８　授業風景（６年生･社会科）

b 学習指導案

社会科学習指導案

指導者　　後藤 文博

1　日　　時　　平 30 年２月 23 日（金）　第６校時（14：40～15：25）

2　学年・組　　第６学年２組（27 名）

3　場　　所　　６年２組教室

4　単 元 名　　わたしたちの生活と政治「わたしたちの願いを実現する政治」

5　単元の目標

国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること，政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることが分かるとともに，政治の働きと国民生活とのかかわりを考えようとする。

6　単元の評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

①京都市のまちづくりを進める事業など，地方公共団体の政治の働きに関心をもち，意欲的に調べようとしている。

②京都市のまちづくりを進める地方公共団体の政治の働きと，京都市民の生活とのかかわりを考えようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

①京都市のまちづくりを進める事業など，地方公共団体の政治の働きについて，学習問題や予想，学習計画を考え表現している。

②地方公共団体の政治が，国民生活の安定と向上を図るために重要な働きをしていることについて考え，適切に表現している。

【観察・資料活用の技能】

①京都市のまちづくりを進める地方公共団体の政治の働きについて，資料を活用して，必要な情報を集め，読み取っている。

【社会的事象についての知識・理解】

①京都市市民の生活には，地方公共団体の政治が反映していることを理解している。

②京都市のまちづくりを進める政治は，京都市民の生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。

7　単元について

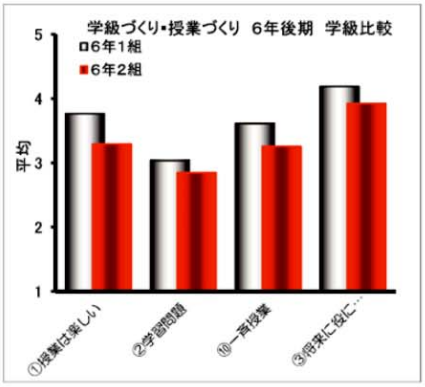
（1）児童について

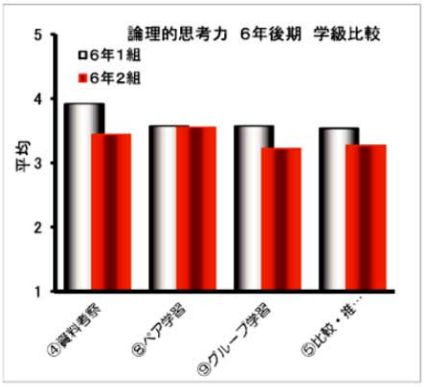
社会科の授業に対し，多くの児童は前向きに取組むことができている。１１月に実施した授業アンケートでは，以下のような結果が数値として表れた。

◇論理的思考力に関する児童意識調査の内容（アンケートの設問と回答の数値）

	設問の内容	1	2	3	4	5
学級づくり・授業づくり	①授業そのもの	楽しくない（思わない）	あまり楽しくない	どちらでもない わからない	やや楽しい	楽しい（思う）
学級づくり・授業づくり	②学習問題をつくること					
学級づくり・授業づくり	⑩クラス全体で話し合い，深めること					
論理的思考力を働かせる場	③将来役に立つと思うか					
論理的思考力を働かせる場	④資料について考えること					
論理的思考力を働かせる場	⑧ペアで相談し合うこと					
論理的思考力を働かせる場	⑨グループで話し合い，深めること					
論理的思考力を働かせる場	⑤比べたりまとめたりして考えること					
学びの基盤	⑥自分の考えを説明すること					
学びの基盤	⑦友達の考えを知ること					

◇児童の回答より





設問１「社会科の授業は楽しいか」という設問に対して，５段階で子ども達の意識を示したところ，「授業は楽しいか」との質問に対して学年平均で３．６ポイントと比較的に高いポイントを示している。また，設問３「将来の役に立っているか」と言う質問に対しても４ポイントを示しており，このことからも学習に対してその意義を理解し，前向きに学習に取り組む姿勢があると言える。

しかしながら，設問２「学習問題をつくる楽しさ」は，２．９ポイントと低い。また資料考察や事象を比較・推論したりまとめたりすることに対しては比較的意欲は高いものの，自分の考えとして発表することに関しては３．６ポイントとやや低めの数値を表し，意欲の高い児童と低い児童の差もある。６月に実施したアンケートについても同じような傾向がみられていた。このようなアンケートの結果と児童の実態をふまえると，学習の意味を理解し前向きな児童が多い一方で，学習の内容を自分事として捉えて問題の解決を目指したり，それ

ぞれの意見を主張し合うことでより学習を深めようとしたりすることに関して，楽しみを感じることができていない児童がいることが課題である。社会科の学習を通してこれらの課題を克服していきたいと考える。

そこで本年度は，社会科の学習を以下のように進めている。

◆児童が主体的・対話的に学びを進めることをねらった学習展開

社会科の学習の中で児童の「主体的・対話的に深い学び」を育むために，児童が考えたくなる問いが生まれるであいを意識してきた。そして，問題解決的な学習の展開を常に意識しながら既習の知識や経験をもとに自分の考えをもち，対話的に表現する活動を多く取り入れてきた。「縄文のむらから古墳のくにへ」の単元では，弥生時代までの学習のまとめとして，児童に「自分が生活するとすれば縄文時代と弥生時代のどちらがよいか」という問いに対して話し合う活動を取り入れた。そこでは，これまでの学習から分かった事実をつなげて考えたり，それぞれの時代の事象を比べたりしながら自分の意見や論を構築し，話し合うことができた。児童は，これまでに学習したことをもとに，相手意識をもって伝え合い，それぞれ時代の良さや課題をより深くとらえることができた。全ての単元で取り入れていくことは難しいかもしれないが，児童の思考の流れを大切にしつつ，このような学習から分かった事実をつなげて考えたり，それぞれの時代の事象を比べたりしながら自分の意見や論を構築する活動を積極的に取り入れていきたい。

◆つなげて思考することを意識した資料

年表や文書資料など資料を読み取ることや歴史的な事象に対する自分の考えを書き表すことを重点的に取り組んできた。５年生の社会科では，写真資料やグラフなどの内容や数値からから分かることや考えられることにまで思考を働かせることができたものの，６年生の歴史学習では年表や人物が残した言葉の資料が多く，読み取った内容からその当時の様子や人物の思いなどを考えることが難しい様子であった。そこで授業ではなるべく文章資料と視覚的にとらえやすい想像図を織り交ぜて提示したり，論理的につなげて考えられるように，板書で資料と資料とのつながりを視覚的にとらえて思考できるように工夫したりしている。

◆思考したことを表現する場面の充実

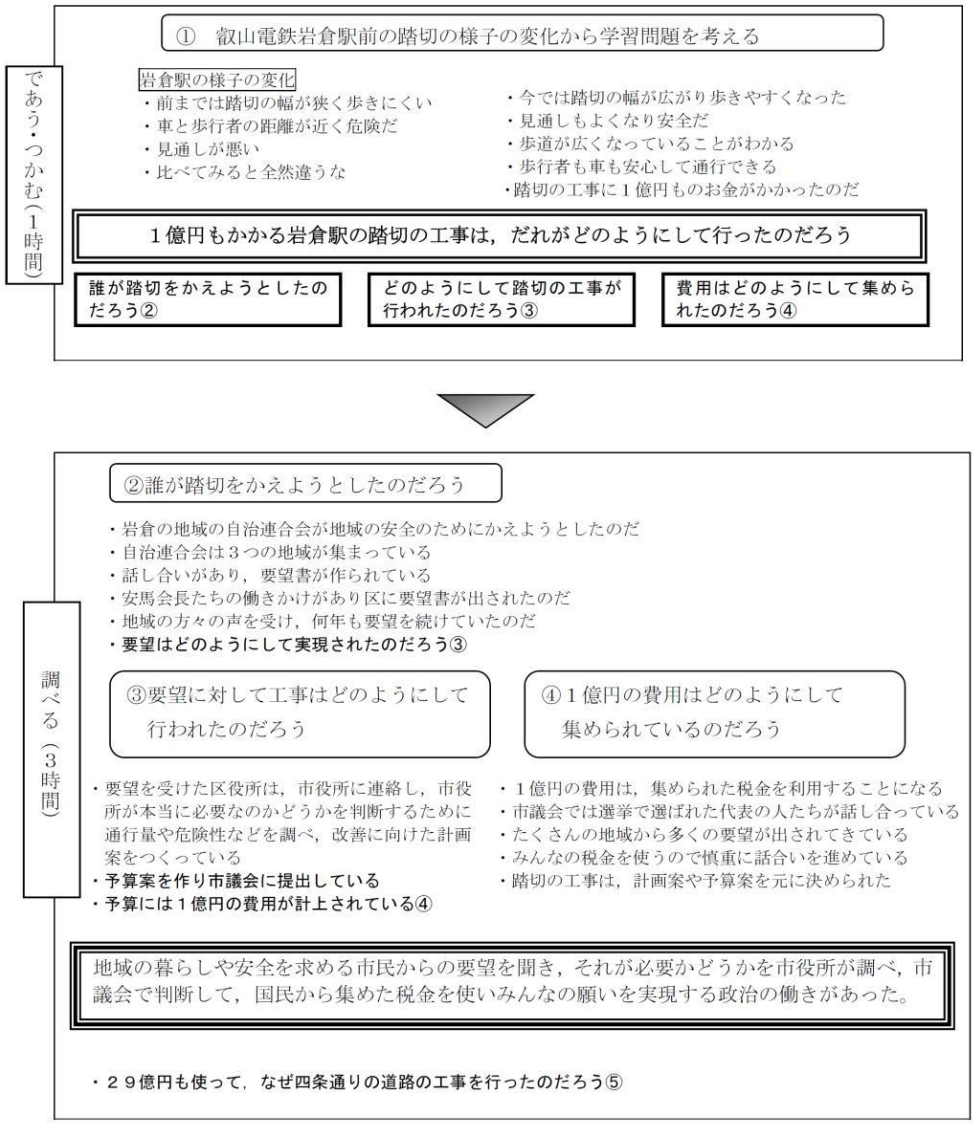
歴史的な事象に対する考えについては，毎時間の授業で学習した出来事や人物の取組などに対して，自分はどう考えるかについて書く時間を設定し，自分事として捉えさせている。そして，対立する考えなどを取り上げて話し合ったり，複数の歴史人物の中から議題（例えば，「この時代にもっとも影響を与えた人物は誰？」など）に対して最も適していると考えられる人物を選択し，その根拠を伝え合ったりする場面を設定し，多様な考えをもつことの面白さを伝えるようにしている。

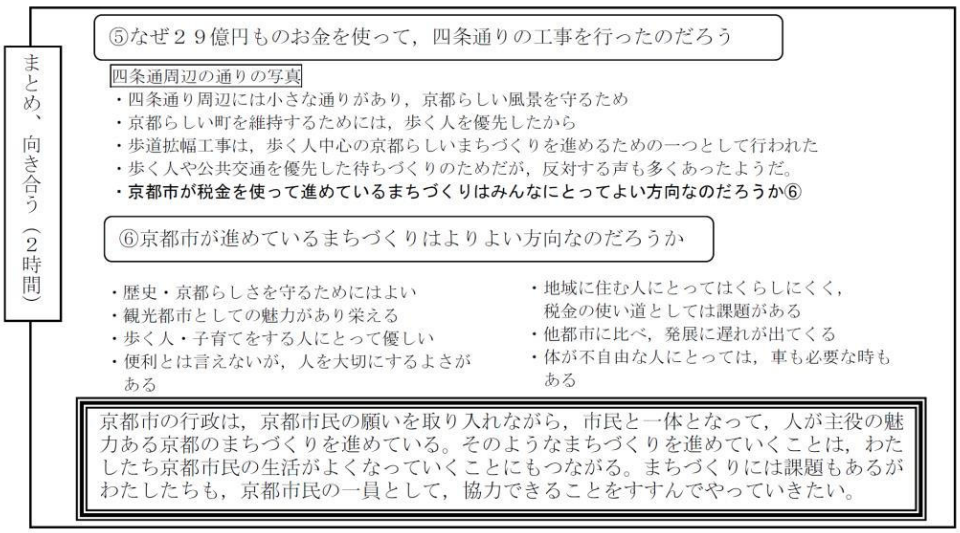
以上の観点に着目して，課題克服のために，引き続き社会科の指導を行っていきたい。

図 3-１９ 学習指導案（６年生･社会科）

（２）主体的な学びをつくる単元構想

単元構想図　わたしたちの生活と政治「わたしたちの願いを実現する政治」（全６時間）





（３）論理的思考力を働かせる場づくり

①学ぶ意欲を高める工夫

単元の「であう」の場面では，叡山電鉄岩倉駅の踏切の過去の写真と現在の写真を比較することで，その変化について関心をもち，そこからどのようにして工事が行われていったかについて疑問をもつことが考えられる。またその工事には１億円もの費用が使われた事実にであう中で，工事が行われることになったきっかけや要望を出した人物などに疑問が生じると考えた。そして自分たちの地域に１億円もの費用が使われることで，費用の出所についても問題意識が生まれると考えた。このように身近な地域の岩倉駅の踏切の変化や費用の大きさを見せることで児童が考えたくなる問いが生まれると考える。

その上で，四条通の歩道拡幅工事の事例を取り上げる。岩倉駅の踏切拡幅工事と比べてみても，29 億円という予算が計上されて歩道拡幅工事が行われる事実を知った児童達は，四条通の歩道拡幅工事に，これほどの予算が使われることに疑問をもつであろう。

②単元で働かせたい論理的思考力とは

本単元において働かせたい論理的思考力として，問題解決や課題解決に向かってこれまでに調べて分かった事実をつなげて考えたり，歴史学習の終末で学んだ京都市のまちのよさや魅力と重ね合わせたりしながら考える力を育んでいきたいと考える。本単元では調べて分かったことをもとに，京都市の政治の仕組みやまちづくりのねらいが，自分たちの生活や市民の願いとどのようにつながっているかという視点で考えられるようにしていく。そのようなねらいで単元を展開していく子ども達が論知的思考力を働かせながら，京都市のまちづくり取組には歴史があることや京都市が大切にしてきた京都らしさを守るため，四条通の歩道拡幅工事が，京都市のまちづくりの一端として行われていることをとらえることができるようにする。そして，歩くことや公共交通中心のまちづくりと自分の生活とのかかわりについて論理的思考を働かせて考えていこうとする姿を目指す。

（4）焦点化指導の充実

焦点化指導の充実として，１つ目は教材とのであいを大切にしていきたい。児童の一人一人が「なぜ」や「どうして」と思えるような導入の資料を準備して，問題意識が高まった状態で学習をスタートしていきたい。単元の導入はもちろん，毎時間の追究活動の導入部分においても，具体的で分かりやすい事実の提示，比較によって生まれるギャップなどを生かした問題づくりを行い，焦点化児童がしっかりと自分の問いとして学習問題をとらえることで，主体的な学びにつなげていくことができると考える。２つ目は児童一人一人が活躍することのできる学習形態を工夫したい。日々の授業の様子を見ると，自分の意見を相手に伝えることに自信をもてていない児童が多い。授業中，自分の意見を発表できていない理由として，「全体の場で発表する人数が多くて発表の機会を逃してしまう」という様子が見られた。積極的に発表できる児童が先に発表をすることで，発言する児童に偏りが見られ，話し合い活動の時間が受動的な学びの時間になっている児童も少なくない。少しでも，一人一人の児童が思考して発言する場面を保障し，友だちとの意見のやりとりをすることができるように，ペアやグループでの活動を取り入れていきたい。他の児童との交流の時間を設けることで,様々な見方や考え方を知り，自分の考えと繋げられるようにしていきたい。そうすることで全体の場においても自分の意見を自信をもって交流出来るのではないかと考える。

８　単元の指導と評価の計画（全６時間　本時５／６）

過程	目標 （○数字…時）	主な学習活動 ○発問　◇指示　・児童の反応 論論理的思考力を働かせる場	指導・評価 □支援　＿資料　【】評価 論論理的思考力の見取り
であう・つかむ	①叡山電鉄岩倉駅前の踏切の変化を調べ学習問題を作る。	◇２枚の写真から踏切の変化を調べよう。 ・前までは踏切の幅が狭く歩行者が歩きにくかった。 ・今では踏切の幅が広がり歩きやすくなった。 ・見通しもよくなり安全だ。 ・特に歩道が広くなっていることがわかる。 ・比べてみると全然違うな。 ・中学生になった時に毎日通るので安心	□叡山電鉄岩倉駅前の以前の写真と現在の写真を比べる。 □比べて気付いたことを違いを元に発表できるようにする。
		１億円もかかる岩倉駅の踏切の工事は，だれがどのようにして行ったのだろう	
		・誰が踏切の幅を広げてほしいと言ったのだろう。② ・どのようにして踏切の工事が行われたのだろう。③④⑤ ・費用はどのように集められたのだろう。④	□学習問題について調べる内容を考える。 【関心・意欲・態度①】 【思考・判断・表現①】 叡山電鉄岩倉駅前の踏切の変化を関心を持って調べ学習問題を作ることが出来る。 （発言・ノート）

調べる	②叡山電鉄岩倉駅前の踏切は誰の願いでかえることになったのか資料から読み取ることが出来る。	○叡山電鉄岩倉駅前の踏切は誰のどのような思いでかえることになったのか考えよう。 ・踏切の前は中学校があるので中学生の保護者からの要望かな。 ・区役所が危ないと思ったのではないのかな。 ・生徒が自ら要望したのかな。 ・地域の人たちみんなの願いがあったのではないかな。 ○次のことから分かることはあるのかな。 ・岩倉には地域の人たちの声を聞いて，まとめる自治連合会があるのだな。 ・地域から出た要望は，要望書にまとめられ区役所に出されているのだな。 ・一回ではなく何度も出されているのだな。	□前時の踏切の写真を提示して考える。 □岩倉自治連合会連絡協議会の要望書を読む。 □安馬会長の言葉を提示する。 【知識・理解①】 叡山電鉄岩倉駅前の踏切工事は，問題点があったことや，市民からの要望を実現しようとして行われたことを理解している。（発言・ノート）
	③区役所や市役所では，要望に対してどのようなことをするのか関係についてまとめる。	○要望を受けた区役所はどのようなことをしたのだろう ・要望を受けて，本当にどうか見に行っているのではないかな。 ・他の要望とも，比べたりしているのではないのかな。 ・調べた結果，良ければお金を出してくれるのではないのかな。 ○次の資料を見てみましょう。 ・区役所は要望を聞き，返答をする窓口をしているのだな。 ・市役所は，要望に対して必要かどうかをある程度判断し，計画と予算案を市会に提出しているのだな。 ・予算案を作り市会に提出している。予算には１億円の費用が計上されている④	□要望を受けた区役所から要望が叶うまでの経緯を予想するように声かけをする。 □区役所の方の話を文章で確認する。 □市役所の方の話を文章で確認する。 【技能①】 区役所や市役所で拡幅工事が決まっていった経緯を，資料をから活用して，必要な情報を集めて読み取っている。 （発言・ノート）

	④１億円の費用はどのように用意されるのか調べる。	○踏切を広くするための１億円もの費用はどこから出るのだろうか。 ・京都市内のことなので市のお金が使われていると思う。 ・府道とかかれているので，府のお金かもしれない。 ○工事のお金がどこから来るのかを調べる。 ・工事には市の予算や国の予算からお金が出された。 ・しかしそのお金の元はわたしたちの税金だ。 ・みんなの税金だから，本当に必要かどうか大切に判断しなければならない。 ○市議会の議事録を確認してみましょう。 ・市議会は市民から選挙で選ばれた代表の人たちが話合っている。 ・たくさんの地域から多くの要望が出されてきている。 ・みんなの税金を使うので慎重に話合いを進めている。 ・踏切の改善は，計画案や予算案を元に決められた。	□１億円という金額の大きさを想起する。 □市の予算や国の予算と税金との関わりについて調べる。 【関心・意欲・態度②】 １億円の費用はどのように用意されるのか調べ，税金の使われ方と自分たちの生活との関わりについて理解する。 （発言・ノート）
	地域の暮らしや安全を求める市民からの要望を聞き，それが必要かどうかを市役所が調べ，市議会で判断して，国民から集めた税金を使いみんなの願いを実現する政治の働きがあった。		

まとめ、向き合う	⑤四条通の歩道拡幅工事行った目的を話し合い，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考える。 本時	○29億円ものお金を使ってまで，京都市が四条通の歩道拡幅工事を行ったのは，なぜでしょうか。 ・四条通の１つ北の通りには，錦市場があり，南の通りには京都らしい町家が多く，観光客も多い。 ・自動車が通ると，観光客の人にも迷惑だし，京都のまちの良さが伝わらないと思う。 ・京都市はこれまでも，まちづくりに関する多くのきまりを作っている。 ・歩くことを中心にすることによって京都のまちの魅力を歩くまち京都憲章では，人が主役の魅力あるまちづくりをしようということが伝わってくる。 ・京都市のまちづくりは，行政だけでなく，わたしたち市民も協力していくことで進められていくと思った。	□四条通周辺の通りの様子から，四条通周辺の通りはせまいことや，錦市場など京都らしいまち並みが広がっていることをとらえることができるようにする。 □京都市のまちづくりの取組から，歩道拡幅工事以前から，京都市の行政がまちづくりに関する取組を進めていることに気づくことができるようにする。 【思考・判断・表現②】 四条通りの歩道拡幅工事行った目的をとらえたうえで，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考え，表現している。（発言・ノート）
	⑥京都市が進めているまちづくりの成果や課題について考える。	○京都市が進めているまちづくりは良い方向といえるのだろうか。 良さ ・歴史・京都らしさを守るためにはよい ・観光都市としての魅力があり栄える ・歩く人・子育てをする人にとって優しい ・便利とは言えないが，人を大切にするよさがある 課題 ・地域に住む人にとってはくらしにくく，税金の使い道としては課題がある ・他都市に比べ，発展に遅れが出てくる ・体が不自由な人にとっては，車も必要な時もある	□これまでに学習した京都市の取組や地域住民からの反対の事例から意見を述べられるようにする。 【知識・理解②】 京都市のまちづくりを進める地方公共団体の政治は，京都市民の生活の安定と向上を図るための大切な働きをしていることを理解している。（発言・ノート）
	京都市の行政は，京都市民の願いを取り入れながら，市民と一体となって，人が主役の魅力ある京都のまちづくりを進めている。そのようなまちづくりを進めていくことは，わたしたち京都市民の生活がよくなっていくことにもつながる。まちづくりには課題もあるがわたしたちも，京都市民の一員として，協力できることをすすんでやっていきたい。		

図 3-20 単元構想（6年生･社会科）

c 授業内容

本時は全６時間のうちの５時間目にあたる「まとめ」の時間であった。

事前に１億円かかった叡山電鉄岩倉駅の踏切工事を例に，誰がどのようにして行ったのかについて調べた上で，29 億円もの多額のお金をかけた四条通の歩道拡幅工事について，誰が何のために行ったのかを考える授業が実施されていた。

それを踏まえて，本時では京都市が進めてきた「四条通の歩道拡幅工事」によるまちづくりの成果や課題について考える授業が実施された。

Q 29億円ものお金を使ってまで，京都市の行政が四条通の歩道拡幅工事を行ったのは，なぜだろうか？【本時】

【本時までの学習を踏まえて・・・】

- 叡山電鉄岩倉駅前の踏切改良事業について，誰の願いで，誰がどのような形で進めていったのかを学び，多くの人が関わっていることを知った。
- 一つの事業を決めるのに，長い期間を要することを知った。

A. 児童の予想

- 多くの人やクルマが四条を通り危ないから。
- 人で混雑していると，観光客の京都に対するイメージが悪くなるから。
- 道路脇に路上駐車する人が多いので，もっとスムーズにクルマが通れるようにしたい。

配布資料の中に理由が隠れている

A. 意見発表

資料①花見小路通の写真
- 人とクルマの通るところが分かれておらず危ない。

資料②混雑したバス停の写真
- バス待ちの人で非常に混雑していて，観光客に悪いイメージを与える。
- 人で混雑しており後ろが通れないので，歩道を広くした。

資料③地下鉄の写真
- クルマを使う人が多いと渋滞が起きるので，ノーマイカーデーでクルマより電車を使うように促した。
- クルマが減るとバスがスムーズに動くし，ＣＯ２削減にも繋がる。

資料④観光客数の経年グラフの写真
- 観光客が減ったのはバス待ちもバスの車内も観光客で溢れているから。

花見小路通の写真・地下鉄の写真，京都市の観光客数のグラフ写真，バス停バス待ち混雑の写真の 4 枚が資料で配布され，その情報から 29 億円かけた理由を探すという授業だった。

実際に何が正解なのかを知るために，歩くまち京都推進室の担当者から説明を受けた。

【歩くまち京都推進室担当者からの回答】

・元々クルマ中心の生活が増えてきたため，地球の環境にも良くない。
・クルマではその場所を通り抜けるだけになってしまい，まちの賑わいがなくなってしまう。
・まちの賑わいの創出のために，四条通を通る人が増えて欲しいということ，スムーズな通行ができるようになってほしい。
・「歩く人」と「公共交通を使う人」を優先にしたまちづくりをするために，四条通の車道を狭くして歩道を広くする工事を実施した。
・今では「歩く人」と「公共交通を使う人」に多く来てもらい，まちの賑わいに繋がっている。

【本時における児童のまとめ】

・四条通が歩く人を中心に歩道を広くしたが，バスを待つ人も快適になった。
・京都市ではクルマより電車で動くようにして，29 億円で四条通の工事をした

【本時における児童の考えたこと】

・工事をしたことによって，スムーズになったので良かったと思ったが，どのくらいの期間がかかったのか，また反対はなかったのか気になった。
→じっくりと地域の方々の意見を聞く機会を作ったので，最終的には皆さんに賛成いただけた。

d 板書計画

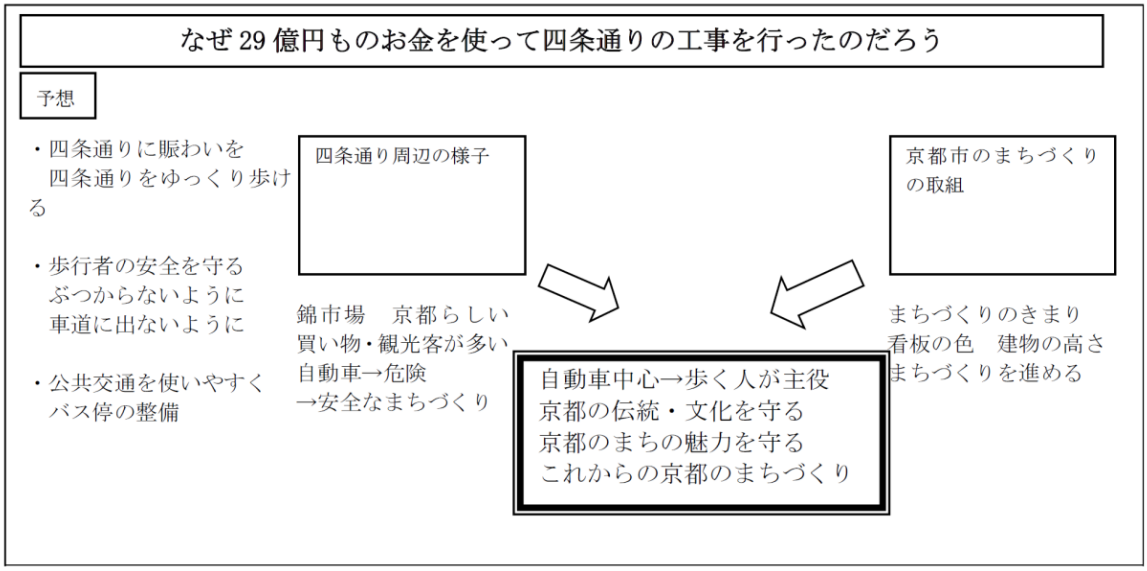


図　3-２１　板書計画（６年生･社会科）

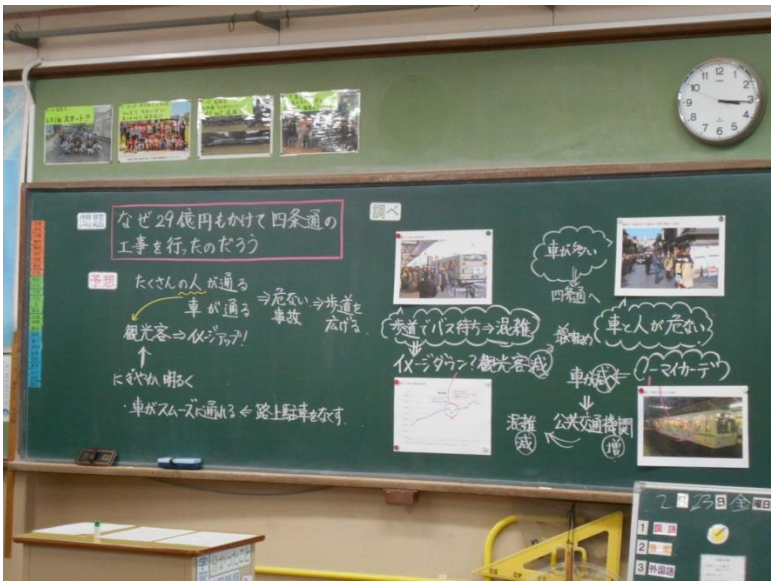


図　3-２２　当日の板書（６年生･社会科）

オ 京都市立醍醐西小学校

【研究テーマ】

「私たちの住みよい街，醍醐　～ふるさとの街を見直そう～」
・自分たちが住んでいる醍醐の町の良さを見つけよう（５年）。
・自分たちの住んでいる地域の歴史的価値を知り，地域に愛着をもつ（６年）。

【研究テーマの設定理由】

醍醐西小学校のある醍醐地域には，世界遺産の醍醐寺がある。またパセオ・ダイゴローやアルプラザ醍醐といった大型ショッピング施設，醍醐中央図書館といった公共施設，たくさんの住宅団地などがあり，様々な特色を持つ地域である。

また，校区の真ん中を南北に走る大きな幹線道路の外環状線や地下鉄東西線の醍醐駅，醍醐バス・タクシーターミナルがあり，利便性がとても良い地域とも言える。さらに，校区の西端には山科川が流れ，自然豊かな地域でもある。

そこで，３・４年生の社会科と総合的な学習の時間で，私たちの住む街に目を向け，校区の特性を生かした学習につなげていきたい。

④　３年生

ａ授業概要

・ 日時　　平成３０年２月２７日（火）
・ 学年　　３学年（３９名）
・ 教科　　総合学習
・ 単元名　自分たちが住んでいる醍醐の町の良さを見つけよう
・ 単元の目標
　醍醐地域にある交通に目を向け，安全にみんなが楽しめるようにするためには，どのようにすればよいかを考える。
・ 授業者　壽見和高　教諭





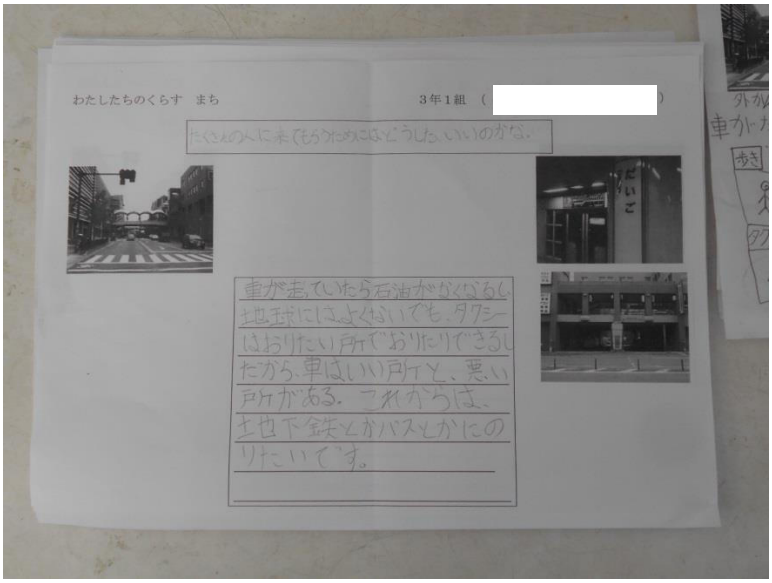


図　3-２３　授業風景（６年生･総合学習）

b 学習指導案

醍醐西小学校　３年生

社会科　学校のまわりの様子

校区やその近くにある身近な、お気に入りの場所に気がつく。

京都市のまちの様子

京都市を全体的にとらえ白地図にあらわす活動を通してまちのすがたを知る活動
大文字山に登り京都市の様子を見て知る活動
京都市内を歩き京都市中心部の名所や交通を体験的に知る活動

地域が受け継いできたもの

醍醐地域に伝わる祭りや京都市にある年中行事について
醍醐地域ある名所について

総合的な学習の時間

たくさんの人出が予想される地域行事において、車で参加するメリットもあるがデメリットもある。

車で来ることができないなら人が来なくてさみしくなるのかなぁ。

醍醐地域にある交通に目を向け安全にみんなが楽しめる様にするためにはどのようにすればよいか考える。

車を使うのは、便利だけどみんなが使うと車でいっぱいになってみんなが楽しくない。
醍醐にある駅やバスターミナルを使ってきてもらえばいい。

図　3-２４　学習指導案（３年生･総合学習）

c 授業内容

本時は総合学習の時間として，醍醐地域で行われる大きなイベントやお祭りには多くの人が集まった。

多くの人に醍醐へ来てもらうには，どうしたら良いか。またどういった交通手段で訪れることができるかを考えながら，それぞれの交通手段の良い点・悪い点を知り，その対応策を探るという授業であった。

たくさんの人に来てもらうためにはどうしたらいいのかな【本時】

・ 自分たちの暮らすまちは，どのようなところだろう。

→外環状線が走っており，クルマが多い。

※たくさんの人に来てもらうにはどうすれば良い？

→クルマを止める場所がない。

→多くのクルマが一斉に来ると，環境に悪い。

→でも絶対にダメだというわけではない。

・ では，醍醐に来てもらうには，クルマ以外にどのような交通手段があるだろう。

→地下鉄醍醐駅

→タクシー・バスターミナル

→コミュニティバス

→歩き

良いところを考え，意見を発表する

・ 地下鉄

→近い所ですぐ降りられる。

・ タクシー・バスターミナル，コミュニティバス

→降りたい所で降りられる。

・ 歩き

→邪魔にならない。

いくつかの交通手段が選べる中で，それぞれのメリット・デメリットを考え，自分良いと思うものを発表した。

多くの児童はやはり「地球にやさしくない」という理由で，クルマやタクシーは良くないと思っていると感じられた。

ただ近いところは「歩き」か「地下鉄」でと言った意見が多い中，児童の中には，いつもクルマで出かけているのでよく分からないといった意見も見られた。

この授業を通して，自分のまちにある公共交通を知る一つのきっかけになったと考える。

d 板書計画



図 3-２５ 当日の板書（３年生･総合学習）

カ 実践報告書及び決算報告書

「歩くまち・京都」学習実践校５校による今年度の実施報告書及び決算報告書を次頁以降に掲示する。

① 京都市立衣笠小学校

学校名	衣笠小学校
校長名	中原　美千恵

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施報告書

【実施教科】

総合的な学習の時間　・特別活動

【研究テーマ】

衣笠の魅力発見　伝えよう衣笠の「すてき」

「自ら課題解決に向かい，伝え合い学び合う子ども」の育成

【研究テーマの取組内容】

・子どもたちが主体的に地域の魅力を発見し，その魅力を大切に思い，人に伝えようとする姿を求めて総合的な学習の時間・生活科で取り組んできた。

・地域にはたくさんの魅力的な場所があり，観光客でにぎわっている。これらの文化遺産を生かした学習を系統的に行うように考え，カリキュラムの再構築を図ってきた。

・本校では学校教育目標『人を大切にし，自ら主体的に学ぶ子どもの育成』具現化のため，児童会活動でたてわり活動を大切にしている。たてわりグループで校内ゲームラリーやたてわり遊び等を継続して取り組んでいるが，その集大成として校区のウォークラリーをし，それぞれの学年で見つけた地域のよさを伝え合う。

第３学年「衣笠のめぐみ」

① 衣笠のピカイチさん

古くから伝わる伝統的な物に興味をもち，伝統工芸伝統産業で衣笠地域にその道の達人（ピカイチ）がおられることを知る。体験を通して，伝統的な物の魅力に気付き，ピカイチさんの技のすごさや思いの強さを知ることで，大切にしたいという思いをもつようにする。ピカイチさんから学んだことを友達と交流し，さまざまな伝える方法を知って工夫し，多くの人に伝えようとする。





② さくらさくら(フェスティバル)



衣笠の誇りってなんだろう。総合的な学習のゴールでの問いの一つの答えが平野神社のサクラであろう。年間を通して最もにぎやかなイベントは４月１０日に終わってしまう。サクラの魅力を知り，多くの人に伝えていく中で，自分たちの町にあるサクラの魅力を再発見させたい。また地域の人たちが手作りで作り上げている「桜花祭」のことを知り，ぼんぼりの絵に，調べてきた思いを伝えるようにして地域の祭りに参加できるようにする。



第４学年「衣笠のぬくもり」

① 環境プロジェクト



社会科のごみの問題から，エコチャレンジを経て二酸化炭素が地球温暖化につながるという環境問題について知る。子供たちが知識だけでなく，自分たちの生活の中で自分にできることを考えて環境問題に取り組み，また家庭や地域の人がどのような努力をしているかを調べて地域の一員としてよりよい環境を作っていきたいという思いをもたせる。「歩く町京都」の取組で，自動車に頼らない町づくりを目指していることを知り，自分たちの生活を見直そうとする意欲を高める。

第５学年「衣笠の町と防災」

① 衣笠の町と防災

私たちの住む日本は多くの自然災害が起こっており，自分たちに関係がないものではない。防災教育ではどのような災害が起こりうるのか，さらにそれに対してどのような対応をして行かなければならないのかを考え，それを実践することがねらいである。また一人一人が尊い命を守りきるためには家族だけでなく地域との協力が大切である。自分たちの住む衣笠が安心安全な町になるように活動しておられる様子を知り，自分たちにできることを考え，地域の人たちと共に安心安全な町を作っていこうとういう意欲と態度をもつことができるようにする。

② スチューデントシティ学習

第６学年「衣笠の誇り」

① 世界に誇る都市京都

京都の町は 1200 年以上の歴史があり，多くの観光客が訪れる。情報が発達して近年特に外国人観光客が増え，校区も連日多くの往来がある。

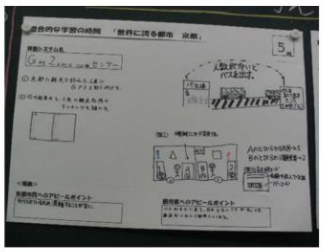


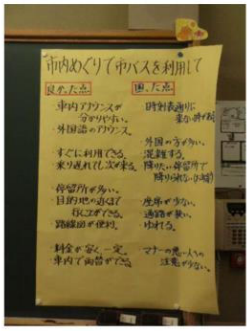
歴史学習を始めて，身近にある平安時代から室町時代・安土桃山時代の歴史的建造物・遺構，伝統文化・伝統産業を改めて見直すことで，子供たちは町の文化的価値を知ることになる。京都市内にある多くの文化財を観光客の目線で訪ねたり調べたりすることで，世界中から注目されている京都の歴史・文化の素晴らしさを実感できるようにしたい。



今年度は，愛知県にある「衣笠小学校」が修学旅行での交流会をしたいという申し出があり，京都の文化財について調べたことを発表する機会ができた。京都

また，今年度の学習では，公共交通機関の利用や歩いて町の魅力を訪ねることのよさを知ることで環境問題にも意識させようと考えた。市内ラリーで市バスによる観光を行ったことから，バスの観光のよさと問題点を話し合い，観光客と市民の両方が乗りやすくするためにどんなバスにしたらよいかを話し合い，提案することにした。





② 未来に輝く衣笠の誇り

地域を素材にした総合的な学習の時間を積み重ねてきた６年生は，卒業を前に衣笠の地域のことを見つめ直し，未来につなげていきたい衣笠の誇りとは何なのだろうと考える。衣笠のよさをまだまだ知らない人たちに伝えていく。そしてさらに未来に向けてより誇れる町にしていくために自分たちの役割を考え，できることを実行していく。





全校たてわり活動「校区ラリー」

各学年が学んできた衣笠の魅力や秘密を伝え合う活動。たてわりグループで訪ねたいポイントを決め，歩いて訪ねる。そのポイントでは，総合的な学習の時間や生活科で学んだことを該当学年が紹介し，グループ写真を撮ってもらう。それは６年生を送る会の贈り物にする。今年度は校区の東半分から３カ所を選んでポイントを回った。





◎成果と今後の課題

３年から６年までのカリキュラムを「地域」を軸にして計画し，内容の精選を行った。これまで毎年行ってきたイベント的な行事を整理して探究的な学習に組み入れるようにした。

総合的な学習の時間だけでなく，社会科や理科との関連でカリキュラムを見直し，平野神社をフィールドにして自然観察を行ったり，地域に伝わるものとして祭礼を取り上げたりする工夫をした。サクラは新年度の初めに満開を迎え，桜花祭も４月１０日に終わってしまうため，これまで教材として取り扱いにくいと敬遠してきた。しかし，１年間を通して総合的な学習の時間で関わることで，地域を題材にしてより主体的な学習となることが分かった。地域人材を発掘することを学校だけでなく，学校運営協議会の方でも力を入れてくださっている。子供たちにとってよりよい環境の学習ができるようになっている。

しかし，総合的な学習の時間については，指導計画作成ありきで「活動内容」が先行してしまったため，次々と活動に追われて忙しく学習をしていたという課題が残る。どんな力をつけるための活動なのかをもう一度よく考え，じっくり取り組む時間配分を見直す必要がある。探究していく学びのスパイラルが可能となるようなカリキュラムの充実を図っていきたい。

『歩く町京都』の取組としては，当初計画をしていた４年生の「ゾーン３０」や自転車の運行についての学習を進めることができなかった。エコチャレンジ学習から環境問題について調べ学習を始めて時間の余裕ができなかったからである。行事である「自転車安全教室」との関連でカリキュラムの見直しをしていきたい。

歩く町京都の交流会では，地域の街づくり推進会議との連携を図っている他校の取組を，本校の地域の方が参観され，衣笠学区でも進めていきたいという声をいただいた。今後の課題として提案したいと思っている。

学校名	衣笠小学校
校長名	中原　美千恵

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　決算報告書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
「衣笠のピカイチさん」体験	扇子材料一式	５００	５０	２５，０００
グループでの話し合い・発表	マナボード			４８，０００
各学年発表会	インクマスター			５９，５８０
同上	コピー用紙			９，５０５
同上	ポスターカラー12色	６，００４	２	１２，００８
「さくらフェスティバル」材料	チャック袋等			４，３１４
各学年発表	ﾎﾟｽﾀｰﾌﾟﾘﾝﾀｰ感熱紙			１２，９６０
同上	クラフト封筒			３，２７３
同上	模造紙			１０，１５２
同上	ラミネートフィルム			６，２８８
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				１９１，０８０

② 京都市立高倉小学校

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田蘭子

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施報告書

【実施教科】

総合的な学習「たかくら学習」・特別活動（安全教育）

【研究テーマ】

豊かに学び、表現し、高め合う子をめざして
～共にめざす　住みやすいまちにするために～

【研究テーマの取組内容】

６年　安心して歩ける街にするために　　**公開授業　平成２９年１２月５日**

【学習のめあて】

６年間、高倉小学校で過ごした５年間、そして６年生からは京都御池中学校校舎に通ったことから、校区内の登下校路については、最高学年として、自らの体験を通して、安心して歩ける街にするためにどのようにすればよいかを考えることができる。昨年度の成果を生かし、今年度は自転車のマナーに焦点をしぼり、安心な街づくりをめざす主体者となって、自分が住まう学区を中心とする校区内の安心なまちづくりについて、地域の人とともにワークショップを通じて考える。

【取組の内容】

はじめに中京区交通問題プロジェクトミーティングの座長でもある京都大学山田忠史先生から、「みんなが安心して歩いて楽しい街にするためにどうすればよいだろう」をテーマにした講義を聞き、グループワークで「自転車マナーこまっていること」「こわい思いをしたこと」「どうすれば解決できるか」「どのようにして人に伝えていけばよいか」を話しあうこととした。グループには、ファシリテータとして中京区役所・ＰＴＡ・地域代表に入っていただき、共に意見を交換しながら、皆で交流をしていくこととした。出た意見を大きな安全マップに落としこんで、解決策をさぐっていった。各グループで話し合った内容を全体でもう一度交流し、発表をした。最後に山田先生から講評をいただき、自分たちで振り返りを行った。

【学習の成果・課題と展望】

今回の学習を通して、子どもたちは改めて、自分たちの住まう地域の交通事情や安全安心に歩ける街にするための課題、とりわけ自転車の利用が多い町の中での自転車マナーについての課題をを見出すことができた。いろいろな世代を通して、課題や思いが違うことに気づいたり、みんなで安心して歩ける街にするためには家族や身近な人から気づいてもらえるように自分たちこそ主体的に人にはたらきかけていくが大切であることに気づいた。下の学年の子どもたちにも伝えたいことや、一般の人たちに知ってほしいことを考えたり、また地域をあげてどんな思いでいろいろな人が取り組んでいることがよくわかった。大人の人と一緒に真剣に街づくりについて話し合った経験そのものが大変楽しく、有意義な機会であったと子どもたちは感想で振り返っていた。町づくりの主体者としての意識が育つ好機になったといえる。

５年　もしもの目線で街歩きをしよう

【学習のめあて】

５年生では「防災」をテーマに自分たちの町を安心安全にするためにできることを考える。

実際に自分たちの住む学区を中心に、フィールドワークを行い、防災の視点から安心安全なまちづくりをするために、その活動をもとに昨年度のマップづくりに情報を加えていく。

【取組の内容】

学習の導入段階で防災士の資格をもつ方から、なぜ防災の知識や備えが必要なのか、また地域ぐるみ街ぐるみで、自らの命を守るためにどのような行動をとることが必要なのかを教えていただいた。自分たちで本や資料やインターネットで、防災についての基本的な知識を学び、もっと知りたいことや調べたい課題を見い出すことになった。そして、一回目は自分たちが実際に住まう学区を自主防災会の方々にお世話になって、実際にフィールドワークをしながら、街歩きをすることになった。普段、何げなく見過ごしている窓やドアにマークがついていたり、消化栓があったり、避難場所の表示を見つけたりしていた。２回目はさらに、主体的に自分たちで計画したフィールドワークを行い、学区の地図に落とし込む作業に入った。

【学習の成果と課題・今後の展望】

この学習を通して、普段歩きながら何気なく見過ごしていることも多いことに気づいた。普段の登下校路や移動のときも、防災の視点をもって町を歩くということは大切なことだと感じた。また、地域の自主防災の方のガイドで始まったフィールドワークでは、聞き手に回る側であったが、自分たちで課題意識を持った２回目のフィールドワークでは主体的に防災に関するものを見つける目を持つことができた。今年度、学区ごとの地図に落とし込んだ情報は、学校運営協議会スマイルの防災部会の大人が情報を整理し、地域にも配布できる防災街歩きのマップに仕上がっていっている。

４年　人にやさしい街にするために

【学習のめあて】

４年生は総合の学習の時間に「やさしい高倉の街」をテーマに探究活動を行う。障害のある人やお年寄りはどんなことにこまっているのか、どんな町にしてほしいと思っているのかについて、知り、みんなが住みよい安心して歩ける街にするために、どのような工夫や気を付けることがあるのかについて考える。

【取組の内容】

子どもたちは、まず、体験的な活動を通して高齢者の困りや障害者の困りを知り、そのためにある施設の工夫や配慮を発見し、工夫していることや考えをインタビューしたりする活動につなげていった。７学区に分かれて各学区のお年寄りとの交流により、どんなところで困っているか、いつどんな道を通って散歩をしているかなどを質問したりした。すると、ちょっとした段差や自転車の駐輪が身の危険につながると感じていることや、途中に休憩する腰掛などがほしいと思っていることなどが分かった。またマイナスなイメージだけでなく、散歩しながら楽しみを見つけ、人と出会うことが楽しいので、なるべく人気がない道ではなく、誰かに出会うかもしれない道を選んで歩いているということもわかった。すべての人にとって、歩いて楽しい町にするための手がかりがあるのではと考えた。今年度は、各クラスでバリアフリーマップを作ってみた。これらの学習をまとめて、ポスター発表会を行った。

【学習の成果と課題・今後の展望】

この学習を通して、普段は、自分たちや自分の身近な家族のことしか思いうかべずにいた子どもたちが、いろいろな立場の人がみんなが使いやすく安心できる環境にしていくことに気づくことができた。インタビューや体験を通して、道を歩くときも怖いと感じたり、不安に思うことが身を持ってよく理解できたのではないかと思う。みんなが歩いて楽しい町にするための工夫は、あ

ちこちにヒントがある。単にハード面を整備すればよいというだけでなく、誰かに会って話がしたいというお年寄りの気持ちも大切にし、単に移動の手段として道や町が整備されるのではなく、一人一人の楽しみを見い出し、人と人のコミュニケーションのためにも、道や町はあるのだということがとてもよくわかった。今の自分にできることとして、家族や身近な人に学習したことを伝えていくことが大事であるという発言からも、この学習を通して、自分と社会との接点をみつける大事な経験をしたことが実感できたのではないかと思う。来年度は、このようなマップを通して、またお年寄りに働きかけ、モニタリングやインタビューをして改善していきたいと考えている。

３年　みんなが楽しい街にするために

【学習のめあて】

３年生では総合の時間「高倉の名人・達人に学ぶ」を通して、自分たちの高倉校区には、伝統文化や多様な分野の仕事の達人がいることを調べて知り、誇りをもって学ぶことをめあてとしている。

【取組の内容】

実際に町の３人の達人の授業を受け、実演や講話から、名人のすごさに触れる。今年は、呉服の染色補正の達人・考古学の発掘名人・洋服の仕立て名人の話を聞かせてもらった。ここから動機づけられ、校区にはどんな名人がいるのか、リストから選んでインタビューにでかける活動が始まった。実際に店にあるものを見せてもらったり、実演してもらったり、工夫や苦労について語っていただき、ひとりずつ、まとめてポスター発表を行った。名人からもらったインタビューの内容からの情報を歩いて暮らせるまちづくり推進会議「あるくら」（京都市まち再生創造推進室連携）と連携して、タウンマップにしてもらうことになった。名人を探す活動から、名人を紹介する活動へ広がっていった。

【学習の成果と課題】

実際に一番時間をかけたのは、名人へのインタビュー活動とそれをまとめる時間であった。すしかし、実際に自分で見つけた名人に自分で足を運んで会いにいくということが最も重要なことであったと思う。登下校とはちがう自分の校区を目的意識を持って「歩く」という活動をしたことから、校区のどこにどのような人がいるのかという意識が地図とセットとなり、街歩きを楽しむひとつのモデルとなったのではないかと思う。調べることから、発信することへ。今度は、出来上がったマップをもとに、自分の校区の名人を紹介したり、もっと街歩きで楽しいと思うポイントをさがしてみるというフィールドワークの視点が生まれたのではないかと思う。次年度は、このような情報をもとに、街歩きガイドを計画したりして写真や映像も交えて発表できるとよいのではないかと思う。

※活動の写真についてはリーフレットを参照。

学校名	高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　決算報告書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
資料作成用	印刷機インク	3,132	18	56,376
資料作成用	印刷機マスター	6,804	12	81,648
資料作成用	コピー用紙 B5	2,778	2	5,556
資料作成用	ボールペン（3 本入）	175	1	175
学習用	ボールペン（10 本入）	492	5	2,460
学習用	タックカラーラベル	5	142	710
学習用	タックラベル	2	133	266
学習用	おりがみ	191	19	3,629
学習用	ふせん	1	1242	1,242
学習用	スティックのり	10	1377	13,770
学習用	画用紙（8 ツ切）	680	5	3,400
学習用	画用紙（4 ツ切）	1,398	7	9,786
学習用	チョーク	491	2	982
講師謝礼	山田忠史（京都大学）	5,000	4	20,000
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

③　京都市立小栗栖宮山小学校

学校名	小栗栖宮山小学校
校長名	畠田　靖久

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施報告書

【実施教科】
５年　総合的な学習
６年　総合的な学習

【研究テーマ】

「醍醐の　いいところ　みーつけた！」

・自分たちが住んでいる醍醐の町の良さを見つけよう（５年）。

・自分たちの住んでいる地域の歴史的価値を知り，地域に愛着をもつ（６年）。

【研究テーマの取組内容】

【５年】



５年生は，総合的な学習の時間で，自分たちの住むまち「醍醐」のいいところを見つけ，ガイドブックにまとめる学習に取組んだ。まず，醍醐のまちめぐりをする前に，６年生にお勧めの場所を教えてもらった。その場所へ行くにはどのような方法で行くことができるのかや，その場所で見たいところや知りたいことを児童が話合い，計画を立てた。見たいところや知りたいことを事前に一人一人がもつことで，実際にいろいろな場所へ行ったときに児童は，思いをもってその場所をとらえ，感激している様子だった。

まちめぐりをしたことをもとに作る「ガイドブック」には，自分が感じたことや見たことをもとにして学校の友達にいろいろな良い所を紹介する活動をした。どのように表すと伝わりやすいのか友だちと意見を出し合いながら，自分たちのガイドブックを完成させた。

それぞれの場所にまつわるお話やそれを守る人々の思いに触れることで子ども達は，自分たちの住む町を大切に，誇りに思うようになってきた。ご住職さんや奥様が，子ども達がお寺に来ることを楽しみに待っていてくださり，丁寧に対応してくださったことで地域の人々に自分たちが大事にしていただいていることにも気づくことができた。

また，自分の足で歩き感じたことや見たことを，家族や下級生にも知らせたいという思いが子どもたちの中に芽生えてきた。



これらの町めぐりをするときには，地下鉄や，地域を走る醍醐コミュニティバスを利用し，その良さや問題点に気づくことができた。地域の方の思いと努力で運営されているコミュニティバスについて「高齢者や子どもたちに優しく，つりかわが低い。」「バスは小さめで，細かな道も走ることができ，利用者も多く，地域の足となっている。」「バス停がたくさんある。」「運転手さんが優しい。」「本数が少な

く，使いたい時にすぐにバスが来ない。」「バスが小さいので，たくさんの人が乗ることはできない。」など，たくさんの思いをもつことにつながった。今後は地域をさらに良いものにしていくための自分たちの関わりを考えていけるような学習に繋げていきたい。



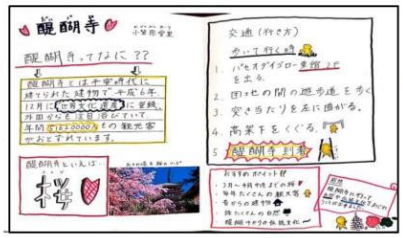
公共交通機関を使って，自分たちの足で歩くことで今まで気づかなかったさまざまな素晴らしい場所や人々との出会いを多く経験してほしいと考える。

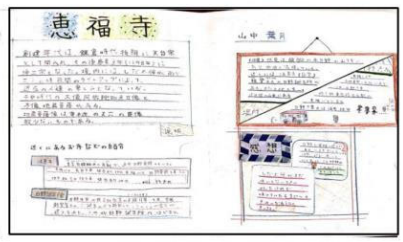
醍醐コミュニティバスはじめとする公共交通手段を総合学習の中で利用することで，普段の生活の中でもこれらを使用するきっかけになるのではないかと考える。

【６年】

６年生は，５年生の時に６年生と一緒に醍醐の町めぐりをして地域の良さやそこに暮らす人々の思いに気付くことができた。その時の経験をもとに，自分たちで醍醐の名所をまとめる取組をした。京都ジュニア検定のように醍醐検定を作り，自分たちの町をさらに良く知ってもらえるように取り組んだ。醍醐の名所をまとめ，それぞれがパンフレットにまとめた後，問題作りにも取り組んだ。

５年生をはじめ，下級生にその自分たちの調べたことを発信し，クイズ形式になった「醍醐ジュニア検定」実施した。下級生の子ども達は，自分たちの町に歴史のある場所が多くあることを知り，自分たちが５年，６年になった時にまた，自分たちの足で歩いてみたいという思いをもつことができた。





さらに６年生は，醍醐の町から京都市全体の良さを見つけることに活動を広げていった。京都市内めぐりに向けて，インターネットやパンフレットなどで自分たちの行きたい場所を調べ，実際に自分たちで公共交通機関を使って行く計画を立てた。何を見たいのか，何のためにそこに行くのか，何を聞いてくるのかなど，その場所を訪れる目的を十分に子どもたちが考えられるよう学習を進めていった。

子ども達は，グループに分かれ，学校から自分たちの行きたい場所までをバスや地下鉄等を使って廻った。今まで，目的地に行くのに車を使うことが多かったが自分たちで路線を調べ，実際に使ってみることで，京都市内中にたくさんの路線がめぐらされていること，観光客や地元の人々に大切な足になっていることなどに気付くことができた。また，自分たちが行先に迷ったり，困ったりしたときにはとても優しく対応していただき，京都の町の温かさにも大いに気づくことができた。一日京都の町を巡って帰ってきた子ども達はとても満足げな顔で学校に帰ってきた。



【研究成果】



- 醍醐の町，京都市の良さを子ども達が実際に訪れることで実感として感じることができた。
- 前もって，調べ学習等に取り組むことで，それぞれの思いをもって現地を訪れることができ，積極的に町の人や文化財を守っている人々と関わり合うことができた。
- 自分たちの調べたことや，現地に行って見聞きしたことを，自分たちの言葉でまとめたり，発表したりすることで，より地域に対しての愛着心が子どもたちの中に生まれた。
- 「歩くまち」の実践発表会に児童全員で参加することで，自分たちの考えたことを多くの方に知っていただく機会を得られたことは，子どもたちにとって大きな自信となった。
- ５年生で醍醐の町めぐり，６年生で市内めぐりと範囲を広げることで，自分たちの町の良さを改めて見直すきっかけとなった。その中で，実際に歩いて現地を訪れることで感じられるものがあることを知ることができた。
- ５年生での学習の仕方が６年生での学習の仕方の足掛かりとなり，自分たちで見通しをもって学習をすることにつながった。

【研究課題と今後の展望】

- 自分たちのまとめたものの発表が，校内だけにとどまっている。地域の方や，訪れた場所でお世話になった方々へのお礼も兼ねて対象を広げて自分たちの研究成果を発表できるようにしていきたい。
- 自分たちの思いを深めたり，地域の良さを発見することはできたが，地域の中にある課題に対して，自分たちが社会参画して課題を解決するところまでには子どもたちの意識を高めることはできていない。今後何らかの形で，自分たちでさらに良い町づくりをしていくための担い手としての意識を育てられる取組にしていけたらと考えている。
- 今回，歩くまち実践校に選んでいただいたことで，町めぐりの費用を捻出することができた。経済的に厳しい状況の家庭が多い中，今後も同じ活動，さらに発展した活動を続けていくためには，計画の見直しをしていく必要がある。



- 前年度からの学校としての取り組みであるため，地域めぐり等学習の進め方が確立していない部分がある。小栗栖宮山小学校の総合学習のテーマとして位置付け，毎年，５年生６年生で取り組んでいけるよう系統化していきたい。

【終わりに】

５年生，６年生の取組であったため，学校全体に広げるまでには至らなかった。今後何らかの形で校内研修の中にこれらの取り組みの成果と課題について教職員全体で話し合う機会を設け，より良い取り組みとなるようにしていけたらと考えている。

自分たちが調べ，実際に歩いて，見て感じたものを自分の地域への思いを乗せて様々な場所で発表することで，醍醐地域への思いを深めていってくれればと願っている。これらの活動を通して，自分たちの住む地域に誇りと愛着を感じ，地域を大切にし，さらに自分たちの手で地域を発展させていきたいと考える子どもを育てていきたい。

学校名	小栗栖宮山小学校
校長名	畠田　靖久

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　決算報告書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
児童用資料等印刷	インク，マスター等	92,523		92,523
5年生醍醐の町めぐり	地下鉄代	3,840		3,840
5年生醍醐の町めぐり	醍醐バスカード	12,000		12,000
6年市内めぐり	各場所拝観料	14,300		14,300
6年市内めぐり	各場所駐車料金	2,400		2,400
歩くまち実践発表会参加	地下鉄カード代	17,100		17,100
まとめ学習	各種文房具等	57,837		57,837
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

④　京都市立岩倉北小学校

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	三浦　清孝

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施報告書

【実施教科】

社会科

【研究テーマ】

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を系統的に配置し，実践する。

【研究テーマの取組内容】

１　研究テーマの設定理由

本校では，「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」を研究主題に，国語科・社会科を通して校内研究を８年間進めてきており，教師の授業力や児童の思考・判断・表現力の充実を図ってきている。今年度の校内研究では，これまでの取組を積み重ねていくと共に，社会の中で活用することができる論理的思考力やそれらを表現する力の育成を，国語科・社会科のみならず，教育活動全体で意図的に取り組むことにより，刻々と変化する社会情勢にも通用する力を学校全体で育むことを意図してきた。

また，「歩くまち・京都」の実践では，「公共の精神」を学校教育の中で育んでいくために，社会科や総合的な学習の時間において３年生から６年生までの発達段階に応じた様々な角度から「京都のまち」の姿を深くとらえ，自分たちが暮らす「まち」に愛着をもつことで，これからの「まち」をつくっていく主体者として，より良い京都のまちづくりへの持論を論じることができるような児童の姿を目指し，取組をスタートさせた。今年度は「１年次」として，３年生から６年生までの各学年１本ずつの単元を設定し，実践を行った。校内研究授業を設定することで，校内での「歩くまち・京都」学習の実践についての共通理解も進めることができた。

本校では，研究実践の成果を３年生から６年生までの４年間を１つのスパンとして捉えており，来年度を４年間のうちの「２年次」として位置付ける。「２年次」は，実践内容の充実・発展はもちろんのこと，系統的なカリキュラムの開発を図る。社会科の内容を洗い出し，実践可能な単元においてどのような理解や認識を育むことができるのかを熟考するとともに，学年の発達に応じた学習内容の配置を行う。

2 研究計画

年月		取組
H29	6月	第1回学校MM検討会
	8月	校内での共通理解
		教材研究・実践・実践記録の作成
	10月	第2回学校MM検討会
H30	1月	公開授業指導案検討5年（1/9） 6年（1/12） 3年（1/15）
	2月	第3回学校MM検討会
	2月23日	「歩くまち・京都」学習 公開授業（3・5・6年）
	3月4日	実践校実践発表会
	3月末	まとめ・成果物の提出

3 各学年の取組

学年	教科	単元名と指導内容
3年	社会	**単元 地いきや生活のうつりかわり「昔を伝えるもの」** 【単元の指導内容】 地域の人々の生活の移り変わりを調べていく学習の中で，岩倉地域がどのように変わり，なぜ変わったのかということを学習問題として設定し学習を進めた。現在の地図と昔の地図とを比較しながら調べ，岩倉地域の変化に気付くと共に，その変化の要因の一つとして，地下鉄の駅が岩倉地域にでき，交通網が発達したことにあることを考える。
5年	社会	**単元 わたしたちの生活と環境「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」** 【単元の指導内容】 高度経済成長期に日本各地で起こった公害や環境汚染を，どのようにして改善していったのかということを調べる。その学習をしたあとで，今京都で話題になっている観光公害の問題の本質について調べ，解決策を考える。その解決策を考えていく中で，観光客と行政と市民とが連携した，公共交通のあり方や観光のあり方について考える。
6年	社会	**単元 わたしたちの生活と政治「わたしたちの願いを実現する政治」** 【単元の指導内容】 四条通の歩道拡張工事を教材化する。四条通の拡張工事に多くの予算が費やされている事実から，どのようにして工事が決まり，その工事が何のために行われたのかという問題意識をもとに，京都市の政治の働きを調べ，その中で，京都市の行政が市民と一体となって目指そうとしている，公共交通優先の歩いて楽しいまちづくりにせまっていく。そのような学習を進めていきながら，子ども達が京都のまちづくりと自分とのかかわりを，市民の一員として考えていくことができるようにする。

4　授業実践の様子

3年社会科　地いきや生活のうつりかわり「昔を伝えるもの」

本時の目標　グラフや年表をもとに岩倉の様子の変化について考え，表現する。




5年社会科　わたしたちの生活と環境　「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」

本時の目標　観光業の発展と，京都市民の生活環境とを結びつけながら，観光公害の問題について調べ，人々の生活への影響を理解する。




6年社会科　わたしたちの生活と政治「わたしたちの願いを実現する政治」

本時の目標　四条通の歩道拡幅工事行った目的を話し合い，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考える。




5　成果と課題

【成果】

○前年度同様，京都市の町の様子をとらえるという視点において，学年に応じた教材開発を行えば，社会科の学習として，全市でスタンダードをつくり，取り組むことができる。

○新学習指導要領で取り入れられる，新単元の教材として，また選択・判断する力をつける学習内容として，有効である。

○京都のまちの歴史や文化などに学習を広げていくことで，環境面だけでなく，京都のまちづくりを進めるためにという視点を取り入れることができ，モビリティマネジメントについての考え方が深まる。

○自分達が暮らしている京都のまちに対する愛情を，段階的に育み，公民的資質の基礎を養うことにつながる。

【課題】

○低学年の生活科の学習とのつながりを考えていく必要がある。

○総合的な学習の時間での取組の中で，地域から京都のまちに広げていく学習を充実していくこと。

○教科書などには学習内容として挙がってきていないものであるので，教員によって意識に差が生まれていた。

6　今後の取組

①京都のまちの様子を理解し，京都のまちに愛情をもつことができる社会科における教材開発の更なる充実。

②地域(岩倉地域)学習と京都市のまちづくりとの連動性を高める総合的な学習の時間の単元作成。

③京都市全体で一般化していくことができるように指導計画，単元計画，学習資料などを整理する。

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	三浦　清孝

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　決算報告書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
資料・指導案の印刷	ＲＩＳＯインク	3132	8	25056
資料・指導案の印刷	ＲＩＳＯマスター	6425	8	51400
資料の印刷	ＧＸカートリッジ	3456	4	13824
資料の印刷	ＧＸカートリッジ	3024	12	36288
資料の印刷	拡大機用感熱紙	4500	5	22500
資料の印刷	消費税	1	1800	1800
資料の印刷	コピー用紙Ａ４	8	2747	21976
資料の印刷	コピー用紙Ｂ４	8	2436	19488
資料の印刷	消費税	1	3317	3317
教材提示用磁石	マグネットロール	1	4351	4351
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200000

⑤　京都市立醍醐西小学校

学校名	京都市立醍醐西小学校
校長名	森川　浩孝

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施報告書

【実施教科】
社会科，総合的な学習

【研究テーマ】

私たちの住みよい街，醍醐　～ふるさとの街を見直そう～

【研究テーマの取組内容】

【４年生】

１．地域に目を向ける

まず，子どもたちが生活する醍醐地区の魅力はどのようなものがあるのかについて話し合った。子どもたちからは，「世界遺産の醍醐寺がある。」「近くに川が流れている。」などの意見が出てきた。しかし，子どもたちはそれ以外の醍醐地区の魅力をあまり知らないことが分かった。

また，醍醐地区が「みんなにとって暮らしやすく優しいまち」なのかについても話し合った。「地下鉄があって便利。」「校区にアルプラザがあり，買い物が便利。」など，日頃利用している施設などについての意見が多くみられた。その一方で「団地にエレベーターがなく，お年寄りにとっては不便なこともある。」「近くで交通事故があったから，本当に安全なのか。」などの問題点も出てきた。

そこで，再度「醍醐のまちの魅力」に迫るとともに，「みんなにとって暮らしやすく優しいまち」とはどのようなものなのかについて学習していくことにした。

２．学校内を調べる

「みんなにとって暮らしやすく優しいまち」について考える前に，地域にはどのような人が暮らしているのかを考えた。幼児から高齢者，そして障害のある人な様々な人は暮らしていることを確認した。そした改めて「みんなにとって暮らしやすくやさしいまち」とはどのようなまちのことなのかについて調べていくことにした。

地域に目を向ける前に，まずは身近な学校がすべての人にとって暮らしやすい場所なのかについて学校探検をしながら調べることにした。「すべての人」という視点をもって巡る中で，日頃何気なく使っていた「スロープ」や「案内板」「点字ブロック」が，障害のある人やお年寄りなどにとって便利であるとともに，自分たちにとっても便利な施設であることに気づくこととなった。

３．校区内を調べる

学校探検をした児童から，まちの中にも「スロープ」や「点字ブロック」などの便利なものを見たことがあるという声があがり，実際に校区探検をする中でどのような工夫があるのかについ

て調べることにした。また，社会科「事故や事件をふせぐ」という単元とつなげ，まちの中の様々な工夫について考えることにした。



校区探検を通して，「便利の施設」や「音の鳴る信号」などが多くあるとともに，「信号がなく危険な場所」や「明かりが少ない場所」など自分たちの暮らすまちの改善点についても気づくきっかけとなった。そこで，校区探検をもとに集めた情報をまとめ，醍醐のまちをさらによくするためには，どこを改善していくことがよいのかについて話し合った。

4．疑似体験を通して



まちの中の工夫や改善点を話し合う中で，「本当にまちで暮らす人たちも同じように思っているのか。」という疑問が生まれた。そこで，様々な不自由さをもつ人の暮らしなどについて調べることにした。「アイマスク体験」や「高齢者疑似体験」などを通して，自分たちが思っていた以上に生活の中での不自由さがあることを実感することとなった。また，京都ライトハウスや地域の女性会の方々の直接話しを聞く機会を設定した。実際にお話を聞く中で，「障害があってもいきいきと楽しく生活していること」「様々な人の助け」などが大切であるということについて子どもたちは知ることとなった。



5．ユニバーサルデザインについて

実際にお話を聞くことを通して，「優しいまち」にしていくために必要なことについてさらに子どもたちは関心をもち調べていくこととなった。そこで「ユニバーサルデザイン」と出会った。「すべての人にとって」「便利」「使いやすい」という視点が「暮らしやすいまち」をつくりあげるために重要であることに気づくとともに，「音の鳴る信号」や「案内板」などが全ての人にとって便利なものであるということを学んだ。



しかし，「ユニバーサルデザイン」のものやまちをつくることが完成ではないという意見もでてきた。「ユニバーサルデザイン」と「バリアフリー」とを比べていく中で，どちらの考えも大切なのではないかという話し合いになった。子どもたちは話し合いを通して，「全ての人」という視点をもちながら，常に「考え」「つくり変えていく」ことが大切だと考えるようになった。

6．醍醐のまちの歴史



今の醍醐のまちが完成ではないという視点をもつことによって，これまでに「暮らしやすいまち」にするために常に良い方向へとつくり変えられてきたことに目を向けることとなった。また，社会科「郷土をひらく」の単元を学ぶことで京都のまちの発展のためにつくした人がいるということを知るとともに，醍醐のまちの発展につくした人がいるのだろうという考えが生まれた。そして，調べていく中で，「醍醐コミュニティーバス」に至った。地下鉄東西

線ができたことによって，京都市内への利便性が向上した。しかしそうした発展の背景で醍醐地区内を走るバスの運行が減少するという問題点が発生した。小高い丘の上に建つ団地などに住む人にとっての不便さが生まれた。そこで地域住民などが立ち上がり，「醍醐コミュニティーバス」が誕生するに至ったということを子どもたちは知った。

「醍醐コミュニティーバス」が誕生することによって，地域住民の生活の利便性が向上した。しかし，問題点はないのだろうかと子どもたちは疑問をもち，地域住民に実際に話を聞くこととした。地域の方は「病院など出かける時には便利さ」を感じていた。しかし「本数が少ないこと」「住んでいる地域によっては近くに停留所がない」という改善点について知ることが出来た。

７．魅力ある醍醐のまちに迫る

醍醐のまちをよりよくするために必要なことについて話し合い，さらに魅力を見つけようという意見が出てきた。そこで，子どもたちは醍醐地区の名所などを調べ始めた。「一言寺」「随心院」など今まで近くにあって知らなかった醍醐のまちの魅力について子どもたちは気づくこととなった。そうした歴史の魅力と自然の魅力をまとめるとともに，まち全体としての「改善点」などについても改めてまとめていった。

８．魅力を発信する

社会科「わたしたちの京都府」の単元を通して，地域を愛し伝統を守りながら，外部に対して魅力を発信している人たちの存在。「海の京都」や「森の京都」「お茶の京都」などのキャッチフレーズがあるように醍醐のまちにも何かキャッチフレーズをつけ，魅力を発信することができないかについて今子どもたちは考えている。同じ地域に住む人々に改めて魅力を感じてもらうとともに，京都以外に住む人にも魅力を感じてもらえるようなまちのあり方についても話し合いを深めた。

また，子どもたちは，「エコライフチャレンジ」の学習を通して，魅力の一つである自然を守るために「バス」や「電車」などの公共交通機関を利用していくことも発信していくことが大切であると考えを深めている。

今後，学習したことを学校内だけではなく積極的に地域へと発信していくことが必要だと考える。

【３年生】

第３学年では、地域のお祭りにたくさん人が来てもらうためにどうすればよいか考えた。平成３０年２月２７日（火）に京都市立醍醐西小学校の３年１組の教室において公開授業を行った。

発表当日の授業を行うまでに子ども達は、まず学校の前を通る外環状線の事や、車を使う事のメリットやデメリットについて学習しました。子ども達は、外環状線は周りにある他の道路と比べて道幅も広く，交通量も多いことに気がつくことができました。また，外環状線を使うことで，市内北部や大阪などへの移動も便利だということに気がついた。

しかし，いつでも使えて便利な車ですが，「たくさんの車からでる排気ガスが地球環境に影響を及ぼすのではないか。」という声も上がった。

そこで車を使うことのデメリットを考えたうえ，子どもたちから意見が出た，環境に優しいと思われる地域にある公共の交通機関についても学習を進めることにした。

子どもたちの最も身近にある公共交通機関は「地下鉄」。これまでに遠足や家から出かける際に利用する機会が多く，そうした実体験から「遠くまで移動することができる」「安い」などの声が子

ども達から上がっていた。
また，校区内にある醍醐バスターミナルを子どもたちに紹介しましたが，これまでに利用したことがあるという子ども達は少なく，全くバスを利用したことがないという子ども達もいた。そこで，そうした実態をふまえ，３年生の工場見学では、公共の交通機関を乗り継いで目的地まで行くことで，地下鉄以外の公共交通機関にも着目することができるようにした。目的地となる工場へは徒歩でいくには時間がかかりすぎるが，バスを乗り継ぐことで早く行動することができた。そうした実体験を通して，バスは電車以上に「安く」「様々な場所へ」人を運ぶことが出来ることに気付くことができた。そうした中で，子どもたちは地下鉄以外の公共交通機関の利便性について体験的に気がつくことができ，「今度出かけるときには，バスに乗って目的地まで行けるか調べよう。」などの意見も聞かれるようになった。
また，醍醐地域には他の地域にはない特別なバスがある。それは，醍醐コミュニティーバス。醍醐地区は，１９９７年に地下鉄東西線が開業したことにより市中心部への移の利便性は大きく向上した。しかし，地下鉄の運用に伴って市バスが撤退したことにより，醍醐地区内の移動がかえって不便になってしまったという問題点を解消するために２００４年に誕生した。
走っているのを見たことがある子どもたちは多くいましたが，実際に乗ったことがあるという子どもたちはほとんど見られなかった。そこで，実際にコミュニティバスに乗ることで地域住民にどのように利用されているのか等について詳しく調べることにした。
実際にバスに乗ることでわかったことは，バスの停留所の間隔が「２００m」と短く地域の足として，とくに高齢者の方々に多く利用されていることがわかった。
また，校区内にある山沿いにある団地の周りにもたくさんの停留所があり，地域の人々にとってかかすことのできない存在であることに気付く様子が見られた。

そうしたこれまでの地域の交通環境についての学習をふまえ，地域のお祭りである「醍醐ふれあいプラザ」について考えることにした。「醍醐ふれあいプラザ」は，子ども達にとっては、楽しい思い出がたくさんあり、これまでの学校の取り組みとも密接な関係にあることから、たくさんの人に来てほしいという思いを持ち始めた。
そこで、楽しい地域行事に醍醐地区以外の人たちにたくさん来てもらうにはどうすればいいのか考えることにした。
子ども達からは，「たくさんお店を増やせば来てもらえる。」「子どもに流行のおもちゃをおけばいい。」等の意見が挙がっていたが、これまで学習してきたことをいかして、醍醐地域の交通について着目して考える意見が挙がってきた。そこで，子どもたちの話題を交通に話を絞って考え，まとめていくことにした。

子ども達からは「車で行きたい人はいけばいいと思うよ？」「でも車を止めるところがないよ？」「車を止めるところがあればいいんじゃないか。」「地下鉄で行く方がいいと思う、だって遠くからも来ることができるし，安いから。」「駅からも近いよ。」「地下鉄を使うと車やバスより環境にいいから地下鉄に乗って来てもらおう。」「バスターミナルもあるから，バスで来てもらえばいいんじゃない。」「降りたいところで降りられるし近くでおりられるよ。」など様々な意見が発表された。
こうした学習をふりかえり、子ども達は次のような思いや気付きを書き残した。
・地域にはいろいろな乗り物があることが分かった。
・車を使うのは絶対にダメというわけでは無いという事が分かった。

といった感想が見られた。こうした子どもたちの感想から，醍醐地域の交通についてさらに見識を深めることができたとともに，車は行き先の状況や目的に合わせて使っていくものであり、最初から車を利用するのはよくないという考えではない事に気がつくことができたのではないかと思います。また、次のような思いを持つ子もいた。



・地域に乗り物がたくさんあることが分かったけれど，どれを使うことがよいのか分からなくなったという思いです。こうした子どもの意見も大切にしていくとともに，学習を積み重ねていく中で，その人の目的に応じて選択できる力をつけていくことが大切だと考えます。また，学習の中で出てきた環境という視点からも乗り物を選択していくことについてさらに見識を深めていって欲しい。

そうした環境については４年生が「エコライフチャレンジ」を通して学んだことを３年生と交流する時間を設定することでより，互いに知識を深めた。

また，「福祉」をテーマに地域を見直してきた４年生。便利であると学んだ「醍醐コミュニティーバス」にも問題はあり，まだまだ改善していく必要があることに気付いていた。「運行本数が少ないということ。」「地域によっては停留所がなく移動手段に困っている。」という現実をふまえ，これからの地域の発展のために必要なことを考え続けるとともに，発信し行動していくことが大切なのだと実感することにつながった。

こうしたこれまでの学習を通して今後に子ども達には，さまざまな交通手段がある便利な世の中において、自己中心的な考えで行動するのではなく、目的や相手のことを思いやる気持ちを持って行動していくことで人とのつながりや環境を大切にしてほしいと考える。そのためにはまず自分から自分でできることを考えて行動するとともに，地域についてさらに知り愛着を深めていくことが大切だと考える。

学校名	京都市立醍醐西小学校
校長名	森川　浩孝

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　決算報告書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
市内めぐり	京都観光一日乗車券	¥600	67	¥39,400
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				¥39,400

４．教員による研究会との連携方策の検討

本章では，京都市の教員による研究会と，京都市学校MMの連携方策を検討した。

(1) 過年度の取り組み

京都市では学校教員により多数の研究会が組織されており，学習指導方法等を研究されている。

京都市における学校MM検討会では，平成 24 年度の設立以来，環境教育研究会と連携し，学校MM検討会のメンバーとして，環境教育研究会の教員が２名参加いただいた。当該教員には，平成 24 年度～平成 26 年度の３箇年にわたってモデル授業を考案・実施いただいた。

昨年度からは社会科研究会と連携し，MM教育を社会科研究会の引き出しの一つに活用できないか，モデル授業後の競技の場や「歩くまち・京都」学習検討会等，様々な場に参画いただいて忌憚ない意見をうかがいながら進めている。

(2) 平成 29 年度の取り組み

前述の結果を踏まえて，社会科研究会から２名の教員の推薦を受け，平成２８年度より引き続き「歩くまち・京都」学習検討会に参画いただき，ご意見をいただいている（２章参照）。

５.「歩くまち･京都」学習実践発表会の開催

平成２７年度より，公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の補助金を活用し「歩くまち･京都」学習と題して，様々な取組を実施してきた。平成２８年度からは「歩くまち・京都」学習実践校を募集・選定し、それぞれの地域の特色を活かした授業についての検討も行ってきた。その中で，今年度が補助金を活用できる最終年度ということで，成果として今までの取組内容を広く発信するために，「歩くまち・京都」学習実践発表会を開催することとなった。

当日は，実践校の教諭と実際に「歩くまち･京都」学習の授業を受けた児童も参加し，それぞれの地域性を打ち出した発表が行われた。

会場には，実践校の校区にお住まいの住民や児童の保護者をはじめ，学校 MM に関する業務に携わっている方が他都市からも来場され，盛況であった。

(1) 概要

「歩くまち・京都」学習実践発表会の概要は以下のとおりである。

日時	平成３０年３月４日（日）　９：３０～１２：００
場所	京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都
参加校	京都市立衣笠小学校 京都市立岩倉北小学校 京都市立高倉小学校 京都市立小栗栖宮山小学校 京都市立醍醐西小学校　　計５校
参加人数	１１０名





図　5-1　会場風景

(2) 当日の流れ

当日のタイムスケジュールは以下の通りである。

９：００～	開場
９：３０～	開会（開会の挨拶：京都教育大学水山教授）
９：４０～	発表①　京都市立高倉小学校
１０：０２～	発表②　京都市立小栗栖宮山小学校
１０：２３～	講評①　京都市教育委員会　松下首席指導主事
１０：２８～	発表③　京都市立衣笠小学校
１０：４９～	５分間休憩
１０：５９～	発表④　京都市立岩倉北小学校
１１：２１～	発表⑤　京都市立醍醐西小学校
１１：３５～	講評②　京都市教育委員会　岡博士指導主事
１１：４０～	講評③　公益財団法人エコロジー・モビリティ財団　岡本課長
１１：４５～	閉会（閉会の挨拶：京都市歩くまち京都推進室　高畑室長）
１１：４７～	退場

(3) 当日配布資料

当日配布した資料を以下に掲載する。

「歩くまち・京都」学習実践発表会

日時：平成３０年３月４日（日）９時３０分～
場所：京都府立総合社会福祉会館
　　ハートピア京都　大会議室

次 第

開会

京都教育大学　　水山　光春　教授

「歩くまち・京都」学習実践校発表

京都市立高倉小学校

京都市立小栗栖宮山小学校

京都市立衣笠小学校

京都市立岩倉北小学校

京都市立醍醐西小学校（事務局代理発表）

講評

京都市教育委員会　松下　誠太郎　首席指導主事

岡　博士　主任指導主事

交通エコロジー・モビリティ財団　岡本　英晃　課長

閉会

京都市歩くまち京都推進室長　　高畑　重勝

図 5-2 次第

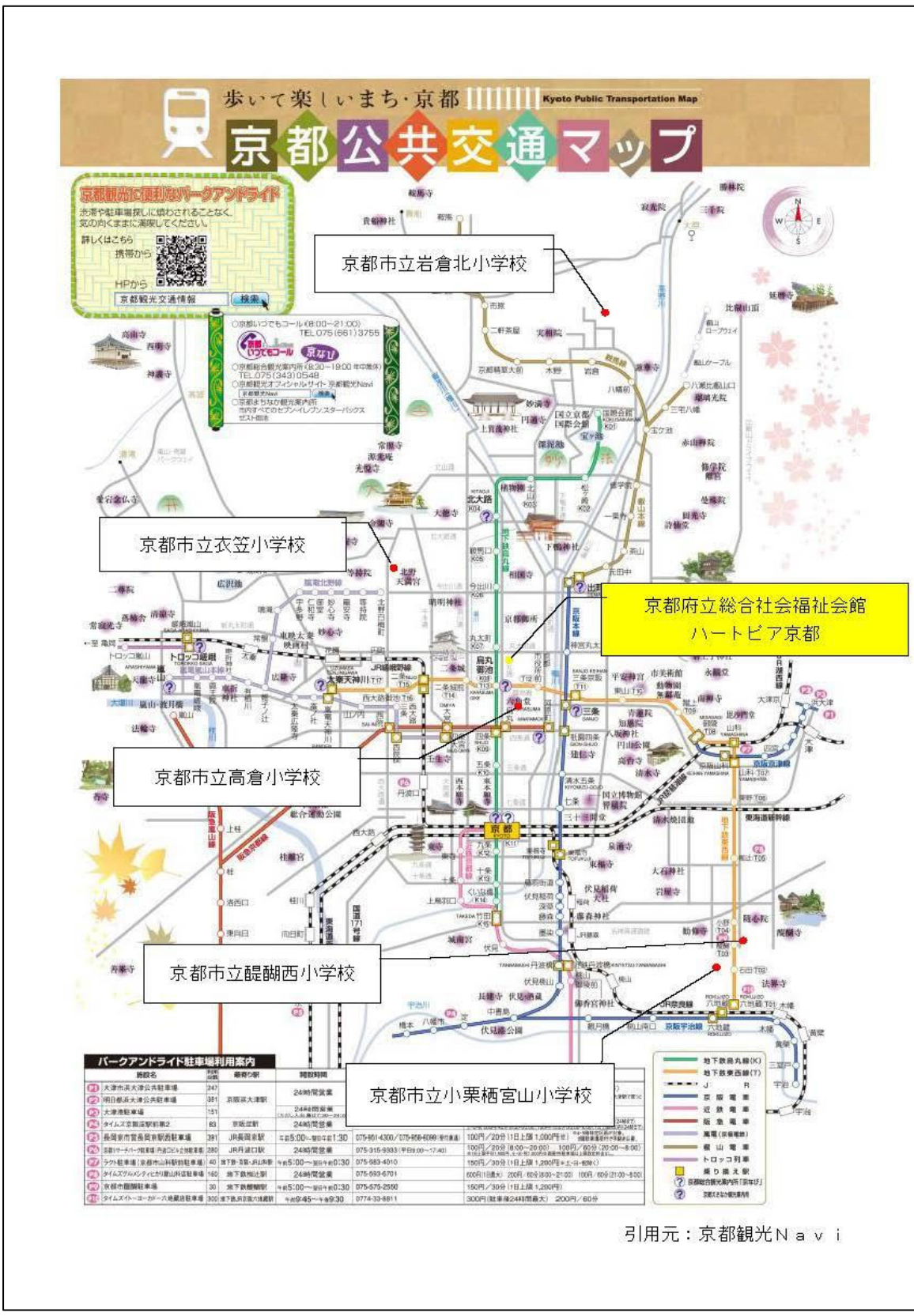
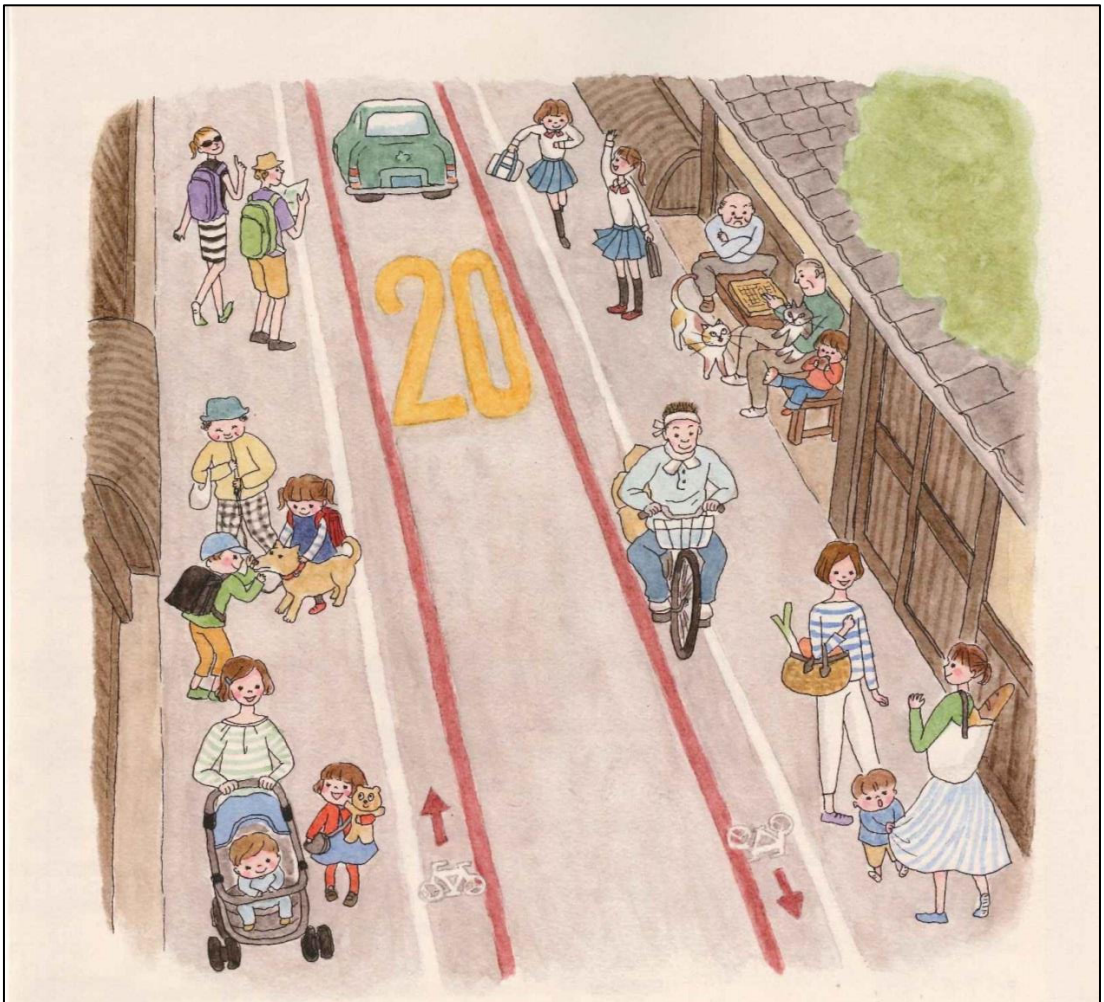


図　5 - 3　京都公共交通マップ



歩くまち・京都 みんなで考えよう

歩いて楽しい
安全なまちにするために

発行：京都市立高倉小学校・高倉小学校PTA
京都市中京区役所地域力推進室・京都市都市計画局歩くまち京都推進室（平成30年3月）



安心安全に歩ける通りの復権をめざして





1 三条通の信号機の撤去

信号機がなくなって、みんなの安全意識が高まりました。互いに車や歩行者が譲り合う交差点になりつつあります。

2 道路のカラー化

道路のカラー化により、車のスピードが抑えられています。烏丸通以東、以西ともにカラー化がすすんでいます。







3 一旦停止の電柱幕

校区7学区の自治連合会、PTA、中京警察署、中京区役所が連携の下、高倉校区全域に取り付けました。自転車のマナー向上が課題です。

4 再配達アンケートの実施

昼間の大型車両の駐停車を減らすための工夫が必要です。宅配便の再配達を減らすための意識調査を行いました。



歩いてみよう わたしたちのまち

高倉小学校では、テーマにそって子どもたちは何度もまちを歩いて学習をします。

3年生 / 達人のいる場所を見つけよう

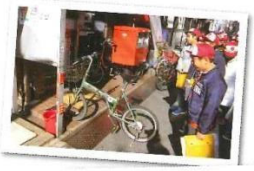




まちには、色々な達人がいるんだね。



4年生 / みんなにやさしい高倉のまちにするために



どんな人も安心して歩ける工夫や、安心して使える施設がふえるといいな。



5年生 / もしもの時にそなえて防災まちあるき

地域の人が一緒に歩いて教えてくれたよ。













自分の足で歩いて、自分の目で確かめておくことも大事だよ。



みんなが安全で歩いて楽しいまちにするために

クルマに起因する交通問題の一つが、危険走行や違法駐車です。クルマが減って自転車が増えた結果、自転車の危険走行と違法駐輪が目立つようになりました。クルマから自転車に変わっても、運転するのは私たち「人」です。交通に対して、人の「ココロ」が変わらなければ、交通手段だけが変わっても、問題は減りません。宅配の再配達によるトラックの走行増大も、再配達をお願いする私たちにも原因があるのです。交通問題の一因が、自転車やクルマに乗り、宅配をお願いする、私たち「人」にあるので、問題解決の主役もまた、私たち「人」なのです。子どもからお年寄りまで、みんなが安全で歩いて楽しいまちを実現する鍵は、まちに暮らし、まちを利用する、私たち一人一人が握っているのです。

中京区交通問題プロジェクトミーティグ座長
京都大学大学院 准教授　山田 忠史

子どもたちにとっての「歩くまち・京都」

子どもたちは、地域の宝物として、大事に登下校を見守ってもらっています。子どもたちもこのまちに愛着をもって過ごしています。やがては、自分たちがこのまちの担い手となっていくのです。守ってもらう人から、まちづくりの主役へ。子どもにだってできることは、あるはずです。そのことを大人の人と一緒に考える学習は大変貴重ではないかと考えています。この学習の成果を生かして、歩いて楽しいまちづくりの実現に向けて、一人一人の意識を変えていく、まちの人と一緒に考えていく、そんなすてきなマチビトモデルになってほしいと思っています。歩いて楽しいまち・京都を誇りに思って育っていってほしいと願っています。

京都市立高倉小学校 校長　岸田 蘭子

子どもたちが安心して歩けるまちに

私がまだ高倉小学校にお世話になる数年前、三条通で信号機の撤去が行われて、「なんでかな?」と思ったことがあります。その後、徒歩で・自転車で・自動車で、そこを通るうちに気付きました。信号が無くなることによって、それぞれの安全意識が高まることがよく理解できたのです。そしてPTAが行政・地域と一体となって子どもたちの安全の為に取り組んだ成果であることを知りました。今、自身がその活動の一員であることに、一保護者として大きな誇りを感じるとともに、保護者の代表としての責任の大きさを感じます。これからも子どもたちが安心して歩けるまちのために、地域全体で取り組んでいきたいと思います。

高倉小学校PTA 会長　寺村 貞亮

\6年生/子どもの声

「歩くまち・京都」の授業を通して

- これからは、自分も交通ルールを意識して自転車を運転したい。
- 校区の危険な箇所の赤いシールがいっぱいになって、こんなに危険な箇所がたくさんあるんだと知って、びっくりしました。
- 交通ルールをあらためて、考えさせられた。自転車も車も人の気持ちが変わったら、歩いて楽しいまちになるんじゃないかな。
- 一人でも多くの人の気持ちが変るといいと思う。家族など身近な人から呼びかけてみよう。
- 一人一人の意識を高める話し合いをして、自分からも変わらないといけないと感じた。
- 一人一人が今日のように交通問題を考えることで新しいアイデアが出て、歩いて楽しいまちに近づけるような気がした。
- よく考えてみたら自分もだめだなと思いました。これからは、もっとしっかり考えたいです。
- 車や自転車のよくないところや校区内の危険な場所を知ることができました。大人の人といっしょに町をつくるためにどうすればよいか考えるのは楽しかったです。
- みんなで楽しみながら、意識を変えていくために替え歌を作るなど、すごいアイデアだと思いました。
- 自分たちにできることなどポスターにしてみてもよいと思います。
- 自転車や車は歩行者をこまらせているということに対して、いろいろな意見が出て、いろいろ分かってよかったです。
- 自分たちが実際に生活の中で見つけた工夫を交流してみたいです。
- 安心して歩くための改善策や自転車の問題についてしっかりと考える機会があってよかったと思いました。
- グループ交流で、自分では出ないような意見も出て納得させられることばかりでした。自分にもできることをやってみようと思います。
- 自分たちは悪にもヒーローにも成り得ることを知りました。これからも真剣に交通問題について考えて、少しでもヒーローに近づけるようにがんばりたいです。
- 今日の授業では、歩いて楽しいまちの実現のしかたが分かって嬉しかったです。
- 楽しく人の心を動かせるとよいなと思います。それを探してみます。



みんなで考えよう 歩いて楽しい安全なまちにするために

～自転車のマナーに ついて考えてみよう～



たかくら子ども安全マップ

みんなが こまっていること

- 四つ角で止まらない
- 並んで走る
- 集団走行
- スピード出しすぎ!
- ライト無灯火
- ながら運転
- 手離し運転
- 自分勝手運転
- いきなり歩道乗り上げ
- ベルならしすぎ
- 二人乗り走行
- 違法駐輪
- 傘さし運転
- イヤホン走行
- 道のど真ん中走行
- 左右確認しない運転
- よけてくれない



どうすればよいか いっしょに考えよう

- ポスター ●広告
- 罰則 ●防犯カメラ
- 新聞にする
- 自転車免許
- 信号や標識増やす
- PR動画⇒全市に発信
- 取締まり
- 事故からの教訓
- 歌をつくる
- まずは自分から
- 大人の考えをかえる
- 知ってる人から 知らない人へ
- 声かけする
- 習慣づけ
- ルールの啓発
- 一人一人が意識する





PTAの声

子どもたちの安全が最優先です。しかし、**子どもたち自身も自分たちの身は自分で守る、危険な飛び出しや自転車の乗り方には十分注意する**ことも大切です。私たち親は、子どものお手本になるようにしたいものです。今日のような話を家庭でもできるとよいのでは。次の時代のまちのあり方を考えていくためには**子どもたちの意識を変えていく**ことはとても意義があると思いました。

地域の人の声

子どもたちはもちろんのことですが、まちには体の不自由な人やお年寄りもたくさんいます。みんなが安心して歩いて楽しいまちにしてほしいと思います。ついつい便利だからとすぐに車で出かけたり、道に自転車を止める人もたくさんいます。**いろいろな人のことを考えて安心して歩けるまちにしてほしい**です。今日は子どもたちがいっしょうけんめい考えてくれて、たのもしく思いました。

まとめにかえて

皆さんは、京都市が平成22年1月制定の「歩くまち・京都」憲章をご存知ですか。誰もが安心して快適に歩くことができる、そして人が主役の魅力あるまちづくりを推進していくため、私達市民一人一人の行動規範が謳われているものです。

中京区では、現在、まちづくりの指針である「中京区基本計画　―響きあう　人・まち・文化　中京区―」に基づいて、区民の皆さんとご一緒にふれあいと賑わいのまちづくりを進めています。中でも、クルマ中心のライフスタイルを見直して、暮らす人も訪れる人も安心・安全に往来でき、日々の暮らしや生業の空間として魅力ある「通りの復権」と「歩いて楽しいまち」の実現を目指すことは大変重要なテーマです。このため、平成23年10月から、高倉小学校区をモデル地域として、山田先生を座長に、地元7学区・小学校・PTA・商店街の皆さん、区役所など行政機関、警察で構成する「中京区交通問題プロジェクトミーティング」を作り、議論を重ね種々の取組を進めてきました。

平成28年度からは、高倉小学校の児童の皆さんも参加して、歩いて楽しいまちづくりについて考えていただきました。このたび、プロジェクトのこれまでの成果も盛り込んだ本冊子が出来上がりました。児童の皆さん、ご協力ありがとうございました。

中京区では、今回児童の皆さんから頂いた声も参考にして、区民の皆さんとご一緒に、これからも「通りの復権」と「歩くまち・京都」の実現を目指して取組を強力に推進してまいります。



平成30年3月　中京区長 池田 健

「歩くまち・京都」憲章

http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000056806.html　「歩くまち・京都」憲章　検索

発行：京都市立高倉小学校・高倉小学校PTA
京都市中京区役所地域力推進室・京都市都市計画局歩くまち京都推進室

※本事業は、中京区民まちづくり支援事業による補助対象事業です。　（2018.3.4）

図　5-4　京都市立高倉小学校配布物


Mobility Management
Kyoto City Iwakura north Elementary School
「歩くまち・京都」学習　研究テーマ
わたしたちの京都市のまちづくりを
主体的に調べ考える子ども
～京都市の地理，歴史，政治，伝統文化，人々のくらしの教材化の工夫～
実践発表会資料
平成 30 年3月4日(日)
京都府立総合社会福祉ハートピア京都
京都市立岩倉北小学校

Kyoto City Iwakura north Elementary School

「歩くまち・京都」学習実践発表会

研究報告

京都市立岩倉北小学校 松村 一也
@2018.3.4 ハートピア京都

Kyoto City Iwakura north Elementary School

はじめに



Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２７年度の取組

6年　総合的な学習の時間
「わたしたちのくらしと交通」

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

総合「わたしたちのくらしと交通」

クルマがよい！ ２１ 出かけるときは？ １ 公共交通がよい！

クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう

市内巡りコースを計画する

クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる

京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる

京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる

市内巡り

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

総合「わたしたちのくらしと交通」

クルマがよい！ ２１ 出かけるときは？ １ 公共交通がよい！

クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう

市内巡りコースを計画する

クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる

京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる

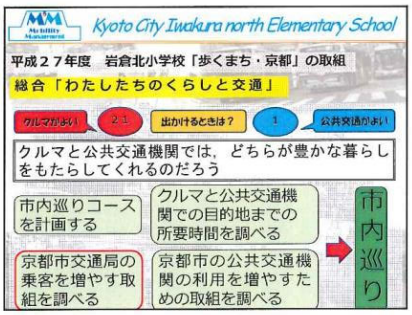
京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる

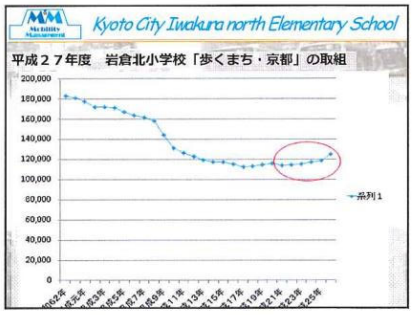
市内巡り

Kyoto City Iwakura north Elementary School

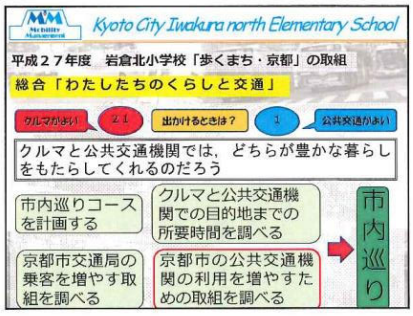
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組



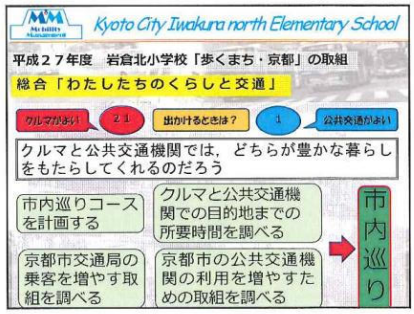

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
総合「わたしたちのくらしと交通」
クルマがよい
21
出かけるときは？
1
公共交通がよい
クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう
市内巡りコースを計画する
クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる
京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる
京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる
市内巡り


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
200,000
180,000
160,000
140,000
120,000
100,000
80,000
60,000
40,000
20,000
0
系列1


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
バス停


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
総合「わたしたちのくらしと交通」
クルマがよい
21
出かけるときは？
1
公共交通がよい
クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう
市内巡りコースを計画する
クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる
京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる
京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる
市内巡り


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
駐車場入口


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
総合「わたしたちのくらしと交通」
クルマがよい
21
出かけるときは？
1
公共交通がよい
クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう
市内巡りコースを計画する
クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる
京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる
京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる
市内巡り

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

総合「わたしたちのくらしと交通」

クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう

クルマがよい　8　使い分ける　14　公共交通がよい

学習を終えての感想(学習して思ったこと・話し合った時の自分の考え・これからのことなど)

新たな課題？

Kyoto City Iwakura north Elementary School

京都市における「歩くまち・京都」学習の趣旨

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を実践する。

Kyoto City Iwakura north Elementary School

社会科の目標　～学習指導要領解説より～

社会生活についての理解を図り，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

Kyoto City Iwakura north Elementary School

岩倉北小学校「歩くまち・京都」学習の研究テーマ

わたしたちの京都市のまちづくりを主体的に調べ考える子ども

京都市の地理，歴史，政治，伝統文化，人々のくらしの教材化の工夫

今から将来にわたってよりよい社会（京都市のまち）をつくる人へ

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成28年度の取組

3年 社会 わたしたちのまち
「京都市のまちの様子」

4年 社会 きょう土をひらく
「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」

5年 社会 情報化した社会とわたしたちの生活
「情報ネットワークとわたしたち」

6年 社会 わたしたちの生活と政治
「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２８年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

４年社会「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」

琵琶湖疏水が完成して，京都のまちはどのようになったのだろうか。

蹴上発電所　市電　島津製作所　人口のうつりかわり

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２８年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

４年社会「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」

琵琶湖疏水が完成して，京都のまちはどのようになったのだろうか。

琵琶湖疏水の水の力で電気をつくることによって，様々な産業を盛んにしたんだね。

できたばかりの市電だったから，今とは違うと思うけど，移動が楽になったり，観光客がきたりしたんじゃないかな。

市電もその中の一つで，日本で初めて電車が走ったことで町もどんどんにぎやかになったと思うよ。

琵琶湖疏水ができて，京都は大きく変わり，今の京都に近づいてきた。

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成29年度の取組

3年 社会 地いきや生活のうつりかわり
「昔を伝えるもの」

5年 社会 わたしたちの生活と環境
「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」

6年 社会 わたしたちの生活と政治
「わたしたちの願いを実現する政治」

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

３年社会「昔を伝えるもの」

新学習指導要領における記述（市の様子の移り変わり）

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
(ア) 市や人々の生活の様子は，時間の経過に伴い，移り変わってきたことを理解すること。
(イ) 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして，年表などにまとめること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
(ア) 交通や公共施設，土地利用や人口，生活の道具などの時期による違いに着目して，市や人々の生活の様子を捉え，それらの変化を考え，表現すること。

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

３年社会「昔を伝えるもの」



Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

３年社会「昔を伝えるもの」

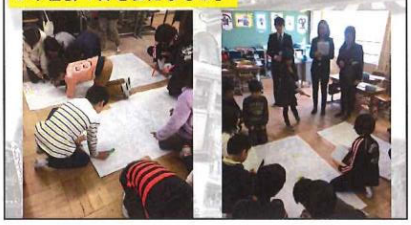


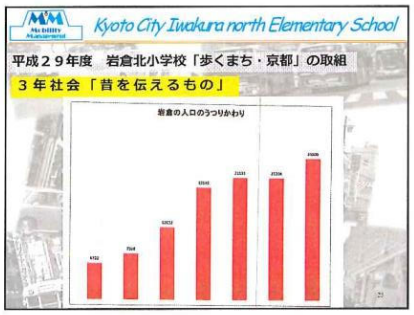
岩倉はどのようにしてかわっていったのだろう

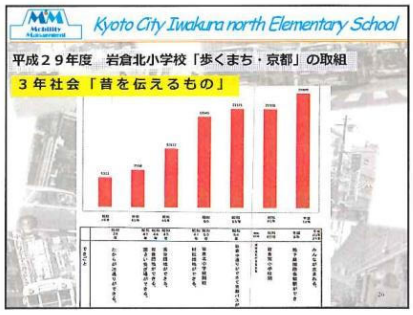
Kyoto City Iwakura north Elementary School

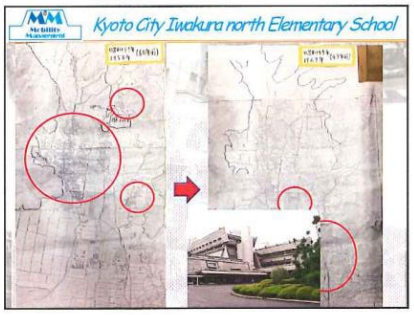
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

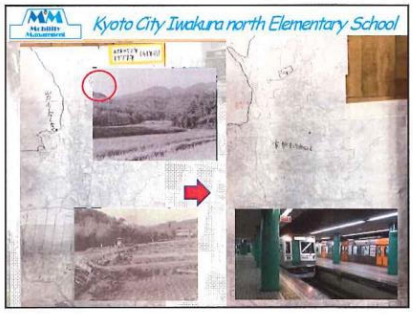
３年社会「昔を伝えるもの」

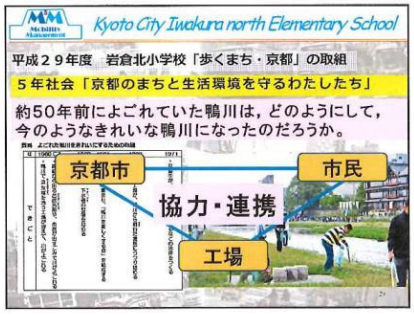


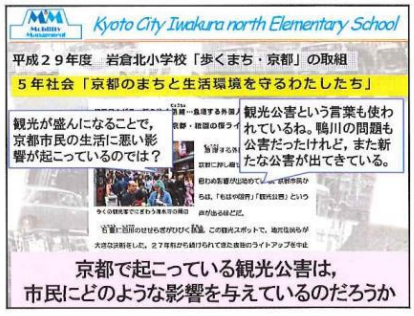

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
３年社会「昔を伝えるもの」
岩倉の人口のうつりかわり


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
３年社会「昔を伝えるもの」

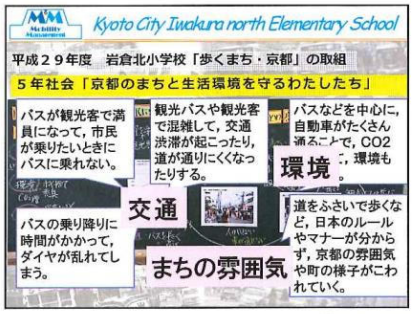

Kyoto City Iwakura north Elementary School

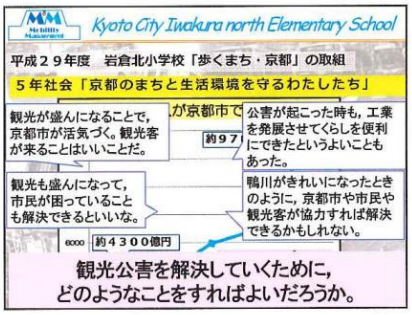

Kyoto City Iwakura north Elementary School

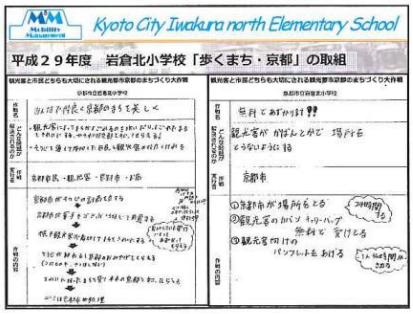

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
５年社会「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」
約50年前によごれていた鴨川は，どのようにして，
今のようなきれいな鴨川になったのだろうか。
京都市
市民
協力・連携
工場

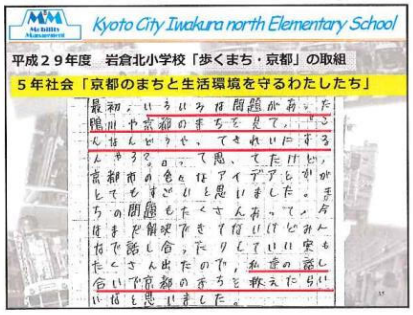

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
５年社会「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」
観光が盛んになることで，
京都市民の生活に悪い影
響が起こっているのでは？
観光公害という言葉も使われているね。鴨川の問題も公害だったけれど，また新たな公害が出てきている。
京都で起こっている観光公害は，
市民にどのような影響を与えているのだろうか

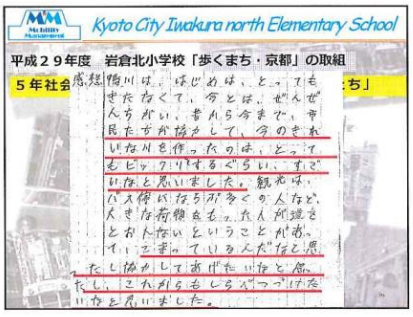

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
５年社会「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
５年社会「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」
バスが観光客で満員になって，市民が乗りたいときにバスに乗れない。
観光バスや観光客で混雑して，交通渋滞が起こったり，道が通りにくくなったりする。
バスなどを中心に，自動車がたくさん通ることで，CO2
環境
交通
バスの乗り降りに時間がかかって，ダイヤが乱れてしまう。
道をふさいで歩くなど，日本のルールやマナーが分からず，京都の雰囲気や町の様子がこわれていく。
まちの雰囲気


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
５年社会「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」
観光が盛んになることで，京都市が活気づく。観光客が来ることはいいことだ。
約９７
公害が起こった時も，工業を発展させてくらしを便利にできたというよいこともあった。
観光も盛んになって，市民が困っていることも解決できるといいな。
鴨川がきれいになったときのように，京都市や市民や観光客が協力すれば解決できるかもしれない。
約４３００億円
観光公害を解決していくために，
どのようなことをすればよいだろうか。


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

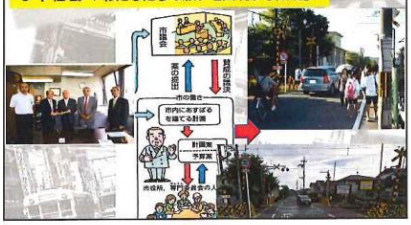

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
５年社会「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」



Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」



なぜ２９億円ものお金を使って，四条通りの工事を行ったのだろう

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」

資料1 工事前の四条通の様子

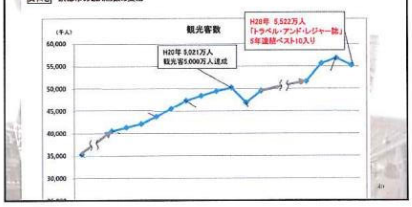


Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」

資料2 京都市の観光客数の変化



Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」

資料3 京都市のまちづくりの取組



Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」

資料4 四条通の近くの観光地（祇[illegible]）の様子

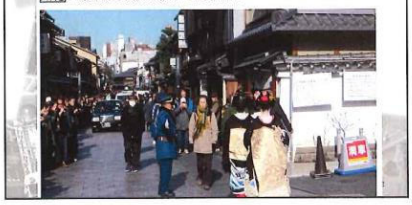








図　5-5　京都市立岩倉北小学校配布物



図 5 - 6　Yes/No ボード

「歩くまち・京都」学習実践発表会

平成 30 年 3 月 4 日

ご来場者アンケート

本日の発表会の感想を会場受付までお寄せください。

問１　本日のシンポジウムを、どのようにして知られましたか	1　小学校からのお知らせ 2　京都市の広報（HP，チラシ） 3　知人・仕事先からのお知らせ 4　その他 （具体的に　　）
問２　本日、発表された学習実践校の学区に住まわれている場合は、どちらの学区ですか	1　衣笠小学校 2　岩倉北小学校 3　高倉小学校 4　小栗栖宮山小学校 5　醍醐西小学校 6　発表校の学区ではない
問３　本日のシンポジウムのご感想を、お聞かせください	1　大いに満足 2　満足 3　どちらでもない 4　少し不満 5　大いに不満
問４　本日のシンポジウムの良かった点・改善すべき点について、お気づきの点があれば教えてください。	
問　最後にあなたご自身について、お答えください。	
■ご年齢（9才以下　10代　20代　30代　40代　50代　60才以上 ■性別（男　女）	

ご協力ありがとうございました。お帰りの際，受付の回収箱にご投函ください。

図　5-7　来場者アンケート

(4) 発表

ア 開会挨拶

まず始めに開会の挨拶として，京都教育大学水山教授による簡単な趣旨説明と，京都市における取組について，また「歩くまち」＝「クルマとかしこく付き合うまち」の実現を目指しものであり，決してクルマを使わずに歩けということではないということもご講演いただいた。

講演はどうして MM を実施する必要があるのかを，具体的なスライドを見せながら，「クルマが多い道路」と「クルマの少ない道路」のどちらが自分たちにとって良いのかを児童たちに問いかける形で進められた。

児童も「クルマが多いと何故困るのか」を理解した上で，クルマ利用を控える必要性を感じているようだった。





図 5-8 講演風景

① スライド

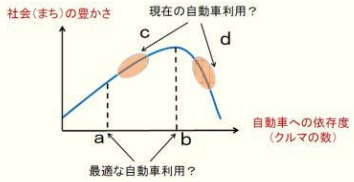
2018/3/4

平成30年3月4日
於）ハートピア京都
「歩くまち・京都」学習 研究会

「歩くまち・京都」学習がめざすもの

水山光春（京都教育大学）
mizuyama@kyokyo-u.ac.jp

1.「歩くまち」=「クルマとかしこく付き合うまち」の実現



「過度に自動車に頼る状態から公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に（＝かしこく）利用する」状態へ変化させる必要がある

cf. 藤井聡・谷口綾子『モビリティ・マネジメント入門』学芸出版社, 2008, p.13より

秋の嵐山は大渋滞（現在の自動車利用例）



cf. 学校MM研究会『「歩くまち・京都プロジェクト」人と社会と環境にやさしい子どもを育む45分』
京都市都市計画局歩くまち京都推進室

かしこいのはどっち？



cf. 学校MM研究会『「歩くまち・京都プロジェクト」人と社会と環境にやさしい子どもを育む45分』
京都市都市計画局歩くまち京都推進室

かしこいのはどっち？



cf. 京エコロジーセンター『みんなで見つめ，変えていこうわたしたちの環境（小学校5年生用）』
京都市環境政策局

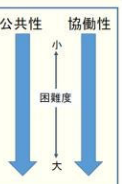
2. 社会についてかしこく学ぶ子どもを育てる

学校での社会についての学び方

① 社会のしくみや問題点，価値観などを学び，知識としてたくわえる

② ①にとどまらず，①の問題点について，選択し，判断し，意思決定する

③ ②にとどまらず，積極的に社会にはたらきかけ，社会に参加・参画していく



公共性・協働性を高める最適素材の一つが「歩くまち・京都」学習

1



出典

- 藤井聡・谷口綾子『モビリティ・マネジメント入門』学芸出版社, 2008, p.13
- 学校MM研究会『「歩くまち・京都プロジェクト」人と社会と環境にやさしい子どもを育む45分』京都市都市計画局歩くまち京都推進室
- 京エコロジーセンター『みんなで見つめ，変えていこうわたしたちの環境〈小学校5年生用〉』京都市環境政策局

図　5 - 9　講演スライド

イ 京都市立高倉小学校

京都市立高倉小学校の発表は，まず教諭から一年間を通して「歩くまち・京都」実践授業として実施した授業内容の紹介があった。

校区は鴨川・堀川通り・御池通り・四条通りに囲まれた市街地を全て含んでおり，高倉を取り巻く交通問題は平成２３年度より「中京区交通問題プロジェクトミーティング」を立ち上げ，行政・地域・学校・ＰＴＡが一体となり取り組んできたところである。

このような流れの中で，平成２８年度・２９年度は「歩くまち・京都」学習実践校として以下のような様々な授業に取り組んできた。

平成２８・２９年度の取組	
３年生	みんなが歩いて楽しいまちにするために みどころ満載　歩いて楽しい高倉タウンマップ
４年生	人にやさしいまちにするために 思いやりがいっぱいの健やか高倉タウンマップ
５年生	もしものときに備えてまちを歩こう 地域の人といっしょに防災フィールドワーク
６年生	安心して歩けるまちにするために （１）交通安全教育の充実 （２）歩行者優先の安全な通りにするための提言

３年生以上のそれぞれの学年でテーマとなる視点を持ち，何度もまち歩きをしてきた。色んな人の視点で歩くことによって，どうすれば「歩いて楽しい安心・安全なまち」にできるのか，自分たちがまちづくりの主体となる学習を組み立て，社会へと発信していくこととした。

続いて，実践授業を実際に体験した６年生３名も登壇し，特に自転車問題について考えたこと，校区内で危ないと感じた箇所をマップに落とした安全マップ等が紹介され，自分たちが感じたことや困っていることを話し合った。その上で解決策について考え，様々な意見が出たが，まずは一人ひとりが意識を変えていくことが重要であり，時間はかかるがそれが解決に繋がるのだと信じて取組ことが必要だと気付いたようであった。

最後には自分たちが「歩くまち・京都」を通して持った想いを歌にして披露してくれた。







図 5-10 発表風景

① スライド



高倉小学校
「歩くまち・京都」実践授業のまとめ

中京交通問題プロジェクトとの連携

高倉小学校区



高倉小学校区を取り巻く交通問題

H23年度～
中京区交通問題プロジェクトミーティング
「高倉校区」の通りの復権をめざして





H26. 4
高倉小学校PTA制作
DVD「子どもの安心安全な登下校のために」
H27. 10月
三条通り 信号の撤去
ゾーン内20km/h速度制限
H28. 3
再配達の大型駐車車両を
減らす呼びかけ
アンケート調査を実施



H29. 3
自転車の一旦停止
電柱幕の取り付け

高倉小PTA
7学区自治連合会
中京警察署
中京区役所



H28・29 歩くまち・京都授業実践校

1. 安心して歩けるまちにするために
(1)交通安全教育の充実
(2)歩行者優先の安全な通りにするための提言
（6年）
2. みんなが歩いて楽しいまちにするために
みどころ満載 歩いて楽しい高倉タウンマップ
（3年）
3. 人にやさしいまちにするために
思いやりがいっぱいの健やか高倉タウンマップ
（4年）
4. もしものときに備えてまちを歩こう
地域の人といっしょに防災フィールドワーク
（5年）

6年　歩くまち・京都実践授業

「安心して歩けるまちにするため」
～地域に人といっしょに考えよう～

日　　時：平成29年12月5日（火）
13：30～15：00
実施場所：京都御池中学校5Fアリーナ
対　　象：京都市立高倉小学校
第6学年117名
講　　師：山田　忠史先生
（京都大学／中京区交通問題プロジェクトミーティング座長）

協　　力：高倉小学校PTA・中京区役所地域力推進室
中京区交通問題PMメンバー

授業の内容

1　山田先生からの講義
「交通問題とは何が問題なのか」
「解決の糸口はどこにあるのか」



2　グループ討議　（12グループに分かれて）
○校区マップで自転車で困ったことが起こる場所
○どんな経験をしたことがあるか
○子ども・大人側からの自転車それぞれの課題
○解決策を考えよう



ファシリテータ
学校　4名
区役所　4名
PTA　4名
子ども
各グループ　10名
ずつ



みんなが困っていること



自分の意見を書く



意見を交流する



解決策を考える



グループで出た意見を発表する



学習を終えての感想

◎交通問題はいろいろなことを考えないといけないし、難しい問題だと思った。

◎大人の人と一緒に考えられてよかった。

◎今まで何も考えていなかったけれど、これからは自分たちが何かをしていく立場になっていくんだと思った。

◎まずは、家族とか身近な人に自分たちが勉強したことを伝えていくことが大切だと思った。

安心安全な歩いて楽しい町にするために

一人一人が当事者意識をもつこと

身近な人にわかってもらうこと



連携したり協力したりして、
みんなで考えていくこと

高倉小学校6年生からのクイズ

第1問

・校区内の道路には，自転車走行レーンがあります。

・車道と自転車走行レーンの境目にある線は青色である。

YES or NO

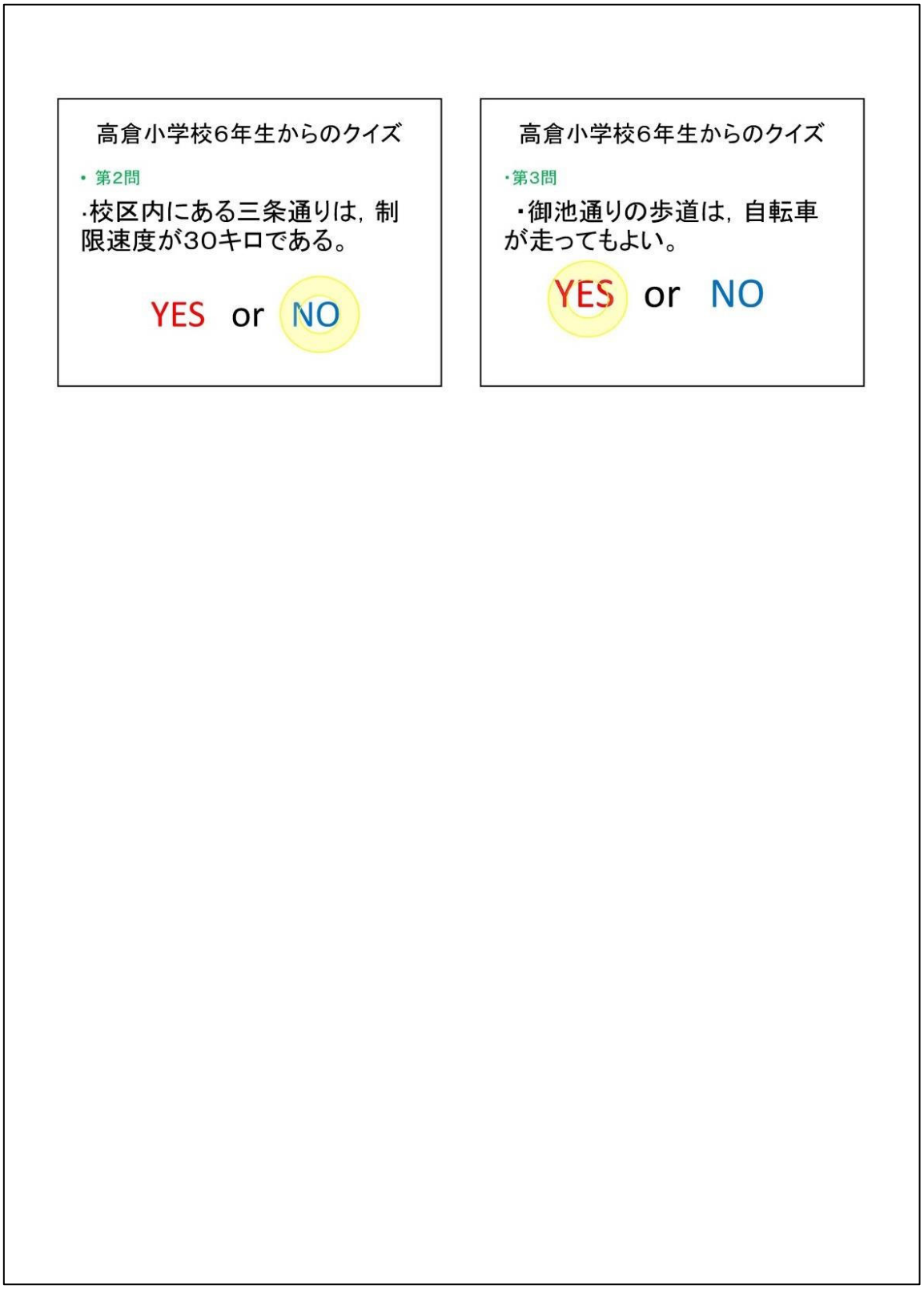

高倉小学校6年生からのクイズ
・第2問
・校区内にある三条通りは，制限速度が30キロである。
YES or NO
高倉小学校6年生からのクイズ
・第3問
・御池通りの歩道は，自転車が走ってもよい。
YES or NO

図　5-１１　発表スライド

② クイズ

高倉小学校からは，自分たちの学区内に関するクイズが，当日配布されたリーフレットの中から出題された。

Ｑ１　校区内の道路には，自転車走行レーンがありますが，車道と自転車走行レーンの境目にある線は青色である。ＹｅｓかＮｏか？



約８割の方が「Ｙｅｓ」を掲げ不正解。正解は「赤色」であり，間違った認識をしていた人が多いことが分かった。

Ｑ２　校区内にある三条通りは，制限速度が３０ｋｍである。ＹｅｓかＮｏか？



「Ｙｅｓ」「Ｎｏ」が半々で，あまり知られていないことが分かった。
正解は「Ｙｅｓ」でこの地域は「エリア２０km」として設定されている。

Ｑ３　御池通りの歩道は，自転車が走ってもよい。ＹｅｓかＮｏか？



約６割の方が「Ｙｅｓ」を掲げ正解だった。幹線道路の御池通ということもあり，少し知られていたことがうかがわれた。

ウ 京都市立小栗栖宮山小学校

京都市立小栗栖宮山小学校の発表は，まず教諭から小栗栖宮山小学校の概要と５年生の学習内容について説明があった。

５年生は総合的な時間で自分たちの住むまち醍醐の良い所を見つけ，ガイドブックの作成に取り組む授業を実施した。まず６年生におすすめスポットを教えてもらい，どのような方法で行くことができるのか, 何を見たいのか, 何を知りたいのかを話し合った。

実際にそのスポットを訪ねて見たこと，感じたことをガイドブックに掲載して完成させた。

続いて，児童から実際に行った観光スポットについて，醍醐コミュニティバスの最寄りバス停を，感想を交えながら紹介した。

また実際に醍醐コミュニティバスに乗ったことで，吊り革は低くお年寄りや子どもたちに優しい，車体は小さく細い道でも走行できるため地域の足となっている，バス停が多いこと等，授業を通して多くのことを知ることができたようであった。

次に６年生の発表についても，まず教諭から５年生時の授業を受け，「京都ジュニア検定ハンドブック」を参考にして視野を京都市全体に広げ調べ学習を行い，次週に予定されている京都市巡りの計画に繋げたと説明があった。

続いて児童が５年生の醍醐巡りを思い出しながら作成した醍醐ガイドブックの紹介や，それを作成しながら感じたことが発表された。醍醐コミュニティバスは坂の多い醍醐地区には欠かせないものであるが，運行本数が少ないという問題点にも気付いた。そうした中，京都にはどういった名所があるのかを考えながら調べていくうちに生じた興味や疑問を解決するために，自分たちの足で京都市巡りに行くことになった。

自分たちが興味の持った名所を理由と共に挙げ，醍醐との繋がり・自分たちの興味との繋がり・歴史との繋がりなどにも触れながらまとめ，市内巡り当日はたくさん歩き，京都のまちなみをしっかり見て来たいと抱負を語った。





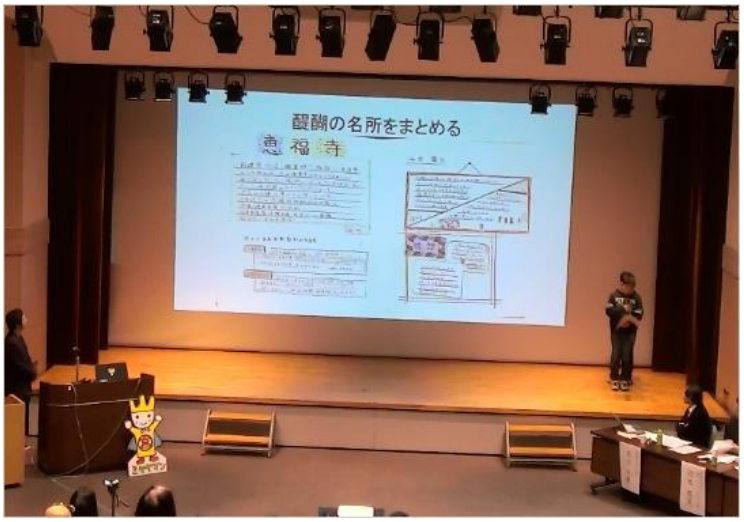
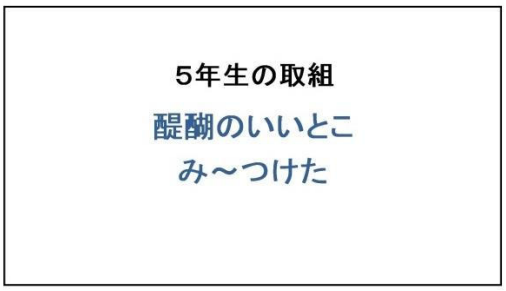


図 5-12 発表風景

① スライド













私がみつけた
い～ところ


優しさあふれるお寺　恵福寺


優しさあふれるお寺　恵福寺


優しさあふれるお寺　恵福寺


いのめ
優しさあふれるお寺　恵福寺


国宝いっぱい　世界遺産　醍醐寺


国宝いっぱい　世界遺産　醍醐寺


国宝いっぱい　世界遺産　醍醐寺


美しいお寺　随心院


美しいお寺　随心院


美しいお寺　随心院


美しいお寺　随心院

地域に優しい　醍醐コミュニティーバス



私がみつけたい～ところ

6年生の取組

歴史探訪

～誇り高きまちに生きる～

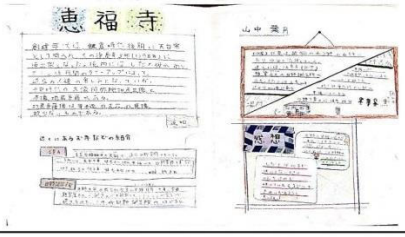
醍醐の名所をまとめる



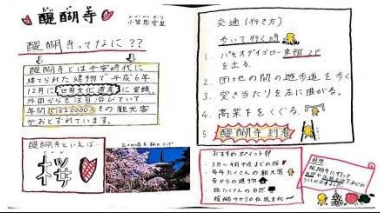
醍醐の名所をまとめる



醍醐の名所をまとめる



醍醐の名所をまとめる



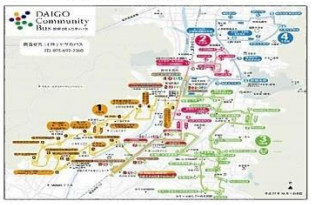
私たちの醍醐の町



私たちの醍醐の町



私たちの醍醐の町



私たちの醍醐の町



京都市内めぐりに向けて



京都市内めぐりに向けて



京都市内めぐりに向けて



京都市内めぐりに向けて（しょうきさん）



醍醐検定クイズ！！

Q1：醍醐にある一言寺の正式名称は「金閣ノ王寺（きんかくのおうじ）」である。

YES or NO

正解は・・・

NO！！

一言寺は「金剛王院（こんごうおういん）」

醍醐検定クイズ！！

Q2：長尾天満宮の階段は100段以上ある。

YES or NO

正解は・・・

YES！！

約150段の階段があります。

醍醐検定クイズ！！

Q3：随心院で行われるある踊りは，「はねず踊り」である。

YES or NO

正解は・・・

YES！！

恋物語・百夜通い(ももよがよい)を題材にした踊りです。

醍醐コミュニティーバスの歌

華やか 並木ゆれる 京の春・醍醐
夢の日の 想いは 花の波のなかに
歌え 語れ 集え
楽し宴(うたげ)のまちで

私がみつけたい～ところ

② クイズ

小栗栖宮山小学校からは，自分たちの学区内の観光地に関するローカルクイズ出題された。

Ｑ１　醍醐にある一言寺の正式名称は，「金閣ノ王寺」である。ＹｅｓかＮｏか？



大半の方が「Ｎｏ」を掲げ正解だった。知名度が高いことがうかがわれる。

Ｑ２　長尾天満宮の階段は 100 段以上ある。ＹｅｓかＮｏか？



ほとんどの方が「Ｙｅｓ」を掲げ正解だった。こちらも知名度の高さがうかがえた。

Ｑ３　随心院で行われるある踊りは，「はねず踊り」である。ＹｅｓかＮｏか？



同じくほとんどの方が「Ｙｅｓ」を掲げ正解であった。有名な寺院であることもあり，よく知られているようだった。

エ 講評①

２校の発表が終わった時点で，京都市教育委員会松下首席指導主事より講評をいただいた。講評は以下の通りである。

【高倉小学校について】

・大人だけでなく，児童の皆さんも一緒に考え社会参画の大切さを知った。
・自分たちのまちは自分たちの手で作っていくことが伝わった。
・実際に高倉のまちを歩いて知った再発見もあったのではないか。
・パンフレットには強いメッセージが込められており，その発信が社会を変えていくと心から感じた。
・今後も「学び」の大切さを持ち続けることが重要であると，発表から感じた。
・披露してくれた歌も街角で流してみたい。自転車に乗っている人も気付くことがたくさんあるのではないか。

【小栗栖宮山小学校について】

・発見すること，アイデアを凝らすことの大切さを知った。
・実際今日のように，この場所に「足を運び」「聞いて」「学ぼう」とする姿勢は素晴らしい。
・醍醐コミュニティバスを使って，地域の良さをいっぱい発見したのではないか。
・地域の美しさや優しいを感じただけでなく，パンフレットやガイドブックで発信していくアイデアであった。
・「発見」は自分自身をも発見するという大切な学習であると感じた。

「人づくりはまちづくり，また，まちづくりは人づくりである」ことを実感させられる２校の発表であった。



図 5-１３ 講評風景

オ 京都市立衣笠小学校

京都市立衣笠小学校の発表は，教諭から行われた。

「地域を素材とし地域の魅力を発見し発信する」という総合の授業を各学年で実施しているが，その中から６年生と３年生の取組が紹介された。

まず６年生の「世界に誇る都市京都」として市バスを利用した市内観光巡りを行い，「自分たちしか知らない京都の良いところ」と伝える時間を持った。また，その後市内観光巡りで利用した市バス観光の「良かったところ」と「困ったところ」について話し合った。

良かった点としては「車内アナウンスが分かりやすい」「停留所が多い」「乗り遅れても次がすぐに来る」といった意見が出た。反対に困った点としては「時刻通りに来ないことがある」「外国からの観光客で混雑していた」「座席が少ない」等があがった。

その後グループで話し合いながら，バスの形状や運行システムの改善まで話が及び，この単元が予定より大幅に時間を取ることになったと報告された。

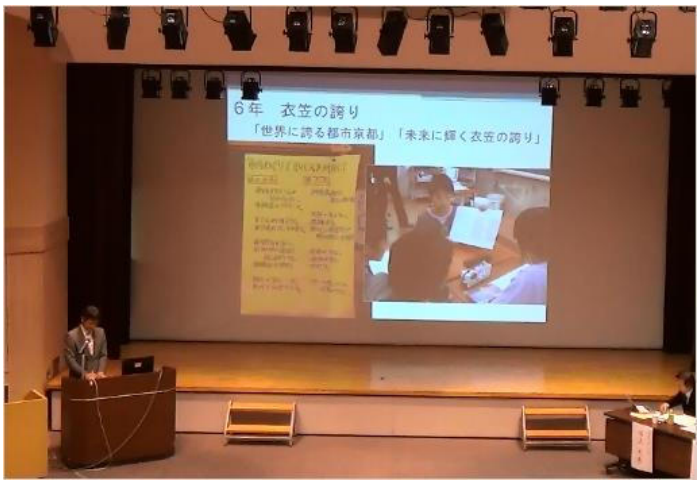
子どもたちが考えたバスの改善案には，「市民と観光客を前後２つに分けて分散させ，乗り降りをスムーズにする」や，「観光客だけが乗れるフリーバスを運行してはどうか」といった案が出た。

次に３年生の取組では「衣笠のピカイチさん」として，伝統文化を通してそれに携わる地域の達人へ触れた授業が実施されたが，歴史的なお話等３年生には少し無理のある内容もあったのではないかと感想を述べられた。

更に一年を通して平野神社の「さくら」についての学習も実施され，自然としての桜と，観光資源としての桜と色んな側面から「さくら」について学んだようだ。

また地域の行事として「神幸祭」を社会科ともリンクして取り上げた。


歩くまち京都　交流会
総合的な学習の時間
衣笠のめぐみ～衣笠のほこり
－地域の魅力を発信しよう－


6年　衣笠の誇り
「世界に誇る都市京都」「未来に輝く衣笠の誇り」

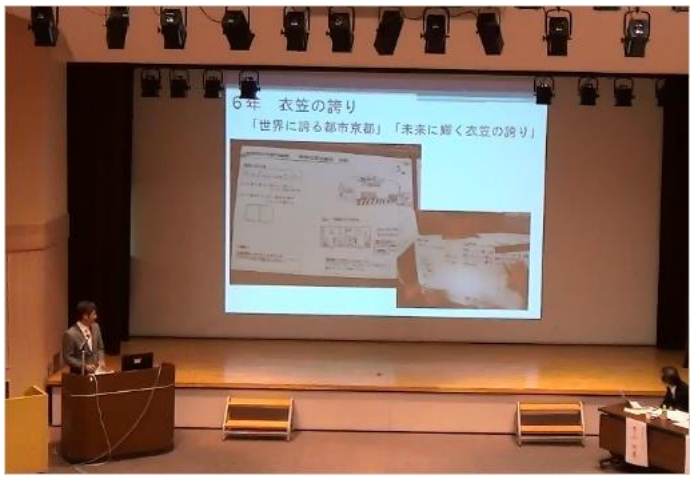

6年　衣笠の誇り
「世界に誇る都市京都」「未来に輝く衣笠の誇り」

図　5-１４　発表風景

① スライド

歩くまち京都　交流会

総合的な学習の時間
衣笠のめぐみ～衣笠のほこり
―地域の魅力を発信しよう―

京都市立衣笠小学校
研究主任　石本　順嗣

学校教育目標
「人を大切にし，
自ら主体的に学ぶ子ども」の育成



衣笠小学校の校区



地域を素材にした学習

各学年が，
地域の「すてき」を
見つけて





校区内
ウォークラリーで
伝えよう

地域を題材にした学習（主なもの）

	教材	時期	単元	目標・内容	人材
3年	総合	9～11月	お茶のこと（予定）	地域の伝統産業に携わる人々の姿を見学したり，体験を通して，伝統文化などの魅力について気付き，大切にしたいという思いをもつことができる。	見学：（つつみお茶の（河田さん）・日本刺繍（東田さん）・墨（小野さん） 体験：和菓子（三田村さん）・筆子（橋本さん）
	総合	2～3月	きくのフェスティバル	発表会に自ら参加してきくの魅力を伝える。	学びに参加している育成会力（東田さん・山本さん）
4年	総合	6～10月	環境プロジェクト	地域の一員としてよりよい環境を守るために何ができるか考え実践しようとする。	地域の先生自慢
	総合	1～3月	福祉プロジェクト	人にあふれた作りを目的に活動で学ぶ（ボランティアなども含む）お年寄りとの交流を通じて自分たちにできることを考える。	すこやかプランの企画運営をしている方（森光さん・山本さん） 地域の安全を守るボランティア（河崎さん）
5年	総合	5～11月	お茶の魅力時代	自分たちが住む衣笠が安心安全な町となるようにお茶たちができることを考え，地域の人たちにも考えていってもらうことを提案する。	生産農家（三谷さん） 京都府立丹波高等学校市須知分校研究所（綾一郎教授）
	総合	9～11月	働く人々と思いにせまれ！	手作りが主流なあたたかい仕事や伝統文化に関わる仕事など，おふくのかたちでも（仕事をすることに生きがいをもち，よりよい生活をしていきたいと思いをもつようにする。	伝統文化（高林さん） なしみのお（佐伯 和幸様）
6年	総合	1～3月	お茶の誇り	お茶に関わっていて誇りとするものを探究する。誇りに思うものの中からさらに絞り込むウォークラリーを通して下級生に，発信を使って積極的に伝える。	地域ウォーク（寺社・伝統産業・伝統文化等）
1・2年は生活科で町たんけん・むかしあそびなど					

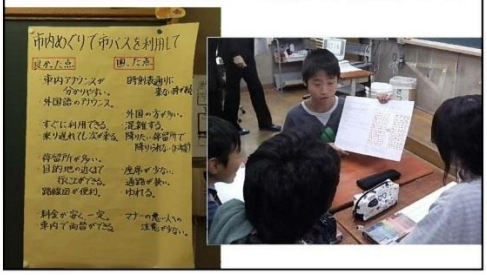
6年　衣笠の誇り

「世界に誇る都市京都」「未来に輝く衣笠の誇り」



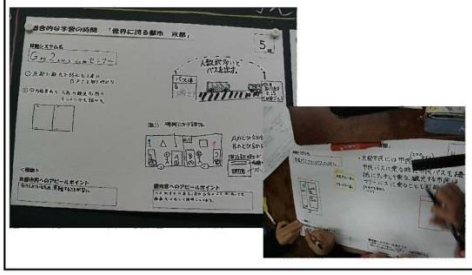
６年　衣笠の誇り

「世界に誇る都市京都」「未来に輝く衣笠の誇り」



６年　衣笠の誇り

「世界に誇る都市京都」「未来に輝く衣笠の誇り」



３年　衣笠のめぐみ

「衣笠のピカイチさん」「さくらさくら」



３年　衣笠のめぐみ

「衣笠のピカイチさん」「さくらさくら」



桜餅につかわれている
「オオシマザクラ」

３年　衣笠のめぐみ

「衣笠のピカイチさん」「さくらさくら」



神幸祭での行列の様子

たてわり活動　校区内ウォークラリー





クイズ

桜で有名な平野神社ですが，
平野神社には，４０種類以上の
桜の木がある。

「YES」or「NO」

YES

約６０種類・４００本の桜の木



クイズ

平野神社には，冬にも花を咲かす
桜の木がある。

「YES」or「NO」

YES



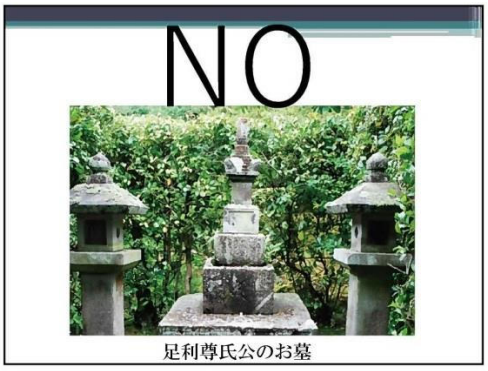
２月２８日　撮影

クイズ



等持院は豊臣家の菩提寺で，
豊臣秀吉のお墓がある。

「YES」or「NO」



足利尊氏公のお墓



② クイズ

衣笠小学校からは，校区内にある名所に関するクイズ出題された。

Ｑ１　桜で有名な平野神社ですが，平野神社には，４０種類以上の桜の木がある。ＹｅｓかＮｏか？



８割の方が「Ｙｅｓ」を掲げ，正解が多かったが，約６０種類という回答が出た際に，会場内から驚きの声が上がったことから，知識として知っていたという訳ではなかったように見受けた。

Ｑ２　平野神社には，冬にも花を咲かす桜の木がある。ＹｅｓかＮｏか？



大半の方が「Ｙｅｓ」を掲げ，正解が多かったが，こちらも前問同様に，会場内から驚きの声が上がった。

Ｑ３　等持院は豊臣家の菩提寺で，豊臣秀吉のお墓がある。ＹｅｓかＮｏか？



大半の方が「Ｎｏ」を掲げ，正解が多かった。こちらは全国的に有名な寺院であることから，認知されていたように感じた。

カ 京都市立岩倉北小学校

京都市立岩倉北小学校の発表は，教諭２人から行われた。

校区内に公共交通は京都バスのみという地域だからこそ，交通の多様性を学ぶ意味があるとして，平成２７年度よりMM授業に取り組んできているため，年を追って取り組んできた授業についての紹介が行われた。

まず平成２７年度には６年生の総合学習で「わたしたちのくらしと交通」として出かける際に「クルマ」と「公共交通」のどちらが良いか聞くと，授業前には２１：１と圧倒的にクルマが良いと回答した児童が多かった。それを踏まえて「クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろうか」を調べながら単元を進めていくと，単元終了後再び同じ質問をすると８：１４と「公共交通機関の方が良い」と気持ちに変化が見られた。ただ，自分たちのまちではクルマを必要であることから使い分けることが大切だと言った子供も多かったが，指導者としては少し不満が残ると述べられた。「京都市民としてのまちづくり」を考えてもらいたかったが，「自分は･･･」という視点になってしまったため，次年度からは３～６年生の社会科の中でどのようにして京都市の勉強をしていくかを意図的に組み入れていったということであった。

平成２８・２９年度と「歩くまち・京都」学習実践校の指定をいただいたので，「わたしたちの京都市のまちづくりを主体的に調べ考える子ども」をテーマに授業を実施した。

「歩くまち・京都」学習実践校に指定された２年間の取組は以下の通りである。

平成２８年度の取組		
３年生	社会科	わたしたちのまち 「京都市のまちの様子」
４年生	社会科	きょう土をひらく 「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」
５年生	社会科	情報化した社会とわたしたちの生活 「情報ネットワークとわたしたち」
６年生	社会科	わたしたちの生活と政治 「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」
平成２９年度の取組		
３年生	社会科	地いきや生活のうつりかわり 「昔を伝えるもの」
５年生	社会科	わたしたちの生活と環境 「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」
６年生	社会科	わたしたちの生活と政治 「わたしたちの願いを実現する政治」


Kyoto City Iwakura north Elementary School
「歩くまち・京都」学習実践発表会
研究報告
京都市立岩倉北小学校
2018.3.4 ハートピア京都


平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
総合「わたしたちのくらしと交通」
クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう
市内巡りコースを計画する
クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる
京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる
京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる
市内巡り

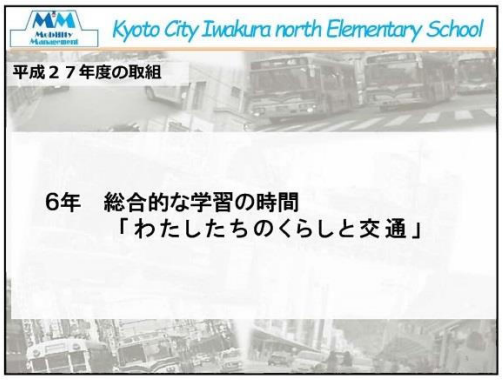

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」

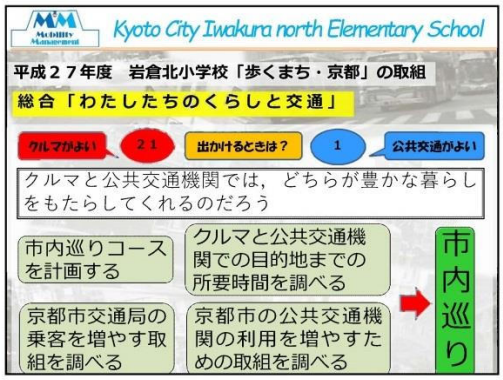
図　5-１５　発表風景

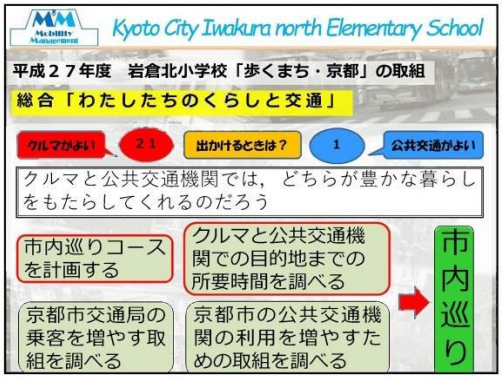
① スライド


Kyoto City Iwakura north Elementary School
「歩くまち・京都」学習実践発表会
研究報告
京都市立岩倉北小学校 松村 一也
@2018.3.4 ハートピア京都


Kyoto City Iwakura north Elementary School
はじめに
小学校
市役所

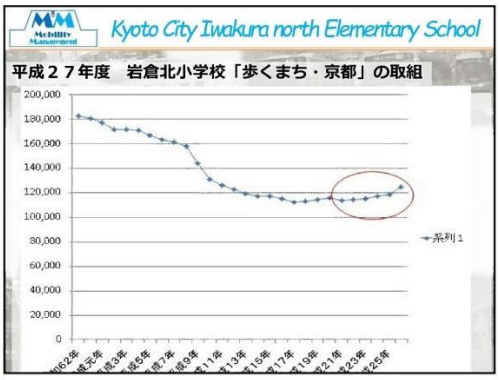

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度の取組
6年 総合的な学習の時間
「わたしたちのくらしと交通」


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度 岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
総合「わたしたちのくらしと交通」
クルマがよい
2 1
出かけるときは？
1
公共交通がよい
クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう
市内巡りコースを計画する
クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる
京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる
京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる
市内巡り

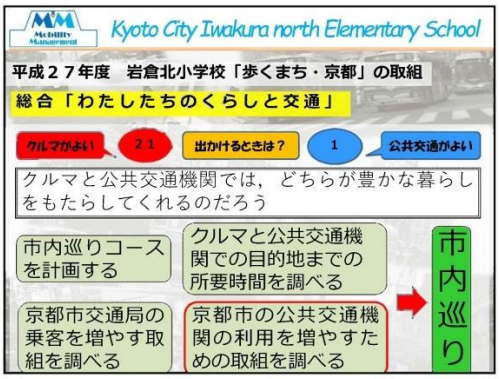

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度 岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
総合「わたしたちのくらしと交通」
クルマがよい
2 1
出かけるときは？
1
公共交通がよい
クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう
市内巡りコースを計画する
クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる
京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる
京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる
市内巡り


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度 岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
主要な観光名所間アクセス早見表

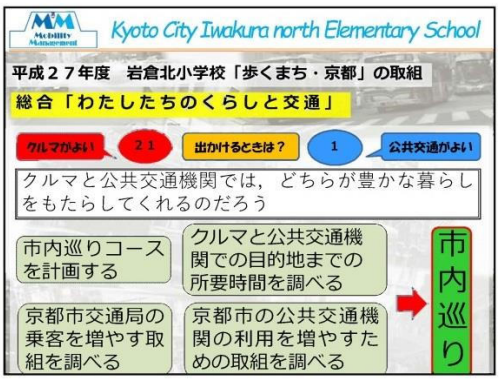

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
総合「わたしたちのくらしと交通」
クルマがよい
２１
出かけるときは？
１
公共交通がよい
クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう
市内巡りコースを計画する
クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる
京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる
京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる
市内巡り


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
200,000
180,000
160,000
140,000
120,000
100,000
80,000
60,000
40,000
20,000
0
系列1


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
バス停


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
総合「わたしたちのくらしと交通」
クルマがよい
２１
出かけるときは？
１
公共交通がよい
クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう
市内巡りコースを計画する
クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる
京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる
京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる
市内巡り


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
駐車場入口
株式会社
三運輸


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
総合「わたしたちのくらしと交通」
クルマがよい
２１
出かけるときは？
１
公共交通がよい
クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう
市内巡りコースを計画する
クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる
京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる
京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる
市内巡り

Kyoto City Iwakura north Elementary School

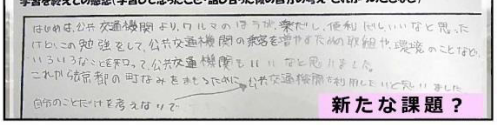
平成２７年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

総合「わたしたちのくらしと交通」

クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう

クルマがよい　8　使い分ける　14　公共交通がよい

学習を終えての感想（学習して思ったこと・話し合った後の自分の考え・これからのことなど）



新たな課題？

Kyoto City Iwakura north Elementary School

京都市における「歩くまち・京都」学習の趣旨

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を実践する。

Kyoto City Iwakura north Elementary School

社会科の目標　～学習指導要領解説より～

社会生活についての理解を図り，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。



Kyoto City Iwakura north Elementary School

岩倉北小学校「歩くまち・京都」学習の研究テーマ

わたしたちの京都市のまちづくりを主体的に調べ考える子ども

京都市の地理，歴史，政治，伝統文化，人々のくらしの教材化の工夫

今から将来にわたって
よりよい社会（京都市のまち）をつくる人へ

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成28年度の取組

3年 社会 わたしたちのまち
「京都市のまちの様子」

4年 社会 きょう土をひらく
「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」

5年 社会 情報化した社会とわたしたちの生活
「情報ネットワークとわたしたち」

6年 社会 わたしたちの生活と政治
「京都のまちづくりを進める政治とわたしたち」

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２８年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

４年社会「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」

琵琶湖疏水が完成して，京都のまちはどのようになったのだろうか。



Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２８年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

４年社会「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」

琵琶湖疏水が完成して，京都のまちはどのようになったのだろうか。

琵琶湖疏水の水の力で電気をつくることによって，様々な産業を盛んにしたんだね。

できたばかりの市電だったから，今とは違うと思うけど，移動が楽になったり，観光客がきたりしたんじゃないかな。

市電もその中の一つで，日本で初めて電車が走ったことで町もどんどんにぎやかになったと思うよ。

琵琶湖疏水ができて，京都は大きく変わり，今の京都に近づいてきた。

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成29年度の取組

3年 社会 地いきや生活のうつりかわり
「昔を伝えるもの」

5年 社会 わたしたちの生活と環境
「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」

6年 社会 わたしたちの生活と政治
「わたしたちの願いを実現する政治」

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

３年社会「昔を伝えるもの」

新学習指導要領における記述（市の様子の移り変わり）

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
(ｱ) 市や人々の生活の様子は，時間の経過に伴い，移り変わってきたことを理解すること。
(ｲ) 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして，年表などにまとめること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
(ｱ) 交通や公共施設，土地利用や人口，生活の道具などの時期による違いに着目して，市や人々の生活の様子を捉え，それらの変化を考え，表現すること。

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

３年社会「昔を伝えるもの」



Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

３年社会「昔を伝えるもの」



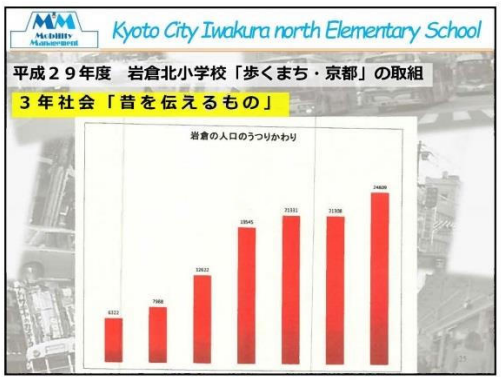
岩倉はどのようにしてかわっていったのだろう

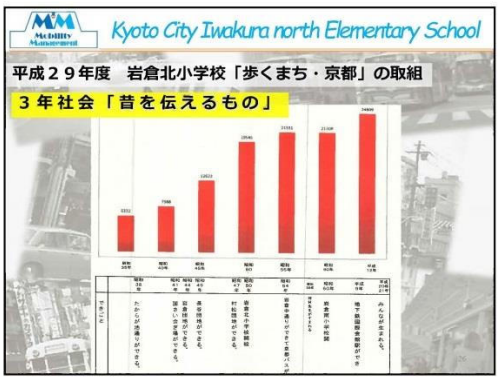
Kyoto City Iwakura north Elementary School

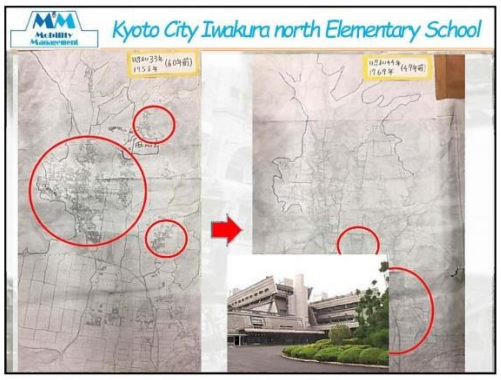
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

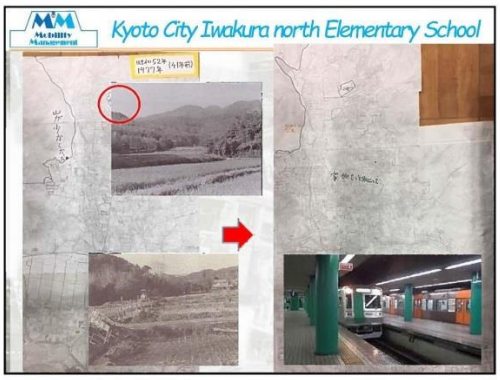
３年社会「昔を伝えるもの」

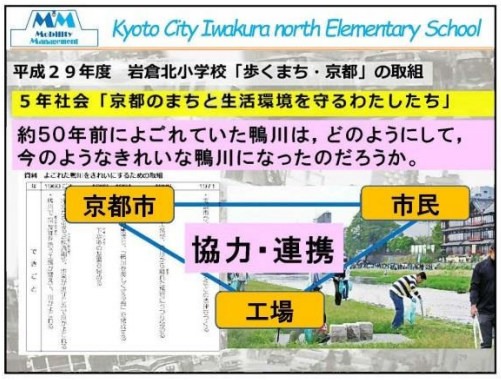


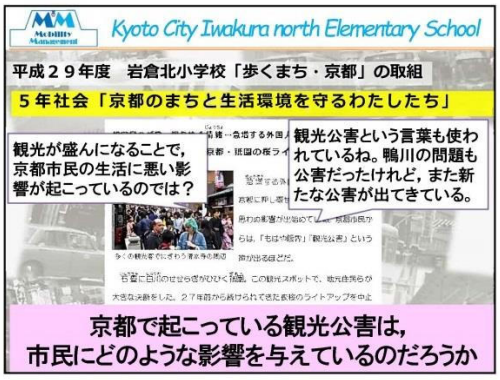

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
３年社会「昔を伝えるもの」
岩倉の人口のうつりかわり


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
３年社会「昔を伝えるもの」

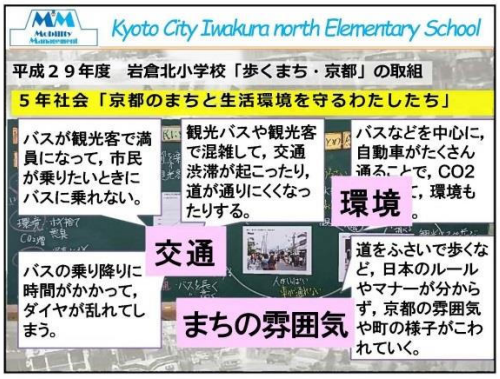

Kyoto City Iwakura north Elementary School

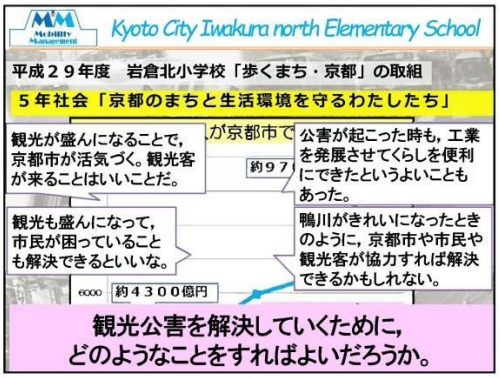

Kyoto City Iwakura north Elementary School

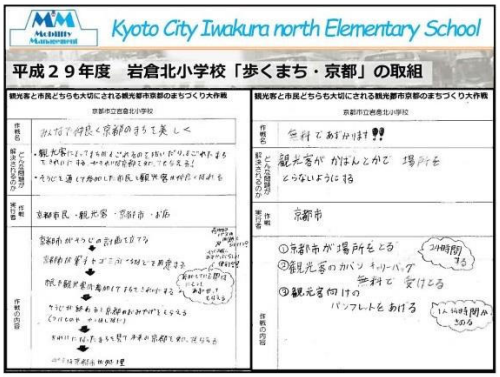

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
５年社会「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」
約50年前によごれていた鴨川は，どのようにして，
今のようなきれいな鴨川になったのだろうか。
京都市
市民
協力・連携
工場

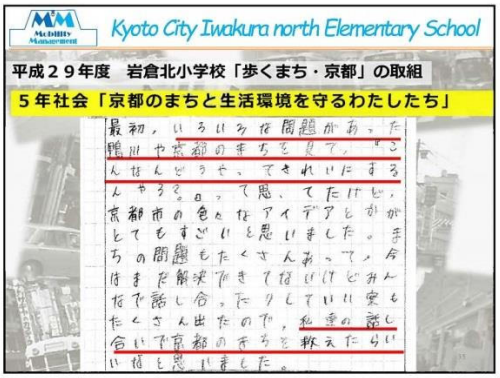

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
５年社会「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」
観光が盛んになることで，
京都市民の生活に悪い影響が起こっているのでは？
観光公害という言葉も使われているね。鴨川の問題も公害だったけれど，また新たな公害が出てきている。
京都で起こっている観光公害は，
市民にどのような影響を与えているのだろうか

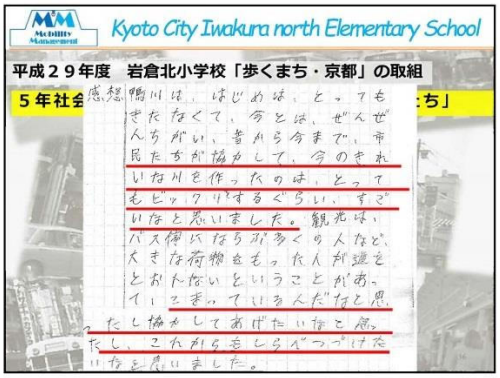

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
５年社会「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
５年社会「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」
バスが観光客で満員になって，市民が乗りたいときにバスに乗れない。
観光バスや観光客で混雑して，交通渋滞が起こったり，道が通りにくくなったりする。
バスなどを中心に，自動車がたくさん通ることで，CO2
，環境も
環境
交通
バスの乗り降りに時間がかかって，ダイヤが乱れてしまう。
道をふさいで歩くなど，日本のルールやマナーが分からず，京都の雰囲気や町の様子がこわれていく。
まちの雰囲気


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
５年社会「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」
観光が盛んになることで，京都市が活気づく。観光客が来ることはいいことだ。
約９７
公害が起こった時も，工業を発展させてくらしを便利にできたというよいこともあった。
観光も盛んになって，市民が困っていることも解決できるといいな。
鴨川がきれいになったときのように，京都市や市民や観光客が協力すれば解決できるかもしれない。
約４３００億円
観光公害を解決していくために，
どのようなことをすればよいだろうか。


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

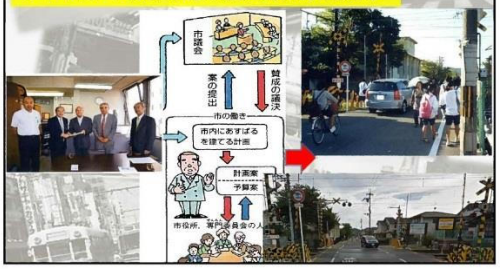

Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
５年社会「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」



Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」



なぜ２９億円ものお金を使って，四条通りの工事を行ったのだろう

Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」

資料1　工事前の四条通の様子

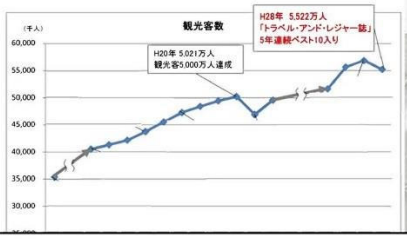


Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」

資料2　京都市の観光客数の変化



Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」

資料3　京都市のまちづくりの取組



Kyoto City Iwakura north Elementary School

平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組

６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」

資料4　四条通の近くの観光地（花見小路通り）の様子




Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」


Kyoto City Iwakura north Elementary School
平成２９年度　岩倉北小学校「歩くまち・京都」の取組
６年社会「わたしたちの願いを実現する政治」
今後の課題？


Kyoto City Iwakura north Elementary School
「歩くまち・京都」学習実践発表会
研究報告
京都市立岩倉北小学校 松村 一也
@2018.3.4 ハートピア京都

② クイズ

岩倉北小学校からは，「歩くまち・京都」実践授業の内容からクイズ出題された。

Ｑ１　岩倉の町の人口の増加は，１９６６年に国際会館ができたことで，広い道路が作られ，市バスが岩倉まで来るようになったことや，１９９７年に地下鉄が乗り入れたことと関係している。ＹｅｓかＮｏか？



ほぼ全員の方が「Ｙｅｓ」を掲げた。当日の発表の中でも紹介されていたため，ほとんどの方が正解であった。

Ｑ２　京都市への観光客の増加にともない，公共交通期間を利用する人が増えたり，交通渋滞が起こったりするなど，京都市に住んでいる人たちへの悪影響も出てきている。ＹｅｓかＮｏか？



こちらもほぼ全員が「Ｙｅｓ」を掲げ，正解であった。

Ｑ３　京都市は，２９億円ものお金を使って，河原町通りから烏丸通りまでの間の四条通の車道を広げることで，渋滞をへらし，マイカーで観光がしやすいまちづくりを進めている。ＹｅｓかＮｏか？



こちらは「Ｎｏ」を掲げた約８割の方が正解であったが，６年生の授業からの出題であったため低・中学年の児童には少し難しかったように感じた。

キ 京都市立醍醐西小学校

京都市立醍醐西小学校の発表は，事務局による代理発表で行われた。

校区内には世界遺産の醍醐寺や山科川等自然に溢れた土地であるとともに，校区内を外環状線が走っており，更には醍醐バスターミナルや地下鉄醍醐駅を持つなど，暮らしの中に様々な交通が根付いている地域である。

しかし児童は自分たちの住む地域の魅力をあまり知らないという問題があったため，「歩くまち・京都」学習を通して，「地域の魅力を再発見」「地域への愛着を育む」ことを目標に授業を進めていった。

３年生では「お気に入りの場所を見つけ地域の魅力を再発見する」こと，４年生では「福祉の視点から地域を見直し，よりよいまちづくりを発信する」ことをテーマとした授業が実施され，その中から３年生の実践授業について発表された

地域の祭りに多くの人に来てもらうためにどうすれば良いかを考えた。事前までの事業で学校周辺の交通環境や，クルマ利用のメリットとデメリットを学習していた。メリットとしては外環状線は道幅も広く多くのクルマが走行できることや，市内北部や大阪等への移動が便利であるが，その反面デメリットとして多くのクルマが走行すると地球環境に影響を及ぼすのではないかという意見も上がった。

そこでクルマ利用のデメリットを考慮した上で，児童から出た環境に優しいと思われる地域の公共交通についても学習していった。そうした中で，実際に公共交通機関を利用して工場見学へ行くことも行った。徒歩で行くには遠すぎるが，バスを乗り継ぐと早く移動できると知ったことで，地下鉄以外の乗り物についても着目することができるようになった。そうした実体験をもとに，バスは電車以上に安く，様々な場所へ人を運ぶことが可能だと気付いた。

続いて醍醐コミュニティバスについても学んだ。バス停は 200m 間隔に設置され，高齢者はじめ地域住民の大切な足となっていることを知った上で，地域のお祭りである「醍醐ふれあいプラザ」について考える授業を実施した。醍醐地域以外からも多くの人に参加してもらうためにはどうすれば良いかを，交通に着目して考えたところ，クルマ利用は絶対にダメという訳ではないといった意見も見られた。

こうした授業を通して醍醐地域の交通についての見識を深め，交通手段とは行き先の状況や目的に合わせて考えて行くものであると学んだ授業となった。

４年生では福祉の視点で便利であると３年時に学んだ醍醐コミュニティバスを見ると，「運行本数が少ない」「地域によっては停留所がない」など改善点があることを知った。こうした現実を踏まえ，これからの地域発展のために必要なことを考え続けるとともに発信し，行動していくことが必要だと学んだ。


醍醐西小学校
「歩くまち・京都」実践授業のまとめ


授業の内容
1、学校のまわりの交通環境
外環状線
交通量が多い
車を使う
メリット
デメリット


だいご
地下鉄醍醐駅
醍醐バスターミナル

図　5-１６　発表風景

① スライド

京都市立醍醐西
小学校での実践

京都市立醍醐西小学校の実践









地域の魅力をあまり知らない。

・地域の魅力を再発見
・地域への愛着を育む

3年生	4年生
お気に入りの場所を見つけ**地域の魅力を再発見**する。	福祉の視点から**地域を見直し，**よりよいまちづくりを発信する。

醍醐西小学校
「歩くまち・京都」実践授業のまとめ



「たくさんの人に来てもらうために」
～地域のお祭りを通して～
日　　時　：平成30年2月27日（火）
実施場所：京都市立醍醐西小学校
対　　象　：第3学年39名

授業の内容

1、学校のまわりの交通環境



外環状線
交通量が多い

車を使う
メリット
デメリット



地下鉄醍醐駅

醍醐バスターミナル





・便利な交通機関
がたくさんある
・車を使うよりも
環境にやさしい

醍醐コミュニティバス

醍醐ふれあいプラザ



楽しい地域行事に
どうすればたくさんの人に
来てもらえるのかな？



たくさんお店を増やせばいい？



これまで学習したことを
いかして交通に着目して
考えました。

解決のための意見発表



学習を終えての感想

◎地域にはいろいろな乗り物があることが分かった。
◎車を使うのはぜったいにダメというわけでは無いことが分かった。
◎乗り物がたくさんあってどれを使えばいいのか分からなくなった。
◎色々乗り物があるけど、環境にいいのは地下鉄やバスだという事が分かった。
◎どこかへ行くときは歩いて行こうと思います。

3年生との交流





今後にむけて

車も公共の交通機関も
交通手段の一つです。
でも
目的に応じて
また
移動先（相手）のことを考えて
選択してほしい。

ご清聴ありがとうございました。

クイズ1

醍醐コミュニティバス
は38人乗りである。

醍醐コミュニティーバス
は立ち席を含め
38人乗りです。



クイズ2

醍醐コミュニティバス
のバス停の間隔は，
500mである。

醍醐コミュニティーバス
の停留所は，
200m間隔です。



クイズ３

醍醐



ま

で

信

緑道には，横断歩道は
ありますが，
信号はありません。



② クイズ

醍醐西小学校からは，醍醐コミュニティバスに関するクイズ出題された。

Ｑ１　醍醐コミュニティバスは３８人乗りである。ＹｅｓかＮｏか？



７割程度方が「Ｎｏ」を掲げたが，不正解であった。やはり醍醐地域にしか走行していないため，地域住民以外にはあまり知られていないように感じた。

Ｑ２　醍醐コミュニティバスのバス停の間隔は５００ｍ間隔である。
ＹｅｓかＮｏか？



ほぼ全員が「Ｎｏ」を掲げ，正解であった。こちらは発表内容にあったため多くの人が分かったようだった。

Ｑ３　醍醐駅から醍醐寺まで続く緑道には，信号が２つある。ＹｅｓかＮｏか？



さすがに地元住民にしか分からない内容であったため，ほぼ半分に回答が割れた。正解は「Ｎｏ」で信号はない。

ク 講評①

全実践校の発表終了後，まず京都市教育委員会岡主任指導主事より講評をいただいた。講評は以下の通りである。

先日ある講演を聞きに行った際に「まちは創ろうとして創られる」と言っていたが，果たしてそうだろうか。それ以前に考えたことや，「形」にしたことはあっただろうかと思うとなかった。本日の発表で気付かされたことが多かった。

【高倉小学校について】
歌とパンフレットで形にしてくれた。
【小栗栖宮山小学校について】
ガイドブックで形にしようとしてくれた。
【衣笠小学校について】
ウォークラリーで形にしていた。今後の改善として「案」を出してまとめていた。
【岩倉北小学校について】
マークを作って形にしてくれた。～大作戦という名前で今後について考えてくれた。
【醍醐西小学校について】
これからの意見をまとめたり，気付きを感想としてまとめて形にしてくれた。

以上の多くのことを学んだ。またこのような交流する場があって，多くの方に来ていただけたことも大きかった。形にしたものを発信する場として，このような場が残っていってほしい。



図 5-17 講評風景

ケ 講評①

続いて，公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団岡本課長より講評をいただいた。講評は以下の通りである。

本日は遠くは札幌からもお越しいただいている。

「歩くまち・京都」ということで，校区内や京都市内，京都府内のことを調べ，実際に足を運び，聞き，最後は本日の発表といった形で成果をまとめていただいた。

皆さんが普段どのように移動をされているのか分からないが，学習する中でバス・地下鉄・コミュニティバスと様々な交通手段がある中で，何らかの理由から行きやすいものを選んでいると思う。ただ実際に目的地に行って調べるとなった際に，例えばお寺であればどのような歴史があり，どのように行くかを調べたのではないか。その中で時刻表や路線図があるが，なかなか使おうと思わなければ知ることができないものを，今回「歩くまち・京都」学習実践発表会を通じて知ることができ，どのように行けば良いかといったあたりを学習されたのかと思う。

高倉小学校の中に「自分たちのことだけ優先する」というキーワードがあった。歩いている人がいるのにクルマが速度を出して通行し，横断したいと思ってもなかなか止まってくれないこともある。

また免許を所持していない人でも簡単に移動できるものが，今回学習したバスであり電車である。更に歩いたり，自転車に乗ることも安全・安心にできることは，本日来られている京都市の方々や公共交通を走らせたりしている人が考えて，先程岡先生のお話にもあった「まち」を創っている。このような学習を通じて，自分たち野住んでいる町や京都市，日本を安・全安心だけでなく，外国や他から来てくれる人にも楽しんでもらえる・安心してもらえるまちを考えていただける今後になれば良いと思っている。

今回伺って，学習だけでなく歌やクイズで私自身が京都のことや地域のことを色々と勉強させていただいた。



図 5-１８ 講評風景

コ 閉会挨拶

最後に，高畑歩くまち京都推進室長の挨拶で閉会とした。

挨拶は以下の通りである。

本日，「歩くまち・京都」学習実践発表会をこのような多くの皆様のご参加のもと開催できたことを心より御礼申し上げる。

京都教育大学水山先生，京都市教育委員会の途中退席されたが松下先生・岡先生，交通エコロジーモビリティ財団岡本課長ありがとうございました。

また学習実践校の先生方，子ども達の活動を支援いただいております地域の皆様，保護者の皆様にも感謝申し上げる。何よりしっかりとした学習をし，発表していただいた子どもたちに御礼申し上げる。

今年初めてこの取組を行い，５校に発表いただき，楽しいクイズや歌の発表もあり，大変楽しい発表になったのではないかと思う。私もクイズに参加したが，ずいぶん間違ってしまい，改めて学習し直す必要があると実感した。

発表された５校で一口に「京都市」と言っても地域の課題・実情は様々であると感じながら聞いていた。都市部の高倉小学校では交通安全と通りの復建，一方で周辺地域では住民の大切な足となっているコミュニティバスの問題，また最近観光客の皆様が非常に多くなっている関係での市バスの混雑がある中で，そうした問題を主体的に考えていただける大切な機会であった。

また，各学校それぞれの取組を交換していただくことを通じて，地域と交通・まちづくりについて考えていただける機会になったのではないか。

明日のまちづくりの主役である子どもたちに，こうした学習の機会を提供できればと思っている。そのような機会を地域の皆様，学校の皆様，関係者の皆様と一緒に築いていければと思っているので，どうぞ宜しくお願いしたい。

本日は多用な中，ご出席賜りありがとうございました。



図 5-１９ 閉会挨拶風景

(5) 来場者アンケート

当日配布した資料の中に来場者アンケートを同封し，終了後に回収した。

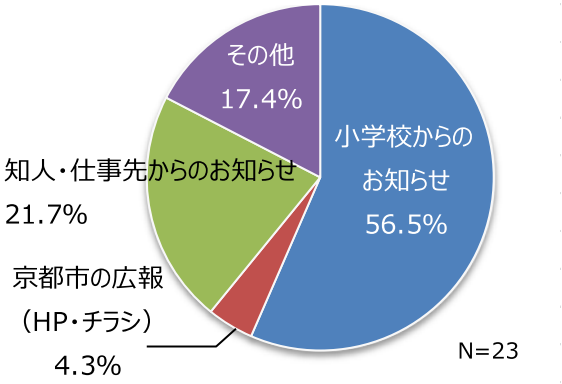
その結果を以下にまとめる。

開催日時：平成 30 年 3 月 4 日　9 時 30 分～12 時 00 分
開催場所：京都府立総合社会福祉会館ハートピア京都　大会議室（3 階）
回 収 数：23 件（参加人数 110 名）

問１　本日のシンポジウムを、どのようにして知られましたか？

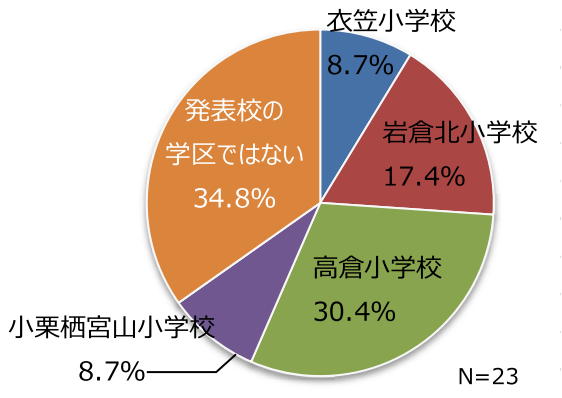
・　「小学校からのお知らせ」と回答した方が 56.5%と最も多く、続いて「知人・仕事先からのお知らせ」が 21.7%、「その他」が 17.4%、「京都市の広報」が 4.3%となっている。

・　「その他」は「MM会議で知った」や「担当・発表者として」であった。



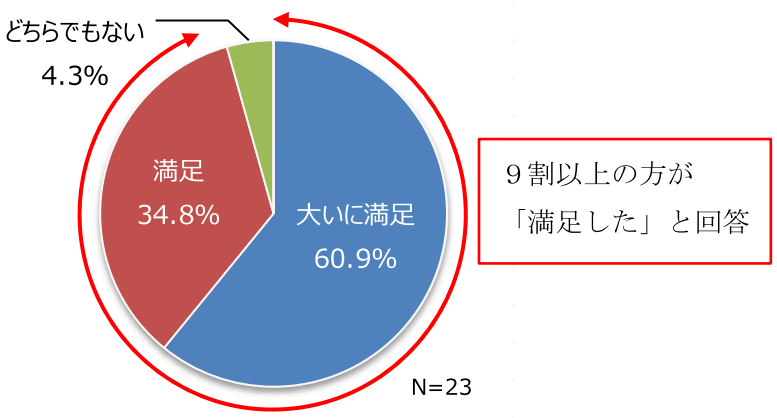
問２　本日、発表された学習実践校の学区に住まわれている場合は、どちらの学区ですか？

・　「発表校の学区ではない」と回答した方が 34.8%と最も多く、続いて「高倉小学校」が 30.4%、「岩倉北小学校」が 17.4%、「衣笠小学校」「小栗栖宮山小学校」が 8.7%となっている。



問３　本日のシンポジウムのご感想を、お聞かせください。

・　「大いに満足」と回答した方が 60.9%と最も多く、続いて「満足」が 34.8%、「どちらでもない」が 34.8%となっている。



問４　本日のシンポジウムの良かった点・改善すべき点について、お気づきの点があれば教えてください。

いただいた 18 件のご意見は以下の通りである。

・　京都市全体に広げていくため，指定校以外の教員をどれだけ呼び込めるかが重要だと思います。

・　子どもの視点が良かった。

・　大変良い取組でした。

・　子どもたちの実践発表あり，先生方の報告あり、大変良かったです。

・　Yes-No クイズも面白かったです。

・　基本的には子どもたちが発表する場とする。地域住民の参加者。学校（子どもと教師）と地域（PTA）との連携して実践。

・　とても良いです！

・　子どもたちのまちに対する思いの形が興味深かったです。何かの形でこのような場が続けばと思います。

・　やはり先生だけではなく，児童が発表するべきであると感じました。宮山小最高でした。

・　最初の取組と聞いていましたので，今後ますますの発展に期待しています。

・　子ども・学校が主体となって活動していたことが素晴らしいと感じました。

・　各学校のオリジナリティが溢れていて良かった。さすがは学校，素晴らしい！今後更に発展することを望みます。

・　本市では生徒が参加した発表会という形のものは行っていないため，大変参考になりました。

・　子どもたちが一生懸命練習してきたのが，よく分かる発表でした。京都は名所がたくさんあり，観光客も多いので歩く人に優しいまちであってほしいと思います。

・　高倉小学校と岩倉北小学校の２校だけが立派なリーフレットがあったが，他の学校はどうしたのでしょうか？資料（リーフレット）とスライドの併用でしたが，短時間のためか細かい数字が解らなかった面もあり，発表時間を前後１回にし，質疑応答の時間を設けてはどうだろうか？

・　「歩くまち・京都」を学校教育という観点から捉えた。楽しいシンポジウムでした。やはり子どもたちが発表に加わった方が，盛り上がるようですね。

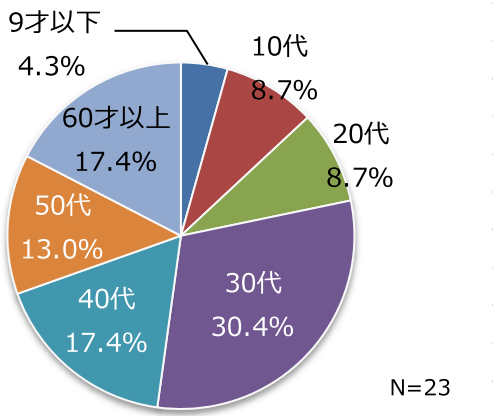
・　各校の実践発表から新たな発見がたくさんあり，楽しく聞かせてもらいました。

・　発表会の形式として，誰を対象として発表すれば良いのかがはっきりすると，もっと良いと思います。自分の発表も，子どもたちには少し退屈だったと思います（反省です･･･）。子どもたちの交流とするのか，学校現場に広げることが大切なのかを考えていきたいです。私的には現場に広げることが大切なのかなと思います。最後に素晴らしい機会をいただいて，ありがとうございます。

・　様々な取組・発表が聞け，良かったです。交流する場があるのは良いと思いました。反面，発表会の対象が誰に向けているのか，そこをより明確にすると，より会が盛り上がるもかもしれないと思いました。（子どもたちには難しい内容もあったため）。クイズの取組は面白かったです。今後もより良い暮らし，社会づくりに向けて，歩くまちを通して考えてみたいと思います。ありがとうございました。

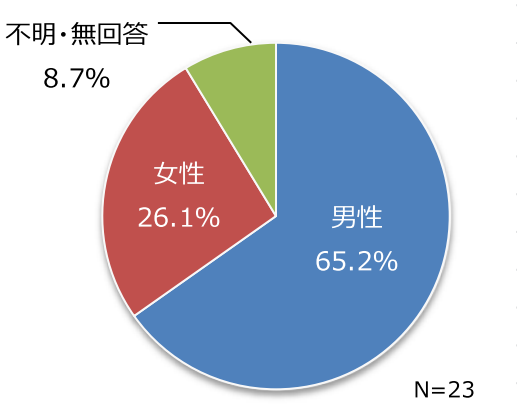
年齢

・　「30 代」と回答した方が 30.4%と最も多く、続いて「40 代」「60 才以上」が 17.4%、「50 代」が 13.0%、「10 代」「20 代」が 8.7%となっている。



性別

・　「男性」と回答した方が 65.2%、「女性」が 26.1%となっている。



6．資料作成

学校 MM 検討会を円滑に進めるため，資料や議事録等を作成する。

(1) 第１回検討会

第１回検討会で配布した資料は以下のとおりである。

①議事次第 ……208

②委員名簿 ……209

③配席図 ……210

④平成２９年度　小学校におけるモビリティ・マネジメント教育
（交通環境学習）の普及に向けての支援事業支援申請書 ……211

⑤平成２８年度「歩くまち・京都」学習実践校実施申請書 ……216

⑥「歩くまち・京都」学習実践発表会（仮称）について ……236

⑧「歩くまち・京都」学習実践校の取組における留意点について ……237

⑦「歩くまち・京都」学習実践校の経費支出の流れ ……239

⑩平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施報告書 ……240

平成２９年度　第１回「歩くまち・京都」学習検討会

日時：平成 29 年６月 15 日（木）18 時 00 分～
場所：中京区役所第１・第２会議室

議 事 次 第

1. 開会
2. 議事
   「歩くまち・京都」学習実践校の取組内容について
   「歩くまち・京都」学習実践発表会について
   その他
3. 閉会

［配布資料］

委員名簿
座席図
資料１　平成２９年度　小学校におけるモビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）の普及に向けての支援事業実施計画書
資料２　平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校実施申請書
資料３　平成２８年度　「歩くまち・京都」学習実践発表会（仮称）について
資料４　「歩くまち・京都」学習実践校の経費支出の流れ
資料５　「歩くまち・京都」学習実践校の取組における注意点について
資料６　平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校実施報告書

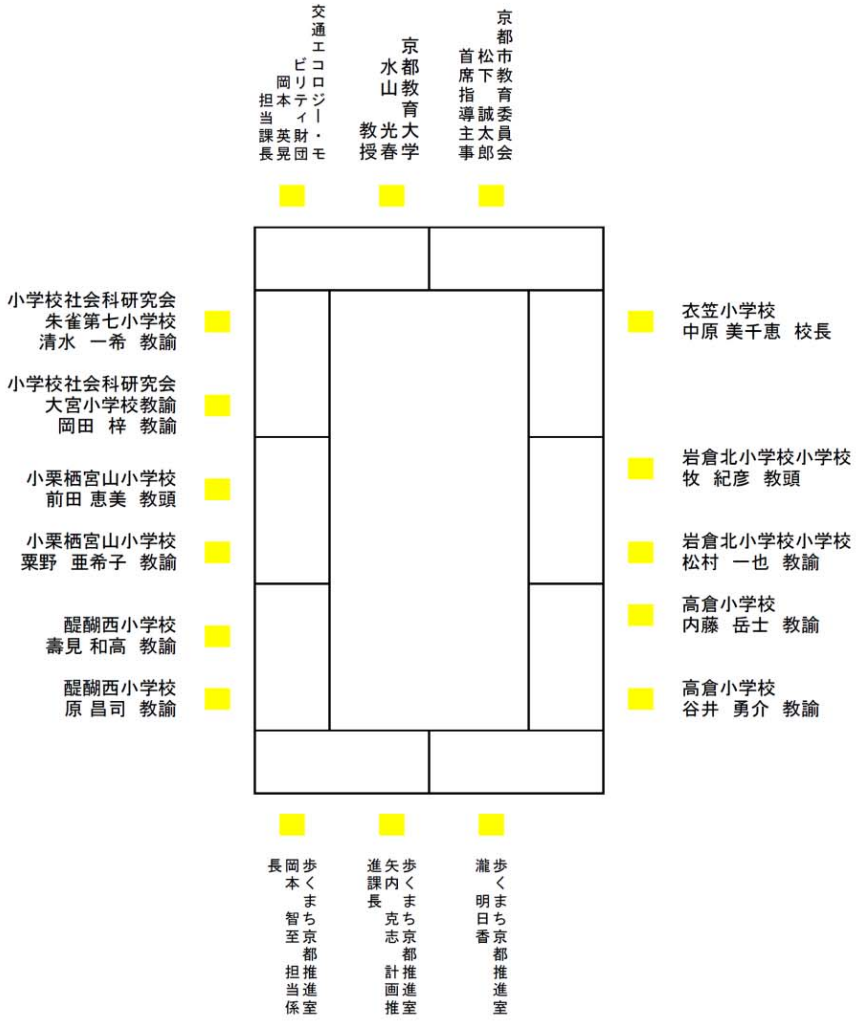
平成29年度第1回「歩くまち・京都」学習検討会　委員名簿

所属				
京都教育大学	教授	水山　光春	座長	
京都大学大学院	教授	藤井　聡	副座長	御欠席
愛媛大学大学院	教授	松村　暢彦	アドバイザー	御欠席
京都市教育委員会	学校指導課首席指導主事	松下　誠太郎		
京都市教育委員会	総合教育センター指導主事	岡　博士		御欠席
京都教育大学附属京都小中学校	教諭	深蔵　心理		御欠席
小学校社会科研究会	朱雀第七小学校教諭	清水　一希		
小学校社会科研究会	大宮小学校教諭	岡田　梓		

歩くまち・京都学習実践校		
京都市立衣笠小学校	校長	中原 美千恵
京都市立岩倉北小学校	教頭	牧　紀彦
	教諭	松村　一也
京都市立高倉小学校	教諭	内藤　岳士
	教諭	谷井　勇介
京都市立小栗栖宮山小学校	教頭	前田 恵美
	教諭	粟野　亜希子
京都市立醍醐西小学校	教諭	壽見 和高
	教諭	原 昌司

事務局		
京都市都市計画局歩くまち京都推進室	計画推進課長	矢内　克志
	担当係長	岡本　智至
		瀧　明日香
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境対策部 交通環境企画課担当課長	岡本　英晃

平成29年度第1回「歩くまち・京都」学習検討会　配席図



資料１

平成　　年　　月　　日

平成２９年度　小学校におけるモビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）
の普及に向けての支援事業
支援申請書

事業の名称
「京都市におけるモビリティ・マネジメント教育推進」事業

<table>
<tr><td rowspan="2">申請者</td><td colspan="2">団体名：
京都市</td></tr>
<tr><td colspan="2">代表者名：
門川　大作</td></tr>
<tr><td rowspan="7">連絡窓口</td><td colspan="2">所在地（都道府県名も記載）：
〒604-8571
京都府京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488</td></tr>
<tr><td>部署：
都市計画局歩くまち京都推進室</td><td>部署：
都市計画局歩くまち京都推進室</td></tr>
<tr><td colspan="2">役職：
係員</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当者氏名：
瀧明日香</td></tr>
<tr><td>ＴＥＬ：
075-222-3483</td><td>ＴＥＬ：
075-222-3483</td></tr>
<tr><td colspan="2">E-mail：
taqbb178@city.kyoto.lg.jp</td></tr>
<tr><td rowspan="2">連名者</td><td>部署：
教育委員会</td><td>役職：
学校指導課首席指導主事</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当者氏名：
松下　誠太郎</td></tr>
</table>

※ご記入いただいた個人情報は、当財団の「個人情報保護方針」(http://www.ecomo.or.jp/support/privacy.html)
に基づき適切な管理を行い、本支援事業のみに利用させていただきます。

1

１．事業の名称：**京都市におけるモビリティ・マネジメント教育推進**

２．事業内容（目的及び概要）：

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現を目指すため，平成 22 年 1 月に，「歩くまち・京都」総合交通戦略（以下，「戦略」という）を策定するとともに，「歩くまち・京都」憲章を制定した。戦略では，「既存公共交通」の取組，「まちづくり」の取組，「ライフスタイル」の取組の3つの柱の相乗効果により，「歩くまち・京都」の実現を目指している。

このうち，「ライフスタイル」の取組では「スローライフ京都」大作戦（プロジェクト）として，市民の意識と行動に直接働きかけ，過度なクルマ利用を控え，歩くこと，公共交通等を利用することへの転換を促す取組であるコミュニケーション施策（モビリティ・マネジメント）（以下「MM」という。）を推進している。

平成 24 年度から学識者，教育委員会，教員から構成される検討会を設置し，教育現場のニーズを把握しながら，小学校低学年，中学年，高学年向けの学習指導案を作成し，各学年のモデル授業を実施した成果を取りまとめて，教員がMM教育を実施する際に参考となる**ＤＶＤを作成して平成 26 年度に京都市内小学校全校（176 校）に配布し**た。

これにより，市内の小学校に対するMM教育の周知が行われたが，小学校の教員は多忙であり，各種団体・教育機関からのDVD等の配布物も多くあることから，DVDの配布等によるMM教育の普及効果をより深め，且つ，MM教育を市内で水平的に展開できるようにするためには，**継続的にモビリティ・マネジメント教育の実施を支援する体制の構築が不可欠**である。

そこで，平成27年度は，貴財団からの補助金を活用し，市内での水平展開を図る取組として，「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定（4校から応募，3校選定）や，モデル授業のバリエーション増加の取組として，ガリバーマップ（1部）の作成，2教諭におけるモデル授業の実施等，活発な取組を行った。

平成28年度は，「歩くまち・京都」学習実践校での取組を中心としたMMを進めるとともに，ガリバーマップを市立小学校全校に配布し，平成29年度の「歩くまち・京都」学習実践校を募集したところ，6校からの応募があった。平成29年度の取組としては，「歩くまち・京都」学習実践校を5校に増やし，市内での水平展開の拡大を図るとともに，「歩くまち・京都」学習の効果検証を行う。また，今後も継続的に市内で水平展開できるよう，「歩くまち・京都」学習実践校の地域住民，保護者，教員等が参加できる「歩くまち・京都」学習実践発表会を開催し，取組内容を広く発信する。

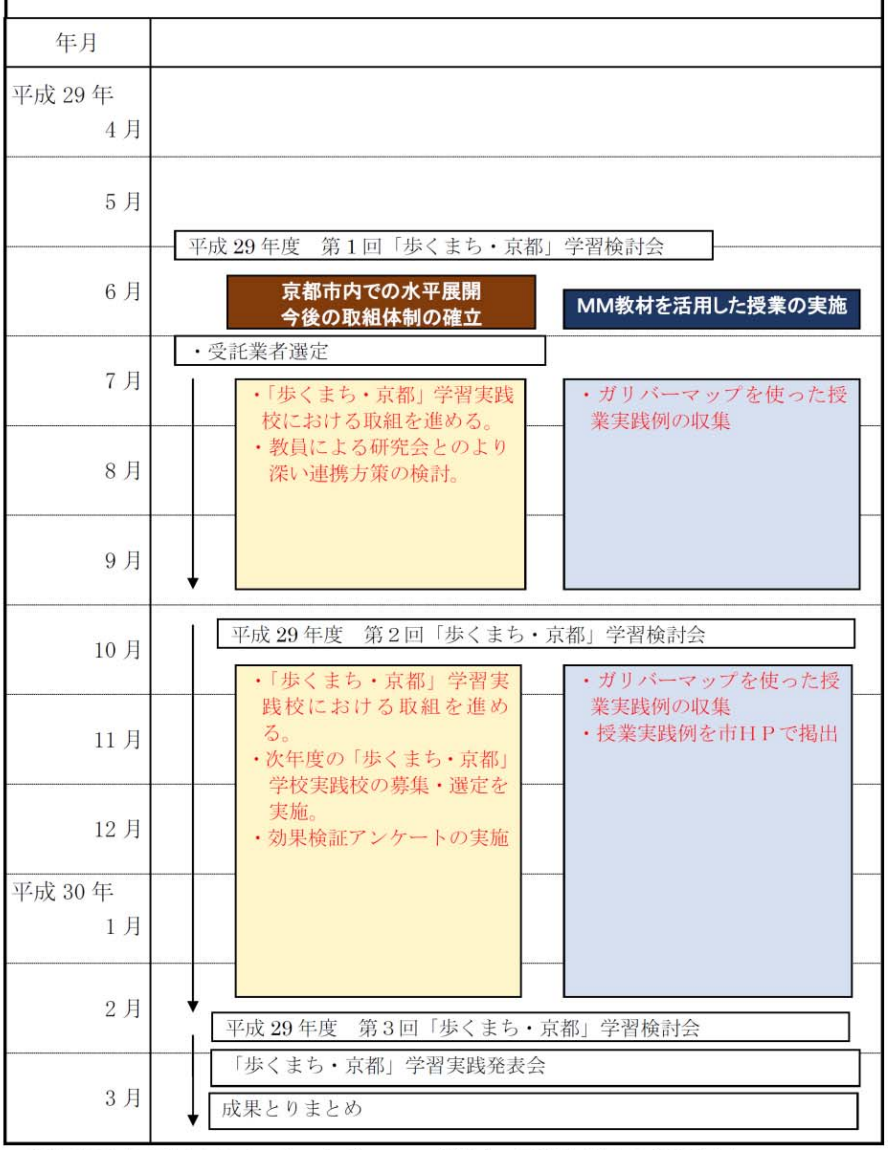
３．２９年度実施内容

平成 29 年度は，平成 28 年度に選定した「歩くまち・京都」学習実践校での取組を進めることを中心に，継続的な実施体制の確立に向けて，以下の内容に取り組む。

- 平成 28 年度に 5 校選定した「歩くまち・京都」学習実践校において，それぞれの小学校における学校MMの取組を支援するとともに，次年度の「歩くまち・京都」学習実践校を継続して募集・選定実施する（市費で実施予定）ことで，市内での水平展開を図る。
- 平成 28 年度に作成したMM教材である「ガリバーマップ」を全市立小学校に配布したため，それを使った授業実践例をまとめた授業実践例集を作成し，市のＨＰなどに掲出する。
- 今年度の「歩くまち・京都」学習実践校のうち，MMの効果検証の協力が可能である小学校において，「歩くまち・京都」学習授業の受講後数か月後に，生徒及びその保護者に対してアンケートを実施し，効果検証を行う。
- 今後も継続的に市内で水平展開できるよう，「歩くまち・京都」学習実践校の地域住民，保護者，教員等が参加できる「歩くまち・京都」学習実践発表会を開催し，取組内容を広く発信する。

４．２９年度スケジュール

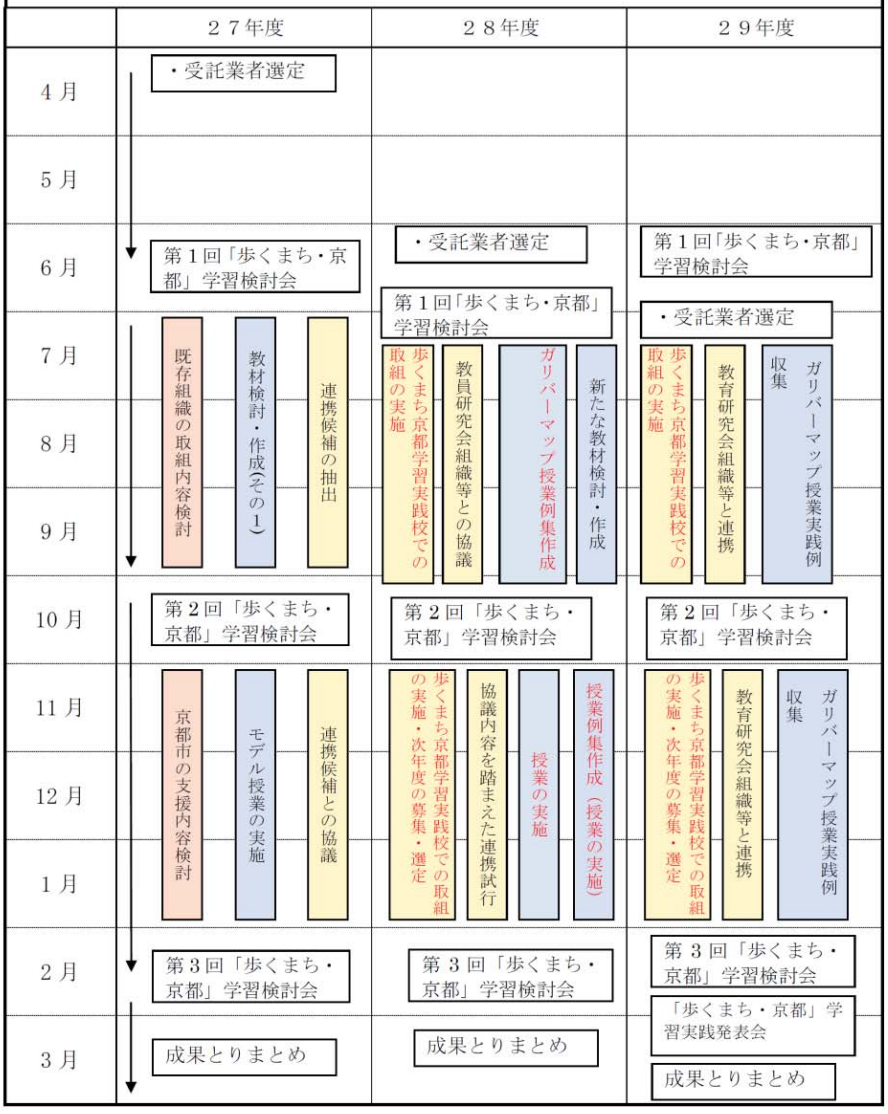
概ねの着手・実施期間を矢印（ ↕ ）等で記載してください。



（注）現時点で想定されているスケジュールの概略を、可能な範囲でご記入下さい。

５．３カ年実施スケジュール

支援期間中の取り組みについて、概ねの着手・実施期間を矢印（ ↕ ）等で記載してください。



６．２９年度概算経費

（単位：千円）

費目		内容	金額	算出根拠・内訳
委員会運営費	*事務局経費*	資料作成 議事録作成	480 千円	委託費
	委員報酬	検討会参加有識者への委員報酬	（100 千円）	報償費
	小計（A）		480 千円 （100 千円）	
交通環境学習実施費用		歩くまち・京都学習実践校への支援	1,000 千円	200 千円×５校
		歩くまち・京都学習実践校取組内容報告パンフレット作成	250 千円	委託費
		効果検証アンケートの実施	330 千円	
		京都市内での水平展開・今後の体制確立の検討	200 千円	委託費
		「歩くまち・京都」学習実践発表会の開催	100 千円	会場費，印刷費
	小計（B）		1,880 千円	
合計 （（A）＋（B））			2,360 千円 （100 千円）	

注１：交通エコロジー・モビリティ財団支援費以外に予算がある場合は、その費用を（　　）で記載してください。

注２：表については必要に応じて修正するか、本様式に準じ別紙に記載してください。

資料２

学校名	衣笠小学校
校長名	中原　美千恵

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

総合的な学習の時間・特別活動・（英語活動）

【研究テーマ】

※自校の具体的なテーマを記述すること。

衣笠のぬくもり・未来に輝く衣笠の誇り

～「自ら課題解決に向かい，伝え合い学び合う子ども」の育成～

【研究テーマの設定理由】

※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

本校は学校運営協議会，PTA，PTA 賛助会，見まもり隊など，多くの保護者・地域の方々が子どもたちのために様々な支援をして来られた。その人材を活用し，地域の物的財産を生かして地域に思いを寄せ，「衣笠が好き」という子どもを育みたいと言う思いで３年間地域を題材とした総合的な学習の時間の校内研究に取り組んできた。平成２８年度は「自ら課題解決に向かい，伝え合い学び合う子ども」を研究主題として，カリキュラムづくりの見直しと「伝え合う力」の育成を重点に取り組んだ。児童が主体的・能動的に授業に参加し，対話を重視しながら自ら課題を解決していくような授業の構築を目指してきた。

６年生は低学年の生活科，３年生からの総合的な学習で学んだことの集大成のような単元を構成している。地域の歴史的・文化的遺産や，地域に暮らす人との交流を通して衣笠の街のよさを考え未来に伝えていきたい，ということで全校ウォークラリーを企画・実施した。実施にはたてわり活動（特別活動）の時間も使っていた。カリキュラムマネジメントとして２９年度は取組の見直しが必要であるが，「歩いて衣笠の街のよさを伝える」という活動は大切にしていきたいと考えている。休日だけでなく平日も校区を大勢の観光が往来しているが，特に外国人観光客に紹介するなど，今後は英語の学習にも生かしたい。加えて２８年１２月に京都府警より校区東半分がゾーン３０の指定を受けた。歩行者の安全確保のためということであるが，だれもが安心して歩ける街づくりを４年の総合的な学習の時間で扱う環境・福祉「衣笠のぬくもり」で取り組むようにしたい。

【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ２枚程度まで。（書式は自由。取組内容を分かりやすく簡潔に記述すること。２枚を超えても良い。）

※下記の点については必ず記述すること。

【４年生　総合的な学習の時間「きぬがさのぬくもり」】他の取組

４月　総合的な学習の時間全体計画・カリキュラム作成

～５月　社会　ごみについての学習（環境センターの見学等）の後

「きぬがさのぬくもり」①環境プロジェクト　学習開始

～６月　　地域の環境の取組についてごみの分別とリサイクルについて調べる

グリーンカーテンについて調べ，アサガオを育てる

７月　エコライフチャレンジで地球温暖化について知る

「みさきの家」野外活動‥大自然の中での体験活動

みさきの家でのごみ処理について調べる。（自然を守るための取組）

～８月　家庭での取組

９月～１０月　調べたことをまとめ発表する。温暖化防止のためにできること。

１０月　　たてわり校区ラリー‥衣笠の街を歩いて魅力発見

１１月　　京都府警による自転車安全教室・ゾーン３０についての学習

～３月「きぬがさのぬくもり」②福祉プロジェクト　学習開始

お年寄りとの交流から，みんなが安全に歩ける街づくりについて考える。

【６年生　総合的な学習の時間「未来に輝く衣笠の誇り」】他の取組

４月　総合的な学習の時間全体計画・カリキュラム作成

～９月　地域の誇りについて調べる

１０月　たてわり校区ラリー‥衣笠の街を歩いて魅力を伝える

～１月　衣笠の魅力をもっと伝えよう

観光客に英語も使って伝える

自転車の乗り方などを見直し，安全な街づくりの提案をする。

・組織体制（教職員・保護者・地域など）　後述

・研究成果や課題に対する評価・取組

校内研究として，助言者を招いて総合的な学習の時間の授業研究をする。

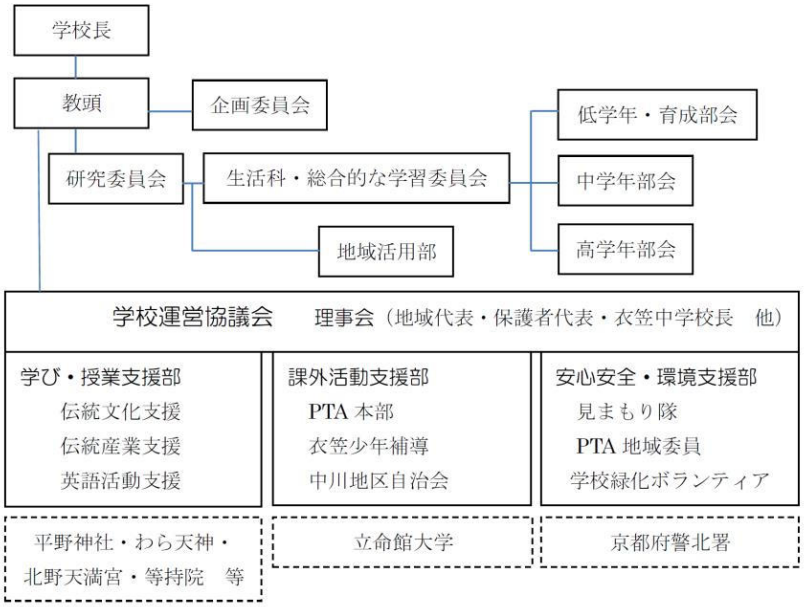
学校運営協議会で，子供たちや地域の様子の変容について意見をもらう。

４年または６年の授業を専門を招いて全市に向けて公開し，助言をいただく。

・研究成果の普及方法

指導案等を HP で公開する。

・研究組織（学校運営協議会は組織再編のため準備中）



学校名	衣笠小学校
校長名	中原　美千恵

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
報償費（取組への助言等）	指導助言（専門家未定）	20,000 円	3 回	60,000 円
需要費：協働学習用で使用	まなボード(IZUMI)	3,240 円	16 枚	51,840 円
需用費：温暖化実験で使用	デジタル気体チェッカー	73,440 円	1 台	73,440 円
需用費：指導案作成用	輪転機インク	3,180 円	1 本	6,260 円
需用費：指導案作成用	輪転機マスター	6,800 円	1 本	6,800 円
需用費：指導案作成用	コピー用紙	1,660 円	1 冊	1,660 円
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000 円

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

社会科　　総合的な学習の時間

【研究テーマ】

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を系統的に配置し，実践する。

【研究テーマの設定理由】

本校では，「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」を研究主題に，国語科・社会科を通して校内研究を８年間進めてきており，教師の授業力や児童の思考・判断・表現力の充実を図ってきている。今年度の校内研究では，これまでの取組を積み重ねていくと共に，社会の中で活用することができる論理的思考力やそれらを表現する力の育成を，国語科・社会科のみならず，教育活動全体で意図的に取り組むことにより，刻々と変化する社会情勢にも通用する力を学校全体で育むことを意図してきた。

また，「歩くまち・京都」の実践では，「公共の精神」を学校教育の中で育んでいくために，社会科や総合的な学習の時間において３年生から６年生までの発達段階に応じた様々な角度から「京都のまち」の姿を深くとらえ，自分たちが暮らす「まち」に愛着をもつことで，これからの「まち」をつくっていく主体者として，より良い京都のまちづくりへの持論を論じることができるような児童の姿を目指し，取組をスタートさせた。今年度は「１年次」として，３年生から６年生までの各学年１本ずつの単元を設定し，実践を行った。校内研究授業を設定することで，校内での「歩くまち・京都」学習の実践についての共通理解も進めることができた。

本校では，研究実践の成果を３年生から６年生までの４年間を１つのスパンとして捉えており，来年度を４年間のうちの「２年次」として位置付ける。「２年次」は，実践内容の充実・発展はもちろんのこと，系統的なカリキュラムの開発を図る。社会科の内容を洗い出し，実践可能な単元においてどのような理解や認識を育むことができるのかを熟考するとともに，学年の発達に応じた学習内容の配置を行う。

【研究テーマの取組計画・内容】

○研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法

研究の計画

◆研究の方向についての提案と共通理解（４月）

・目標設定の共通理解（２年次の取組について）

・教材開発の視点について

・単元構成の在り方について

・授業展開の在り方について

・目標実現状況の評価の在り方について

◆カリキュラム開発と研究計画（４月）

◆校内研究授業（５月～２月）

◆研究発表会の実施（１２月・２月）

研究発表会で研究の成果を問い，改善点を授業実践を通して修正する。

◆国立教育研究所教育課程研究指定校事業の授業公開（未定）

◆研究の総括（成果と課題，３年次の取組について）（３月）

・研究発表会で明らかになった課題をどのように克服するかについて

教材について

◆社会科（総合）の単元との関連について

【社会科（総合）の関連可能単元】（ゴシックは２８年度実施単元）

例）３年　**「京都市のまちの様子」**　「農家でつくられるもの」

「地域の人びとが受けついできたもの」

４年　**「きょう土をひらく」**　「京都市再発見」

５年　「わたしたちの国土」　**「社会を変える情報」**

「環境を守るわたしたち」

６年　「日本の歴史」　「わたしたちの生活と政治」

４年～６年　ジュニア京都検定

◆本研究で進めようとしている教材化の事例

・社会科の発展教材として

・総合的な学習の時間での単元として

３年

・地理的条件をいかして人々がくらしている様子を調べ理解する。

・京野菜の伝統を守り続けている農業に携わる人々の工夫を調べ理解する。

・京都のまちの伝統（古くから受け継がれてきたもの）について調べ理解する。

４年

・京都のまちづくりの発展に尽くした先人のはらたらきについて調べ理解する。
・京都市の特色を京都府の特色ある地域と比較して京都市のよさを考える。

５年

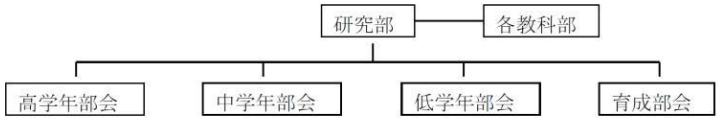
・地形的・気候的条件に合わせた日本の特色ある地域の生活や産業の工夫を京都市と比較しながら調べ理解する。
・日本の中の京都市の交通・地理的条件を含む特色・役割について調べ理解する。
・京都市の環境保全の取組について調べ理解する。

６年

・京都市の歴史について調べ理解する。
・文化観光都市京都について調べ理解する。
・京都のまちづくりと行政・市民のはたらきについて調べ理解する。
・これからの京都市のまちづくりについて考える。（歩くまち・京都憲章）

○組織体制

・研究部は，校長・教頭・教務主任・研究主任及び各学年１名の研究委員で構成する。
・教育関係者を指導助言者として招くなどして研究の幅を広げ充実を図る。



○研究成果や課題に対する評価・取組

・校内研究授業や研究発表会等の公開授業において参観者が研究の成果を評価する。（事後研修会やアンケート等）
・児童のノート記述を単元の最初と最後で比較することで，社会的な見方や考え方の変容を評価する。
・「わたしたちの京都」に関する意識調査アンケート（６年生）の実施

○研究成果の普及方法

・研究発表会の授業公開と校内研究授業の冊子での公表
・国立教育研究所教育課程研究指定校事業の授業公開

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
資料の印刷	カラー印刷インク（4色）	12,528	4	50,112
資料・指導案の印刷	マスター・インク	19,114	4	76,456
資料の印刷	A3 コピー用紙	3,720	8	29,760
	拡大コピー用紙	6,156	4	24,624
	A4 コピー用紙	1,740	8	13,920
教材提示用磁石	マグネットロール	5,128	1	5,128
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

総合的な学習「たかくら学習」・特別活動（安全教育）

【研究テーマ】

豊かに学び、表現し、高め合う子をめざして
～共にめざす　住みやすいまちにするために～

【研究テーマの設定理由】

本校は、校区を東は鴨川・西は堀川通り・北は御池通り・南は四条通りと京都の中心部の市街地がすべて含まれるという立地条件にある。子どもたちは、その地域の中日常生活を行っている。登下校を含む通学路の安全については、これまでも学校はもとよりＰＴＡや地域や行政が一体となり、安全な安心な通りの復権として取り組んできた経緯がある。学校では、子どもたちに、これまで以上に自分たちも道を歩く主体者であり、まちづくりの主体者であるという意識を持たせつつ、自分たちに何ができるのか、自分たちから何が発信できるのかを考えるスタートラインにようやく乗せるせることができるようになってきている。

自分たちが積極的にまちづくりに参加していくための具体の活動として、この市街地の現状をよく知り、問題意識を持ち、そこから回りの人々共に考え、伝えていくということを学ぶことにより、人任せにするのではなく、「自分に何ができるのか」「回りの人々と何を協力すればよいのか」を理解し、将来自分が大人になったときにも自ら積極的に、地域をよりよくしようと関わることにつながるのではないかと考える。

このことは京都が大切にしてきた「まちづくりは人づくりから」の理念そのものである。

また、本校は７つの学区を含む５つの学校が統合してできた学校である。その特長として、多くの地域の人々が学校教育にも参画していただく組織として学校運営協議会「スマイル２１プラン委員会」の存在がある。子どもたちの教育には惜しみなく協力していただく基盤と、子どもたちがいつもそばに地域の方と学ぶ環境がある土壌がすでにできあがっている。この強みを生かして、本テーマにもとづき、さらなる充実した取組を推進することができるのではないかと思う。

平成２８年度「歩くまち・京都」実践授業校として、これまでの取組にさらに、公共の精神を意識して取り組むことにより成果が得られた。それは、自らが学習していることが社会に参画する立場として、学びを深める自覚につながるとともに、喜びを

味わう子どもの姿である。この意義は、今社会が目指す、持続可能な社会を創る次世代の担い手を育てる資質ともいえる。単に興味や関心で終っていた町歩きから、相手意識をもって「自分たちの街のよさを伝える」「もっとみんなにやさしい街にするために呼びかける」「安心・安全な街づくりを目指す」発達段階に応じた、社会の一員としての自覚と市民感覚を醸成していくために、この成果を活かして、継続的に本校の教育課程の中に位置付けて、引き続き２９年度もこの「歩くまち・京都」の授業実践校として取り組みたいと思う。

【研究テーマの取組計画・内容】（※は研究組織と関連）

１．　安心して歩ける街にするために（全校・６年）

（１）交通安全教育の充実（５月・７月・１２月重点指導）

学校・ＰＴＡ・地域が一体となって、取り組んでいる交通安全教育をさらに充実させる。通学路安全マップの作成および独自教材「安全な登下校路にするために」（通学路体感ＤＶＤ）をもとにした発達に即した交通安全指導の具体的な指導案に基づく効果的な実践授業のまとめと指導の改善を行う。（※①）

（２）歩行者優先の安全な道にするための子どもからの提言

区役所との連携で行う交通問題プロジェクトミーティングにおいて、子ども目線の意見も取り上げていただき、子どもたちが主体となって提言できることを発信していく。（標語・チラシ・ポスターなど※②）

２．　みんなが歩いて楽しい街にするために（３年）

（１）みどころ満載　歩いて楽しい高倉タウンマップづくり

地域の名所・達人などを探索し、インタビュー活動など行い、地域を知る活動から、他の人に高倉校区を知ってもらうためのタウンマップを作成する。（※③）

（２）親子で歩こう楽しい街

子どもたちが調べたポイントをコースに分かれて、ＰＴＡや学校運営協議会・ボランティアとも連携して、啓発を兼ねて親子土曜教室で街歩きの機会を設ける。（※④）

３．　人と環境にやさしい街にするために（４年）

（１）健やかウオーキングルート

３年生での学習を生かして、散歩ウオーキングコースを考える。実際の距離や歩数や道路で子どもやお年寄りに心配な場所はないか、福祉の面からもルートをチェックして、おすすめコースを開発し、ポスター発表を行う。（※⑤）

（２）マイエコ日誌をつけよう

できるだけ、自動車や自転車を使わずに歩くことを意識づけるための、日誌をつけて自分の生活を見直す機会をつくる。家庭とも協力して、できることからはじめるきっかけを見つける。（※⑤）

４．　もしものときに備えよう　（５年）

（１）もしもの目線で街歩きをしよう

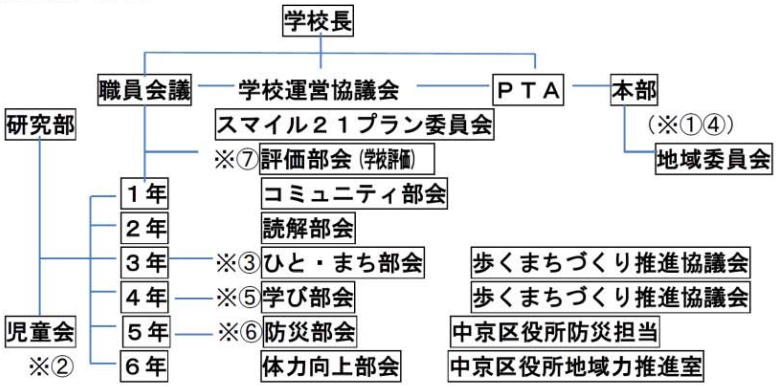
防災の視点で、建物や防災機能を確かめる。地域の自主防災とも連携し、もしものときの避難ルートの確認や避難場所を確かめる。（※⑥）

（２）スマイル高倉防災

学校運営協議会スマイル２１プラン委員会の防災部会が主体となって、高倉校区の防災プランに着手している。モデルになれば市全体にも発信したい。（※⑥）

（※は研究内容と関連）

【研究組織・体制】



【研究成果や課題に対する評価・取組】

上記の研究の取組については、各学年の指導時期があるので、研究授業の機会を設け、適宜公開授業とする。成果物については年度末までにまとめて、学校だよりやWeb上で公開し、閲覧可能なようにする。年間２回の学校評価アンケートの際に関連の項目を設定し（※⑦）、また、外部の学識経験者などを招聘し、取組の評価を改善に生かす。

【研究の普及方法について】

本事業で子どもたちが取り組んだ学習の成果は、今年度とあわせての成果物としてまとめて研究冊子あるいは、Ｗｅｂ上での発表により発信できるようにしたい。本校の取組の特徴は、前述にもあるように、学校のみならず地域やＰＴＡ組織も巻き込んだ京都のコミュニティスクールならではの研究体制がとれることである。また、今年度の実施により、地域との連携をはかるために、行政機関の応援もいただきながら既存の協議会やプロジェクトとリンクさせることにより、社会に開かれた教育課程を実現することができた。このことは、本市であれば全小学校がコミュニティスクールとして立ち上げられていることから、地域ぐるみの取組として推進するモデルとなるであろう。また、全国的にも京都ならではの地域ぐるみの取組として発信することができると考えている。

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
校内研修 講師謝礼	山田忠史（京都大学）	5000	6	30,000
大型ポスタープリンター用紙	エプソン	16,000	2	32,000
資料作成用　ＤＶＤ	DVD-R 120 分５０枚	2,000	4	8,000
資料作成用　SD カード	８ＧＢ　Panasonic	2,000	10	20,000
資料作成用　ＰＰＣ用紙	Ａ４マルチコピー１箱	2,500	20	50,000
成果物 冊子　印刷費		500	1000	50,000
フィールドワーク用バインダー		250	40	10,000
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

学校名	小栗栖宮山小学校
校長名	畠田　靖久

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】
５年　総合
６年　総合

【研究テーマ】

※自校の具体的なテーマを記述すること。

「醍醐の　いいところ　みーつけた！」

・自分たちが住んでいる醍醐の町の良さを見つけよう（５年)。

・自分たちの住んでいる地域の歴史的価値を知り，地域に愛着をもつ（６年)。

【研究テーマの設定理由】

※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

・小栗栖宮山小学校のあるこの場所には，たくさんの歴史的価値のある場所が多く存在する。しかしながら，子ども達はこの町に住みながらその場所を訪れる機会も少なく何気なく毎日の生活を送っている。自分たちの住む町が昔から地域の人々によって守られ，大切にされてきたことを知り，自分の住む町の良さを知ることで地域に愛着をもつ子どもを育てたいと考える。そして，地域の担い手として地域の活性化に積極的に協力していこうとする意識を一人一人の子どもの中に育てていきたい。

・地域の方の努力によって，この地域には醍醐コミュニティバスが走っている。また近くには京都市営地下鉄が南北に走っており，その他多くのバスの経路も通っている。これらの公共交通機関を使えば醍醐の町にある名所を巡ることができる。公共交通機関を使って，自分たちの足で歩くことで今まで気づかなかったさまざまな素晴らしい場所や人々との出会いを多く経験してほしいと考える。

・醍醐コミュニティバスはじめとする公共交通手段を総合学習の中で利用することで，普段の生活の中でもこれらを使用するきっかけになるのではないかと考える。

【研究テーマの取組計画・内容】

≪研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法について≫

・ 自分たちの住む醍醐地域の名所や見どころについてインターネット，地域への聞き取り（校区内にお住まいの方，学校長など），書物などを使って調べ学習を行う。
・ 地域の名所や見どころについてまとめ，その場所への思いを深める。
・ 実際に自分たちで公共交通機関を使って行く計画を立てる。
（何を見たいのか，何のためにそこに行くのか，何を聞いてくるのかなど，その場所を訪れる目的を十分に子どもたちが考えられるよう学習を進める。）
・ ５年生，６年生でのたて割りグループを作り，自分たちのコースを決める。
（この時学年によって，目的は異なるが，それぞれの学年でのねらいに即して自分たちの見たいもの聞きたいことをまとめ交流していく。）

≪組織体制について≫

・ 組織体制（教職員を中心として午前に回る場所，お昼を食べる場所，午後から回る場所，ポイントをどこにするのかなど計画を立てる。）
・ 組織体制が組まれれば保護者・地域などに，この取り組みの趣旨をお伝えし，協力を要請することも考える。

≪研究成果や課題に対する評価・取組について≫

・ 自分たちが実際に回った場所についてまとめる。
（まとめ方については，新聞，壁新聞，プレゼンテーションなど多様な形で考える。）これらの成果物を評価することで次の取組に生かす。
・ 校内研修の中にこれらの取り組みの成果と課題について教職員全体で話し合う機会を設け，より良い取り組みとなるようにしていく。

≪研究成果の普及方法について≫

・ 研究成果の普及方法としては，子ども達のまとめたものをそれぞれのブースでテーマごとに発表する発表会を企画したい。自分たちが調べ，実際に歩いてみて感じたものを自分の地域への思いを乗せて発表することで，醍醐地域への思いを深めていってくれればと願っている。
・ また，これらの活動については，研究の経過をホームページや学校便りなどでその都度，地域，保護者にも発信していきたい。

・ これまでより，地域の方々にはたくさんの子どもたちの支援や取組を行っていただいている。それぞれの方々がどのような思いで自分たちに関わってくださっていたのかをこれらの取組から感じ取り，感謝の気持ちをもてるようになってくれればと考えている。
・ これらの活動を通して，自分たちの住む地域に誇りと愛着を感じ，地域を大切にする子どもを育てていきたいと考える。

学校名	小栗栖宮山小学校
校長名	畠田　靖久

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
醍醐の地域めぐりの為	コミュニティバス一日乗車券	300	100	30,000
地域の歴史について知る為	講師代	10,000	3	15,000
ポートフォリオにまとめる為	ファイル 40 ポケット	400	100	40,000
発表会用模造紙等紙類	模造紙	2,500	6	15,000
児童調べ学習用印刷代	インク代（4 色）	15,000	4	60,000
発表会新聞まとめの為	プロッキー（12 色）	1,800	２５	45,000
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				205,000

学校名	京都市立醍醐西小学校
校長名	森川　浩孝

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】
社会科，総合的な学習

【研究テーマ】
※自校の具体的なテーマを記述すること。

私たちの住みよい街，醍醐　～ふるさとの街を見直そう～

【研究テーマの設定理由】
※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

私たちの住む醍醐地域には，世界遺産の醍醐寺がある。また，パセオ・ダイゴローやアルプラザ醍醐といった大型ショッピング施設，醍醐中央図書館といった公共施設，たくさんの住宅団地などがあり，様々な特色を持つ地域である。また，校区の真ん中を南北に走る大きな幹線道路の外環状線や地下鉄東西線の醍醐駅，醍醐バス・タクシーターミナルがあり，利便性がとても良い地域とも言える。さらに，校区の西端には山科川が流れ，自然豊かな地域でもある。

そこで，３・４年生の社会科と総合的な学習の時間で，私たちの住む街に目を向け，校区の特性を生かした学習につなげていきたい。

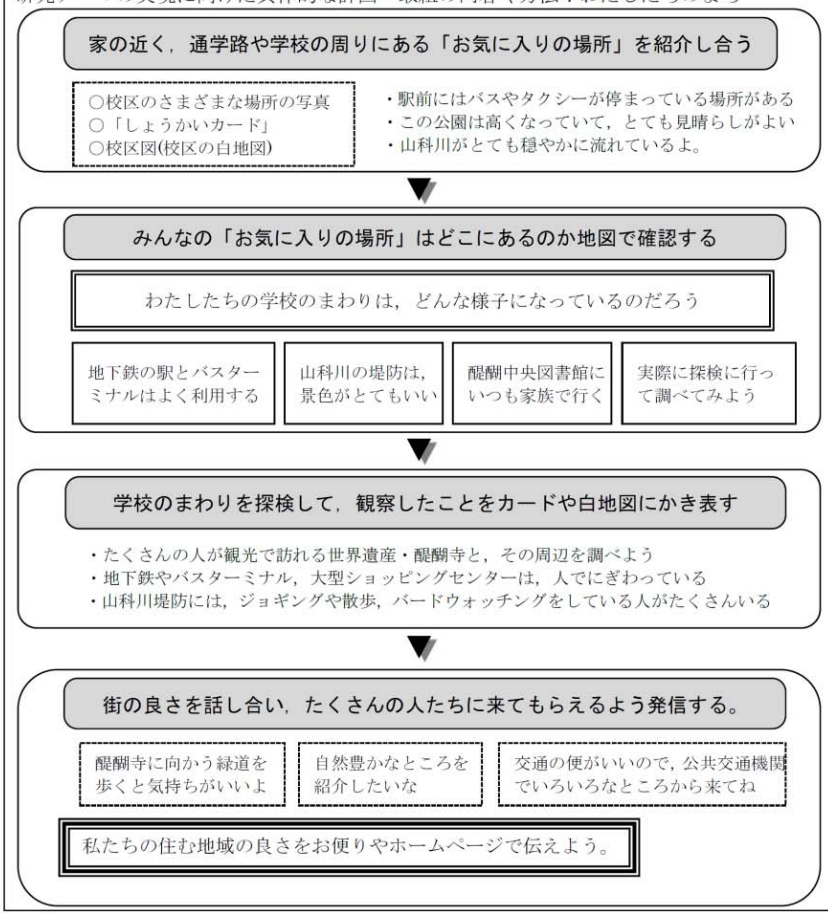
【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ 2 枚程度まで。（書式は自由。取組内容を分かりやすく簡潔に記述すること。2 枚を超えても良い。）

※下記の点については必ず記述すること。

- 研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法
- 組織体制（教職員・保護者・地域など）
- 研究成果や課題に対する評価・取組
- 研究成果の普及方法

研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法：わたしたちのまち



組織体制
・教職員による指導
・地域・保護者の方と校区探検

研究成果や課題に対する評価・取組
・校区の特色を探る。
・京都市内の特色を探る。

・校区の特色ある地形，土地利用の様子，主な公共施設などの場所と働き，交通の様子，古くから残る建造物などに関心をもち，意欲的に調べている。
・観点に基づいて観察や聞き取り調査をしたり，地図や写真などの資料を活用したりして，校区の様子について必要な情報を集め，読み取っている。
・調べたことを主な地図記号や四方位などを用いて，絵地図や白地図にまとめている。
・醍醐地域の良さに気づき，それを発信しようとしている。
・京都市の特色ある地形，土地利用の様子，主な公共施設などの場所と働き，交通の様子，古くから残る建造物などに関心をもち，意欲的に調べようとしている。
・京都市の特色ある様子を，観点に基づいて観察や聞き取り調査をしたり，地図や写真などの資料を活用したりして，市の様子について必要な情報を集め，読み取っている。
・調べたことを主な地図記号や四方位などを用いて絵地図や白地図等にまとめ，市内めぐりの良さを発信しようとする。

研究成果の普及方法
・ホームページによる発信
　本校では，児童の活動の様子や連絡等を保護者や地域に伝達する方法として学校のホームページへの掲載を活用している。これまでの１日平均アクセス数が１３３件と注目をいただいている。このホームページを使って，子どもたちから醍醐の街の良さや歩きたくなる街をアピールしていく。
・学級通信・生活だよりによる発信
　各学級で発行している学級通信に子どもの成果物を掲載していく。
　不定期であるが，学校より発行している保護者啓発用のお便りの生活だよりに掲載していく。（本校ＨＰ参照）

学校名	醍醐西小学校
校長名	森川　浩孝

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
市内めぐり	京都観光一日乗車券	￥600－	67	￥39,400－
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				￥39,400－

資料３

「歩くまち・京都」学習実践発表会（仮称）について

京都市では，「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策を題材として，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」を学ぶことを通して「歩くまち・京都」の実現を図ることを推進しております。

今年度で，「歩くまち・京都」学習実践校（以下「実践校」という）の取組は２年目となり，実践校を３校から５校に拡大したところです。

今後の「歩くまち・京都」学習の更なる拡大ために，今年度の実践内容について，教員や保護者，地域住民，地方公共団体の交通政策担当者等，幅広い方々に発信するため，「歩くまち・京都」学習実践発表会（仮称）を開催したいと考えておりますので，ご多忙の中，申し訳ございませんが，御協力の程，何卒よろしくお願い申し上げます。

１　開催候補日

平成３０年２月２４日（土），３月３日（土），１０日（土）の午前中

２　発表内容（予定）

・各実践校からの取組内容の発表
・学校におけるモビリティ・マネジメントに関する講演　など

３　会場

市内の２００～３００名程度収容可能なホール

○候補　ウィングス京都（中京区）　２８０名収容
　　はーとぴあ京都（中京区）　２００名収容
　　京都市ひと・まち交流館（下京区）　３００名収容　など

４　開催時間

１時間半～２時間程度

５　各実践校への協力依頼内容（予定）

・当日の発表
・小学校内での開催案内チラシの配布
・必要に応じて地域住民の代表者への開催連絡
　（小学校区内の地域住民には，当室から回覧板などで周知予定）

資料４

「歩くまち・京都」学習実践校の取組における留意点について

【取組内容に関する注意点】

1. 学習実践校は，２学年以上で年１回以上の公開授業を実施してください。
2. 研究の成果として，学習指導案や参考資料，授業で作成した物（授業風景の写真など）等を年度末に提出いただきますので，ご準備をお願いいたします。
3. 学習指導案を各学校のホームページで発信をするなど，取組内容を広く発信できるように努めてください。また，京都市のホームページにおいても，その研究成果を発信いたします。
4. 実施申請書にご記入いただいた「研究テーマの取組計画・内容」について，テーマを変更する等，大きな変更がある場合は，歩くまち京都推進室にご相談ください。

【経費に関する注意点】

1. 予算は，１校当たり 20 万円です。
2. 消耗品（１点につき５万円未満）の購入，通信運搬費（交通費・送料等），講師謝礼の３項目以外の使途であり，かつ，申請時の予算計画書にないものに予算を活用する場合は，事前に別紙の資料の提出をお願いいたします。
   【例】
   - 計画通り，コピー用紙を３箱購入したが，予算が 15,000 円であったのに対し，実際の支払金額が 10,000 円となった　→　**提出不用**
   - 当初の計画にはなかったが，予算内で，新たにコピー用紙を３万円分購入したい　→　**提出不用**
   - 資料の作成について，コンサル企業に委託したい　→　**提出必要**
3. 平成２９年６月１５日時点ですでに「歩くまち・京都」学習に関する経費を学校で支出している場合は，請求書及び支出したことがわかる資料（通帳の写し等）をご提出ください。後日，当該費用を学校に振込みさせていただきます。
4. 「歩くまち・京都」学習実践校の予算を用いて，原則，備品（５万円以上）やパソコン・ビデオカメラ等の汎用性のある機器を購入することはできません。授業を実施するに当たり，どうしても必要である場合は，必ず事前にご相談ください。

別紙

学校名	
校長名	

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書の変更について

1　変更前（変更となる項目の分だけご記入ください。）　（単位：円）

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
【記載例】資料作成	コピー用紙	5,000	5	25,000

2　変更後（変更となる項目の分だけご記入ください。）　（単位：円）

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
【記載例】資料作成	コンサルへの委託	25,000	1	25,000

※　当初の計画になかった項目を新たに追加するだけの場合は，２変更後だけにご記入ください。

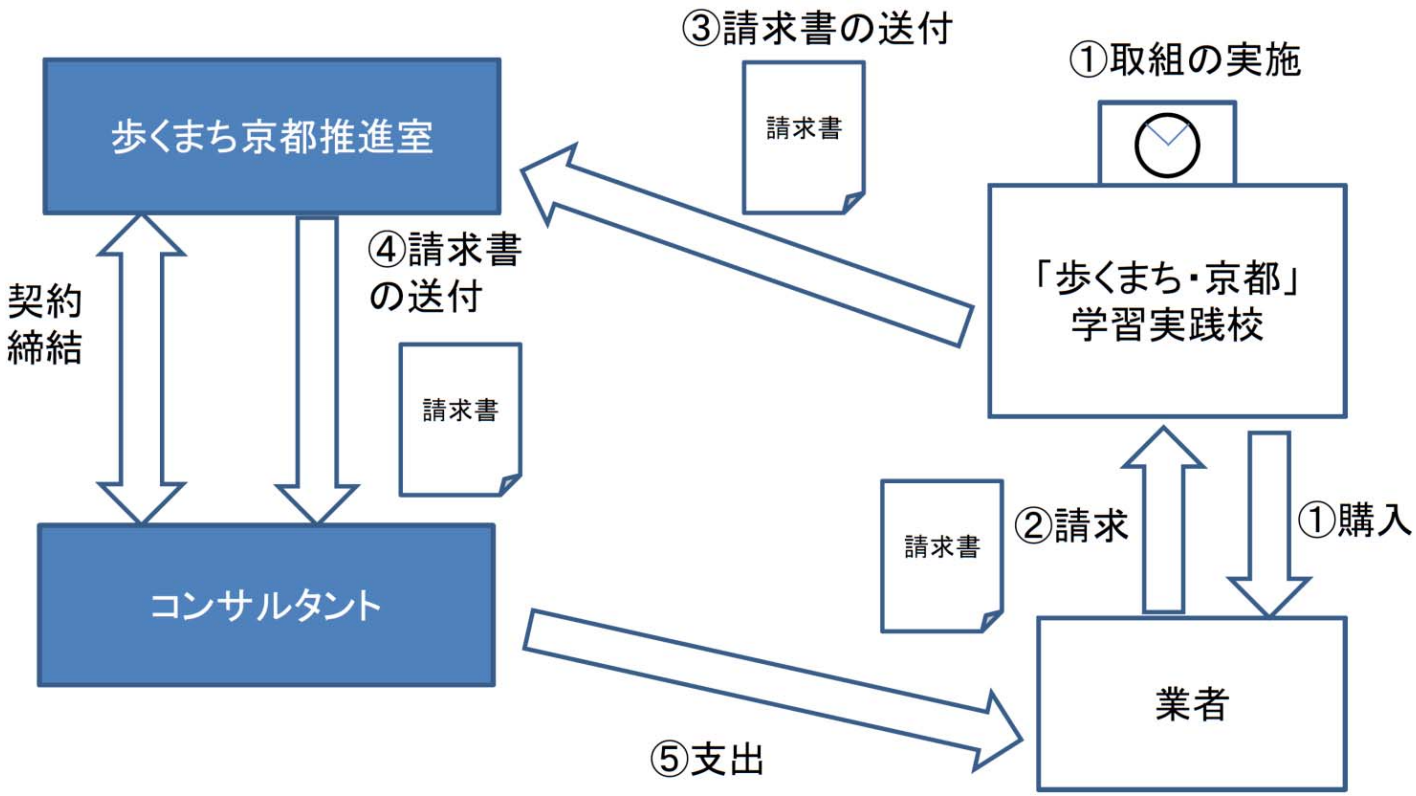
3　変更後の合計金額　（単位：円）

変更前の合計金額	

変更前の合計金額	

資料5

「歩くまち・京都」学習実践校の経費支出の流れ



資料６

学校名	
校長名	

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施報告書

【実施教科】

【研究テーマ】

【研究テーマの取組内容】

※A4 サイズ４頁又は６頁。（取組内容をわかりやすく簡潔に記述すること。）

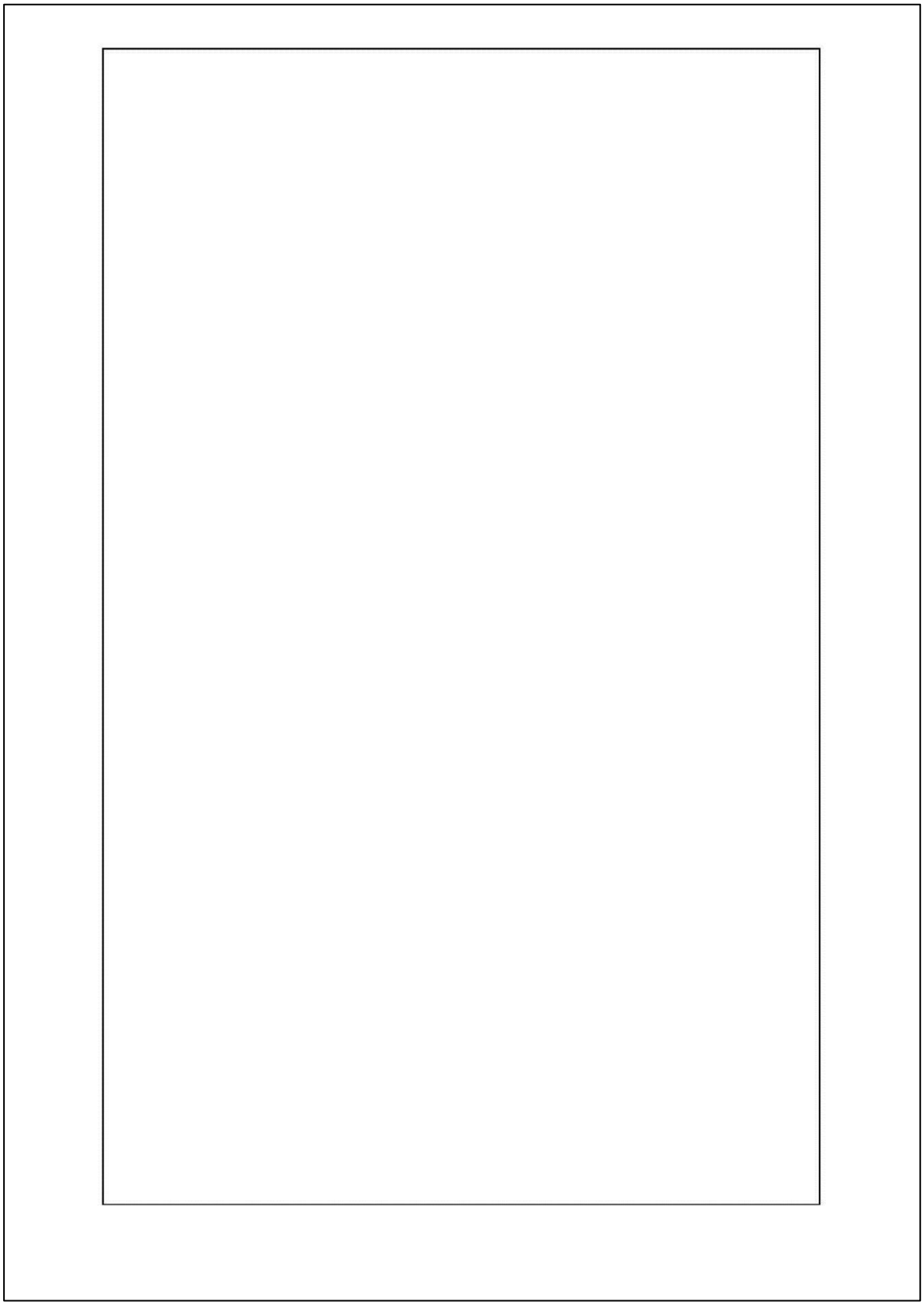
※様式は，原則，本様式を使用すること。

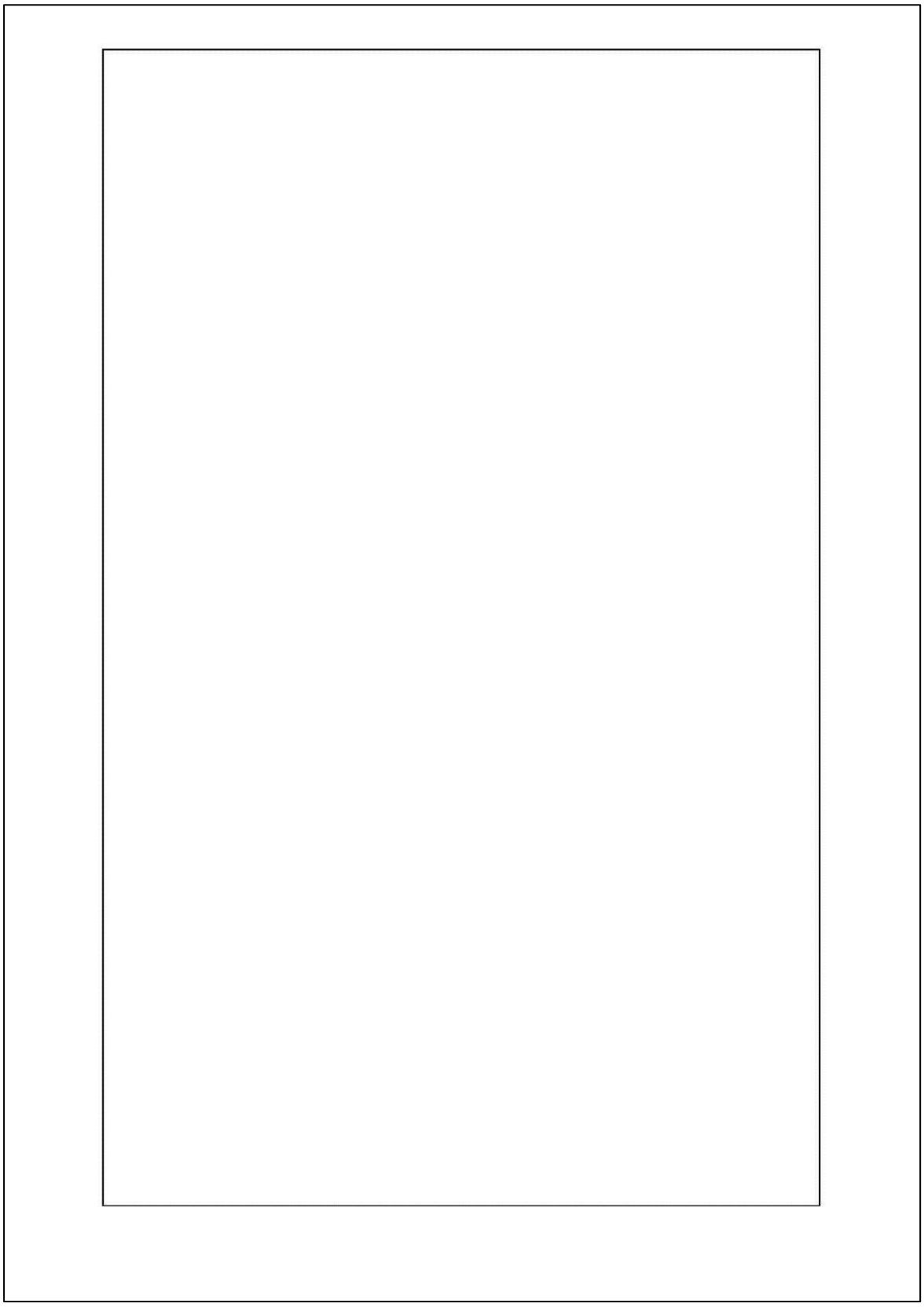
（別様式でも構わないが，上の余白を 1cm，左右と下の余白を 2cm 以上あけること）

※文字は，１０．５ポイントの明朝体とする。

※主に下記の点について記述すること。

・ 研究テーマの実現に向けた具体的な取組内容や方法
・ 授業風景や板書，教材の写真等の掲載
・ 研究成果や課題に対する評価
・ 今年度の取組を踏まえた今後の課題や展望など





学校名	
校長名	

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　決算報告書

使用用途(研究内容との関連)	品名(講師名等)	単価	数量 (時間)	計
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				0

(2) 第２回検討会

第２回検討会で配布した資料と当日議事録は以下のとおりである。

①議事次第 ……245

②委員名簿 ……246

③配席図 ……247

④平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書 ……248

⑤「歩くまち・京都」学習実践発表会（仮称）について ……268

⑥「歩くまち・京都」学習実践発表会雛形 ……270

⑦第２回検討会摘録 ……273

平成２９年度　第２回「歩くまち・京都」学習検討会

日時：平成 29 年 10 月 25 日（水）18 時 00 分～
場所：下京区役所　第１・第２会議室

議 事 次 第

1. 開会
2. 議事
   「歩くまち・京都」学習実践校の取組内容について
   「歩くまち・京都」学習実践発表会（仮称）について
   その他
3. 閉会

［配布資料］

委員名簿
座席図
資料１　各実践校の申請書
資料２　「歩くまち・京都」学習実践発表会（仮称）について

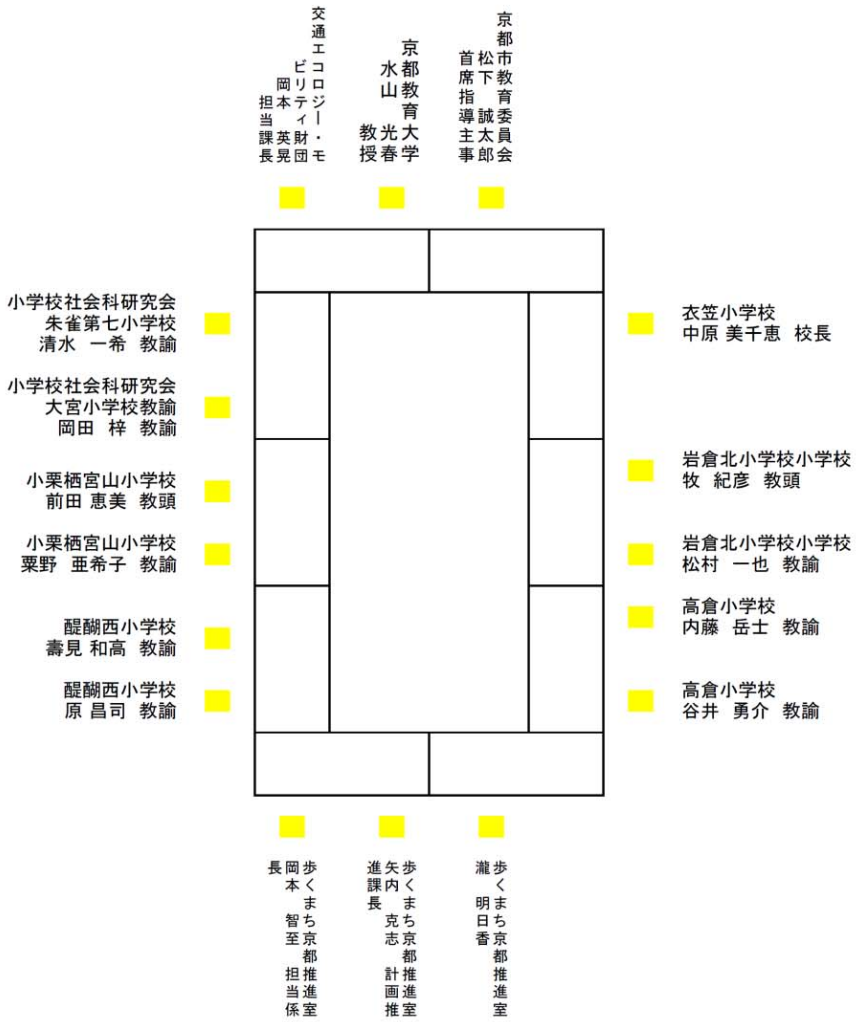
平成29年度第2回「歩くまち・京都」学習検討会　委員名簿

所属				
京都教育大学	教授	水山　光春	座長	
京都大学大学院	教授	藤井　聡	副座長	御欠席
愛媛大学大学院	教授	松村　暢彦	アドバイザー	御欠席
京都市教育委員会	学校指導課首席指導主事	松下　誠太郎		
京都市教育委員会	総合教育センター指導主事	岡　博士		
京都教育大学附属京都小中学校	教諭	深蔵　心理		御欠席
小学校社会科研究会	朱雀第七小学校教諭	清水　一希		
小学校社会科研究会	大宮小学校教諭	岡田　梓		

歩くまち・京都学習実践校		
京都市立衣笠小学校	校長	中原 美千恵
京都市立岩倉北小学校	教頭	牧　紀彦
	教諭	松村　一也
京都市立高倉小学校	教諭	内藤　岳士
	教諭	谷井　勇介
京都市立小栗栖宮山小学校	教頭	前田 恵美
	教諭	粟野　亜希子
京都市立醍醐西小学校	教諭	壽見 和高
	教諭	原 昌司

事務局		
京都市都市計画局歩くまち京都推進室	担当係長	岡本　智至
		瀧　明日香
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境対策部 交通環境企画課担当課長	岡本　英晃

平成29年度第2回「歩くまち・京都」学習検討会　配席図



資料２

学校名	衣笠小学校
校長名	中原　美千恵

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

総合的な学習の時間・特別活動・（英語活動）

【研究テーマ】

※自校の具体的なテーマを記述すること。

衣笠のぬくもり・未来に輝く衣笠の誇り

～「自ら課題解決に向かい，伝え合い学び合う子ども」の育成～

【研究テーマの設定理由】

※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

本校は学校運営協議会，PTA，PTA 賛助会，見まもり隊など，多くの保護者・地域の方々が子どもたちのために様々な支援をして来られた。その人材を活用し，地域の物的財産を生かして地域に思いを寄せ，「衣笠が好き」という子どもを育みたいと言う思いで３年間地域を題材とした総合的な学習の時間の校内研究に取り組んできた。平成２８年度は「自ら課題解決に向かい，伝え合い学び合う子ども」を研究主題として，カリキュラムづくりの見直しと「伝え合う力」の育成を重点に取り組んだ。児童が主体的・能動的に授業に参加し，対話を重視しながら自ら課題を解決していくような授業の構築を目指してきた。

６年生は低学年の生活科，３年生からの総合的な学習で学んだことの集大成のような単元を構成している。地域の歴史的・文化的遺産や，地域に暮らす人との交流を通して衣笠の街のよさを考え未来に伝えていきたい，ということで全校ウォークラリーを企画・実施した。実施にはたてわり活動（特別活動）の時間も使っていた。カリキュラムマネジメントとして２９年度は取組の見直しが必要であるが，「歩いて衣笠の街のよさを伝える」という活動は大切にしていきたいと考えている。休日だけでなく平日も校区を大勢の観光が往来しているが，特に外国人観光客に紹介するなど，今後は英語の学習にも生かしたい。加えて２８年１２月に京都府警より校区東半分がゾーン３０の指定を受けた。歩行者の安全確保のためということであるが，だれもが安心して歩ける街づくりを４年の総合的な学習の時間で扱う環境・福祉「衣笠のぬくもり」で取り組むようにしたい。

【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ 2 枚程度まで。（書式は自由。取組内容を分かりやすく簡潔に記述すること。2 枚を超えても良い。）

※下記の点については必ず記述すること。

【４年生　総合的な学習の時間「きぬがさのぬくもり」】他の取組

４月　総合的な学習の時間全体計画・カリキュラム作成

～５月　社会　ごみについての学習（環境センターの見学等）の後

「きぬがさのぬくもり」①環境プロジェクト　学習開始

～６月　地域の環境の取組についてごみの分別とリサイクルについて調べる

グリーンカーテンについて調べ，アサガオを育てる

７月　エコライフチャレンジで地球温暖化について知る

「みさきの家」野外活動‥大自然の中での体験活動

みさきの家でのごみ処理について調べる。（自然を守るための取組）

～８月　家庭での取組

９月～１０月　調べたことをまとめ発表する。温暖化防止のためにできること。

１０月　たてわり校区ラリー‥衣笠の街を歩いて魅力発見

１１月　京都府警による自転車安全教室・ゾーン３０についての学習

～３月「きぬがさのぬくもり」②福祉プロジェクト　学習開始

お年寄りとの交流から，みんなが安全に歩ける街づくりについて考える。

【６年生　総合的な学習の時間「未来に輝く衣笠の誇り」】他の取組

４月　総合的な学習の時間全体計画・カリキュラム作成

～９月　地域の誇りについて調べる

１０月　たてわり校区ラリー‥衣笠の街を歩いて魅力を伝える

～１月　衣笠の魅力をもっと伝えよう

観光客に英語も使って伝える

自転車の乗り方などを見直し，安全な街づくりの提案をする。

・組織体制（教職員・保護者・地域など）　後述

・研究成果や課題に対する評価・取組

校内研究として，助言者を招いて総合的な学習の時間の授業研究をする。

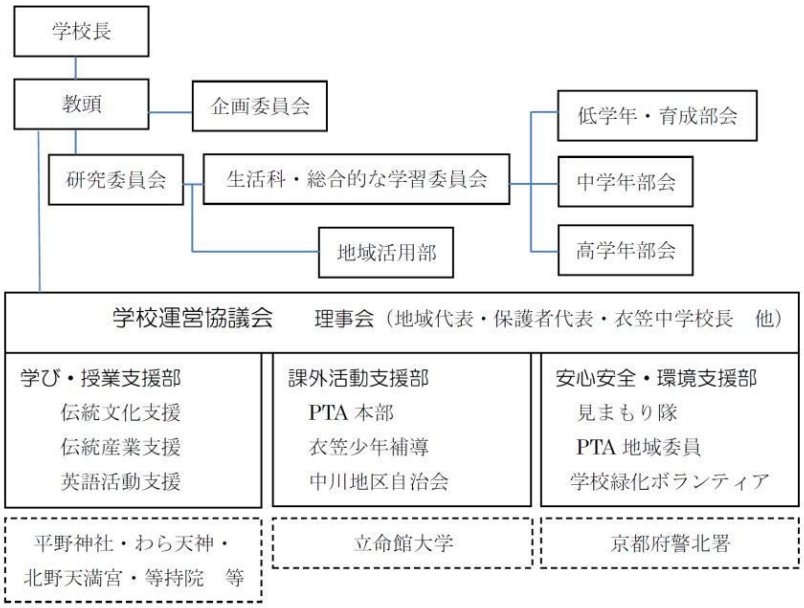
学校運営協議会で，子供たちや地域の様子の変容について意見をもらう。

４年または６年の授業を専門を招いて全市に向けて公開し，助言をいただく。

・研究成果の普及方法

指導案等を HP で公開する。

・研究組織（学校運営協議会は組織再編のため準備中）



学校名	衣笠小学校
校長名	中原　美千恵

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
報償費（取組への助言等）	指導助言（専門家未定）	20,000 円	3 回	60,000 円
需要費：協働学習用で使用	まなボード(IZUMI)	3,240 円	16 枚	51,840 円
需用費：温暖化実験で使用	デジタル気体チェッカー	73,440 円	1 台	73,440 円
需用費：指導案作成用	輪転機インク	3,180 円	1 本	6,260 円
需用費：指導案作成用	輪転機マスター	6,800 円	1 本	6,800 円
需用費：指導案作成用	コピー用紙	1,660 円	1 冊	1,660 円
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000 円

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

社会科　　総合的な学習の時間

【研究テーマ】

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を系統的に配置し，実践する。

【研究テーマの設定理由】

本校では，「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」を研究主題に，国語科・社会科を通して校内研究を８年間進めてきており，教師の授業力や児童の思考・判断・表現力の充実を図ってきている。今年度の校内研究では，これまでの取組を積み重ねていくと共に，社会の中で活用することができる論理的思考力やそれらを表現する力の育成を，国語科・社会科のみならず，教育活動全体で意図的に取り組むことにより，刻々と変化する社会情勢にも通用する力を学校全体で育むことを意図してきた。

また，「歩くまち・京都」の実践では，「公共の精神」を学校教育の中で育んでいくために，社会科や総合的な学習の時間において３年生から６年生までの発達段階に応じた様々な角度から「京都のまち」の姿を深くとらえ，自分たちが暮らす「まち」に愛着をもつことで，これからの「まち」をつくっていく主体者として，より良い京都のまちづくりへの持論を論じることができるような児童の姿を目指し，取組をスタートさせた。今年度は「１年次」として，３年生から６年生までの各学年１本ずつの単元を設定し，実践を行った。校内研究授業を設定することで，校内での「歩くまち・京都」学習の実践についての共通理解も進めることができた。

本校では，研究実践の成果を３年生から６年生までの４年間を１つのスパンとして捉えており，来年度を４年間のうちの「２年次」として位置付ける。「２年次」は，実践内容の充実・発展はもちろんのこと，系統的なカリキュラムの開発を図る。社会科の内容を洗い出し，実践可能な単元においてどのような理解や認識を育むことができるのかを熟考するとともに，学年の発達に応じた学習内容の配置を行う。

【研究テーマの取組計画・内容】

○研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法

研究の計画

◆研究の方向についての提案と共通理解（４月）

・目標設定の共通理解（２年次の取組について）

・教材開発の視点について

・単元構成の在り方について

・授業展開の在り方について

・目標実現状況の評価の在り方について

◆カリキュラム開発と研究計画（４月）

◆校内研究授業（５月～２月）

◆研究発表会の実施（１２月・２月）

研究発表会で研究の成果を問い，改善点を授業実践を通して修正する。

◆国立教育研究所教育課程研究指定校事業の授業公開（未定）

◆研究の総括（成果と課題，３年次の取組について）（３月）

・研究発表会で明らかになった課題をどのように克服するかについて

教材について

◆社会科（総合）の単元との関連について

【社会科（総合）の関連可能単元】（ゴシックは２８年度実施単元）

例）３年　**「京都市のまちの様子」**　「農家でつくられるもの」

「地域の人びとが受けついできたもの」

４年　**「きょう土をひらく」**　「京都市再発見」

５年　「わたしたちの国土」　**「社会を変える情報」**

「環境を守るわたしたち」

６年　「日本の歴史」　「わたしたちの生活と政治」

４年～６年　ジュニア京都検定

◆本研究で進めようとしている教材化の事例

・社会科の発展教材として

・総合的な学習の時間での単元として

３年

・地理的条件をいかして人々がくらしている様子を調べ理解する。

・京野菜の伝統を守り続けている農業に携わる人々の工夫を調べ理解する。

・京都のまちの伝統（古くから受け継がれてきたもの）について調べ理解する。

４年

・京都のまちづくりの発展に尽くした先人のはらたらきについて調べ理解する。
・京都市の特色を京都府の特色ある地域と比較して京都市のよさを考える。

５年

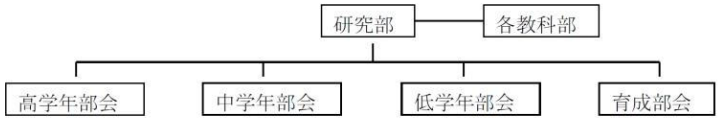
・地形的・気候的条件に合わせた日本の特色ある地域の生活や産業の工夫を京都市と比較しながら調べ理解する。
・日本の中の京都市の交通・地理的条件を含む特色・役割について調べ理解する。
・京都市の環境保全の取組について調べ理解する。

６年

・京都市の歴史について調べ理解する。
・文化観光都市京都について調べ理解する。
・京都のまちづくりと行政・市民のはたらきについて調べ理解する。
・これからの京都市のまちづくりについて考える。（歩くまち・京都憲章）

○組織体制

・研究部は，校長・教頭・教務主任・研究主任及び各学年１名の研究委員で構成する。
・教育関係者を指導助言者として招くなどして研究の幅を広げ充実を図る。



○研究成果や課題に対する評価・取組

・校内研究授業や研究発表会等の公開授業において参観者が研究の成果を評価する。（事後研修会やアンケート等）
・児童のノート記述を単元の最初と最後で比較することで，社会的な見方や考え方の変容を評価する。
・「わたしたちの京都」に関する意識調査アンケート（６年生）の実施

○研究成果の普及方法

・研究発表会の授業公開と校内研究授業の冊子での公表
・国立教育研究所教育課程研究指定校事業の授業公開

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
資料の印刷	カラー印刷インク（4色）	12,528	4	50,112
資料・指導案の印刷	マスター・インク	19,114	4	76,456
資料の印刷	A3 コピー用紙	3,720	8	29,760
	拡大コピー用紙	6,156	4	24,624
	A4 コピー用紙	1,740	8	13,920
教材提示用磁石	マグネットロール	5,128	1	5,128
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

総合的な学習「たかくら学習」・特別活動（安全教育）

【研究テーマ】

豊かに学び、表現し、高め合う子をめざして
～共にめざす　住みやすいまちにするために～

【研究テーマの設定理由】

本校は、校区を東は鴨川・西は堀川通り・北は御池通り・南は四条通りと京都の中心部の市街地がすべて含まれるという立地条件にある。子どもたちは、その地域の中日常生活を行っている。登下校を含む通学路の安全については、これまでも学校はもとよりＰＴＡや地域や行政が一体となり、安全な安心な通りの復権として取り組んできた経緯がある。学校では、子どもたちに、これまで以上に自分たちも道を歩く主体者であり、まちづくりの主体者であるという意識を持たせつつ、自分たちに何ができるのか、自分たちから何が発信できるのかを考えるスタートラインにようやく乗せるせることができるようになってきている。

自分たちが積極的にまちづくりに参加していくための具体の活動として、この市街地の現状をよく知り、問題意識を持ち、そこから回りの人々共に考え、伝えていくということを学ぶことにより、人任せにするのではなく、「自分に何ができるのか」「回りの人々と何を協力すればよいのか」を理解し、将来自分が大人になったときにも自ら積極的に、地域をよりよくしようと関わることにつながるのではないかと考える。

このことは京都が大切にしてきた「まちづくりは人づくりから」の理念そのものである。

また、本校は７つの学区を含む５つの学校が統合してできた学校である。その特長として、多くの地域の人々が学校教育にも参画していただく組織として学校運営協議会「スマイル２１プラン委員会」の存在がある。子どもたちの教育には惜しみなく協力していただく基盤と、子どもたちがいつもそばに地域の方と学ぶ環境がある土壌がすでにできあがっている。この強みを生かして、本テーマにもとづき、さらなる充実した取組を推進することができるのではないかと思う。

平成２８年度「歩くまち・京都」実践授業校として、これまでの取組にさらに、公共の精神を意識して取り組むことにより成果が得られた。それは、自らが学習している

ことが社会に参画する立場として、学びを深める自覚につながるとともに、喜びを

味わう子どもの姿である。この意義は、今社会が目指す、持続可能な社会を創る次世代の担い手を育てる資質ともいえる。単に興味や関心で終っていた町歩きから、相手意識をもって「自分たちの街のよさを伝える」「もっとみんなにやさしい街にするために呼びかける」「安心・安全な街づくりを目指す」発達段階に応じた、社会の一員としての自覚と市民感覚を醸成していくために、この成果を活かして、継続的に本校の教育課程の中に位置付けて、引き続き２９年度もこの「歩くまち・京都」の授業実践校として取り組みたいと思う。

【研究テーマの取組計画・内容】（※は研究組織と関連）

１．　安心して歩ける街にするために（全校・６年）

（１）交通安全教育の充実（５月・７月・１２月重点指導）

学校・ＰＴＡ・地域が一体となって、取り組んでいる交通安全教育をさらに充実させる。通学路安全マップの作成および独自教材「安全な登下校路にするために」（通学路体感ＤＶＤ）をもとにした発達に即した交通安全指導の具体的な指導案に基づく効果的な実践授業のまとめと指導の改善を行う。（※①）

（２）歩行者優先の安全な道にするための子どもからの提言

区役所との連携で行う交通問題プロジェクトミーティングにおいて、子ども目線の意見も取り上げていただき、子どもたちが主体となって提言できることを発信していく。（標語・チラシ・ポスターなど※②）

２．　みんなが歩いて楽しい街にするために（３年）

（１）みどころ満載　歩いて楽しい高倉タウンマップづくり

地域の名所・達人などを探索し、インタビュー活動など行い、地域を知る活動から、他の人に高倉校区を知ってもらうためのタウンマップを作成する。（※③）

（２）親子で歩こう楽しい街

子どもたちが調べたポイントをコースに分かれて、ＰＴＡや学校運営協議会・ボランティアとも連携して、啓発を兼ねて親子土曜教室で街歩きの機会を設ける。（※④）

３．　人と環境にやさしい街にするために（４年）

（１）健やかウオーキングルート

３年生での学習を生かして、散歩ウオーキングコースを考える。実際の距離や歩数や道路で子どもやお年寄りに心配な場所はないか、福祉の面からもルートをチェックして、おすすめコースを開発し、ポスター発表を行う。（※⑤）

（２）マイエコ日誌をつけよう

できるだけ、自動車や自転車を使わずに歩くことを意識づけるための、日誌をつけて自分の生活を見直す機会をつくる。家庭とも協力して、できることからはじめるきっかけを見つける。（※⑤）

４．　もしものときに備えよう　（５年）

（１）もしもの目線で街歩きをしよう

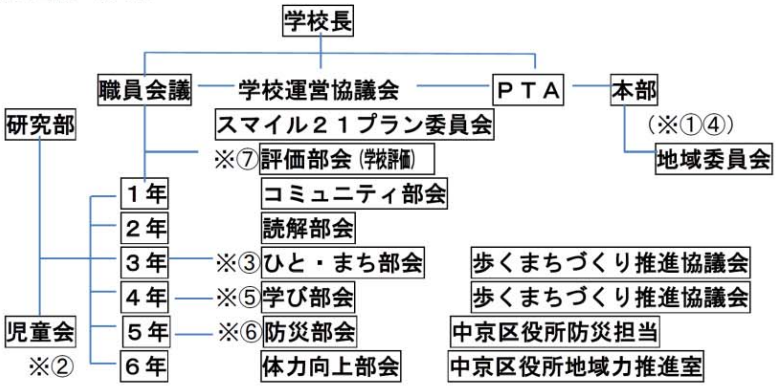
防災の視点で、建物や防災機能を確かめる。地域の自主防災とも連携し、もしものときの避難ルートの確認や避難場所を確かめる。（※⑥）

（２）スマイル高倉防災

学校運営協議会スマイル２１プラン委員会の防災部会が主体となって、高倉校区の防災プランに着手している。モデルになれば市全体にも発信したい。（※⑥）

（※は研究内容と関連）

【研究組織・体制】



【研究成果や課題に対する評価・取組】

上記の研究の取組については、各学年の指導時期があるので、研究授業の機会を設け、適宜公開授業とする。成果物については年度末までにまとめて、学校だよりやWeb上で公開し、閲覧可能なようにする。年間２回の学校評価アンケートの際に関連の項目を設定し（※⑦）、また、外部の学識経験者などを招聘し、取組の評価を改善に生かす。

【研究の普及方法について】

本事業で子どもたちが取り組んだ学習の成果は、今年度とあわせての成果物としてまとめて研究冊子あるいは、Ｗｅｂ上での発表により発信できるようにしたい。本校の取組の特徴は、前述にもあるように、学校のみならず地域やＰＴＡ組織も巻き込んだ京都のコミュニティスクールならではの研究体制がとれることである。また、今年度の実施により、地域との連携をはかるために、行政機関の応援もいただきながら既存の協議会やプロジェクトとリンクさせることにより、社会に開かれた教育課程を実現することができた。このことは、本市であれば全小学校がコミュニティスクールとして立ち上げられていることから、地域ぐるみの取組として推進するモデルとなるであろう。また、全国的にも京都ならではの地域ぐるみの取組として発信することができると考えている。

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
校内研修 講師謝礼	山田忠史（京都大学）	5000	6	30,000
大型ポスタープリンター用紙	エプソン	16,000	2	32,000
資料作成用　ＤＶＤ	DVD-R 120分５０枚	2,000	4	8,000
資料作成用　SDカード	８ＧＢ　Panasonic	2,000	10	20,000
資料作成用　ＰＰＣ用紙	Ａ４マルチコピー１箱	2,500	20	50,000
成果物 冊子　印刷費		500	1000	50,000
フィールドワーク用バインダー		250	40	10,000
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

学校名	小栗栖宮山小学校
校長名	畠田　靖久

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】
５年　総合
６年　総合

【研究テーマ】

※自校の具体的なテーマを記述すること。

「醍醐の　いいところ　みーつけた！」

・自分たちが住んでいる醍醐の町の良さを見つけよう（５年）。

・自分たちの住んでいる地域の歴史的価値を知り，地域に愛着をもつ（６年）。

【研究テーマの設定理由】

※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

・小栗栖宮山小学校のあるこの場所には，たくさんの歴史的価値のある場所が多く存在する。しかしながら，子ども達はこの町に住みながらその場所を訪れる機会も少なく何気なく毎日の生活を送っている。自分たちの住む町が昔から地域の人々によって守られ，大切にされてきたことを知り，自分の住む町の良さを知ることで地域に愛着をもつ子どもを育てたいと考える。そして，地域の担い手として地域の活性化に積極的に協力していこうとする意識を一人一人の子どもの中に育てていきたい。

・地域の方の努力によって，この地域には醍醐コミュニティバスが走っている。また近くには京都市営地下鉄が南北に走っており，その他多くのバスの経路も通っている。これらの公共交通機関を使えば醍醐の町にある名所を巡ることができる。公共交通機関を使って，自分たちの足で歩くことで今まで気づかなかったさまざまな素晴らしい場所や人々との出会いを多く経験してほしいと考える。

・醍醐コミュニティバスはじめとする公共交通手段を総合学習の中で利用することで，普段の生活の中でもこれらを使用するきっかけになるのではないかと考える。

【研究テーマの取組計画・内容】

≪研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法について≫

・ 自分たちの住む醍醐地域の名所や見どころについてインターネット，地域への聞き取り（校区内にお住まいの方，学校長など），書物などを使って調べ学習を行う。

・ 地域の名所や見どころについてまとめ，その場所への思いを深める。

・ 実際に自分たちで公共交通機関を使って行く計画を立てる。
（何を見たいのか，何のためにそこに行くのか，何を聞いてくるのかなど，その場所を訪れる目的を十分に子どもたちが考えられるよう学習を進める。）

・ ５年生，６年生でのたて割りグループを作り，自分たちのコースを決める。
（この時学年によって，目的は異なるが，それぞれの学年でのねらいに即して自分たちの見たいもの聞きたいことをまとめ交流していく。）

≪組織体制について≫

・ 組織体制（教職員を中心として午前に回る場所，お昼を食べる場所，午後から回る場所，ポイントをどこにするのかなど計画を立てる。）

・ 組織体制が組まれれば保護者・地域などに，この取り組みの趣旨をお伝えし，協力を要請することも考える。

≪研究成果や課題に対する評価・取組について≫

・ 自分たちが実際に回った場所についてまとめる。
（まとめ方については，新聞，壁新聞，プレゼンテーションなど多様な形で考える。）これらの成果物を評価することで次の取組に生かす。

・ 校内研修の中にこれらの取り組みの成果と課題について教職員全体で話し合う機会を設け，より良い取り組みとなるようにしていく。

≪研究成果の普及方法について≫

・ 研究成果の普及方法としては，子ども達のまとめたものをそれぞれのブースでテーマごとに発表する発表会を企画したい。自分たちが調べ，実際に歩いてみて感じたものを自分の地域への思いを乗せて発表することで，醍醐地域への思いを深めていってくれればと願っている。

・ また，これらの活動については，研究の経過をホームページや学校便りなどでその都度，地域，保護者にも発信していきたい。

・ これまでより，地域の方々にはたくさんの子どもたちの支援や取組を行っていただいている。それぞれの方々がどのような思いで自分たちに関わってくださっていたのかをこれらの取組から感じ取り，感謝の気持ちをもてるようになってくれればと考えている。

・ これらの活動を通して，自分たちの住む地域に誇りと愛着を感じ，地域を大切にする子どもを育てていきたいと考える。

学校名	小栗栖宮山小学校
校長名	畠田　靖久

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
醍醐の地域めぐりの為	コミュニティバス一日乗車券	300	100	30,000
地域の歴史について知る為	講師代	10,000	3	15,000
ポートフォリオにまとめる為	ファイル 40 ポケット	400	100	40,000
発表会用模造紙等紙類	模造紙	2,500	6	15,000
児童調べ学習用印刷代	インク代（4 色）	15,000	4	60,000
発表会新聞まとめの為	プロッキー（12 色）	1,800	２５	45,000
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				205,000

学校名	京都市立醍醐西小学校
校長名	森川　浩孝

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】
社会科，総合的な学習

【研究テーマ】
※自校の具体的なテーマを記述すること。

私たちの住みよい街，醍醐　～ふるさとの街を見直そう～

【研究テーマの設定理由】
※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

私たちの住む醍醐地域には，世界遺産の醍醐寺がある。また，パセオ・ダイゴローやアルプラザ醍醐といった大型ショッピング施設，醍醐中央図書館といった公共施設，たくさんの住宅団地などがあり，様々な特色を持つ地域である。また，校区の真ん中を南北に走る大きな幹線道路の外環状線や地下鉄東西線の醍醐駅，醍醐バス・タクシーターミナルがあり，利便性がとても良い地域とも言える。さらに，校区の西端には山科川が流れ，自然豊かな地域でもある。

そこで，３・４年生の社会科と総合的な学習の時間で，私たちの住む街に目を向け，校区の特性を生かした学習につなげていきたい。

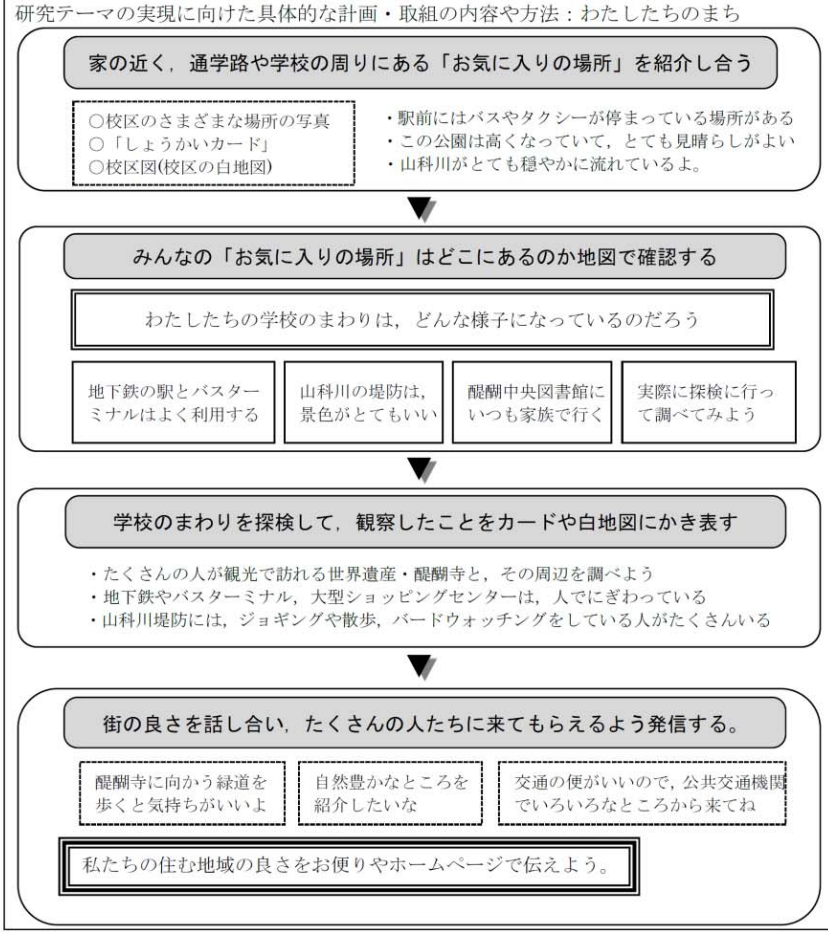
【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ 2 枚程度まで。（書式は自由。取組内容を分かりやすく簡潔に記述すること。2 枚を超えても良い。）

※下記の点については必ず記述すること。

- 研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法
- 組織体制（教職員・保護者・地域など）
- 研究成果や課題に対する評価・取組
- 研究成果の普及方法

研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法：わたしたちのまち



組織体制
・教職員による指導
・地域・保護者の方と校区探検

研究成果や課題に対する評価・取組
・校区の特色を探る。
・京都市内の特色を探る。

・校区の特色ある地形，土地利用の様子，主な公共施設などの場所と働き，交通の様子，古くから残る建造物などに関心をもち，意欲的に調べている。
・観点に基づいて観察や聞き取り調査をしたり，地図や写真などの資料を活用したりして，校区の様子について必要な情報を集め，読み取っている。
・調べたことを主な地図記号や四方位などを用いて，絵地図や白地図にまとめている。
・醍醐地域の良さに気づき，それを発信しようとしている。
・京都市の特色ある地形，土地利用の様子，主な公共施設などの場所と働き，交通の様子，古くから残る建造物などに関心をもち，意欲的に調べようとしている。
・京都市の特色ある様子を，観点に基づいて観察や聞き取り調査をしたり，地図や写真などの資料を活用したりして，市の様子について必要な情報を集め，読み取っている。
・調べたことを主な地図記号や四方位などを用いて絵地図や白地図等にまとめ，市内めぐりの良さを発信しようとする。

研究成果の普及方法
・ホームページによる発信
　本校では，児童の活動の様子や連絡等を保護者や地域に伝達する方法として学校のホームページへの掲載を活用している。これまでの１日平均アクセス数が１３３件と注目をいただいている。このホームページを使って，子どもたちから醍醐の街の良さや歩きたくなる街をアピールしていく。
・学級通信・生活だよりによる発信
　各学級で発行している学級通信に子どもの成果物を掲載していく。
　不定期であるが，学校より発行している保護者啓発用のお便りの生活だよりに掲載していく。（本校ＨＰ参照）

学校名	醍醐西小学校
校長名	森川　浩孝

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
市内めぐり	京都観光一日乗車券	￥600－	67	￥39,400－
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				￥39,400－

資料２

「歩くまち・京都」学習実践発表会（仮称）について

１　日時

平成３０年３月４日（日）午前９時３０分～１１時４５分

２　会場

京都府立総合社会福祉会館　はーとぴあ京都　大会議室
シアター形式で定員２００名
（京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅すぐ）





３　当日のスケジュール（予定）

８：３０～　開場準備
９：００～　開場
９：３０～　開会　開会の挨拶（歩くまち京都推進室長）（５分）
９：３５～　講演会（水山教授・藤井教授など）（３０分）
１０：０５～　休憩（１０分）
１０：１５～　実践校発表①（１５分，準備時間含む）
１０：３０～　実践校発表②（１５分，準備時間含む）
１０：４５～　実践校発表③（１５分，準備時間含む）
１１：００～　休憩（１０分）
１１：１０～　実践校発表④（１５分，準備時間含む）
１１：２５～　実践校発表⑤（１５分，準備時間含む）
１１：４０～　閉会の挨拶（水山教授）（５分）
１１：４５～　退場（１２時　鍵返却）

8:30	9:00	9:30	9:35		10:05	10:15		10:30		10:45		11:00	11:10		11:25		11:40	11:45
準備	開場	挨拶	講演		休憩	発表①		発表②		発表③		休憩	発表④		発表⑤		挨拶	退場

4　各実践校への協力依頼内容（予定）

・当日の発表
・小学校内での開催案内チラシの配布（１月から配布開始を想定）
・必要に応じて地域住民の代表者への開催連絡
　（小学校区内の地域住民には，当室から回覧板などで周知予定）

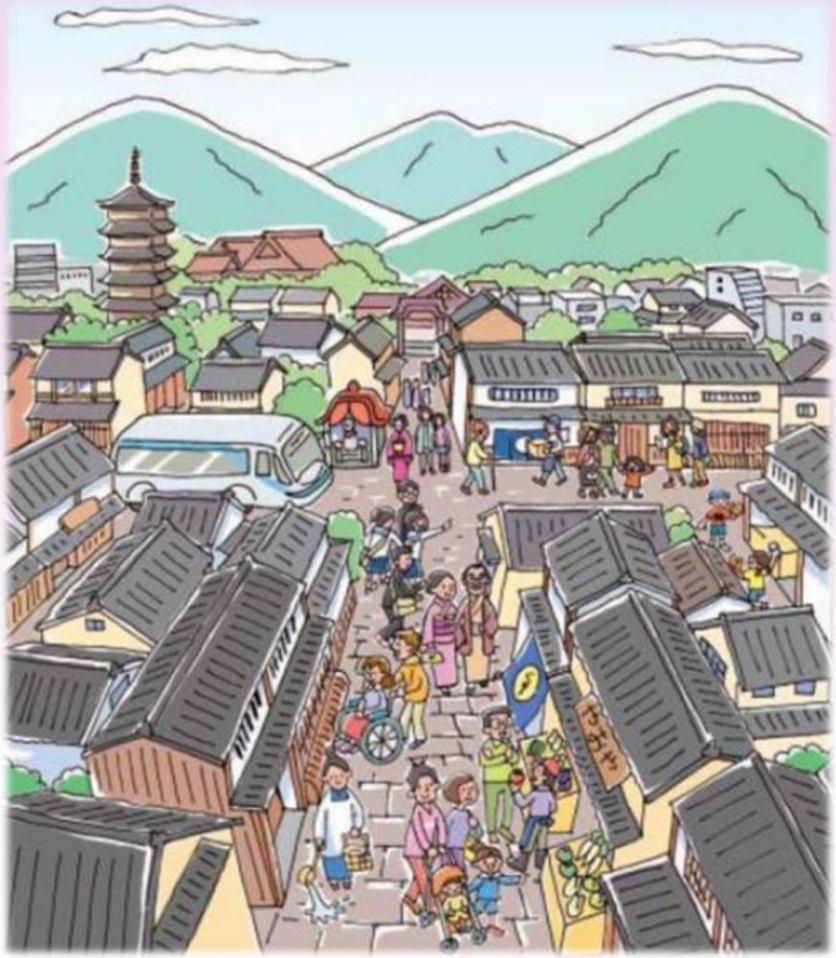
5　発表資料について

・パワーポイントで１０枚以内で作成
・２月下旬頃までに歩くまち京都推進室にデータで提出
・当日は，パワーポイントを使って発表（発表者は教員・児童）

6　来場者受付・広報など

・来場者は原則，事前申込制
・１月に京都市から広報発表し，チラシの配布を開始
・京都府や周辺市町村等の交通政策担当・環境政策担当等に周知
・小学校区内の地域住民には，当室から回覧板などで周知予定

平成29年度
「歩くまち・京都」学習実践発表会



平成30年3月4日

1　京都市立○○小学校での実践

1　京都市立〇〇小学校での実践

平成 29 年度 第２回「歩くまち・京都」学習検討会　摘録

１　日　時　　平成 29 年 10 月 25 日（水）　午後６時～午後７時 30 分

２　場　所　　下京区役所

３　出席者

京都教育大学	水山　光春　教授
京都市立衣笠小学校	中原　美千恵
京都市立岩倉北小学校	牧　紀彦
	河村　圭佑
京都市立高倉小学校	岸田　蘭子
	内藤　岳士
京都市立小栗栖宮山小学校	前田　恵美
	粟野　亜希子
京都市立醍醐西小学校	壽見　和高
	原　昌司
京都市朱雀第七小学校（社会科研究会）	清水　一希
京都市教育委員会　首席指導主事	松下　誠太郎
指導主事	岡　博士
京都市都市計画局歩くまち京都推進室	矢内課長、岡本係長、瀧
一般社団法人システム科学研究所	東部長、山口

４　議事内容

●「歩くまち・京都」学習実践校の取り組みの進捗について

〈各小学校から進捗状況を報告〉

（岩倉北小学校）

○ 六年生は総合の時間で、「歩くまち・京都」憲章について自分たちの意見を持つ事をゴールとして、平成 30 年２月 23 日に授業を実施予定。

○ 三年生の歴史単元の最後に、京都市が舞台となった事柄を振り返って歴史を身近に感じるような事業を検討中。

（高倉小学校）

○ 六年生は自転車に焦点をあてて、平成 30 年 12 月５日に六年生の授業を実施予定

○ 三年生は、昨年度に歩いて暮らせるまちづくりと連携して地図を作成済みであるので、その改良点の検討からスタート

（衣笠小学校）

○ 六年生は京都の市内巡りを実施した時の経験を元に、児童による討論会を平成 29 年 11 月 24 日に授業を実施予定。多様な意見を出すということを目的としたい。

○ 四年生は当初予定から変更し、先に福祉の授業を実施したため、環境の授業は延期となった。2 月頃に公開授業実施ができればと考えている。

（岡指導主事）

○ 児童による討論会の時にデータを提示できると良いのではないか。

（醍醐西小学校）

○ 四年生は地域への愛着を育むことを目指して、児童が地域を調べているところである。

○ 三年生はまちの良さを再発見する事を目指して、児童がバスのダイヤや路線を調べているところである。

（小栗栖宮山小学校）

○ 京都市のジュニア検定を受けるのにあたって、ガイドブックを学んだが、自分たちのまちという実感が薄いようであった。醍醐検定を六年生が作って五年生が受ける事を通じて、醍醐のまちにも良いところがあることの気づきを促したい。

○ 平成 29 年 11 月 8 日に六年生の生涯学習授業を予定している。

（水山座長）

○ 他の地域のモビリティ・マネジメント学習と比べると、地域の愛着に焦点をあてるところが京都市の取組の特徴と言える。
他の地域では、交通事業者が出前授業をする事も多い。自分たちで考えていただける事は、良い事であるが、使える機会を活用することも検討いただければとも思う。

（小学校社会科研究会 清水）

○ 各校が工夫をされていて、授業を拝見するのが楽しみである。

（エコモ財団　岡本）

○ 地域によっては、京都市外から転入された世帯が多いので、地域の愛着が少ない児童がいるのかなと思いながら聞いていた。

（松下首席指導主事）

○ 児童が調べるだけでなく、自分が参加・トライしたり、発信したりという展開があると良いのではないか。

● 「歩くまち・京都」学習実践発表会について

（水山座長）

○ 発表だけでなく参加体験型の仕組みを 20 分程度とりたい。例えば、隣の人と話をするとか、何かカードをあげて意思表示するとかが考えられる。

○ 各校から 10 名程度ずつ参加いただけると有り難い。

○ 周知用のポスターを作成する等、検討いただければ有り難い。

（高倉小学校）

○ 参加体験型の取組は、あると良いと思う

○ 市民の人への広報の方法は、どのような予定か。

（京都市）

○ 五校の小学校区に回覧板を回したいと考えている。

○ 教育委員会から、市内の学校に案内が可能か調整したい。

（高倉小学校）

○ パネルディスカッションのように、各校の発表の後にコメントいただくと良いのではないか。

（小栗栖宮山小学校）

○ 伏見の端からの移動時間を考慮すると、開始時間は現案の９時半が有り難い。
児童に発表させたいと考えている。

（衣笠小学校）

○ 15 分では児童が発表する事は難しいので、教員が発表することを想定していた。

（岩倉北小学校）

○ 他校の教諭を対象として、教諭が発表を想定していた。
市民が聞いてもあまり面白味の少ない発表になるので、市民対象とするなら内容を再考したい。

（醍醐小学校）

○ 学校行事のため参加できないので、資料にもとづいて京都市に発表いただきたい。

（水山座長）

○ 休憩時間と欠席される醍醐小学校の発表時間を減らすことにより、参加体験的な時間を捻出する。開始・終了時刻は変更しない。

○ 発表の順番は、京都市の方で決めていただく。

● **その他**

（京都市）

○ ガリバーマップの活用について、使用の予定や要望などがあれば、お知らせいただきたい。

（エコモ財団　岡本）

○ 指導要領の見直しが控えている時期であり、反映できると良いと思う。

（松下首席指導主事）

○ 自分たちのまちを考えるということは、本当に大事なことであり各校の取組を楽しみにしている。

以上

(3) 第３回検討会

第３回検討会で配布した資料と当日議事録は以下のとおりである。

①議事次第 ……278

②委員名簿 ……279

③配席図 ……280

④平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書 ……281

⑤「歩くまち・京都」学習実践発表会チラシ ……301

⑥「歩くまち・京都」学習実践発表会（案）について ……302

⑦「歩くまち・京都」学習実践発表会　会場写真 ……304

⑧「歩くまち・京都」学習実践発表会　各校資料（案） ……305

⑨第３回検討会摘録 ……349

平成２９年度　第３回「歩くまち・京都」学習検討会

日時：平成３０年２月１９日（月）１８時００分～
場所：下京区役所　第１会議室

議 事 次 第

1. 開会
2. 議事
   「歩くまち・京都」学習実践発表会について
   その他
3. 閉会

［配布資料］

委員名簿
座席図
資料１　各実践校の申請書
資料２　「歩くまち・京都」学習実践発表会チラシ
資料３　「歩くまち・京都」学習実践発表会　当日のスケジュール等について
資料４　会場写真

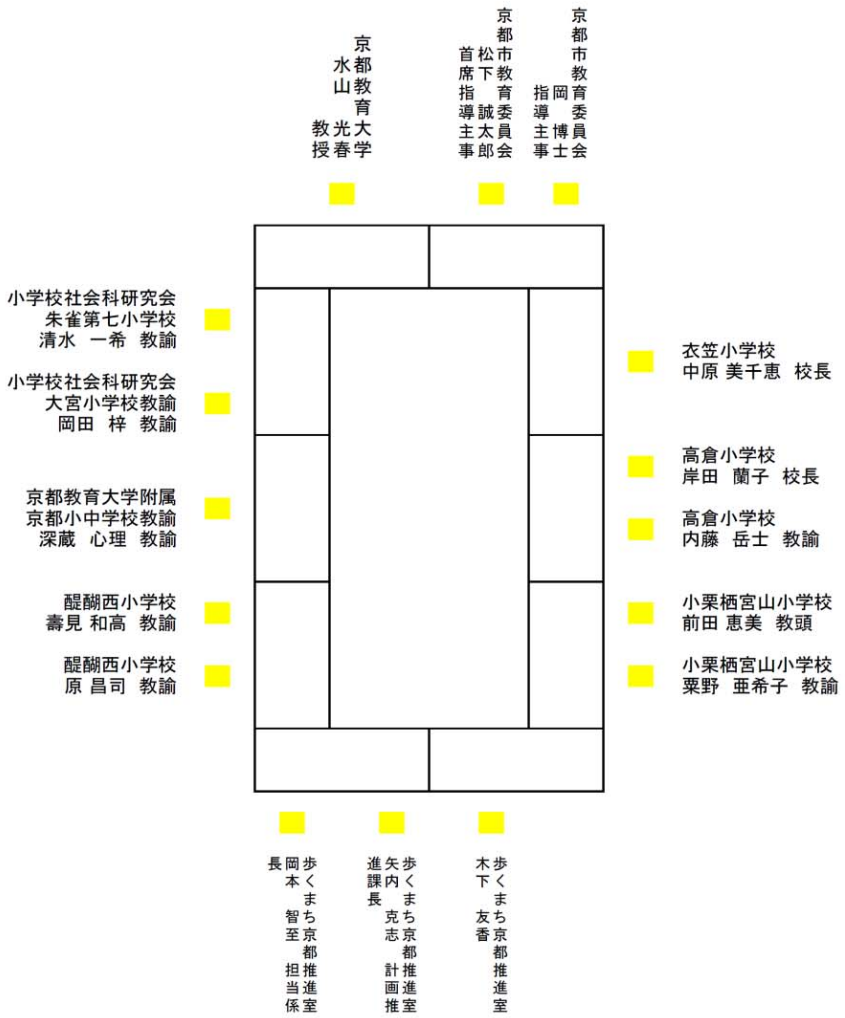
平成29年度第3回「歩くまち・京都」学習検討会　委員名簿

所属				
京都教育大学	教授	水山　光春	座長	
京都大学大学院	教授	藤井　聡	副座長	御欠席
愛媛大学大学院	教授	松村　暢彦	アドバイザー	御欠席
京都市教育委員会	学校指導課首席指導主事	松下　誠太郎		
京都市教育委員会	総合教育センター指導主事	岡　博士		
京都教育大学附属 京都小中学校	教諭	深蔵　心理		御欠席
小学校社会科研究会	朱雀第七小学校教諭	清水　一希		
小学校社会科研究会	大宮小学校教諭	岡田　梓		

歩くまち・京都学習実践校			
京都市立衣笠小学校	校長	中原 美千恵	
京都市立岩倉北小学校	教頭	牧　紀彦	御欠席
	教諭	河村　圭祐	御欠席
京都市立高倉小学校	校長	岸田　蘭子	
	教諭	内藤　岳士	
京都市立小栗栖宮山小学校	教頭	前田 恵美	
	教諭	粟野　亜希子	
京都市立醍醐西小学校	教諭	壽見 和高	
	教諭	原 昌司	

事務局			
京都市都市計画局 歩くまち京都推進室	計画推進課長	矢内　克志	
	担当係長	岡本　智至	
		木下　友香	
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境対策部 交通環境企画課担当課長	岡本　英晃	御欠席

平成29年度第3回「歩くまち・京都」学習検討会　配席図



資料２

学校名	衣笠小学校
校長名	中原　美千恵

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

総合的な学習の時間・特別活動・（英語活動）

【研究テーマ】

※自校の具体的なテーマを記述すること。

衣笠のぬくもり・未来に輝く衣笠の誇り

～「自ら課題解決に向かい，伝え合い学び合う子ども」の育成～

【研究テーマの設定理由】

※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

本校は学校運営協議会，PTA，PTA 賛助会，見まもり隊など，多くの保護者・地域の方々が子どもたちのために様々な支援をして来られた。その人材を活用し，地域の物的財産を生かして地域に思いを寄せ，「衣笠が好き」という子どもを育みたいと言う思いで３年間地域を題材とした総合的な学習の時間の校内研究に取り組んできた。平成２８年度は「自ら課題解決に向かい，伝え合い学び合う子ども」を研究主題として，カリキュラムづくりの見直しと「伝え合う力」の育成を重点に取り組んだ。児童が主体的・能動的に授業に参加し，対話を重視しながら自ら課題を解決していくような授業の構築を目指してきた。

６年生は低学年の生活科，３年生からの総合的な学習で学んだことの集大成のような単元を構成している。地域の歴史的・文化的遺産や，地域に暮らす人との交流を通して衣笠の街のよさを考え未来に伝えていきたい，ということで全校ウォークラリーを企画・実施した。実施にはたてわり活動（特別活動）の時間も使っていた。カリキュラムマネジメントとして２９年度は取組の見直しが必要であるが，「歩いて衣笠の街のよさを伝える」という活動は大切にしていきたいと考えている。休日だけでなく平日も校区を大勢の観光が往来しているが，特に外国人観光客に紹介するなど，今後は英語の学習にも生かしたい。加えて２８年１２月に京都府警より校区東半分がゾーン３０の指定を受けた。歩行者の安全確保のためということであるが，だれもが安心して歩ける街づくりを４年の総合的な学習の時間で扱う環境・福祉「衣笠のぬくもり」で取り組むようにしたい。

【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ 2 枚程度まで。（書式は自由。取組内容を分かりやすく簡潔に記述すること。2 枚を超えても良い。）

※下記の点については必ず記述すること。

【４年生　総合的な学習の時間「きぬがさのぬくもり」】他の取組

４月　総合的な学習の時間全体計画・カリキュラム作成

～５月　社会　ごみについての学習（環境センターの見学等）の後

「きぬがさのぬくもり」①環境プロジェクト　学習開始

～６月　地域の環境の取組についてごみの分別とリサイクルについて調べる

グリーンカーテンについて調べ，アサガオを育てる

７月　エコライフチャレンジで地球温暖化について知る

「みさきの家」野外活動‥大自然の中での体験活動

みさきの家でのごみ処理について調べる。（自然を守るための取組）

～８月　家庭での取組

９月～１０月　調べたことをまとめ発表する。温暖化防止のためにできること。

１０月　たてわり校区ラリー‥衣笠の街を歩いて魅力発見

１１月　京都府警による自転車安全教室・ゾーン３０についての学習

～３月「きぬがさのぬくもり」②福祉プロジェクト　学習開始

お年寄りとの交流から，みんなが安全に歩ける街づくりについて考える。

【６年生　総合的な学習の時間「未来に輝く衣笠の誇り」】他の取組

４月　総合的な学習の時間全体計画・カリキュラム作成

～９月　地域の誇りについて調べる

１０月　たてわり校区ラリー‥衣笠の街を歩いて魅力を伝える

～１月　衣笠の魅力をもっと伝えよう

観光客に英語も使って伝える

自転車の乗り方などを見直し，安全な街づくりの提案をする。

・組織体制（教職員・保護者・地域など）　後述

・研究成果や課題に対する評価・取組

校内研究として，助言者を招いて総合的な学習の時間の授業研究をする。

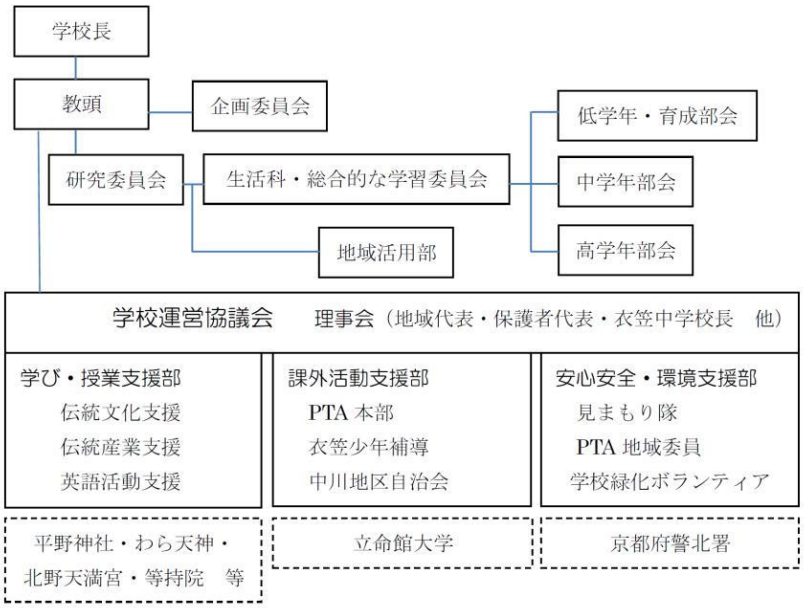
学校運営協議会で，子供たちや地域の様子の変容について意見をもらう。

４年または６年の授業を専門を招いて全市に向けて公開し，助言をいただく。

・研究成果の普及方法

指導案等を HP で公開する。

・研究組織（学校運営協議会は組織再編のため準備中）



学校名	衣笠小学校
校長名	中原　美千恵

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
報償費（取組への助言等）	指導助言（専門家未定）	20,000 円	3 回	60,000 円
需要費：協働学習用で使用	まなボード(IZUMI)	3,240 円	16 枚	51,840 円
需用費：温暖化実験で使用	デジタル気体チェッカー	73,440 円	1 台	73,440 円
需用費：指導案作成用	輪転機インク	3,180 円	1 本	6,260 円
需用費：指導案作成用	輪転機マスター	6,800 円	1 本	6,800 円
需用費：指導案作成用	コピー用紙	1,660 円	1 冊	1,660 円
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000 円

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

社会科　　総合的な学習の時間

【研究テーマ】

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を系統的に配置し，実践する。

【研究テーマの設定理由】

本校では，「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」を研究主題に，国語科・社会科を通して校内研究を８年間進めてきており，教師の授業力や児童の思考・判断・表現力の充実を図ってきている。今年度の校内研究では，これまでの取組を積み重ねていくと共に，社会の中で活用することができる論理的思考力やそれらを表現する力の育成を，国語科・社会科のみならず，教育活動全体で意図的に取り組むことにより，刻々と変化する社会情勢にも通用する力を学校全体で育むことを意図してきた。

また，「歩くまち・京都」の実践では，「公共の精神」を学校教育の中で育んでいくために，社会科や総合的な学習の時間において３年生から６年生までの発達段階に応じた様々な角度から「京都のまち」の姿を深くとらえ，自分たちが暮らす「まち」に愛着をもつことで，これからの「まち」をつくっていく主体者として，より良い京都のまちづくりへの持論を論じることができるような児童の姿を目指し，取組をスタートさせた。今年度は「１年次」として，３年生から６年生までの各学年１本ずつの単元を設定し，実践を行った。校内研究授業を設定することで，校内での「歩くまち・京都」学習の実践についての共通理解も進めることができた。

本校では，研究実践の成果を３年生から６年生までの４年間を１つのスパンとして捉えており，来年度を４年間のうちの「２年次」として位置付ける。「２年次」は，実践内容の充実・発展はもちろんのこと，系統的なカリキュラムの開発を図る。社会科の内容を洗い出し，実践可能な単元においてどのような理解や認識を育むことができるのかを熟考するとともに，学年の発達に応じた学習内容の配置を行う。

【研究テーマの取組計画・内容】

○研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法

研究の計画

◆研究の方向についての提案と共通理解（４月）

・目標設定の共通理解（２年次の取組について）

・教材開発の視点について

・単元構成の在り方について

・授業展開の在り方について

・目標実現状況の評価の在り方について

◆カリキュラム開発と研究計画（４月）

◆校内研究授業（５月～２月）

◆研究発表会の実施（１２月・２月）

研究発表会で研究の成果を問い，改善点を授業実践を通して修正する。

◆国立教育研究所教育課程研究指定校事業の授業公開（未定）

◆研究の総括（成果と課題，３年次の取組について）（３月）

・研究発表会で明らかになった課題をどのように克服するかについて

教材について

◆社会科（総合）の単元との関連について

【社会科（総合）の関連可能単元】（ゴシックは２８年度実施単元）

例）３年　**「京都市のまちの様子」**　「農家でつくられるもの」

「地域の人びとが受けついできたもの」

４年　**「きょう土をひらく」**　「京都市再発見」

５年　「わたしたちの国土」　**「社会を変える情報」**

「環境を守るわたしたち」

６年　「日本の歴史」　「わたしたちの生活と政治」

４年～６年　ジュニア京都検定

◆本研究で進めようとしている教材化の事例

・社会科の発展教材として

・総合的な学習の時間での単元として

３年

・地理的条件をいかして人々がくらしている様子を調べ理解する。

・京野菜の伝統を守り続けている農業に携わる人々の工夫を調べ理解する。

・京都のまちの伝統（古くから受け継がれてきたもの）について調べ理解する。

４年

・京都のまちづくりの発展に尽くした先人のはらたらきについて調べ理解する。

・京都市の特色を京都府の特色ある地域と比較して京都市のよさを考える。

５年

・地形的・気候的条件に合わせた日本の特色ある地域の生活や産業の工夫を京都市と比較しながら調べ理解する。

・日本の中の京都市の交通・地理的条件を含む特色・役割について調べ理解する。

・京都市の環境保全の取組について調べ理解する。

６年

・京都市の歴史について調べ理解する。

・文化観光都市京都について調べ理解する。

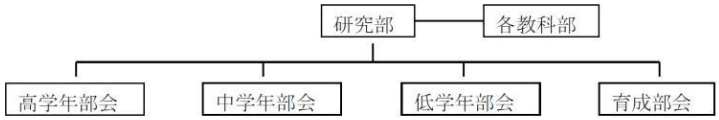
・京都のまちづくりと行政・市民のはたらきについて調べ理解する。

・これからの京都市のまちづくりについて考える。（歩くまち・京都憲章）

○組織体制

・研究部は，校長・教頭・教務主任・研究主任及び各学年１名の研究委員で構成する。

・教育関係者を指導助言者として招くなどして研究の幅を広げ充実を図る。



○研究成果や課題に対する評価・取組

・校内研究授業や研究発表会等の公開授業において参観者が研究の成果を評価する。（事後研修会やアンケート等）

・児童のノート記述を単元の最初と最後で比較することで，社会的な見方や考え方の変容を評価する。

・「わたしたちの京都」に関する意識調査アンケート（６年生）の実施

○研究成果の普及方法

・研究発表会の授業公開と校内研究授業の冊子での公表

・国立教育研究所教育課程研究指定校事業の授業公開

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
資料の印刷	カラー印刷インク（4色）	12,528	4	50,112
資料・指導案の印刷	マスター・インク	19,114	4	76,456
資料の印刷	A3 コピー用紙	3,720	8	29,760
	拡大コピー用紙	6,156	4	24,624
	A4 コピー用紙	1,740	8	13,920
教材提示用磁石	マグネットロール	5,128	1	5,128
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

総合的な学習「たかくら学習」・特別活動（安全教育）

【研究テーマ】

豊かに学び、表現し、高め合う子をめざして
～共にめざす　住みやすいまちにするために～

【研究テーマの設定理由】

本校は、校区を東は鴨川・西は堀川通り・北は御池通り・南は四条通りと京都の中心部の市街地がすべて含まれるという立地条件にある。子どもたちは、その地域の中日常生活を行っている。登下校を含む通学路の安全については、これまでも学校はもとよりＰＴＡや地域や行政が一体となり、安全な安心な通りの復権として取り組んできた経緯がある。学校では、子どもたちに、これまで以上に自分たちも道を歩く主体者であり、まちづくりの主体者であるという意識を持たせつつ、自分たちに何ができるのか、自分たちから何が発信できるのかを考えるスタートラインにようやく乗せるせることができるようになってきている。

自分たちが積極的にまちづくりに参加していくための具体の活動として、この市街地の現状をよく知り、問題意識を持ち、そこから回りの人々共に考え、伝えていくということを学ぶことにより、人任せにするのではなく、「自分に何ができるのか」「回りの人々と何を協力すればよいのか」を理解し、将来自分が大人になったときにも自ら積極的に、地域をよりよくしようと関わることにつながるのではないかと考える。

このことは京都が大切にしてきた「まちづくりは人づくりから」の理念そのものである。

また、本校は７つの学区を含む５つの学校が統合してできた学校である。その特長として、多くの地域の人々が学校教育にも参画していただく組織として学校運営協議会「スマイル２１プラン委員会」の存在がある。子どもたちの教育には惜しみなく協力していただく基盤と、子どもたちがいつもそばに地域の方と学ぶ環境がある土壌がすでにできあがっている。この強みを生かして、本テーマにもとづき、さらなる充実した取組を推進することができるのではないかと思う。

平成２８年度「歩くまち・京都」実践授業校として、これまでの取組にさらに、公共の精神を意識して取り組むことにより成果が得られた。それは、自らが学習している

ことが社会に参画する立場として、学びを深める自覚につながるとともに、喜びを

味わう子どもの姿である。この意義は、今社会が目指す、持続可能な社会を創る次世代の担い手を育てる資質ともいえる。単に興味や関心で終っていた町歩きから、相手意識をもって「自分たちの街のよさを伝える」「もっとみんなにやさしい街にするために呼びかける」「安心・安全な街づくりを目指す」発達段階に応じた、社会の一員としての自覚と市民感覚を醸成していくために、この成果を活かして、継続的に本校の教育課程の中に位置付けて、引き続き２９年度もこの「歩くまち・京都」の授業実践校として取り組みたいと思う。

【研究テーマの取組計画・内容】（※は研究組織と関連）

１．　安心して歩ける街にするために（全校・６年）

（１）交通安全教育の充実（５月・７月・１２月重点指導）

学校・ＰＴＡ・地域が一体となって、取り組んでいる交通安全教育をさらに充実させる。通学路安全マップの作成および独自教材「安全な登下校路にするために」（通学路体感ＤＶＤ）をもとにした発達に即した交通安全指導の具体的な指導案に基づく効果的な実践授業のまとめと指導の改善を行う。（※①）

（２）歩行者優先の安全な道にするための子どもからの提言

区役所との連携で行う交通問題プロジェクトミーティングにおいて、子ども目線の意見も取り上げていただき、子どもたちが主体となって提言できることを発信していく。（標語・チラシ・ポスターなど※②）

２．　みんなが歩いて楽しい街にするために（３年）

（１）みどころ満載　歩いて楽しい高倉タウンマップづくり

地域の名所・達人などを探索し、インタビュー活動など行い、地域を知る活動から、他の人に高倉校区を知ってもらうためのタウンマップを作成する。（※③）

（２）親子で歩こう楽しい街

子どもたちが調べたポイントをコースに分かれて、ＰＴＡや学校運営協議会・ボランティアとも連携して、啓発を兼ねて親子土曜教室で街歩きの機会を設ける。（※④）

３．　人と環境にやさしい街にするために（４年）

（１）健やかウオーキングルート

３年生での学習を生かして、散歩ウオーキングコースを考える。実際の距離や歩数や道路で子どもやお年寄りに心配な場所はないか、福祉の面からもルートをチェックして、おすすめコースを開発し、ポスター発表を行う。（※⑤）

（２）マイエコ日誌をつけよう

できるだけ、自動車や自転車を使わずに歩くことを意識づけるための、日誌をつけて自分の生活を見直す機会をつくる。家庭とも協力して、できることからはじめるきっかけを見つける。（※⑤）

４．　もしものときに備えよう　（５年）

（１）もしもの目線で街歩きをしよう

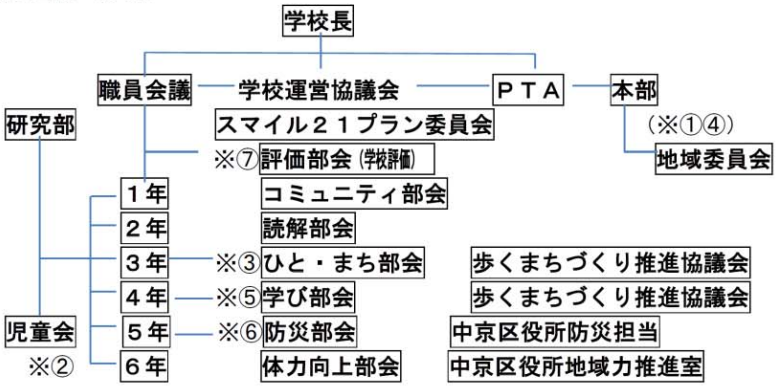
防災の視点で、建物や防災機能を確かめる。地域の自主防災とも連携し、もしものときの避難ルートの確認や避難場所を確かめる。（※⑥）

（２）スマイル高倉防災

学校運営協議会スマイル２１プラン委員会の防災部会が主体となって、高倉校区の防災プランに着手している。モデルになれば市全体にも発信したい。（※⑥）

（※は研究内容と関連）

【研究組織・体制】



【研究成果や課題に対する評価・取組】

上記の研究の取組については、各学年の指導時期があるので、研究授業の機会を設け、適宜公開授業とする。成果物については年度末までにまとめて、学校だよりやWeb上で公開し、閲覧可能なようにする。年間２回の学校評価アンケートの際に関連の項目を設定し（※⑦）、また、外部の学識経験者などを招聘し、取組の評価を改善に生かす。

【研究の普及方法について】

本事業で子どもたちが取り組んだ学習の成果は、今年度とあわせての成果物としてまとめて研究冊子あるいは、Ｗｅｂ上での発表により発信できるようにしたい。本校の取組の特徴は、前述にもあるように、学校のみならず地域やＰＴＡ組織も巻き込んだ京都のコミュニティスクールならではの研究体制がとれることである。また、今年度の実施により、地域との連携をはかるために、行政機関の応援もいただきながら既存の協議会やプロジェクトとリンクさせることにより、社会に開かれた教育課程を実現することができた。このことは、本市であれば全小学校がコミュニティスクールとして立ち上げられていることから、地域ぐるみの取組として推進するモデルとなるであろう。また、全国的にも京都ならではの地域ぐるみの取組として発信することができると考えている。

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
校内研修 講師謝礼	山田忠史（京都大学）	5000	6	30,000
大型ポスタープリンター用紙	エプソン	16,000	2	32,000
資料作成用　ＤＶＤ	DVD-R 120分５０枚	2,000	4	8,000
資料作成用　SDカード	８ＧＢ　Panasonic	2,000	10	20,000
資料作成用　ＰＰＣ用紙	Ａ４マルチコピー１箱	2,500	20	50,000
成果物 冊子　印刷費		500	1000	50,000
フィールドワーク用バインダー		250	40	10,000
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

学校名	小栗栖宮山小学校
校長名	畠田　靖久

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】
５年　総合
６年　総合

【研究テーマ】

※自校の具体的なテーマを記述すること。

「醍醐の　いいところ　みーつけた！」

・自分たちが住んでいる醍醐の町の良さを見つけよう（５年）。

・自分たちの住んでいる地域の歴史的価値を知り，地域に愛着をもつ（６年）。

【研究テーマの設定理由】

※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

・小栗栖宮山小学校のあるこの場所には，たくさんの歴史的価値のある場所が多く存在する。しかしながら，子ども達はこの町に住みながらその場所を訪れる機会も少なく何気なく毎日の生活を送っている。自分たちの住む町が昔から地域の人々によって守られ，大切にされてきたことを知り，自分の住む町の良さを知ることで地域に愛着をもつ子どもを育てたいと考える。そして，地域の担い手として地域の活性化に積極的に協力していこうとする意識を一人一人の子どもの中に育てていきたい。

・地域の方の努力によって，この地域には醍醐コミュニティバスが走っている。また近くには京都市営地下鉄が南北に走っており，その他多くのバスの経路も通っている。これらの公共交通機関を使えば醍醐の町にある名所を巡ることができる。公共交通機関を使って，自分たちの足で歩くことで今まで気づかなかったさまざまな素晴らしい場所や人々との出会いを多く経験してほしいと考える。

・醍醐コミュニティバスはじめとする公共交通手段を総合学習の中で利用することで，普段の生活の中でもこれらを使用するきっかけになるのではないかと考える。

【研究テーマの取組計画・内容】

≪研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法について≫

・ 自分たちの住む醍醐地域の名所や見どころについてインターネット，地域への聞き取り（校区内にお住まいの方，学校長など），書物などを使って調べ学習を行う。

・ 地域の名所や見どころについてまとめ，その場所への思いを深める。

・ 実際に自分たちで公共交通機関を使って行く計画を立てる。
（何を見たいのか，何のためにそこに行くのか，何を聞いてくるのかなど，その場所を訪れる目的を十分に子どもたちが考えられるよう学習を進める。）

・ ５年生，６年生でのたて割りグループを作り，自分たちのコースを決める。
（この時学年によって，目的は異なるが，それぞれの学年でのねらいに即して自分たちの見たいもの聞きたいことをまとめ交流していく。）

≪組織体制について≫

・ 組織体制（教職員を中心として午前に回る場所，お昼を食べる場所，午後から回る場所，ポイントをどこにするのかなど計画を立てる。）

・ 組織体制が組まれれば保護者・地域などに，この取り組みの趣旨をお伝えし，協力を要請することも考える。

≪研究成果や課題に対する評価・取組について≫

・ 自分たちが実際に回った場所についてまとめる。
（まとめ方については，新聞，壁新聞，プレゼンテーションなど多様な形で考える。）これらの成果物を評価することで次の取組に生かす。

・ 校内研修の中にこれらの取り組みの成果と課題について教職員全体で話し合う機会を設け，より良い取り組みとなるようにしていく。

≪研究成果の普及方法について≫

・ 研究成果の普及方法としては，子ども達のまとめたものをそれぞれのブースでテーマごとに発表する発表会を企画したい。自分たちが調べ，実際に歩いてみて感じたものを自分の地域への思いを乗せて発表することで，醍醐地域への思いを深めていってくれればと願っている。

・ また，これらの活動については，研究の経過をホームページや学校便りなどでその都度，地域，保護者にも発信していきたい。

・ これまでより，地域の方々にはたくさんの子どもたちの支援や取組を行っていただいている。それぞれの方々がどのような思いで自分たちに関わってくださっていたのかをこれらの取組から感じ取り，感謝の気持ちをもてるようになってくれればと考えている。

・ これらの活動を通して，自分たちの住む地域に誇りと愛着を感じ，地域を大切にする子どもを育てていきたいと考える。

学校名	小栗栖宮山小学校
校長名	畠田　靖久

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
醍醐の地域めぐりの為	コミュニティバス一日乗車券	300	100	30,000
地域の歴史について知る為	講師代	10,000	3	15,000
ポートフォリオにまとめる為	ファイル 40 ポケット	400	100	40,000
発表会用模造紙等紙類	模造紙	2,500	6	15,000
児童調べ学習用印刷代	インク代（4 色）	15,000	4	60,000
発表会新聞まとめの為	プロッキー（12 色）	1,800	２５	45,000
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				205,000

学校名	京都市立醍醐西小学校
校長名	森川　浩孝

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】
社会科，総合的な学習

【研究テーマ】
※自校の具体的なテーマを記述すること。

私たちの住みよい街，醍醐　～ふるさとの街を見直そう～

【研究テーマの設定理由】
※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

私たちの住む醍醐地域には，世界遺産の醍醐寺がある。また，パセオ・ダイゴローやアルプラザ醍醐といった大型ショッピング施設，醍醐中央図書館といった公共施設，たくさんの住宅団地などがあり，様々な特色を持つ地域である。また，校区の真ん中を南北に走る大きな幹線道路の外環状線や地下鉄東西線の醍醐駅，醍醐バス・タクシーターミナルがあり，利便性がとても良い地域とも言える。さらに，校区の西端には山科川が流れ，自然豊かな地域でもある。

そこで，３・４年生の社会科と総合的な学習の時間で，私たちの住む街に目を向け，校区の特性を生かした学習につなげていきたい。

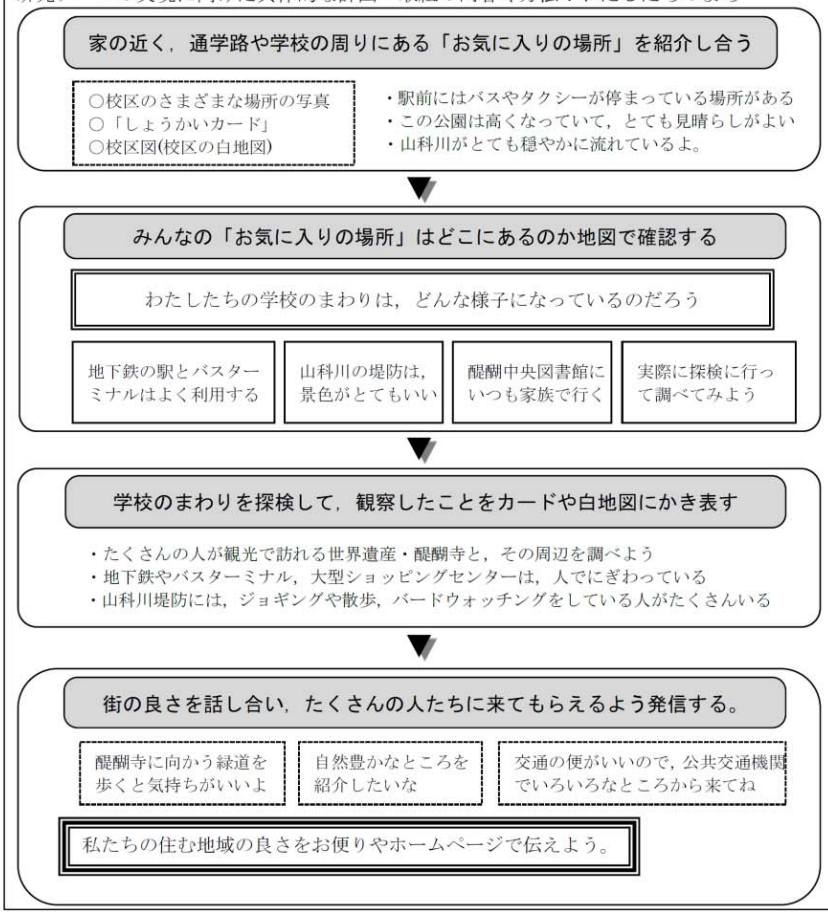
【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ 2 枚程度まで。（書式は自由。取組内容を分かりやすく簡潔に記述すること。2 枚を超えても良い。）

※下記の点については必ず記述すること。

- 研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法
- 組織体制（教職員・保護者・地域など）
- 研究成果や課題に対する評価・取組
- 研究成果の普及方法

研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法：わたしたちのまち



組織体制
・教職員による指導
・地域・保護者の方と校区探検

研究成果や課題に対する評価・取組
・校区の特色を探る。
・京都市内の特色を探る。

・校区の特色ある地形，土地利用の様子，主な公共施設などの場所と働き，交通の様子，古くから残る建造物などに関心をもち，意欲的に調べている。
・観点に基づいて観察や聞き取り調査をしたり，地図や写真などの資料を活用したりして，校区の様子について必要な情報を集め，読み取っている。
・調べたことを主な地図記号や四方位などを用いて，絵地図や白地図にまとめている。
・醍醐地域の良さに気づき，それを発信しようとしている。
・京都市の特色ある地形，土地利用の様子，主な公共施設などの場所と働き，交通の様子，古くから残る建造物などに関心をもち，意欲的に調べようとしている。
・京都市の特色ある様子を，観点に基づいて観察や聞き取り調査をしたり，地図や写真などの資料を活用したりして，市の様子について必要な情報を集め，読み取っている。
・調べたことを主な地図記号や四方位などを用いて絵地図や白地図等にまとめ，市内めぐりの良さを発信しようとする。

研究成果の普及方法
・ホームページによる発信
　本校では，児童の活動の様子や連絡等を保護者や地域に伝達する方法として学校のホームページへの掲載を活用している。これまでの１日平均アクセス数が１３３件と注目をいただいている。このホームページを使って，子どもたちから醍醐の街の良さや歩きたくなる街をアピールしていく。
・学級通信・生活だよりによる発信
　各学級で発行している学級通信に子どもの成果物を掲載していく。
　不定期であるが，学校より発行している保護者啓発用のお便りの生活だよりに掲載していく。（本校ＨＰ参照）

学校名	醍醐西小学校
校長名	森川　浩孝

平成 29 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
市内めぐり	京都観光一日乗車券	￥600－	67	￥39,400－
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				￥39,400－

「歩くまち・京都」学習実践発表会





京都市では，人と公共交通優先のまち「歩くまち・京都」の実現に向けて取組を進めています。

この度，小学校での「歩くまち・京都」に関する学習について，発表会を開催しますので，ぜひご来場ください。

1　開催日時

平成３０年３月４日（日）
９時３０分から１２時００分まで（９時００分開場）

2　場所

京都府立総合社会福祉会館ハートピア京都　大会議室（３階）

所在地　京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町３７５
京都市営地下鉄烏丸線丸太町駅下車５番出口
（地下鉄連絡通路にて直結）
※　来場には公共交通機関を御利用ください。

3　発表内容

平成２９年度「歩くまち・京都」学習実践校である以下の５つの小学校の取組内容をご紹介します。

京都市立衣笠小学校（北区），京都市立岩倉北小学校（左京区），
京都市立高倉小学校（中京区），京都市立小栗栖宮山小学校（伏見区），
京都市立醍醐西小学校（伏見区）（事務局代理発表）

4　参加方法

予約不要。直接会場に御来場ください。



5　主催・問合せ先

京都市都市計画局歩くまち京都推進室
ＴＥＬ：０７５－２２２－３４８３

6　本発表会について

平成２２年１月に策定した「歩くまち・京都」総合交通戦略に基づき，人と公共交通優先のまち「歩くまち・京都」の実現に向けて，学校教育活動全体を通じた交通利用に関する学習の成果を発表する機会を設ける取組として実施します。



発行：京都市都市計画局歩くまち京都推進室
電話：075-222-3483
平成30年2月　京都市印刷物第295010号

京都市

（資料３）

「歩くまち・京都」学習実践発表会（案）について

１　全体のタイムスケジュールについて

９：００～　開場
９：３０～　開会　（開会のあいさつ：京都教育大学　水山教授）
９：４０～　発表①（高倉小学校）
１０：０５～　発表②（小栗栖宮山小学校）
１０：３０～　発表③（衣笠小学校）
１０：５５～　休憩
１１：０５～　発表④（岩倉北小学校）
１１：３０～　発表⑤（醍醐西小学校／歩くまち京都推進室代理発表）
１１：４５～　閉会　（閉会のあいさつ：歩くまち京都推進室）
１１：４７～　退場　（１２時　鍵返却）

２　各実践校の発表内容について

⑴　発表時間について

各実践校の発表時間は，準備及び入替わりの時間を含めて２５分間です（醍醐西小学校を除く）。

発表時間の流れは以下のとおりです。

・準備	２～３分	
・学校側からの発表	１５分	
・参加体験型取組（クイズ）	５分	※後述
・片付け	２～３分	

⑵　席上配布資料について

当日，来場者に配布する資料は，当室が事前に集約し，一まとめにして配布します。

各校において，発表に際し紙ベースの資料を用いる予定がある場合は，２月２３日（金）までに，資料のデータを当室へお送りください。

なお，Ａ４サイズ以外の場合は，お手数ですが各校で印刷及びＡ４サイズへの折り込みをいただき，２月２３日（金）までに，交換便で当室へお送りください。部数については，後日お知らせさせていただきます。

⑶　**発表の内容について**

当日は，スクリーンに映してご説明いただけます。京都市でＰＣとレーザーポインタを用意しますので，PowerPoint 等の説明用データを事前にご提供ください。説明用データは DVD－R に焼いて会場へ持参します。実践校でデータをご用意いただく場合は，CD－R または DVD－R に焼いて持参してください。

（参考）当日の動きについて

時間	動き
９：００	ハートピア京都　集合 （発表者におかれましては，客席の前列から壇上へ上がり，発表いただきます。到着後，まずは前列のお席を確保してください。）
	参加者　入場開始 （各実践校の地元関係者など，お知り合いの方が来場されましたら，発表者の近くなど，会場の前方へご誘導願います。）
９：３０	開会 （プログラムに従い，進めていきます。 司会から案内がありましたら，壇上へ上がっていただき，ＰＣの資料を立上げのうえ，発表をお願いします。 発表が終わりましたら，ＰＣの資料を閉じていただき，座席へお戻りください。 発表が終わられた後も，会場に残り他の実践校の発表を傍聴してください。他のご日程等によりやむを得ず途中退席しなければならない場合は，事前に事務局へお申し出ください。）
１１：４７	閉会 （他の来場者とともにご退場ください。会場の都合により，正午に完全撤収の必要がありますので，ご協力願います。）

（資料４）

会場写真

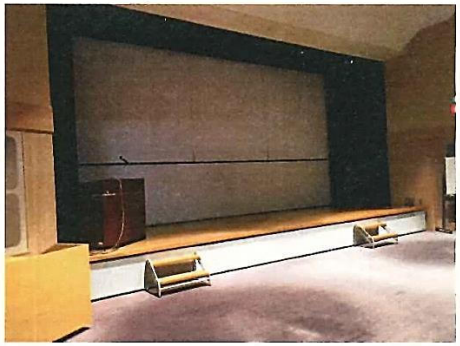
入口・受付



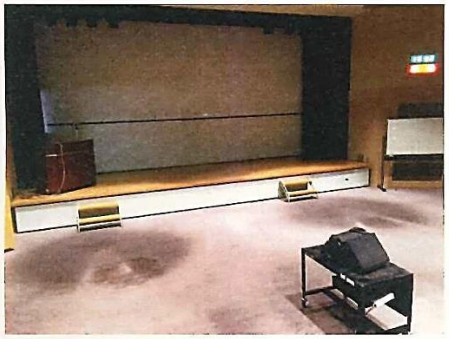
受付拡大



舞台



舞台・プロジェクター



全景



総合的な学習の時間
衣笠のめぐみ～衣笠のほこり
～地域の魅力を発信しよう～

京都市立衣笠小学校
研究主任　　石本　順嗣

地域を素材にした学習

各学年が，
地域の「すてき」を
見つけて



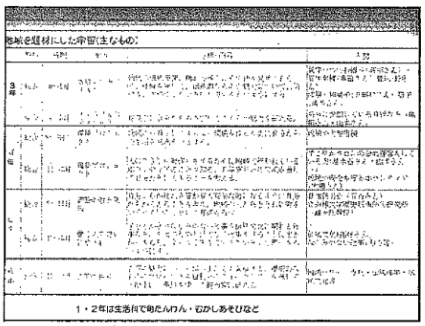


校区
ウォークラリーで
伝えよう

学校教育目標
「人を大切にし，
自ら主体的に学ぶ子ども」の育成

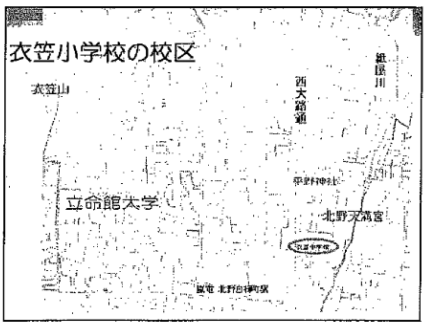


地域を題材にした学習(主なもの)



1・2年は生活科で町たんけん・むかしあそびなど

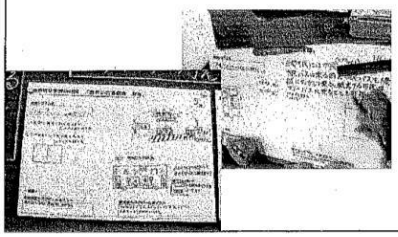
衣笠小学校の校区



6年　衣笠の誇り
「世界に誇る都市京都」「未来に輝く衣笠の誇り」

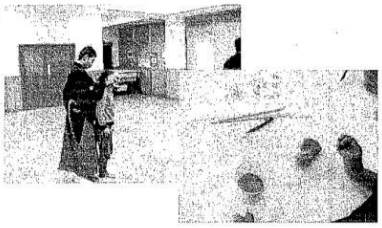


6年　衣笠の誇り
「世界に誇る都市京都」「未来に輝く衣笠の誇り」



たてわり活動　校区　ウォークラリー

3年　衣笠のめぐみ
「衣笠のピカイチさん」「さくらさくら」



3年　衣笠のめぐみ
「衣笠のピカイチさん」「さくらさくら」



高倉小学校
「歩くまち・京都」実践授業のまとめ

中京交通問題プロジェクトとの連携

高倉小学校区



高倉小学校区を取り巻く交通問題

H23年度～
中京区交通問題プロジェクトミーティング
「高倉校区」の通りの復権をめざして





H26．4
高倉小学校PTA制作
DVD「子どもの安心安全な登下校のために」
H27．10月
三条通り　信号の撤去
ゾーン内20km/h速度制限
H28．3
再配達の大型駐車車両を
減らす呼びかけ
アンケート調査を実施



H29．3
自転車の一旦停止
電柱幕の取り付け

高倉小PTA
7学区自治連合会
中京警察署
中京区役所



H28・29　歩くまち・京都授業実践校

1．安心して歩けるまちにするために
（1）交通安全教育の充実
（2）歩行者優先の安全な通りにするための提言
（6年）

2．みんなが歩いて楽しいまちにするために
みどころ満載　歩いて楽しい高倉タウンマップ
（3年）

3．人にやさしいまちにするために
思いやりがいっぱいの健やか高倉タウンマップ
（4年）

4．もしものときに備えてまちを歩こう
地域の人といっしょに防災フィールドワーク
（5年）

6年　歩くまち・京都実践授業

「安心して歩けるまちにするため」

～地域に人といっしょに考えよう～

日　　時：平成29年12月5日（火）
13：30～15：00

実施場所：京都御池中学校5Fアリーナ

対　　象：京都市立高倉小学校
第6学年122名

講　　師：山田　忠史先生
（京都大学／中京区交通問題プロジェクトミーティング座長）

協　　力：高倉小学校PTA・中京区役所地域力推進室
中京区交通問題PMメンバー

授業の内容

1　山田先生からの講義

「交通問題とは何が問題なのか」

「解決の糸口はどこにあるのか」



２　グループ討議　（12グループに分かれて）

〇校区マップで自転車で困ったことが起こる場所
〇どんな経験をしたことがあるか
〇子ども・大人側からの自転車それぞれの課題
〇解決策を考えよう

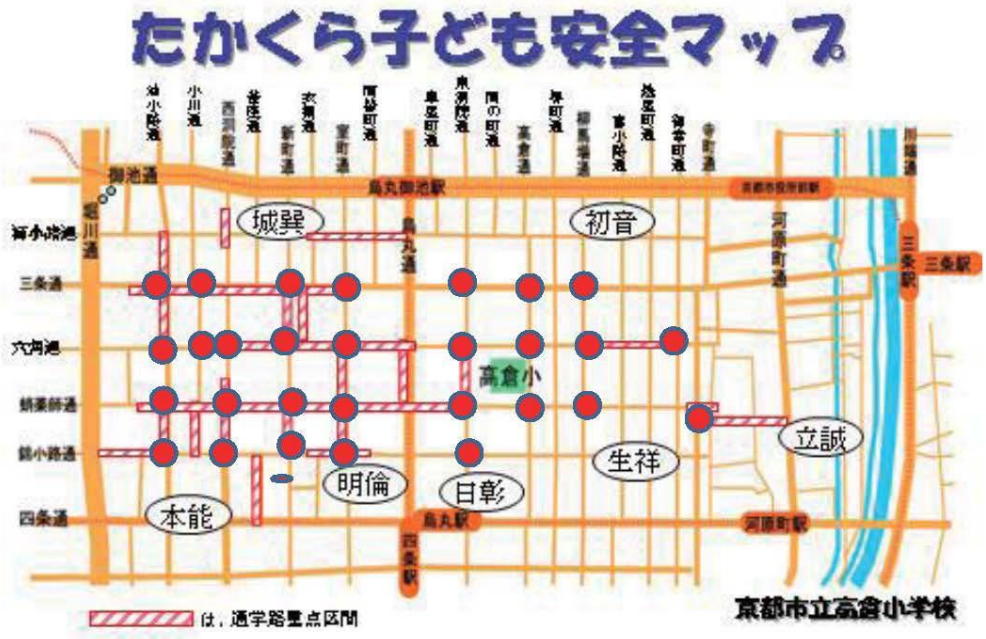


ファシリテータ

学校　4名
区役所　4名
PTA　4名

子ども

各グループ　10名ずつ



みんなが困っていること



自分の意見を書く



意見を交流する



解決策を考える



グループで出た意見を発表する



学習を終えての感想

◎交通問題はいろいろなことを考えないといけないし、難しい問題だと思った

◎大人の人と一緒に考えられてよかった

◎今まで何も考えていなかったけれど、これからは自分たちが何かをしていく立場になっていくんだと思った。

◎まずは、家族とか身近な人に自分たちが勉強したことを伝えていくことが大切だと思った。

安心安全な歩いて楽しい町に
するために

一人一人が当事者意識をもつこと



身近な人にわかってもらうこと

連携したり協力したりして、
みんなで考えていくこと



1:20	1:50	2:35	2:40	3:25	3:35	5:00
受付	公開授業①	移動	公開授業②	移動	事後研修会	

	学年	教科	単元名	授業者
公開授業①	3年	社会	地いきや生活のうつりかわり「昔を伝えるもの」	河村圭祐
公開授業①	5年	社会	わたしたちの生活と環境 「京都のまちと生活環境を守るわたしたち」	髙橋みゆき
公開授業②	6年	社会	わたしたちの生活と政治 「わたしたちの願いを実現する政治」	後藤文博

3年

8　単元の指導と評価の計画（全 14 時間　本時　′/14）

過程	目標 （○数字…時数）	主な学習活動 （○発問 ◇指示 ・児童の反応） 論論理的思考力を働かせる場	教師の指導・評価 □支援 _資料 【】評価 論論理的思考力の見取り
であう つかむ	① 昔の道具当てクイズをし，今の道具と昔の道具を比べる。	○今の道具と昔の道具の写真です。目的が同じなのはどれとどれですか。 ・この板は汚れをとるものだと思うので，洗濯機に変わったのだと思います。 ・これは網があって何かを焼くものなのでIHクッキングヒーターと同じだと思います。 ・でも使い方がわからないよ。	□昔の道具の写真だけでなく，今の道具の写真を掲示することで児童が用途を類推できるようにする。 【関心・意欲・態度①】 昔の道具について関心をもち意欲的に話し合っている。 （発言・ノート）
	昔の道具はどのように変化し，くらしはどう変わってきたのだろう。		
調べる	② 洗濯板を使いよさや昔のことについて考える。	◇洗濯板を見て，使い方を話し合おう。 ・いつごろ使ったのかな。 ・線が入っているよ。 ◇洗濯板を使ってみましょう。 ・洗濯板の使い方がわかったよ。 ・洗い終わるまでとても時間がかかるね。 ・洗濯板にはたくさんの工夫があるのだね。	□洗濯している場面の写真を掲示することで，予想の足がかりとする。 【関心・意欲・態度①】 洗濯板の使い方を調べ，実際に洗濯することで昔の道具のよさを感じとっている。 （行動・ノート）
	③ 七輪を使いよさや昔のことについて考える。	◇七輪を使ってみましょう。 ・煙が目にしみるね。 ・七輪を使うと美味しく焼けるね。 ・テレビを見ている時間がないよ。 ・テレビはなかったのじゃないかな。	【関心・意欲・態度①】 七輪の使い方を調べ，実際に洗濯することで昔の道具のよさを感じとっている。 （行動・ノート）

	④ 洗濯板を使って分かったことから，学習問題をつくる。	◇洗濯板と七輪を使った感想をもとに話し合おう。 ・手が冷たかった。 ・洗濯板を使うと，よく汚れが落ちました。 ・時間がかかった。 ・昔の人は大変だったのかもしれない。 ○今はどんなくらしですか。 ・ボタン１つで機械が動くから楽だと思います。 ・昔に比べて便利になったと思います。 論 ○年表でわかっていないところはどこですか。 ・昔のくらしがわからないな。 ・道具はどんな風に変わってきたのかな ・道具が変わってきたのだからくらしも変わってきていると思う。	□ 体験したことを整理して話せるようにノートを基に話し合うようにする。 □洗濯板と洗濯機の写真を離して掲示することで変化していったということに気づけるようにする。 論 それぞれの道具の変化を考えることで暮らしの変化にまで目を向けることができる。
		昔の人々はどのようにくらし,どのように道具が変わってきて,くらしがかわってきたのだろう。	
		◇予想しましょう。 ◇予想したことを話し合いましょう。 ・道具がだんだん便利になってきたからくらしも楽になってきたのだと思います。	【思考・判断・表現①】 人々のくらしの変化について学習問題や予想を考え記述している。 （発言・ノート）

	⑤洗濯板はどうのように変化していったのか考える。	◇洗濯板はどのように変化していったのか話し合おう。 ・どんどん使いやすくなっているね。 ・それぞれに昔の人の知恵や工夫があるのだね。 ・他の道具はどうなのかな。	・変化がわかるように，それぞれの洗濯道具についての写真を移り変わった順に掲示する。 【知識・理解①】 洗濯道具やそれを使っていた頃のくらしの様子を理解している。 （発言・ノート）
	⑥調理器具について調べる。	◇調理器具はどのように変化していったのか話し合おう。 ・調理する時間が短くなっていったのだね。	・変化がわかるように，それぞれの調理器具についての写真を移り変わった順に掲示する。 【知識・理解①】 調理器具やそれを使っていた頃のくらしの様子がわかっている。 （発言・ノート）
	⑦昔の遊びについて調べる。	◇遊びがどのように変わってきたのかを調べよう。 ・体を使うものが多かったのだね。 ・今でもする遊びもあるよ。 ・自然のものを使う遊びが多いね ・今はゲーム機が多いね。	・変化がわかるように，それぞれの遊びについての写真を移り変わった順に掲示する。 【知識・理解①】 昔の遊びやそれをしていた頃のくらしの様子がわかっている。 （発言・ノート）
	⑧調べたことを年表にまとめる。	◇調べたことをもとに昔の暮らしについて話し合い年表にまとめよう。	【関心・意欲・態度①】 古くから残る暮らしにかかわる道具やそれらを使っていたころの暮らしの様子に関心をもち，体験を通して人々の暮らしについて意欲的に調べている （行動・ノート） 【技能②】 調べたことを年表にまとめている。 （発言・ノート）
	⑨くらしについて話し合う。	◇くらしについて話し合おう。 ・七輪や洗濯板を使っていたころは，一つ一つのことにとても時	

		間がかかっていたのだね。 ・今は機械でほとんどできるよ。 ・昔は不便だと思っていたけど楽しい遊びもいっぱいあったのだな。	【技能①】 古い道具の使い方を体験したり，年表を見たりして，人々の暮らしの変化について必要な情報を集めて読み取っている。 （発言・ノート）
まとめる	⑩年表をもとに，昔の生活の工夫や移り変わりについて話し合う。	○年表をもとにわかったことを話し合おう。 ・道具が変わったことで人々のくらしも変わってきたのだね。 ・機械のものが増えて家事をする時間が減ってきたのだね。 ・便利になったけど，昔の道具にもいいところがたくさんあったね。 ・くらしをよりよくしようと願って，道具が変わってきたことがわかるね。	□ 学習内容を踏まえた年表を掲示し，道具とくらしのつながりやそれぞれの変化が理解できるようにする。 【知識・理解②】 人々のくらしの変化が人々の願いや知恵によるものであることを理解している。 （発言・ノート）
	昔は使えるものを無駄なく使うなど，道具を工夫して使ってきたが，道具が進化することで時間や手間がかからないようになってきた。道具は便利になってきているが昔の道具にもたくさんいいところがある。		
深める	⑪岩倉は昔どんな様子だったのか知る。	○昔の道具を使っていたころの岩倉はどんな様子だったのだろう。 ・今よりもっと自然が多かったのだね。 ・田んぼや畑ばかりだったのだね。 ・住んでいる人は農家ばかりだね。 ・神社は変わらずにあるのだね。	【知識・理解①】 岩倉の昔の様子について理解している。 （発言・ノート）
	⑫岩倉の様子はどのように変わっていったのか考える。	○岩倉の様子はどのように変わってきたのだろう。 ・宝ヶ池通りができて，道が通りやすくなったのだね。 ・国際会議場ができて場所が有名になったのだね。	

		・道が便利になって住む人も増えてきたのだね。 ・住む人が増えてきたから岩倉北小学校ができたのだね。	【思考・判断・表現②】 グラフをもとに岩倉の様子の変化について表現している。 （発言・ノート）
	⑬京都市の様子はどのように変わっていったのか調べる。	○京都市の様子はどのように変わっていたのだろう。 ・岩倉に人が増えてきた時期に向島でも人が増えてきたのだね。 ・電車やバスが通るようになってより便利になったのだね。 ・京都市にたくさんの人が住むようになったのだね。	【技能①】 グラフをもとに京都の様子について読み取っている。 （発言・ノート）
	道具の変化によって，人々の暮らしは変わってきた。また地域の様子や市の様子も時間の経過とともに移り変わっていった。		
	⑭岩倉のこれからについて考え，話し合う。	○岩倉はもっと発展していったほうがいいのだろうか。 ・これからもたくさん家が建った方が学校にも人が増えるいいと思う。 ・自然がなくなると生き物が少なくなるから発展しない方がいいと思う。 ・これから大人になっても地域のことを考えてできることをしていきたいな。	【関心・意欲・態度②】 これからの岩倉について自分とのかかわりを考えようとしている。 （発言・ノート）

9　本時の学習（本時　12／14）

（1）本時の目標

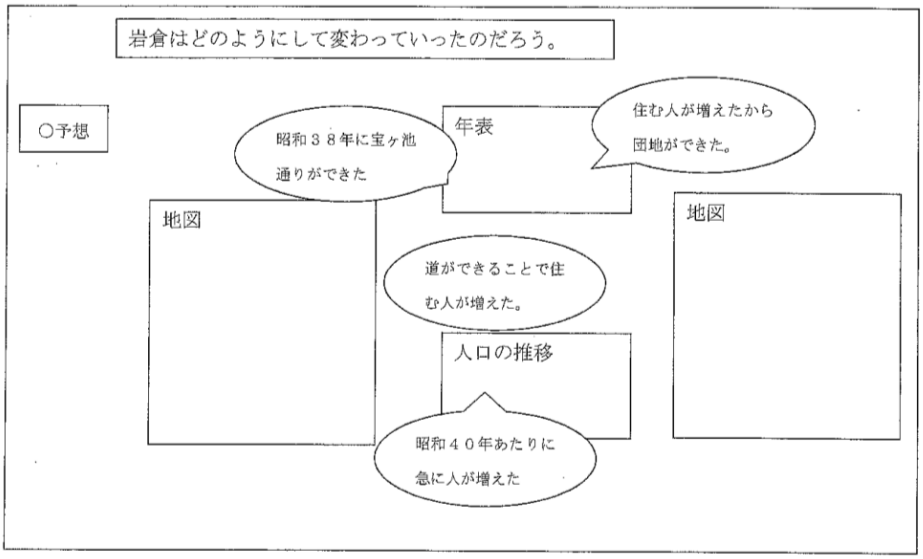
グラフや年表をもとに岩倉の様子の変化について考え，表現する。

（2）本時の展開

主な学習活動 （○発問　◇指示　・児童の反応） 論　論理的思考力を働かせる場	教師の指導・評価 □支援　＿資料　【】評価 論　論理的思考力の見取り
◇前回の学習を振り返りましょう。 ・岩倉の昔の様子は田んぼや畑が多かったです。 ・住んでいる人は農家ばかりでした。 ・今より道が細かったです。	□前時のノートや側面掲示を見て，振り返ることができるようにする。 □子ども達の言葉をつなげて，前回までのふり返りと今日の学習問題について確認をする。
○今日はどんな学習問題でしょうか。 岩倉はどのようにして変わっていったのだろう。	
○学習問題について予想しましょう。 ・より大きい道ができて住む人が増えたのではないかな。 ・道具の変化と一緒で少しずつ便利になっていったのではないかな。	
◇資料を見て調べましょう。 論 ・人が最初は少なかったけど，だんだん人が増えてきているね。 ・まず宝ヶ池通りができたんだね。道ができたから多くの人が岩倉に来れるようになったのかな。 ・国際会議場ができた時くらいにたくさん人が住むようになってきたのだね。 ・団地ができるようになってよりたくさんの人が岩鞍に住むようになったのだね。 ・たくさんの人が岩倉に住むようになって岩倉北小学校ができたのだね。 ・バスも通るようになってより便利になったのだね。	□岩倉の人口の推移，出来事が分かる年表，当時の地図の資料を用意し，それを使って学習問題について調べられるようにする。 論資料から読み取った複数の情報をつなげ，学習問題について考えている 【思考・判断・表現②】 グラフをもとに岩倉の様子の変化について表現している。 （発言・ノート）
◇今日の学習のまとめをしましょう。 学習問題の答え（例） ・宝ヶ池通りができて，より多くの人が通れるように	□全体交流で出てきた意見の中から，キーワードを取り出し，学習問題に対する答えをまとめていくようにする。

なってきた。その後，たくさんの人が岩倉に住むようになっていて学校ができたりバスが通るようになったりしていった。 感想 ・岩倉がこのように変わっていっているなんて知らなかった。もっと岩倉について知りたいな。 ・他の地域はどうなっているのか知りたいな。	

（3）板書計画



5年

8　単元の指導と評価の計画（全８時間　本時６／８）

過程	目標 （○数字…時）	主な学習活動 ○発問　◇指示　・児童の反応 論論理的思考力を働かせる場	指導・評価 □支援　＿資料　【】評価 論論理的思考力の見取り
であう・つかむ	①約50年前の四日市市の様子や日本各地の工業地帯での公害の様子を調べ，公害について関心をもつ。	○約50年前の三重県四日市市はどのような様子だったのだろうか。 ・中京工業地帯の中にあり，工業がどんどんさかんになっていた。 ・工業の発展によって，人々のくらしが便利になっていっていた。 ・工場から出る排気ガスによって空気が汚れ，四日市ぜんそくなどの病気になる人々もいた。 ○四日市市以外の工業地帯はどのような様子だったのだろうか。 ・日本各地にある工業地帯地域でも空気が汚れていたり，海が汚れていたりしていた。 ・空気や水，土のよごれなどで，人々のくらしや生命をおびやかす公害が全国で起こっていた。 ・四大公害病のように，公害による病気になる人も全国にいた。 ・工業の発展によって人々のくらしが便利になっていくことは良いけれど，環境をよごして，人々に悪い影響をおよぼすことは良くないと思う。	□中京工業地帯の成長率のグラフ，高度経済成長時期の国民のくらしの年表，四日市ぜんそくに苦しむ人々の様子の３つの資料から，工業が発展することによって，くらしが便利になる反面，環境汚染が広がり，人々のくらしに悪い影響を及ぼしていたことをとらえることができるようにする。 □公害の問題が，日本各地の工業地帯で起こっていたことを知り，公害が及ぼす影響について関心をもつことができるようにする。 【関心・意欲・態度①】 約50年前の四日市市や日本各地の工業地帯の様子を調べ，工業が盛んになることにともなって起こる公害について関心をもっている。 （発言・ノート）
	②鴨川がよごれた原因を調べ，鴨川がきれいになっていく過程について学習問題を考える。	○工業地帯でない京都市の鴨川がよごれていたのはなぜだろうか。 ・当時京都市で盛んになっていた友禅染をつくる工場が，鴨川で友禅染を洗っていたから。 ・工場や家庭で使い終わって汚れた水を，そのまま鴨川に流していたから。 ・鴨川の周りに，家から出るごみを捨てる市民もいたようだ。	□当時の鴨川の様子を知る市役所の人のお話から，鴨川が汚れた原因が工場からの排水だけではなく，家庭からの排水やごみによるものだということをとらえ，児童が問題をより身近に感じることができるようにする。

		・京都市民も鴨川を汚していたこともあって，工業地帯でない京都市でも鴨川が汚れていた。	
		◇今の鴨川の様子を見てみましょう。 ・今の鴨川はとてもきれい。 ・鴨川で遊んでいる人もいる。 ・汚れていた鴨川とは全然ちがう。 ・あんなによごれていた鴨川が，どうやって今のようなきれいな鴨川になっていったのだろう。	□鴨川のうつりかわりに目が向くように，汚れていた約50年前の鴨川の写真と，きれいになった今の鴨川の写真とを対比して提示する。
	約50年前によごれていた鴨川は，どのようにして，今のようなきれいな鴨川になったのだろうか		
		◇学習問題の予想をしてみましょう。 ・京都市民がボランティア活動などで掃除をしたのではないか。 ・使い終わった水がそのまま鴨川に流れこまないような仕組みを整えたのではないか。 ・京都市が鴨川を守るためのきまりなどをつくったのではないか。	【思考・判断・表現①】 鴨川が汚れていた原因と，鴨川のうつり変わりをもとに，学習問題を考え，予想し，調べる見通しをもっている。 （発言・ノート）
調べる	③よごれていた鴨川をきれいにするための取組について調べ，よごれていた鴨川がどのようにきれいになっていたのかを理解する。	論 ○よごれた鴨川をきれいにするために，誰がどのようなことをしたのだろうか。 ・京都市が下水道の整備をしたり，工場から出る排水を規制するきまりをつくったりした。 ・工場が鴨川から離れた場所に移転したり，工場内で友禅染を洗ったりするなど，鴨川を汚さない工夫を行った。 ・京都市民が鴨川を美しくする会を結成して，鴨川のそうじやきれいにするような呼びかけを行った。 ・京都市が下水道を整備したことによって，工場や家で使った後の汚れた水をきれいにして鴨川に流すことができるようになった。	論資料から読み取った複数の情報をつなげ，学習問題について考えることができる。 □1950～1980 年ごろまでの鴨川に関する年表の中にある取組の主体者をとらえることで，京都市民・京都市・工場が果たした役割と，その3者が協力・連携していったことに気付くことができるようにする。

		・鴨川を美しくする会が鴨川をきれいにするように呼びかけたことで，工場が鴨川を汚さないような工夫を行うようになった。 ・京都市の行政，工場，京都市民が協力することで，鴨川がきれいになった。	【知識・理解①】 よごれていた鴨川を京都市民と京都市と工場とが協力連携してきれいにしていったことを理解している。 （発言・ノート）
	④きれいになった鴨川を守るための取組について調べ，きれいになった鴨川を守るために大切なことを考える。	論 ○きれいになった鴨川を守るために，だれが，どのようなことをしたのだろうか。 ・鴨川を美しくする会が，鴨川茶店という催しを行っている。 ・鴨川を美しくする会が，鴨川合同クリーンハイクで鴨川のそうじを行っている。 ・鴨川を美しくする会が，小学校で環境学習を行い，子ども達に鴨川の環境について教えている。 ・京都府が鴨川条例をつくって，鴨川などでのバーベキューや花火を禁止した。 ・京都府が主催して，鴨川府民会議を開き，様々な人たちで鴨川について話し合っている。 ○きれいになった鴨川を守るための取組をしてきた人たちが，大切にしていることはどんなことだろうか。 ・鴨川茶店などで，きれいになった鴨川をアピールしていくことで，多くの人に，鴨川をきれいにしていこうという気持ちをもってもらうこと。 ・鴨川府民会議や鴨川を美しくする会の取組を通じて，様々な立場の人が，鴨川を守ることに関われるようにすること。 ・子ども達への環境学習などを通して次世代に引き継いでいくこと。	□1980 年以降の鴨川に関する年表から，取組をとらえ，その意味や意義を考えることができるように，写真資料や美しくする会の方のインタビュー資料を用意する。 論環境を守るための取組の意味や意義を，根拠をもって説明することができる。 【思考・判断・表現②】 鴨川の環境を守るためには，様々な人の努力や，１人１人の協力などが，重要であるということを考え，適切に表現している。（発言・ノート）

まとめ向き合う	⑤調べたことを根拠にして，学習問題の答えをまとめる。	○汚れていた鴨川が今のようなきれいな鴨川になったのはなぜでしょうか。３つまでのキャッチコピーで表し，そのキャッチコピーにした理由を説明してみましょう。 ・環境を守るためにできた下水道の整備と法律 ・環境を守るために自ら動く京都市民 ・京都市が一丸となっての取組 ・鴨川の美しさを次世代につなぐ努力 ・みんなが協力できる環境を守るための取組	□これまでに学習したことを生かして考えることができるように，これまでの学習の流れを壁面に掲示しておく。 【技能①】 それぞれの立場の人が努力し，市民と行政などが協力することによって，人々の健康や生活環境を守ることができていることを，学習した事実を根拠にしてまとめている。 （発言・ノート）
	約 50 年前に産業や生活排水によって汚れていた鴨川は，行政による環境整備や法規制，それに協力する工場や市民によってきれいにされ，その後も行政と市民とが連携しながら，鴨川の環境を守る大切さを伝える取組や，それを支える人々の努力によって，きれいに守られている。		
	⑥観光業の発展と，京都市民の生活環境とを結びつけながら，観光公害の問題について調べ，人々の生活への影響を理解する。（本時）	論 ○最近京都市で起こっている観光公害とは，どのような問題なのだろうか。 ・京都へ来る観光客数が増え，特に外国人の宿泊約数は一気に増えてきている。 ・観光客が毎月常に 4000 人ぐらいは来ている。 ・観光地は人でかなり混雑している。 ・バス停に並んでいる人も多く，大きなキャリーバッグを持って乗りこむので，バスに乗りたくても乗れない人もいる。 ・京都市にいつも多くの観光客が来ていて，そのために交通が混雑するなどの問題で，そのような交通機関を生活に利用している京都市民が過ごしにくくなっていると思う。 ・観光が盛んになることによって，京都市民の生活環境に悪い影響を与えていると思し，自然環境にも影響が広がる可能性があると思う。	□京都市への観光客数の推移，月別観光客数，観光地周辺の様子，バス停に並ぶ観光客の様子，観光バスによる渋滞などの資料を比較・関連・総合する場を設定し，観光の発展が京都市民の生活に及ぼす具体的な影響について考えることができるようにする。 論複数の資料を使って，観光が盛んになることによって，京都市民の生活環境に及ぼす影響について考え，説明することができる。 □京都市民，観光客，行政など，様々な人の立場に立って考えるようにしたり，必要であれば，京都の観光消費額を提示したりして，観光公害解決のための方策に関心を高め

		○京都市で起こっている観光公害を解決していくことはできると思いますか。 ・京都に来たいと思っている人を来ないようにするという方法はしない方がいいと思う。 ・解決することは簡単ではないかもしれないけれど，何か対策は考えていかないといけない。 ・観光が発展していくことはよいことなので，観光客と京都市民と京都市が協力していくことが大切になるのだと思う。	ることができるようにする。 【知識・理解②】 観光業の発展と，京都市民の生活環境とを結びつけながら，観光の発展が京都市民の生活環境に大きな影響を与えていることを，理解している。
	観光公害を解決していくために，どのようなことをしていけばよいだろうか		
	⑦観光公害を解決していくための方策を，自分なりの根拠をもって考える。	○観光公害には，どのような人達が関わっているでしょうか。 ・京都市民　・京都に来る観光客 ・観光地で働く人　・京都市の行政 論 ○観光公害について，それぞれの立場の人は，どのような考えをもっているでしょうか。 京都市民 ・観光客が増え続けることによって，バスに乗りにくかったり，歩道が歩きにくかったりすることが起こることは解消してほしい。 ・観光客向けのきまりなどをつくるなど京都のよさをこわさないような対策をしていってほしい。 観光客 ・京都のよさを味わうためにも，これからも京都に来たい。 ・京都市内の観光地に行くためには，バスや地下鉄などの公共交通を使う方法しかない。観光客用のバスなどを増やしてほしい。	論観光が盛んになっている事実やそれによって起こっている問題をもとに，それぞれの立場の人の意見を考え表現することができる。 □それぞれの立場の人にたって考えられるように，グループごとに誰の立場にたつのかを指定して，話し合うようにする。 □観光公害を解決するためにどんなことができるのかということを考える視点をつくることができるように，それぞれの立場から出た意見の共通点，対立点などを板書で整理する。

		観光地で働く人 ・観光客が増えていくことで，ものを買ってくれたり，宿泊してくれたりして，利益が増えるのでよいことだと思う。 ・お寺や神社などでは，観光客が増えすぎて，ゆっくりと観光してもらえないことは少し残念に思う。 京都市の行政 ・観光が盛んになることは，京都市に活気が生まれ，京都市が発展していくので，これからも観光客が増える取組をしていきたい。 ・京都市民が困らないように，バスや地下鉄の本数を増やしたり，厳しいルールをつくったりしていきたい。	
		◇話し合ったことや鴨川を守ってきた取組を生かして，観光公害を解決していくための方策を考えてみましょう。 ・行政が，観光客に対してこんなことを守ってほしいという説明をしたり，パンフレットを作ったりする。 ・バスや地下鉄の本数を増やすなど，京都市民も観光客も余裕をもって利用できる公共交通の仕組みをつくっていく。 ・京都のまちをゆっくり歩いて観光できるように，自分の住んでいる町をガイドする人をボランティアで募集していく。	【思考・判断・表現②】 京都市の観光公害を解決する方策を，様々な人の立場をもとに，自分なりの視点をもって考え，表現している。 （ノート）
	⑧観光公害の解決を考えることを通して，これからの京都市のまちづくりを考えようとする。	◇観光公害を解決するために，実際に行われている方策を見てみましょう。 ・手ぶら観光 ・パークアンドライド ・公共交通機関料金の変更	□自分たちで考えた方策と実際に行われている方策とを比べ，共通点などを見つけることで，自分たちも問題解決のために協力することができるという意欲をもてるようにする。

		○この学習を通して思ったことや考えたことをまとめましょう。 ・観光公害を解決していくことは簡単ではないと思った。でも，京都市に観光に来たいと思っている人たちは多いので，観光客を温かく迎え入れることは大切だと思った。すぐに解決することはできないかもしれないが，鴨川をきれいに守るように，京都市民と観光客と行政の人たちが協力すれば，みんなの願いが叶えられる京都のまちになっていくのではないかと思う。わたしも京都市民の一員として，これからのまちづくりに関心をもって，協力できることがあればやっていきたい。	【関心・意欲・態度②】 観光公害の解決を考えることを通して，これからの京都市のまちづくりと自分とのかかわりを考えようとしている。

9　本時の学習（本時６／８）

（１）本時の目標

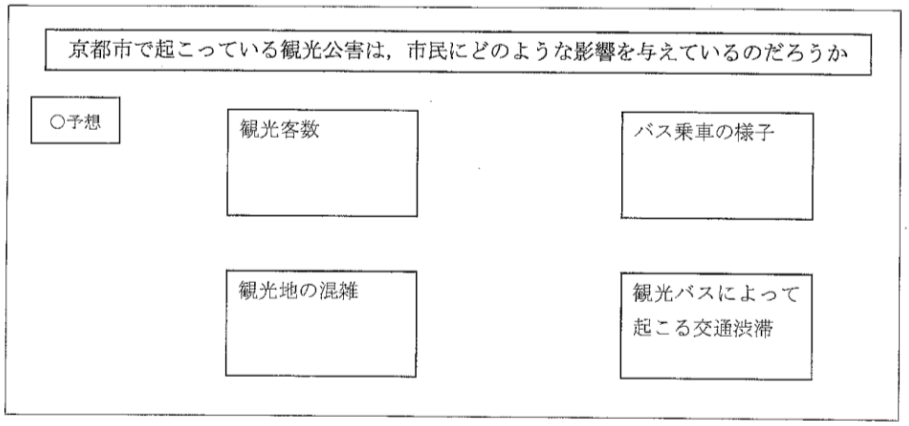
観光業の発展と，京都市民の生活環境とを結びつけながら，観光公害の問題について調べ，人々の生活への影響を理解する。

（２）本時の展開

主な学習活動 ○発問　◇指示　・児童の反応 論論理的思考力を働かせる場	指導・評価 □支援　＿資料　【】評価 論論理的思考力の見取り
◇前の時間の学習を振り返りましょう。 ・鴨川が今もきれいに守られているのは，京都市や市民が連携して，努力を続けているからだということが分かった。しかし，最近京都市で，観光公害という問題が起こっている。今日は観光公害について調べていきたい。	□前時までに問題をつくり，観光客と京都市民とのかかわりという視点で予想をしておく。
京都市で起こっている観光公害は，市民にどのような影響を与えているのだろうか	
◇学習問題の予想を交流しましょう。 ・観光客が増えて，バスや地下鉄が満員になったり渋滞が起こったりしているのかもしれない。 ・観光客のマナーが悪くて，文化財などの京都市の環境を傷つけているのかもしれない。	
◇資料を見て調べましょう。	
論 ・京都へ来る観光客数が増え，特に外国人の宿泊約数は一気に増えてきている。 ・観光客が毎月常に 4000 人ぐらいは来ている。 ・観光地は人でかなり混雑している。 ・バス停に並んでいる人も多く，大きなキャリーバッグを持って乗りこむので，バスに乗りたくても乗れない人もいる。 ・京都市にもいつも多くの観光客が来ていて，そのために交通が混雑するなどの問題で，そのような交通機関を生活に利用している京都市民が過ごしにくくなっていると思う。 ・観光が盛んになることによって，京都市民の生活環境に悪い影響を与えていると思し，自然環境にも影響が広がる可能性があると思う。	□京都市への観光客数の推移，月別観光客数，観光地周辺の様子，バス停に並ぶ観光客の様子，観光バスによる渋滞などの資料を比較・関連・総合する場を設定し，観光の発展が京都市民の生活に及ぼす具体的な影響について考えることができるようにする。 論複数の資料を使って，観光が盛んになることによって，京都市民の生活環境に及ぼす影響について考え，説明することができる。

○京都市で起こっている観光公害を防いでいくことはできると思いますか。 ・観光に来る人を少なくしていけばいいと思う。 ・京都に来たいと思っている人を来ないようにするという方法はしない方がいいと思う。 ・防ぐことは簡単ではないかもしれないけれど，何か対策は考えていかないといけない。 ・観光が発展していくことはよいことなので，観光客と京都市民と京都市が協力していくことが大切になるのだと思う。	□京都市民，観光客，京都市など，様々な人の立場に立って考えるようにしたり，必要であれば，京都の観光消費額を提示したりして，観光公害を防ぐための方法に関心を高めることができるようにする。
◇今日の学習のまとめをしましょう。 学習問題の答え(例) ・観光が盛んになることによって，交通や観光客のマナーの問題が起こり，それが京都市民の生活に悪い影響を与えている。 感想 ・観光公害はわたしたちの生活にとても関係する問題で，鴨川の問題を解決していったように，この問題を解決していく必要があると思った。どうすればよいかを考えていきたい。	【知識・理解】 観光業の発展と，京都市民の生活環境とを結びつけながら，観光の発展が京都市民の生活環境に大きな影響を与えていることを，理解することができる。

（3）板書計画



6年

8　単元の指導と評価の計画（全６時間　本時５／６）

過程	目標 （○数字…時）	主な学習活動 ○発問　◇指示　・児童の反応 論論理的思考力を働かせる場	指導・評価 □支援　＿資料　【】評価 論論理的思考力の見取り
であう	①叡山電鉄岩倉駅前の踏切の変化を調べ学習問題を作る。	◇２枚の写真から踏切の変化を調べよう。 ・前までは踏切の幅が狭く歩行者が歩きにくかった。 ・今では踏切の幅が広がり歩きやすくなった。 ・見通しもよくなり安全だ。 ・特に歩道が広くなっていることがわかる。 ・比べてみると全然違うな。 ・中学生になった時に毎日通るので安心	□叡山電鉄岩倉駅前の以前の写真と現在の写真を比べる。 □比べて気付いたことを違いを元に発表できるようにする。
	１億円もかかる岩倉駅の踏切の工事は，だれがどのようにして行ったのだろう		
		・誰が踏切の幅を広げてほしいと言ったのだろう② ・どのようにして踏切の工事が行われたのだろう③④⑤ ・費用はどのように集められただろう④	□学習問題について調べる内容を考える **【関心・意欲・態度①】** **【思考・判断・表現①】** 叡山電鉄岩倉駅前の踏切の変化を関心を持って調べ学習問題を作ることが出来る。（**発言・ノート**）

調べる	②叡山電鉄岩倉駅前の踏切は誰の願いでかえることになったのか資料から読み取ることが出来る。	○叡山電鉄岩倉駅前の踏切は誰のどのような思いでかえることになったのか考えよう。 ・踏切の前は中学校があるので中学生の保護者からの要望かな。 ・区役所が危ないと思ったのではないのかな。 ・生徒が自ら要望したのかな。 ・地域の人たちみんなの願いがあったのではないかな。 ○次のことから分かることはあるのかな。 ・岩倉には地域の人たちの声を聞いて，まとめる自治連合会があるのだな。 ・地域から出た要望は，要望書にまとめられ区役所に出されているのだな。 ・一回ではなく何度も出されているのだな。	□前時の踏切の写真を提示して考える。 □岩倉自治連合会連絡協議会の要望書を読む。 □安馬会長の言葉を提示する。 【知識・理解①】 叡山電鉄岩倉駅前の踏切工事は，問題点があったことや，市民からの要望を実現しようとして行われたことを理解している。（発言・ノート）
	③区役所や市役所では，要望に対してどのようなことをするのか関係についてまとめる。	○要望を受けた区役所はどのようなことをしたのだろう ・要望を受けて，本当にどうか見に行っているのではないかな。 ・他の要望とも，比べたりしているのではないのかな。 ・調べた結果，良ければお金を出してくれるのではないのかな。 ○次の資料を見てみましょう。 ・区役所は要望を聞き，返答をする窓口をしているのだな。 ・市役所は，要望に対して必要かどうかをある程度判断し，計画と予算案を市会に提出しているのだな。 ・予算案を作り市会に提出している。予算には１億円の費用が計上されている④	□要望を受けた区役所から要望が叶うまでの経緯を予想するように声かけをする。 □区役所の方の話を文章で確認する。 □市役所の方の話を文章で確認する。 【技能①】 区役所や市役所で拡幅工事が決まっていった経緯を，資料をから活用して，必要な情報を集めて読み取っている。 （発言・ノート）

	④１億円の費用はどのように用意されるのか調べる。	○踏切を広くするための１億円もの費用はどこから出るのだろうか。 ・京都市内のことなので市のお金が使われていると思う。 ・府道とかかれているので，府のお金かもしれない。 ○工事のお金がどこから来るのかを調べる。 ・工事には市の予算や国の予算からお金が出された。 ・しかしそのお金の元はわたしたちの税金だ。 ・みんなの税金だから，本当に必要かどうか大切に判断しなければならない。 ○市議会の議事録を確認してみましょう。 ・市議会は市民から選挙で選ばれた代表の人たちが話合っている。 ・たくさんの地域から多くの要望が出されてきている。 ・みんなの税金を使うので慎重に話合いを進めている。 ・踏切の改善は，計画案や予算案を元に決められた。	□１億円という金額の大きさを想起する。 □市の予算や国の予算と税金との関わりについて調べる。 **【関心・意欲・態度②】** １億円の費用はどのように用意されるのか調べ，税金の使われ方と自分たちの生活との関わりについて理解する。 **（発言・ノート）**
	地域の暮らしや安全を求める市民からの要望を聞き，それが必要かどうかを市役所が調べ，市議会で判断して，国民から集めた税金を使いみんなの願いを実現する政治の働きがあった。		

まとめる・深める	⑤四条通の歩道拡幅工事行った目的を話し合い，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考える。 本時	○29億円ものお金を使ってまで，京都市が四条通の歩道拡幅工事を行ったのは，なぜでしょうか。 ・四条通の１つ北の通りには，錦市場があり，南の通りには京都らしい町家が多く，観光客も多い。 ・自動車が通ると，観光客の人にも迷惑だし，京都のまちの良さが伝わらないと思う。 ・京都市はこれまでも，まちづくりに関する多くのきまりを作っている。 ・歩くことを中心にすることによって京都のまちの魅力を歩くまち京都憲章では，人が主役の魅力あるまちづくりをしようということが伝わってくる。 ・京都市のまちづくりは，行政だけでなく，わたしたち市民も協力していくことで進められていくと思った。	□四条通周辺の通りの様子から，四条通周辺の通りはせまいことや，錦市場など京都らしいまち並みが広がっていることをとらえることができるようにする。 □京都市のまちづくりの取組から，歩道拡幅工事以前から，京都市の行政がまちづくりに関する取組を進めていることに気づくことができるようにする。 【思考・判断・表現②】 四条通りの歩道拡幅工事行った目的をとらえたうえで，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考え，表現している。 （発言・ノート）
	⑥京都市が進めているまちづくりの成果や課題について考える。	○京都市が進めているまちづくりは良い方向といえるのだろうか。 良さ ・歴史・京都らしさを守るためにはよい ・観光都市としての魅力があり栄える ・歩く人・子育てをする人にとって優しい ・便利とは言えないが，人を大切にするよさがある 課題 ・地域に住む人にとってはくらしにくく，税金の使い道としては課題がある ・他都市に比べ，発展に遅れが出てくる ・体が不自由な人にとっては，車も必要な時もある	□これまでに学習した京都市の取組や地域住民からの反対の事例から意見を述べられるようにする。 【知識・理解②】 京都市のまちづくりを進める地方公共団体の政治は，京都市民の生活の安定と向上を図るための大切な働きをしていることを理解している。 （発言。ノート）
	京都市の行政は，京都市民の願いを取り入れながら，市民と一体となって，人が主役の魅力ある京都のまちづくりを進めている。そのようなまちづくりを進めていくことは，わたしたち京都市民の生活がよくなっていくことにもつながる。まちづくりには課題もあるがわたしたちも，京都市民の一員として，協力できることをすすんでやっていきたい。		

9　本時の学習（本時５／６）

（１）本時の目標

四条通の歩道拡幅工事行った目的を話し合い，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考える。

（２）本時の展開

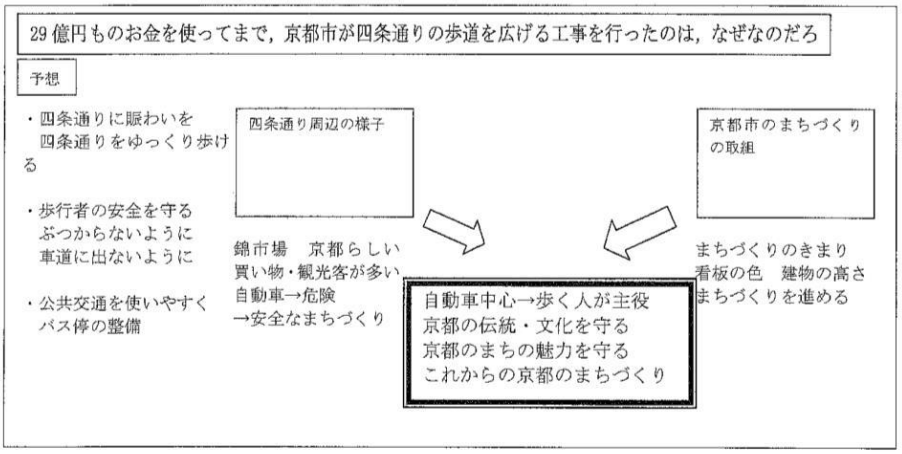
主な学習活動 ○発問　◇指示　・児童の反応 論論理的思考力を働かせる場	指導・評価 □支援　＿資料　【】評価 論論理的思考力の見取り
◇前の時間の学習内容をふり返りましょう。 ・前の時間は，岩倉駅の踏切の工事の費用，１億円がどのようにして使われるように決まったのかについて調べました。 市議会では選挙で選ばれた代表の人たちが話し合い踏切の工事は，計画案や予算案を元に決められた。 ◇京都市はでは２９億円のお金を使って，四条通りの車道の工事を行いました。 ・岩倉駅の踏切では，車が通りやすいように道路を広げたのに，四条通りの車道はせまくなっている。 ・なぜ２９億円ものお金を使って，四条通り工事を行ったのかな。	■前時までに問題を確認し，１人１人が予想をしておくことで，予想の交流を主体的に進めることができるようにする。
なぜ29億円ものお金を使って四条通りの工事を行ったのだろう	
◇学習問題の予想をしましょう。 ・車道はせまくなったが，その分歩道を広げることで，歩行者が歩きやすくなり，観光客や買い物客が利用しやすくするために行ったのだと思います。 ・工事する前の四条通りの歩道は，たくさんの人できゅうくつでしたよね。なので，人がゆっくりと歩くことができるようになり，安全な通りにするために行ったのだと思います。 ・５年生の学習でバス停での乗り降りで混雑していましたよね。車外精算をしたり駅などを利用しやすくしたりするために行ったのだと思います。	□これまでの学習の流れや四条通りの写真資料などを側面掲示しておき，事実とつなげて，自分の予想を伝えることができるようにする。

◇資料を見て考えてみましょう。 四条通り周辺の通りの様子 ・四条通りの周りの道はとても狭い。でもたくさんの人が歩いている。 ・錦市場は京都市でもとても有名な観光地だし，町家が並んでいる通りは，とても京都らしい。 ・自動車が通ると，歩行者は危ないし，歩きにくい。 ・歩いたほうが，京都のまちを楽しむことができる感じがする。 ・四条通りの歩道を広くして，車線を減らすことで，このような道に自動車があまり来ないようにしようとしたのではないか。 京都市のまちづくりの取組 ・四条通りの歩道を広くする工事が行われる前から，京都市はまちづくりに関するきまりなどを多くつくっている。 ・看板の色やビルの高さなどにも決まりがある。 ・京都独特のまちづくりを京都市の行政は行っているから，四条通りの歩道を広くする工事も，京都市のまちづくりと関係しているのではないかと思う。	□四条通り周辺の通りの様子から，四条通り周辺の通りはせまいことや，錦市場など京都らしいまち並みが広がっていることをとらえることができるようにする。 □四条通の周辺の道は，自動車での移動ができるだけ少ない方がいいことに気づき，四条通の車線が減ったことで自動車が少なくなっていくということをつなげて考えることができるようにする。 □京都市のまちづくりの取組から，歩道拡幅工事以前から，京都市の行政がまちづくりに関する取組を進めていることに気づくことができるようにする。 ■資料はペアで話し合いながら，読み取るようにする。
論 2つの資料をつなげて考えられること ・京都らしいまちの様子が，小さい通りにもたくさんあって，四条通りを通る自動車が減っていくことで，細い通りを通る自動車も少なくなる。そうすることで，京都らしい町なみを守っていこうとしているのではないか。 ・看板の色やビルの高さなどを決めているのと同じように，歩くことを中心にして，京都市のまちづくりを進めようとしているのではないか。	□資料から分かったことを整理して板書し，複数の事実をつなげて問題解決に向かうことができるようにする。 論四条通りの周辺の様子と京都市のまちづくりの取組をつなげて考え，工事およびまちづくりの取組の意味を考えられるようにする。
◇都市計画局歩くまち京都推進室の方のお話を聞いて，確かめてみましょう。 ・京都市はクルマ中心ではなく，歩くことを中心とすることで京都のまちの魅力を守っていこうと考えている。 ・人が主役の魅力あるまちづくりということを考えていて，それを実現するためにも，クルマでなく歩くことをすすめていこうとしている。	□都市計画局歩くまち京都推進室の方のお話から，クルマ中心から歩くことを中心にしていくことで，京都のまちの伝統や文化などの京都の魅力が守られていくという考え方をとらえることができるようにする。

12

◇今日の学習のまとめをしましょう。 まとめ(例) ・四条通りの歩道を広げる工事は，四条通ににぎわいを取りもどすためと共に，京都のまちの魅力を守るため，歩くことを中心としたまちづくりのために行われた。 考えたこと(例) ・四条通りの歩道を広げる工事が，京都の伝統や文化を守るためのまちづくりにつながっているのなら，高い費用をかける価値があると思う。また，京都市のまちづくりは，行政だけでなく，わたしたち市民も協力していくことで進められていくのだと思う。	■全体交流で出てきた意見の中から，キーワードを取り出し，学習問題に対する答えをまとめていくようにする。 【思考・判断・表現②】 四条通りの歩道拡幅工事行った目的をとらえたうえで，京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考え，表現している。　(発言・ノート) ■感想が書きにくい児童には，29億円も使った歩道拡幅工事に賛成か反対かという視点で書くように助言する。

（3）板書計画



岩倉北小学校からのクイズ

クイズ①　３年の授業実践より

Q．国際会館ができたことで，急な坂道のない広い道路が作られ，市バスが岩倉まで来るようになった。同じ時期に岩倉の人口も増えた。

A．ＹＥＳ

クイズ②　５年の授業実践より

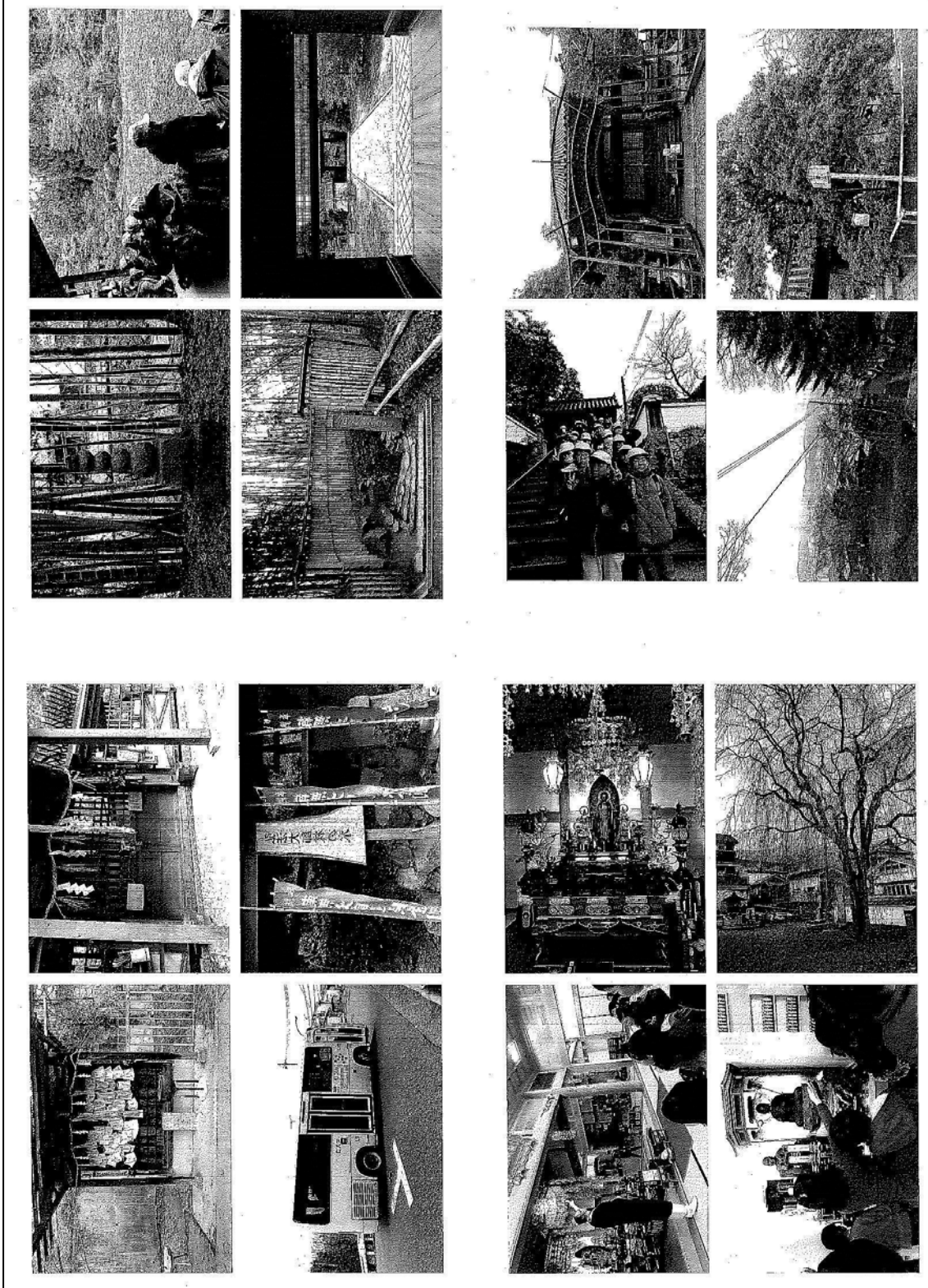
Q．京都市への観光客の増加にともない，「観光公害」と呼ばれる京都市に住んでいる人たちへの悪影響も出ている。そのため，京都市では，パークアンドライドや手ぶら観光など，様々な取組がなされている。

A．ＹＥＳ

クイズ③　６年の授業実践より

Q．２９億円ものお金をつかって，河原町通りから烏丸通りまでの間の四条通の車道が広げられ，クルマの通行がしやすくなった。

A．ＮＯ



京都市立醍醐西小学校
実践記録

４年生

１．地域に目を向ける



まず，子どもたちが生活する醍醐地区の魅力はどのようなものがあるのかについて話し合った。子どもたちからは，「世界遺産の醍醐寺がある。」「近くに川が流れている。」などの意見が出てきた。しかし，子どもたちはそれ以外の醍醐地区の魅力をあまり知らないことが分かった。
また，醍醐地区が「みんなにとって暮らしやすく優しいまち」なのかについても話し合った。



「地下鉄があって便利。」「校区にアルプラザがあり，買い物が便利。」など，日頃利用している施設などについての意見が多くみられた。その一方で「団地にエレベーターがなく，お年寄りにとっては不便なこともある。」「近くで交通事故があったから，本当に安全なのか。」などの問題点も出てきた。

そこで，再度「醍醐のまちの魅力」に迫るとともに，「みんなにとって暮らしやすく優しいまち」とはどのようなものなのかについて学習していくことにした。

２．学校内を調べる

「みんなにとって暮らしやすく優しいまち」について考える前に，地域にはどのような人が暮らしているのかを考えた。幼児から高齢者，そして障害のある人な様々な人は暮らしていることを確認した。そした改めて「みんなにとって暮らしやすくやさしいまち」とはどのようなまちのことなのかについて調べていくことにした。

地域に目を向ける前に，まずは身近な学校がすべての人にとって暮らしやすい場所なのかについて学校探検をしながら調べることにした。「すべての人」という視点をもって巡る中で，日頃何気なく使っていた「スロープ」や「案内板」「点字ブロック」が，障害のある人やお年寄りなどにとって便利であるとともに，自分たちにとっても便利な施設であることに気づくこととなった。

３．校区内を調べる

学校探検をした児童から，まちの中にも「スロープ」や「点字ブロック」などの便利なものを見たことがあるという声があがり，実際に校区探検をする中でどのような工夫があるのかについて調べることにした。また，社会科「事故や事件をふせぐ」という単元とつなげ，まちの中の様々な工夫について考えることにした。

校区探検を通して，「便利の施設」や「音の鳴る信号」などが多くあるとともに，「信号がなく危険な場所」や「明かりが少ない場所」など自分たちの暮らすまちの改善点についても気づくきっかけとなった。そこで，校区探検をもとに集めた情報をまとめ，醍醐のまちをさらによくするためには，どこを改善していくことがよいのかについて話し合った。



４．疑似体験を通して



まちの中の工夫や改善点を話し合う中で，「本当にまちで暮らす人たちも同じように思っているのか。」という疑問が生まれた。そこで，様々な不自由さをもつ人の暮らしなどについて調べることにした。「アイマスク体験」や「高齢者疑似体験」などを通して，自分たちが思っていた以上に生活の中での不自由さがあることを実感することとなった。また，京都ライトハウスや地域の女性会の方々の直接話しを聞く機会を設定した。実際にお話を聞く中で，「障害があってもいきいきと楽しく生活していること」「様々な人の助け」などが大切であるということについて子どもたちは知ることとなった。



５．ユニバーサルデザインについて

実際にお話を聞くことを通して，「優しいまち」にしていくために必要なことについてさらに子どもたちは関心をもち調べていくこととなった。そこで「ユニバーサルデザイン」と出会った。「すべての人にとって」「便利」「使いやすい」という視点が「暮らしやすいまち」をつくりあげるために重要であることに気づくとともに，「音の鳴る信号」や「案内板」などが全ての人にとって便利なものであるということを学んだ。



しかし，「ユニバーサルデザイン」のものやまちをつくることが完成ではないという意見もでてきた。「ユニバーサルデザイン」と「バリアフリー」とを比べていく中で，どちらの考えも大切なのではないかという話し合いになった。子どもたちは話し合いを通して，「全ての人」という視点をもちながら，常に「考え」「つくり変えていく」ことが大切だと考えるようになった。

６．醍醐のまちの歴史

今の醍醐のまちが完成ではないという視点をもつことによって，これまでに「暮らしやすいまち」にするために常に良い方向へとつくり変えられてきたことに目を向けることとなった。また，社会科「郷土をひらく」の単元を学ぶことで京都のまちの発展のためにつくした



人がいるということを知るとともに,醍醐のまちの発展につくした人がいるのだろうという考えが生まれた。そして,調べていく中で,「醍醐コミュニティーバス」に至った。地下鉄東西線ができたことによって,京都市内への利便性が向上した。しかしそうした発展の背景で醍醐地区内を走るバスの運行が減少するという問題点が発生した。小高い丘の上に建つ団地などに住む人にとっての不便さが生まれた。そこで地域住民などが立ち上がり,「醍醐コミュニティーバス」が誕生するに至ったということを子どもたちは知った。

「醍醐コミュニティーバス」が誕生することによって,地域住民の生活の利便性が向上した。しかし,問題点はないのだろうかと子どもたちは疑問をもち,地域住民に実際に話を聞くこととした。地域の方は「病院など出かける時には便利さ」を感じていた。しかし「本数が少ないこと」「住んでいる地域によっては近くに停留所がない」という改善点について知ることが出来た。

7．魅力ある醍醐のまちに迫る

醍醐のまちをよりよくするために必要なことについて話し合い,さらに魅力を見つけようという意見が出てきた。そこで,子どもたちは醍醐地区の名所などを調べ始めた。「一言寺」「随心院」など今まで近くにあって知らなかった醍醐のまちの魅力について子どもたちは気づくこととなった。そうした歴史の魅力と自然の魅力をまとめるとともに,まち全体としての「改善点」などについても改めてまとめていった。

8．魅力を発信する

社会科「わたしたちの京都府」の単元を通して,地域を愛し伝統を守りながら,外部に対して魅力を発信している人たちの存在。「海の京都」や「森の京都」「お茶の京都」などのキャッチフレーズがあるように醍醐のまちにも何かキャッチフレーズをつけ,魅力を発信することができないかについて今子どもたちは考えている。同じ地域に住む人々に改めて魅力を感じてもらうとともに,京都以外に住む人にも魅力を感じてもらえるようなまちのあり方についても話し合いを深めている。

また,子どもたちは,「エコライフチャレンジ」の学習を通して,魅力の一つである自然を守るために「バス」や「電車」などの公共交通機関を利用していくことも発信していくことが大切であると考えを深めている。

醍醐西小学校　３年生

社会科　学校のまわりの様子

校区やその近くにある身近な、お気に入りの場所に気がつく。

京都市のまちの様子

京都市を全体的にとらえ白地図にあらわす活動を通してまちのすがたを知る活動
大文字山に登り京都市の様子を見て知る活動
京都市内を歩き京都市中心部の名所や交通を体験的に知る活動

地域が受け継いできたもの

醍醐地域に伝わる祭りや京都市にある年中行事について
醍醐地域ある名所について

総合的な学習の時間

たくさんの人出が予想される地域行事において、車で参加するメリットもあるがデメリットもある。

車で来ることができないなら人が来なくてさみしくなるのかなぁ。

醍醐地域にある交通に目を向け安全にみんなが楽しめる様にするためにはどのようにすればよいか考える。

車を使うのは、便利だけどみんなが使うと車でいっぱいになってみんなが楽しくない。
醍醐にある駅やバスターミナルを使ってきてもらえばいい。

平成29年度 第３回「歩くまち・京都」学習検討会　摘録

１　日　時　　平成30年2月19日（月）　午後６時～午後７時30分

２　場　所　　下京区役所

３　出席者

京都教育大学	水山　光春　教授	
京都市立衣笠小学校	中原　美千恵	
	石本　順嗣	
京都市立岩倉北小学校	河村　圭佑	
京都市立高倉小学校	岸田　蘭子	
	内藤　岳士	
京都市立小栗栖宮山小学校	前田　恵美	
	粟野　亜希子	
京都市立醍醐西小学校	壽見　和高	
	原　昌司	
京都市朱雀第七小学校（社会科研究会）	清水　一希	
京都市教育委員会　首席指導主事	松下　誠太郎	
指導主事	岡　博士	
京都市都市計画局歩くまち京都推進室	矢内課長、岡本係長、木下	
一般社団法人システム科学研究所	東部長、山口	

４　議事内容

●「歩くまち・京都」学習実践発表会について

【配布資料等】

（水山座長）

○ 準備と片付けの２～３分が重複しているところを短縮して、教育委員会からの挨拶を追加していただきたい。

○ しめきりは、配布資料の方が早いので、発表資料は更新しても良い。

（高倉小学校）

○ パワーポイントは作成しているので事前にDVDを送付したい。
リーフレットを事前に送付する。

（衣笠小学校）

○ パワーポイントのデータは当日持参、資料は配布しない予定。

（醍醐小学校）
○ パワーポイントのデータは前もってお渡ししたい。資料は配布しない予定。

（小栗栖宮山小学校）
○ 当日データを持参。配布資料は検討したい。

【発表内容について】

〈高倉小学校説明〉
（水山座長）
○ クイズは答えだけでなく、少し解説があると良い。

〈小栗栖宮山小学校説明〉
（水山座長）
○ 授業を拝見して、誰のためのガイドブックなのか、観光客向けなのか住民向けなのかという点について気になった。

（小栗栖宮山小学校）
○ 住んでいる人でも、醍醐のお寺の事を知らないことに、今回の取組みを通じて気がついた。
コミバスの運転手さんが優しいという事を児童が声を揃えて言っていた。

（高倉小学校）
○ 非常に地域に根付いた取組みで、地域の事をよく知ることは大事だと感じた。

〈衣笠小学校説明〉
（小栗栖宮山小学校）
○ 京都のまちには誇れるものがたくさんあるのに児童が気付いていない事も多い。この取組みを通じて、気づく機会になったのが良かったと思う。
児童が調べ学習の過程で感じた事等を、もっと聞きたいと感じた。

（水山座長）
○ まちづくりのための交通環境学習・MMなのか、交通環境学習・MMのためのまちづくりなのかということが、別の場所で議論になった。
私は、まちづくりがゴールで交通環境学習・MMは道具で良いと思う。
一方で、クルマとかしこくつきあっていこうという事が基本コンセプトなので、そういう部分もしのばせてもらいたい。

（衣笠小学校）
○ 家庭ではクルマを使う事が多いので、児童が市バスで観光することは、バスの良さに気づく良い機会になったと考えている。

（清水教諭）
○ まちづくりにつながるというところの教材化が面白いと思う。
自分の学校でも総合を見直そうという中で「地域に帰る」という議論があったので、参考にしたいと思う。

（水山座長）
○ 交通を教材に使う事で、地域を見る目が深まっていくという展開になると、大変有り難い。

〈岩倉北小学校説明〉
（衣笠小学校）
○ 社会科では、学校独自で教材を作らないといけないところもあるので、参考にしたいと思う。

（岡指導主事）
○ 三年生にとって難しくなり過ぎないように工夫は必要かもしれない。

〈醍醐西小学校説明〉
（岩倉北小学校）
○ 児童の実態に応じて展開していくということが分かりやすいと感じた。
単純に、なぜそんなに愛着がないのかと思った。
３年生と４年生で系統だった内容になると良いと思った。

（醍醐西小学校）
○ 地域に愛着がない事はないと思うが、親も醍醐の事を知らないし、子どもも知らないので、好きになる要素が少ないと感じている。

（清水教諭）
○ 参考になる取組みがたくさんあった。地域を知るという取組みが来年もつながっていくと良いと思う。

（岡指導主事）
○ 私は、大阪生まれ大阪育ちで、地域に良い印象はないのだが、悪口を言われると腹が立つ。
○ 発表会の参加者に学校の場所を知らせた方が良い。

（松下主席指導主事）

○ 地域の愛着を得るには、知る・触れる・親しむという手順・道筋が必要となる。地域を歩いてまわることで魅力を感じるというステップもあるし、自分が学んだことを発信することで考える事もある。まちづくりに参画することで志も高くなるし、楽しむことで挑戦につながる。

取組みを通じて、児童の変容があると思うので、そういう発表があると良いと思う。

いずれにせよ、地域に根ざしたという取組みを発展できれば良い。

以上

7．まとめ

(1) 成果

ア 「歩くまち・京都」学習検討会の設置

教育現場のニーズを把握しながら検討を進めるため，学識，学校，行政の連携体制を確立することにより実効性を担保したメンバーで「歩くまち・京都」学習検討会を設置・開催した。

また，当日配布の資料や摘録の作成等，事務局として検討会の運営補助を行った。

イ 「歩くまち・京都」学習実践校における取組の支援

昨年度末に選定された「歩くまち・京都」学習実践校５校により，地域の特色を活かした様々なバリテーションのモデル授業が実施された。

モデル授業当日の授業風景をカメラ・ビデオ撮影した。

今年度は、自分たちの住む地域の魅力や特色を活かした授業を中心に各校がモデル授業を実施した。また「交通」に「歴史」を合わせて考え展開される授業等，新たな試みも見られた。

「歩くまち・京都」学習実践校により継続的な実施体制が構築できた。

ウ 教員による研究会との連携方策の検討

昨年度に引き続き社会科研究会との連携を図った。この結果，「歩くまち・京都」学習実践校のモデル授業を含め，振り返り時の話し合いにもご参加いただき，多岐に渡る意見をいただいた。今年度も「歩くまち・京都」を含むモビリティ・マネジメント教育を社会科の授業の中に位置づけられた事は，社会科研究会との連携による成果とも言える。

エ 「歩くまち・京都」学習実践発表会の開催

平成２７年度より，公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の補助金を活用し様々な取組を実施してきたが，最終年となる今年度は集大成として「歩くまち・京都」学習実践発表会を開催した。開催にあたって，配布資料の準備や会場設営の準備，当日は写真撮影やビデオ撮影等の運営補助を行った。

(2) 課題と今後の展開

ア 「歩くまち・京都」学習検討会の設置

「歩くまち・京都」学習の推進を牽引する場として，来年度も継続して設置・開催する。

「歩くまち・京都」学習実践校の教員を対象としてモビリティ・マネジメントの動機づけ情報を提示するといった啓発活動の検討が望ましい。

イ 「歩くまち・京都」学習実践校における取組への支援

モビリティ・マネジメント教育の継続的実施体制の仕組みとして，今後も継続実施を行う。

ウ 教員による研究会との連携方策の検討

社会科研究会の活動に，「歩くまち・京都」学習検討会が関与するなど，より密接な連携方策について検討する必要がある。

社会科研究会の意向・要望をヒアリングできる機会があると望ましい。

エ 「歩くまち・京都」学習実践発表会の開催

今年度の児童による発表は，参加者から好評であった。記録動画等を活用し，発表会の様子を紹介していくことが望ましい。